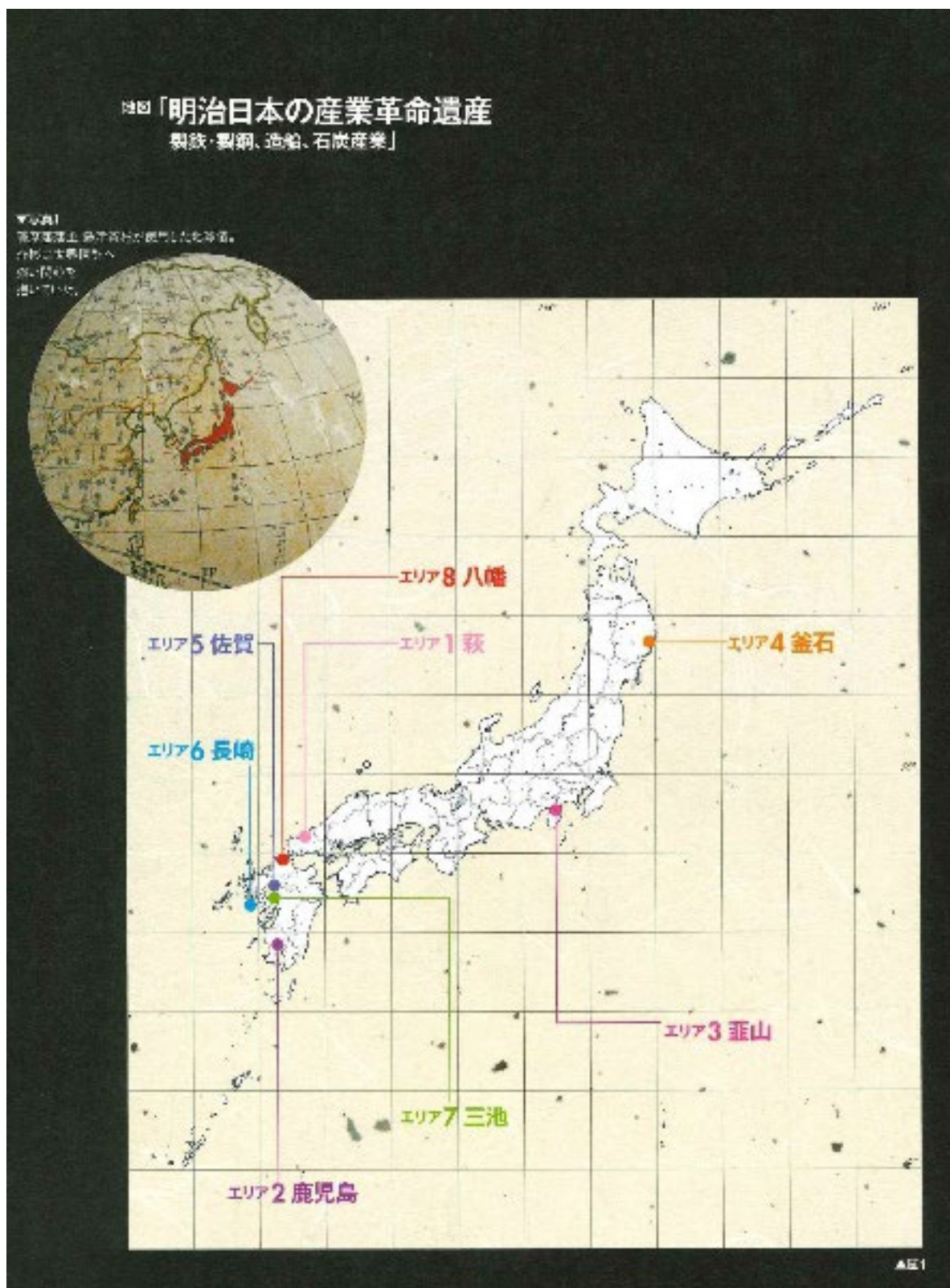


Area1 萩

エリア別インタープリテーション計画

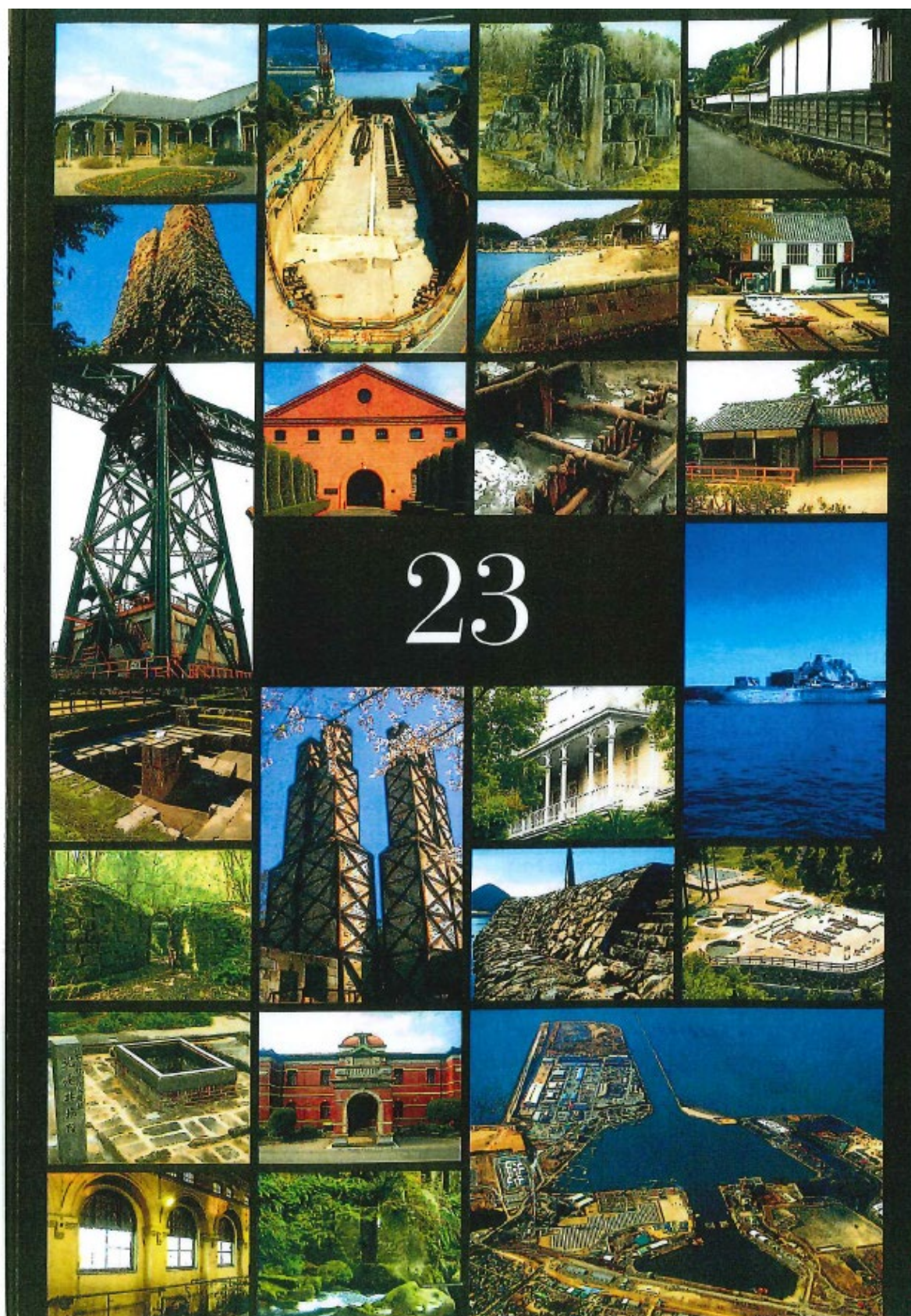


【エリア一覧】



【構成資産名】

エリア	サイト	ID	構成資産
エリア1 萩	1 萩の産業化初期の遺産群	1-1	萩反射炉
		1-2	恵美須ヶ鼻造船所跡
		1-3	大板山たたら製鉄遺跡
		1-4	萩城下町
		1-5	松下村塾
エリア2 鹿児島	2 集成館	2-1	旧集成館
		2-2	寺山炭窯跡
		2-3	関吉の硃水溝
エリア3 葦山	3 葦山反射炉	3-1	葦山反射炉
エリア4 釜石	4 橋野鉄鉱山	4-1	橋野鉄鉱山
エリア5 佐賀	5 三重津海軍所跡	5-1	三重津海軍所跡
エリア6 長崎	6 長崎造船所	6-1	小菅修船場跡
		6-2	三菱長崎造船所 第三船渠
		6-3	三菱長崎造船所 ジャイアント・カンチレバークレーン
		6-4	三菱長崎造船所 旧木型場
		6-5	三菱長崎造船所 占勝閣
	7 高島炭鉱	6-6	高島炭坑
		6-7	端島炭坑
	8 旧グラバー住宅	6-8	旧グラバー住宅
エリア7 三池	9 三池炭鉱・三池港	7-1	三池炭鉱・三池港
	10 三角西港	7-2	三角西港
エリア8 八幡	11 官営八幡製鐵所	8-1	官営八幡製鐵所
		8-2	遠賀川水源地ポンプ室



SITES OF
JAPAN'S
MEIJI INDUSTRIAL
REVOLUTION
IRON & STEEL, SHIPBUILDING
AND COAL MINING

Executive Summary

概要

「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」は、西洋から非西洋への産業化の波及を顕す遺産群により構成されている。19世紀半ばから20世紀の初頭にかけて、日本は工業立国の土台を築き、重工業（製鉄・製鋼、造船、石炭産業）分野において、急速な産業化を成し遂げた。産業化の歩みは、蘭書片手に試行錯誤での鉄製大砲鋳造への挑戦や、羊式船の模倣から始まった。次に、西洋技術を導入し、その運用により専門知識を習得した。明治の後期には、国内に人材が育成され、積極的に導入した西洋技術を、国内需要や社会的伝統に適合するように改善、改良を加え、産業化に応用した。日本は、非西洋諸国で初めて産業革命の波を受容し、植民地になることなく50年余りで、自らの手で産業化を成就した。「明治日本の産業革命遺産」は、世界史におけるたぐい稀な産業化の局面を証言する遺産群である。

評価基準の適用

評価基準 (ii)

「明治日本の産業革命遺産」は、日本が19世紀半ばから20世紀の初頭にかけて、産業化が進む西洋諸国からの技術移転を受け、技術の交流により変貌を遂げた特異なプロセスを証言する一連の遺産群である。極めて短期間に、西洋の産業革命が日本に移植され、また成就されたことは、産業化と技術の歴史において、地域的にも、時代的にも稀有なことである。西洋から伝播した技術が、伝統的な日本文化と融合し、国内の需要や社会的伝統に合わせて改善・改良され、日本の社会と経済を形づくり、やがて日本を世界の経済大国に押し上げる重工業の基盤を築いた。

評価基準 (iv)

「明治日本の産業革命遺産」は、製鉄・製鋼、造船、石炭産業といった重工業の基幹産業において、急激に変化した時代を象徴する技術の集合体の卓越した例であり、19世紀半ばから20世紀初頭にかけて非西洋諸国で初めて産業化を成就した変革の軌跡を示している。同時代の産業史の時間的・地域的枠組みにおいて類似性がなく、普遍的な意義を有する。これら一連の資産は、相互に関連する起源を持つ重工業の3つの産業分野において、代表的資産を統一的に包含しており、集合体として比類なき技術移転の証言である。

完全性の宣言

「明治日本の産業革命遺産」は、製鉄・製鋼、造船、石炭産業といった産業分野において、急速な産業化を成し遂げた道程を証言する遺産群であり、23の構成資産は、現存する唯一かつ希少な遺構として、全体で「顕著な普遍的価値」を有している。いずれの構成資産においても、資産の範囲に、「顕著な普遍的価値」に貢献する要素を、全て包含するように、境界線を設定した。

日本国政府は、内閣官房の下に構築した戦略的枠組みにおいて、構成資産を、劣化や開発の悪影響から守るため、管理の仕組みを用意した。全体としての資産の保全状態は良好であるが、中には継続の利用、もしくは、長期間放置された後、別の用途で活用をされ、その結果、物理的影響が及んだ遺構も含まれている。また完全性が担保されているものから、部分的に保全されているものまで、多種多様である。ただし後者の場合であったとしても、遺産群全体の完全性を顕すために求められている遺構が、手つかずのまま遺されている。考古学的資産の場合、これまでの十分な発掘調査の結果、将来の研究や展示のために必要な遺構の大半が、良好な状態で保存されていることが、確認されている。

また特に産業用の用途で、現在も生産の一翼を担う現役の産業設備においては、民間の管理者が、安全性確保のための定期点検の実施と、適切な維持管理を行うことにより、極めて高い水準の完全性を保持しており、稼働中の産業遺産として、全体の価値に貢献している。

真実性の宣言

顕著な普遍的価値に関する真実性について、西洋から非西洋への初めての、かつ急速な産業化の移転を顕し代表する、現存する産業遺産の集合体として、最も高い真実性を有している。

「形状・意匠」、「材料・材質」について、本資産の構成資産は重工業の産業分野における、西洋からわが国への技術移転のプロセスを説明する上で、必要不可欠な、オリジナルの形状と材質を保持している。構成資産の中には、断片的又は考古学的な遺構も含まれるが、いずれにしても、全体の資産の中で重要な産業要素については真実性が高い。構成資産の中には、長年、産業遺産の特徴を遺す史跡として管理されてきた遺構もあり、それらは実質的に高い真実性を有する重要な遺構である。それ以外の構成資産においては、「形状・意匠」及び「材料・材質」のみならず、オリジナルな用途での継続的使用と機能が維持されていることから極めて高い真実性を有している。

萩エリアに関わる産業の歴史

萩エリアは、世界文化遺産「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」の中で、「製鉄・製鋼」及び「造船」の第一段階「試行錯誤の挑戦」の時代に係る記録を留める構成資産が分布するエリアとなっている。



内閣官房が平成29年11月30日に、保全状況報告書添付資料としてユネスコに提出したインタープリテーション戦略では、次のように記されている。

1.1 インタープリテーション計画（抜粋）

(1) 全ての構成資産で一貫した顕著な普遍的価値（OUV）の共通展示を展開
インタープリテーション戦略に基づき、全ての構成資産に一貫した顕著な普遍的価値の共通展示を実施する。全ての関係者が方針に合意し、ブランド感のある世界遺産スタイルで統一的に展示をコーディネートし、実施する予定である。

(2)・(3) 労働者に関する情報収集を含む各サイトの歴史全体に関する進捗

内閣官房の「稼働資産を含む産業遺産に関する有識者会議」の委員、「明治日本の産業革命遺産」の登録に関わるイコモス査定に関与した国際ヘリテージの専門家、「インタープリテーションとプレゼンテーションに関する国際イコモス学術委員会」委員長他の助言により、以下の4つの方針が示された。

1) 顕著な普遍的価値のインタープリテーションに重点を置く：世界遺産の本来の目的に従い、各サイトにおいて、登録された資産の顕著な普遍的価値を、他の関連する問題と混同せずに明確に説明する。その上で、勧告g)を履行する。

※g) 推薦資産のプレゼンテーションのためのインタープリテーション（展示）戦略を策定し、各構成資産がいかに顕著な普遍的価値に貢献し産業化の1又は2以上の段階を反映しているかを特に強調すること。また、各サイトの歴史全体についても理解できるインタープリテーション（展示）戦略とすること。

2) P. 81 に記載された顕著な普遍的価値の対象期間(1850年代から1910年まで)以外の各サイトの「歴史全体」の範囲は、1850年代以前と1910年から現在までの2つに分けられる。いずれにおいても各構成資産の背景の理解を補足する地域的な価値を念頭に「歴史全体」の範囲を絞り込む。さらに、各構成資産が立地するエリアにおける歴史全体のインタープリテーションについては、一次史料の収集や証言収録など質の高い調査を実施し、適宜、適切なメディアを通じていずれかの段階において公表する。

インタープリテーション戦略に則り、各エリアの構成資産及びビジターセンター等におけるインタープリテーションの現状について、世界各国の産業遺産及びそのインタープリテーションに精通した海外専門家による監査を、複数回（平成29年、令和元年）実施した。

その結果、監査者である ICOMOS メンバーのバリー・ギャンブル氏からは、萩エリアに関して次のような評価を受けている。

- デザイン、グラフィック技術、および多様で非常に適切なアクセスしやすいメディアを成功させたアプローチの模範例である。全体的な OUV のインタープリテーションがまずビジターセンター（2018 年の訪問者数 30 万人）で提供され、次に関連施設でさらに具体的な情報が提供される。博物館において OUV 展示のために割り当てられたスペースの広さは、他のすべてのエリアのモデルとなる（ただし、訪問者の体験という観点からは、構成資産の具体的貢献、ならびに国や地域のストーリーの前に、OUV が最初に示されることが望ましい）。また、バランスのとれた正確な歴史を常に念頭に置くことも重要である。ストーリーボードやプレゼンテーションの中には、当該資産サイトの特定の側面や構成資産の功績の関連づけに「過度に熱心に」なっているものもあり、これは時に、同じくらい重要な貢献をしている他の構成資産に不利益をもたらす可能性がある。
- 現在、萩博物館で行われている新しい展示の詳細設計は、（インタープリテーションのみのビジターセンターとは対照的に）萩の各構成資産および要素に関連する豊富な展示を取り入れる機会をもたらす。世界遺産のインタープリテーションに関する簡潔な説明文とキャプションでこれを補完することができる。この展示は、博物館の他の展示物や現在の展示スタイルとシームレスに調和する。
- 大板山たたら館は、隣接する資産サイトの紹介に関して十分なインタープリテーションを提供している。この遺跡には、展示ボードやバーチャルリアリティ施設が補完的に設置されている。

萩エリアにおいては、これまで地区別協議会において本インタープリテーション計画について協議を行ってきた。

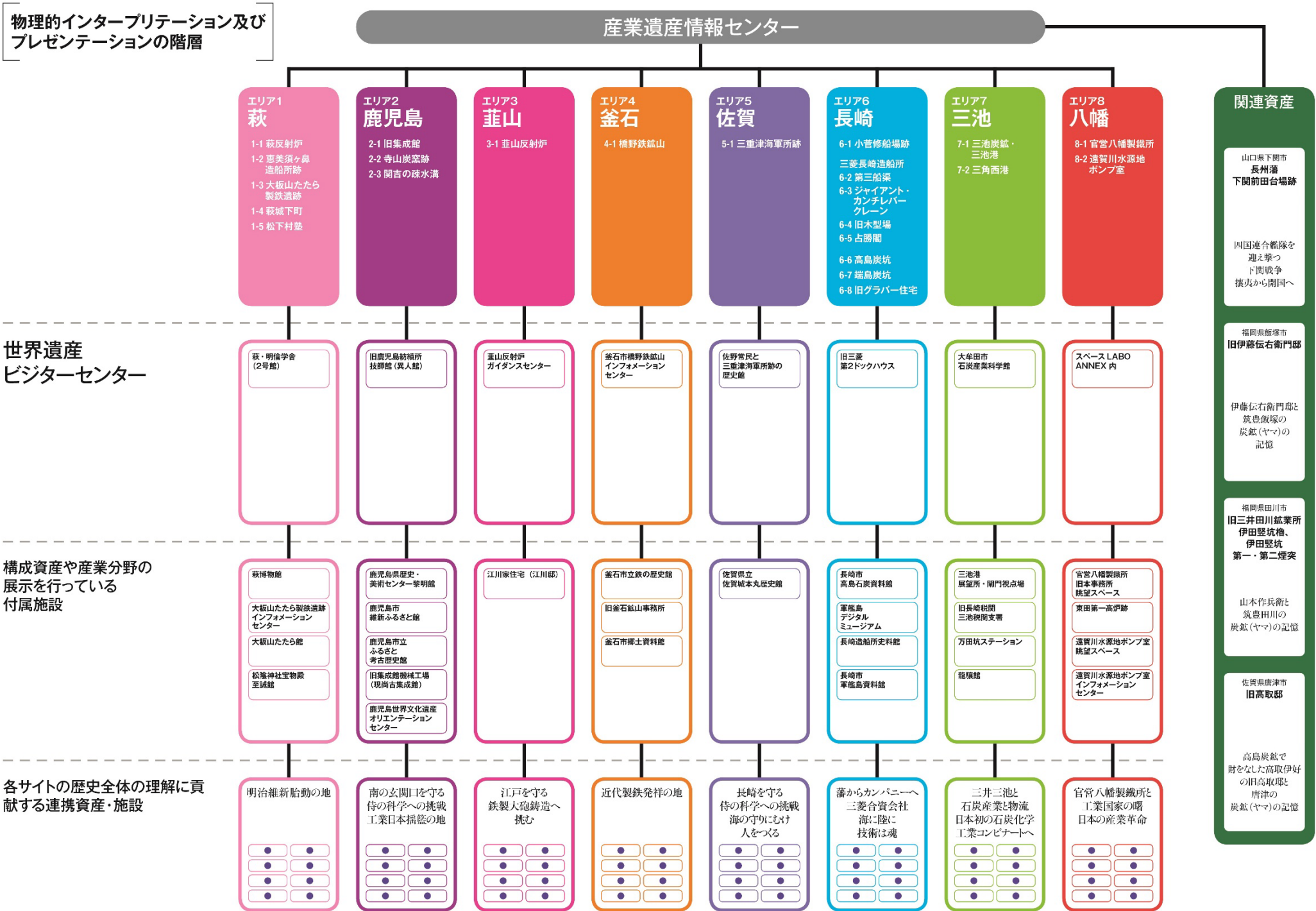
今後は、上記の指摘も踏まえ、まずは産業遺産情報センターと連携し、共通展示の導入により、地域の歴史的・文化的価値と調和しつつ世界遺産価値をより反映した展示を着実に実施していくことに注力することとする。その上で、地区別協議会において本計画の実施状況を点検しながら、適宜改善に向けた検討を行う。



地区別協議会の様子

物理的インタープリテーション及びプレゼンテーションの階層

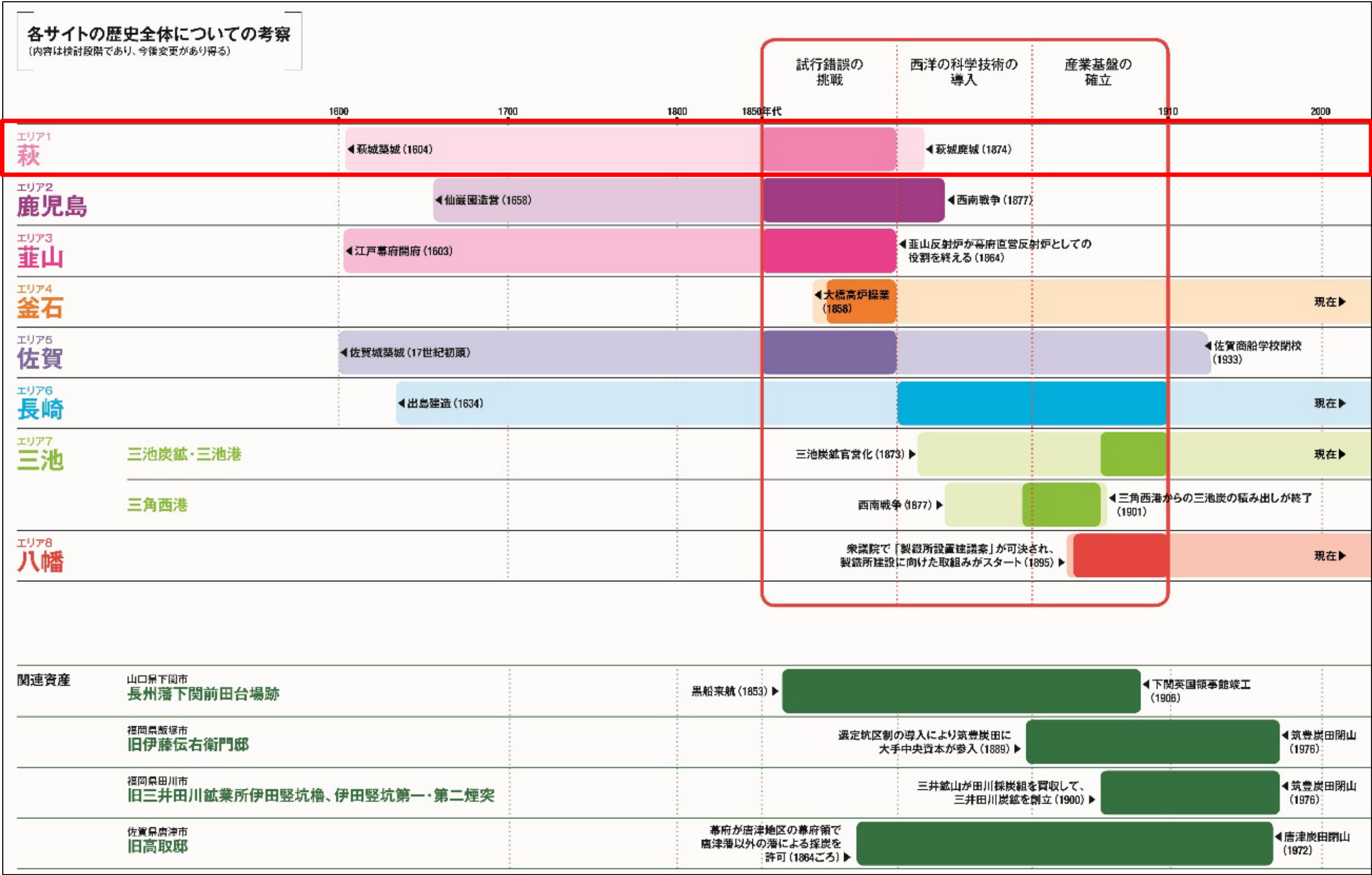
産業遺産情報センターと各地のビジターセンターが連携して、明治日本の産業革命遺産の顕著で普遍的な価値を効果的に発信できるような体制を構築していく



関連資産：平成 21 年 1 月 5 日にユネスコの世界遺産暫定一覧表に記載された段階で構成資産候補であったものであり、世界遺産登録された「明治日本の産業革命遺産」と一体的に活用を図る産業遺産。(その当時の時代背景や社会情勢を知ることができる貴重な資産)

「各サイトの歴史全体」についての考察

内閣官房が平成29年にユネスコに提出したインタープリテーション戦略では、下図のとおり各サイトの歴史全体の考察について、記されている。



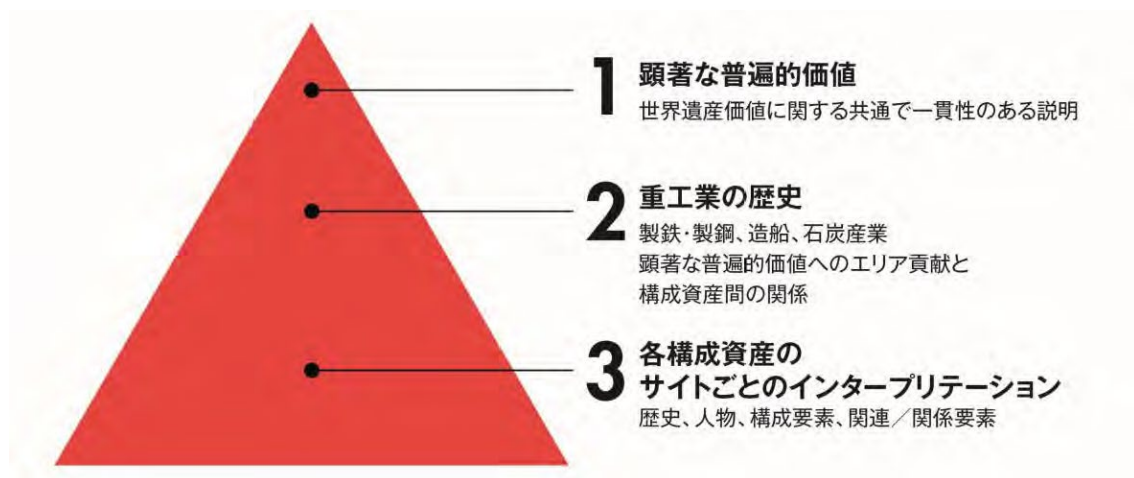
本エリアにおけるインタープリテーション

インタープリテーション戦略の考え方

インタープリテーション戦略では、インタープリテーションとプレゼンテーションの概念について、次のとおり図解されている。

本エリアのインタープリテーションにおいても、インタープリテーション監査において指摘された課題を解決するため、これに則って取組を展開することとする。

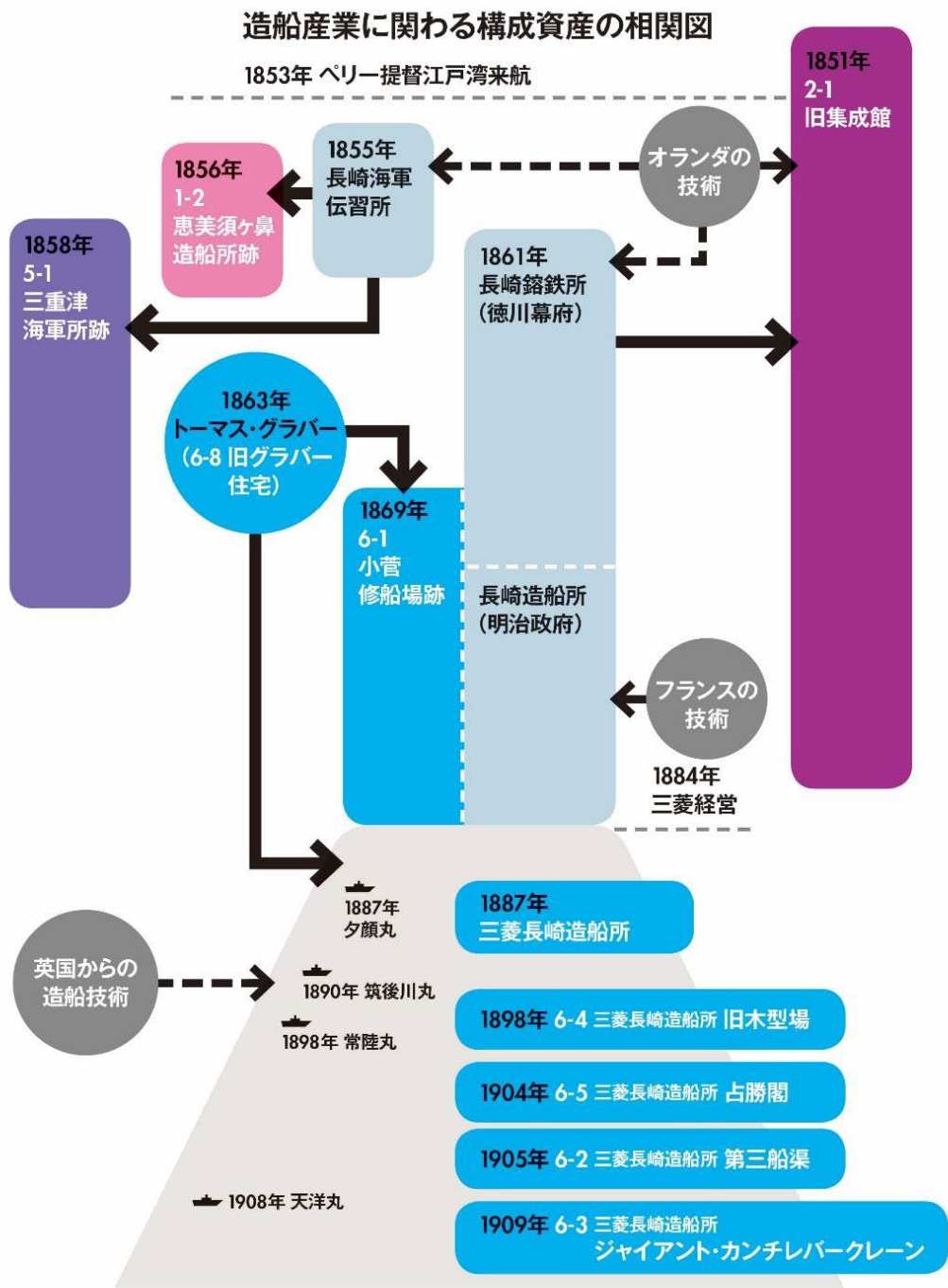
「明治日本の産業革命遺産」のインタープリテーション及びプレゼンテーション：価値とテーマの階層

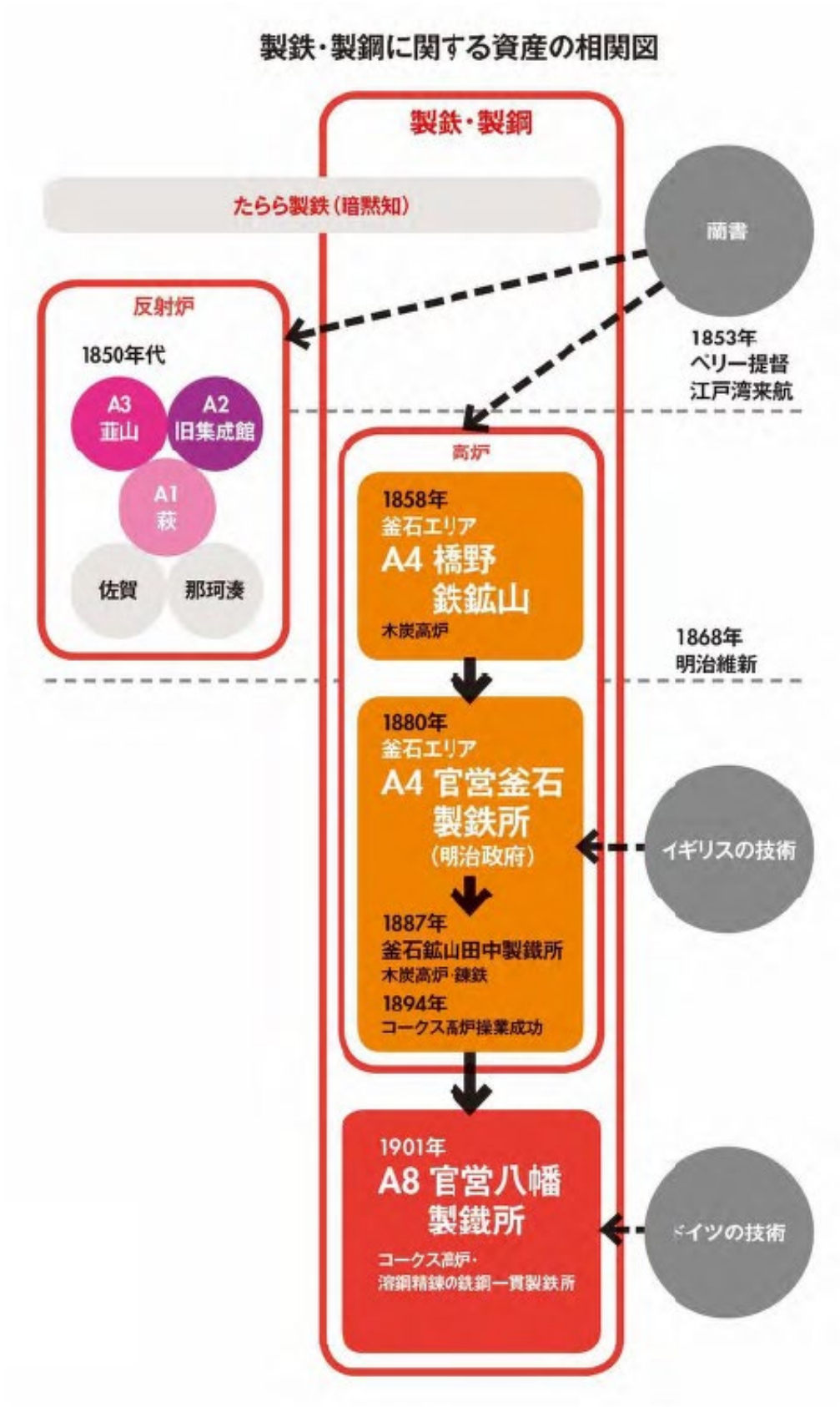


産業遺産情報センター並びに各地のビジターセンターにおいて、顕著な普遍的価値はインタープリテーションの最上位に位置する。これは、エリアや構成資産独自の歴史など地域や産業固有の展示解説に優先する最上位のテーマとなる。これにより、上図に表された1. 顕著な普遍的価値、2. 重工業の歴史、3. 各構成資産のサイトごとのインタープリテーションが、資産全体で一貫してプレゼンテーションされることになる。

ローカル・ビジターセンターにおけるインタープリテーションの流れ インタープリテーションの階層







リキッドギャラクシー等を使用した展示

インタープリテーション戦略に基づき令和2年3月に設置された産業遺産情報センターでは、世界遺産としての顕著な普遍的価値の対象期間(1850年代から1910年まで)に加え、「各サイトの歴史全体についての考察」として示された図を参考に、体感型マルチディスプレイを活用し、各エリアの構成資産の歴史や変遷、暮らしなどについて映像で解説するなど、資産の変遷や世界遺産価値への貢献、歴史全体を体感的に理解できるような展示を行っている。

本エリアにおいても、産業遺産情報センターと連携しながら、将来的に体感型マルチディスプレイで同様のコンテンツを見られるようにするなど、インタープリテーションの充実を図っていく。あわせて、産業遺産情報センターや本エリアのビジターセンターにおいて収集した資料のデジタルアーカイブを構築した上で、順次インタープリテーションツールに反映していくこととする。



本エリアにおける構成資産

関連する産業：製鉄・製鋼 構成資産の名称：萩反射炉	
（構成資産の概要） 幕末、海防の危機感から大砲建造用に全国に建設された反射炉 11 基のうち、現存する 3 基の一つ。海防要地を統治した萩（長州）藩は佐賀藩の反射炉を模し、1856 年独力で反射炉建設に挑んだ。西洋科学への試行錯誤を象徴する遺構。	
関連する産業：造船 構成資産の名称：恵美須ヶ鼻造船所跡	
（構成資産の概要） 萩（長州）藩が洋式船建造のため建設。幕末、ロシアの難破船の代船として建造された君沢型スクナーを模し、和船技術で建造した。建造は二隻限りであったが、和船技術で洋式船に挑んだ試行錯誤の実験として貴重である。	
関連する産業：製鉄・製鋼 構成資産の名称：大板山たたら製鉄遺跡	
（構成資産の概要） 恵美須ヶ鼻造船所で組み立てられた君沢型のスクナーの船釘（和釘）など船の部材を供給した製造拠点である製鉄遺跡。西洋の製鉄技術が導入される前の日本の伝統的なたたら技術の遺構である。	

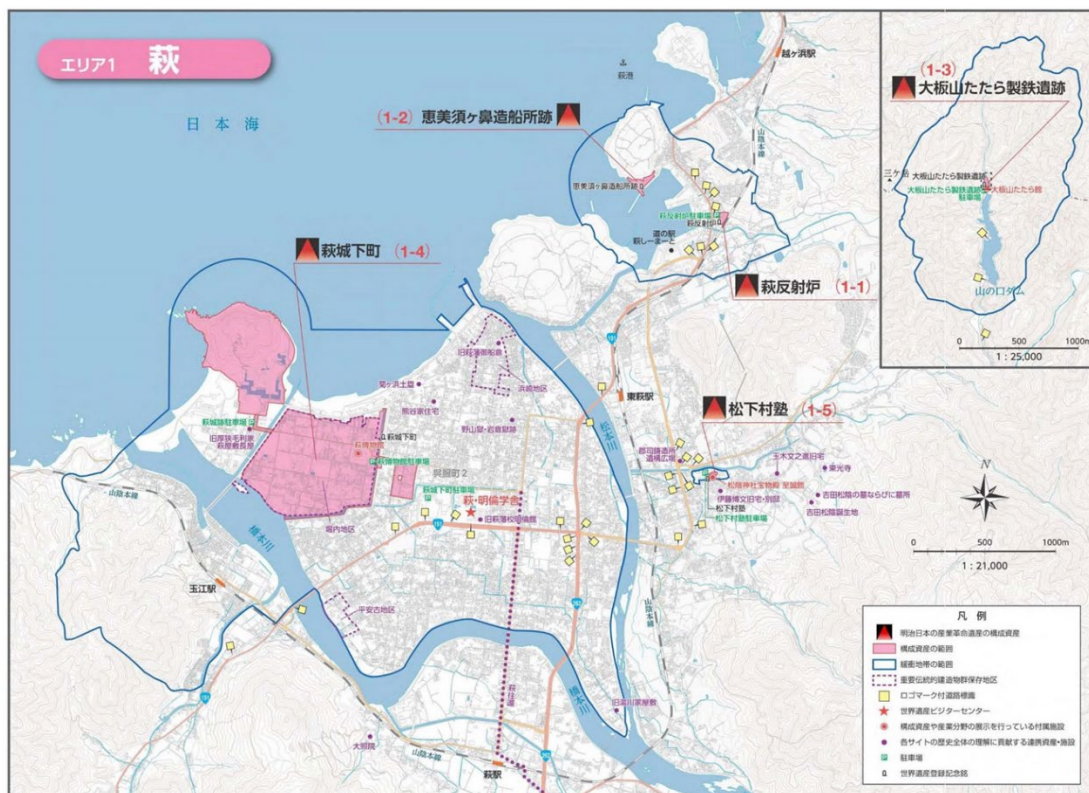
関連する産業：製鉄・製鋼、造船 構成資産の名称：萩城下町 （構成資産の概要） 萩の城跡や城下町の町割りは、産業革命の担い手を育成した幕末の長州（萩）藩及び侍が西洋科学に挑戦した時代背景を象徴する、封建社会の社会構造を表している。	
関連する産業：製鉄・製鋼、造船 構成資産の名称：松下村塾 （構成資産の概要） 産業革命の担い手となる維新の志士育成貢献した吉田松陰の私塾。海防の必要性和、西洋に学び、産業技術の獲得を重視する思想を教えた。松陰の教えを受けた志士たちは後に明治政府を樹立。日本の急速な産業化に貢献した。	

世界遺産記念銘

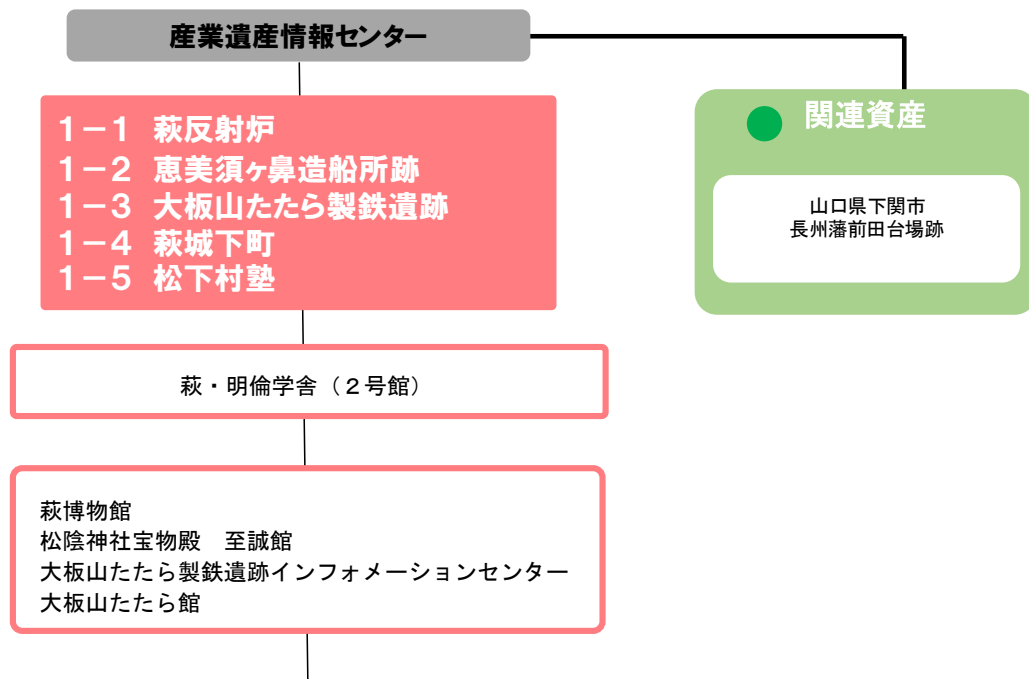
ユネスコのガイドラインに則り、各構成資産には、来訪者に当該遺産の顕著な普遍的価値を適切に周知するため世界遺産登録記念銘を設置している。



萩エリア インタープリテーション施設分布



萩エリア 階層図



アクセスガイドマップ

各エリアの構成資産のアクセスガイドマップは、日本語版の他に英語版も作成されており、来訪者に無料で配布されている。本エリアについては、10月中旬に発行予定である。本マップは、各エリアの構成資産についてのオリエンテーションとして、訪問者ができるだけエリア内の構成資産等を数多く訪問できるよう構成されている。

また、スマートフォン向けアプリと連動し、AR 機能を活用して非公開資産の3Dモデルや動画、360度映像を表示するなど、アクセス不可の資産における情報発信においても活用できるものとなっている。



インフォメーションカウンター

行政機関や空港に設置しており、アクセスガイドマップ等の配布を行っている。

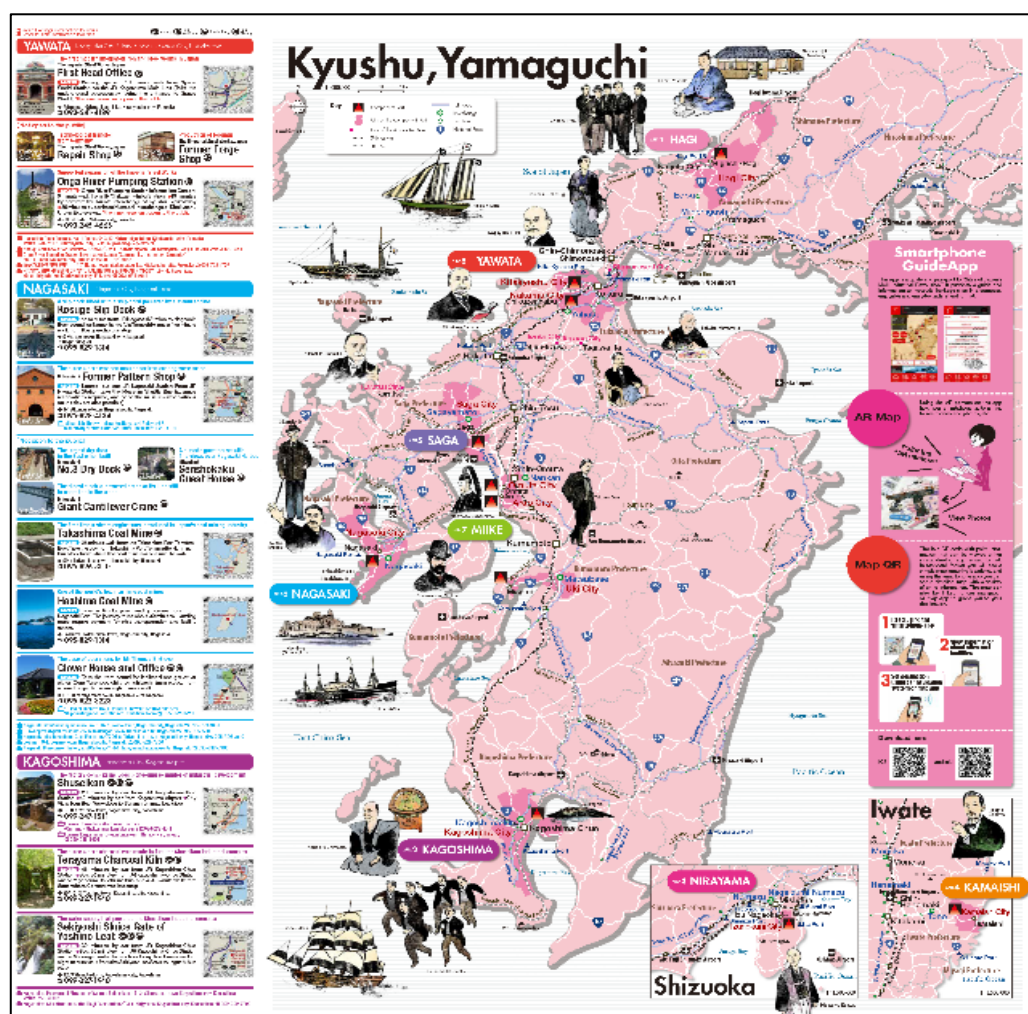


萩市役所

世界遺産ルート

インタープリテーション戦略に基づき、推薦書の 395～396P にもあるとおり、世界遺産を全体として理解するためのガイダンスと観光インフラを提供する「世界遺産ルート推進協議会」が設立された。同協議会は、23の構成資産から成る世界遺産価値を理解できるよう、地図とアプリ、GPS ナビゲーション、「明治日本の産業革命遺産」の普及を促進するための統一ロゴを使用した道路標識の設置等により、全ての構成資産や関連遺産に来訪者を誘導している。

今後も、推薦書やインタープリテーション計画に基づき、着実に取組みを実施していく。





推薦書 P396 掲載図



世界遺産ルート協議会の様子

統一ロゴを使用した道路標識等の設置について

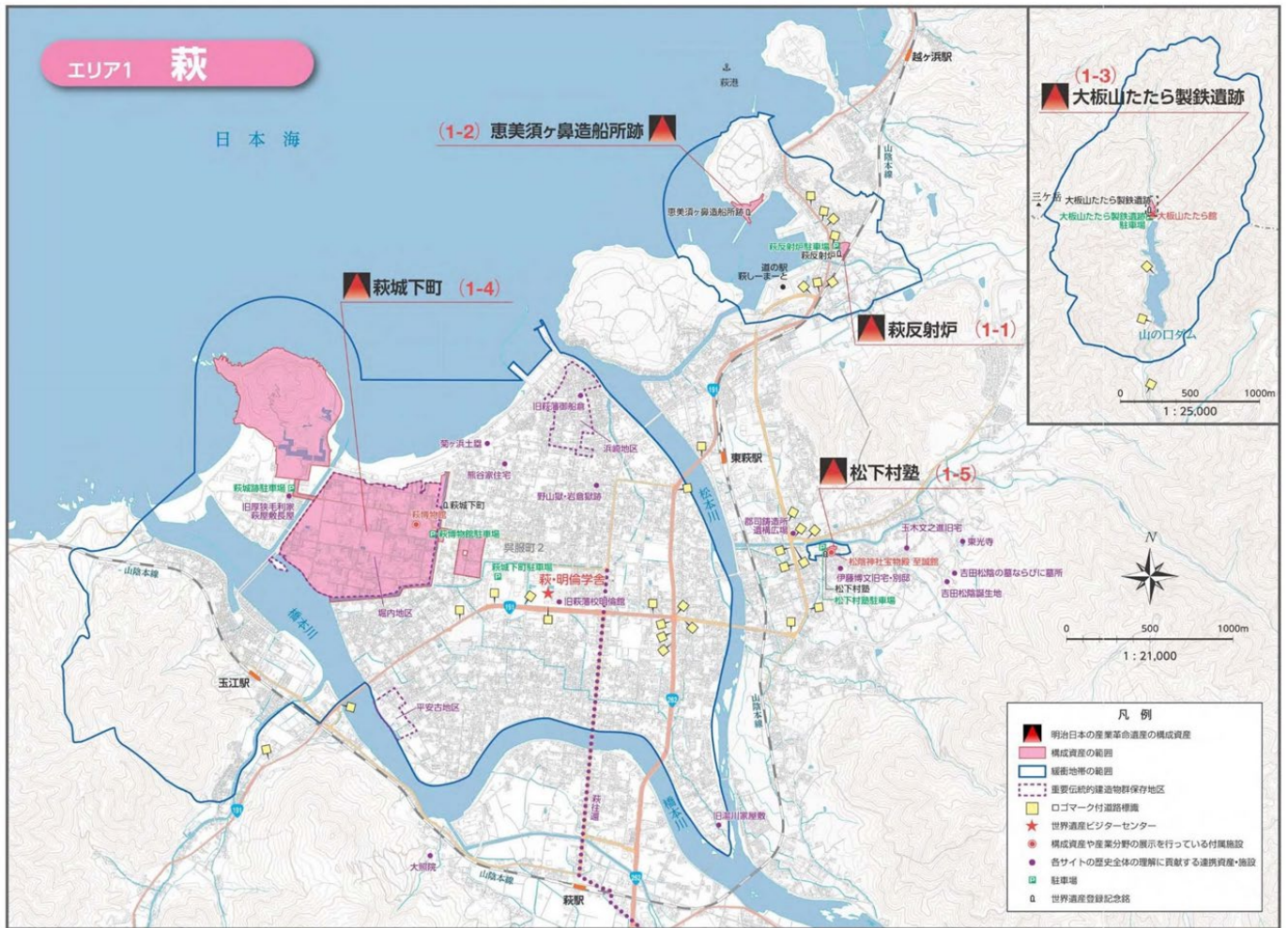
道路標識の設置状況

設置場所	設置済み数
萩市	47

道路標識写真



統一口ゴ道路標識設置場所一覽



カーナビ（デンソーナビ）との連携

カーナビに目的地を転送できるスマホアプリとの連携の例



スマホから直接カーナビに目的地を送信可能



使用方法についての動画を YouTube に掲載



アプリの活用

詳しいストーリーと説明、歴史的背景、動画、CG 等を使用して「明治日本の産業革命遺産」を紹介している。ゲームや AR カメラを利用することでポイントが貯まり、お土産などのクーポンとして使用できるなど、世界遺産価値への理解を深めるとともに世界遺産ルートのツアーへの還元が可能な仕組みとなっている。スマートフォン向けアプリは、多言語（日本語、英語、韓国語、簡体・繁体中国語、ベトナム語）に対応している。



LINE の活用

アプリで取得したポイントはクーポンに交換可能。



LINE の登録を促す POP を作成し、駅やインフォメーションセンターなどに置いて誘導している。



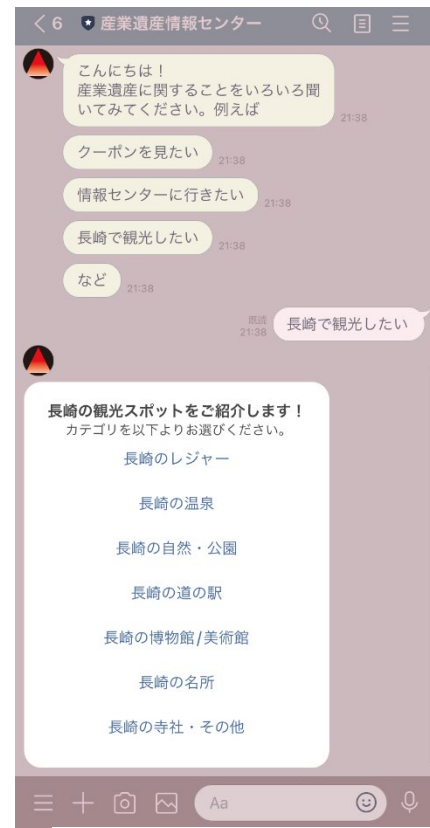
LINE を入り口として、既存ガイドアプリの活用や訪問地域の店舗で利用可能なクーポン情報等、位置情報に基づき利用者の状況に適した双方向のコミュニケーションを実現している。多言語にも対応し、訪日外国人をサポートする。



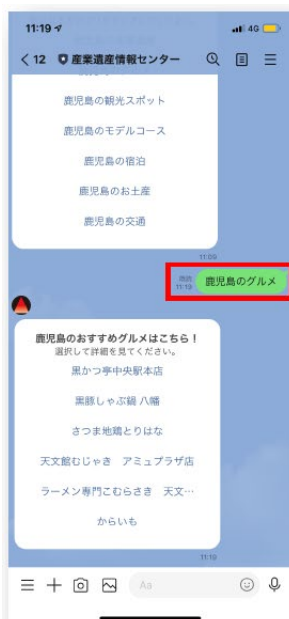
LINE の機能（例）



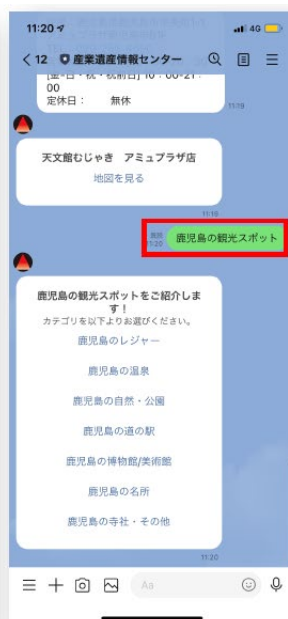
モデルコース紹介



AI チャットボット機能



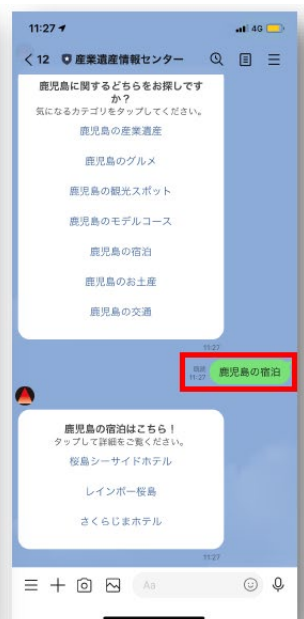
グルメ情報



観光スポット



交通情報



宿・ホテル情報

デジタルサイネージの機能

産業遺産情報センターにデジタルサイネージを設置し、地域版ガイドマップや産業遺産の周遊ルートや観光の情報を掲示し、各サイトへの周遊観光を促す仕組みを構築している。AIチャットボットも搭載し、周遊ルートや観光に関する質問にもリアルタイムで幅広く対応している。



デジタルコンテンツの充実について

本エリアに関しては、そのほかにスマートフォン向けアプリケーション「長州ファイブとめぐる萩の世界遺産」、VRコンテンツ「萩世界遺産バーチャルアドベンチャー」を開発・公開しており、更に、地域版ガイドマップにおけるAR機能搭載、MapQRによる資産情報発信の取組を行っていく予定。

○長州ファイブとめぐる萩の世界遺産

長州ファイブが案内人となって萩の構成資産を楽しく紹介するアプリ。ガイドンスムービーをはじめ、大板山たたら製鉄遺跡の往時の姿を再現したVRや反射炉の内部構造を解説したCGムービーを楽しむことができる。萩反射炉、恵美須ヶ鼻造船所跡、大板山たたら製鉄遺跡、萩城跡では、アプリが内蔵されたタブレットを貸出している。



○萩世界遺産バーチャルアドベンチャー

VR技術を活用し、現存していない恵美須ヶ鼻造船所跡の遺構や建造した洋式船、萩城天守閣をスマートフォンやタブレット、PCを使って体感できる。たたら製鉄の様子について絵図を用いて判り易く紹介する大板山たたら製鉄遺跡の映像もある。



モニターツアー



ビジターセンター等について

萩エリアでは、インタープリテーション戦略に則り、ビジターセンターを1か所、構成資産や産業分野の展示を行っている付属施設を4か所整備している。各施設では、地域コミュニティと連携し、地域の歴史的・文化的価値と調和しながら、本来の世界遺産価値の展示が一番際立つプレゼンテーションを行い、来訪者が資産の価値を理解しやすいような展示を目指している。

今後、インタープリテーション監査の指摘を踏まえ、また、産業遺産情報センターと連携しながら、膨大な一次史料のデジタル化やデジタルツールを駆使した展示の充実を図っていく。

【萩・明倫学舎（2号館）】

萩の資産の位置づけや、吉田松陰がわが国の工学教育に果たした先駆的役割などを、映像やパネル、レプリカの展示などにより紹介している施設。





【萩博物館】

萩の歴史と自然が総合的に展示されている博物館施設。常設展に加え、企画展でも幕末期の調査、研究成果を公開し、萩の資産についてより理解を深めることができる。



【大板山たたら製鉄遺跡インフォメーションセンター】

道の駅ハピネス福栄内に所在する。パネルによる資産の位置づけや絵図を用いた展示によりたたら製鉄の解説を行っている施設である。



【大板山たたら館】

大板山たたら製鉄遺跡に隣接した施設で、資産の位置づけや遺跡の調査概要、たたら製鉄の工程などについてパネルや映像で解説し、理解を深めることができる。



【松陰神社宝物殿 至誠館】

松陰神社境内内に所在し、パネルや歴史資料の展示により、資産の位置づけや吉田松陰の生涯について深く理解することができる。

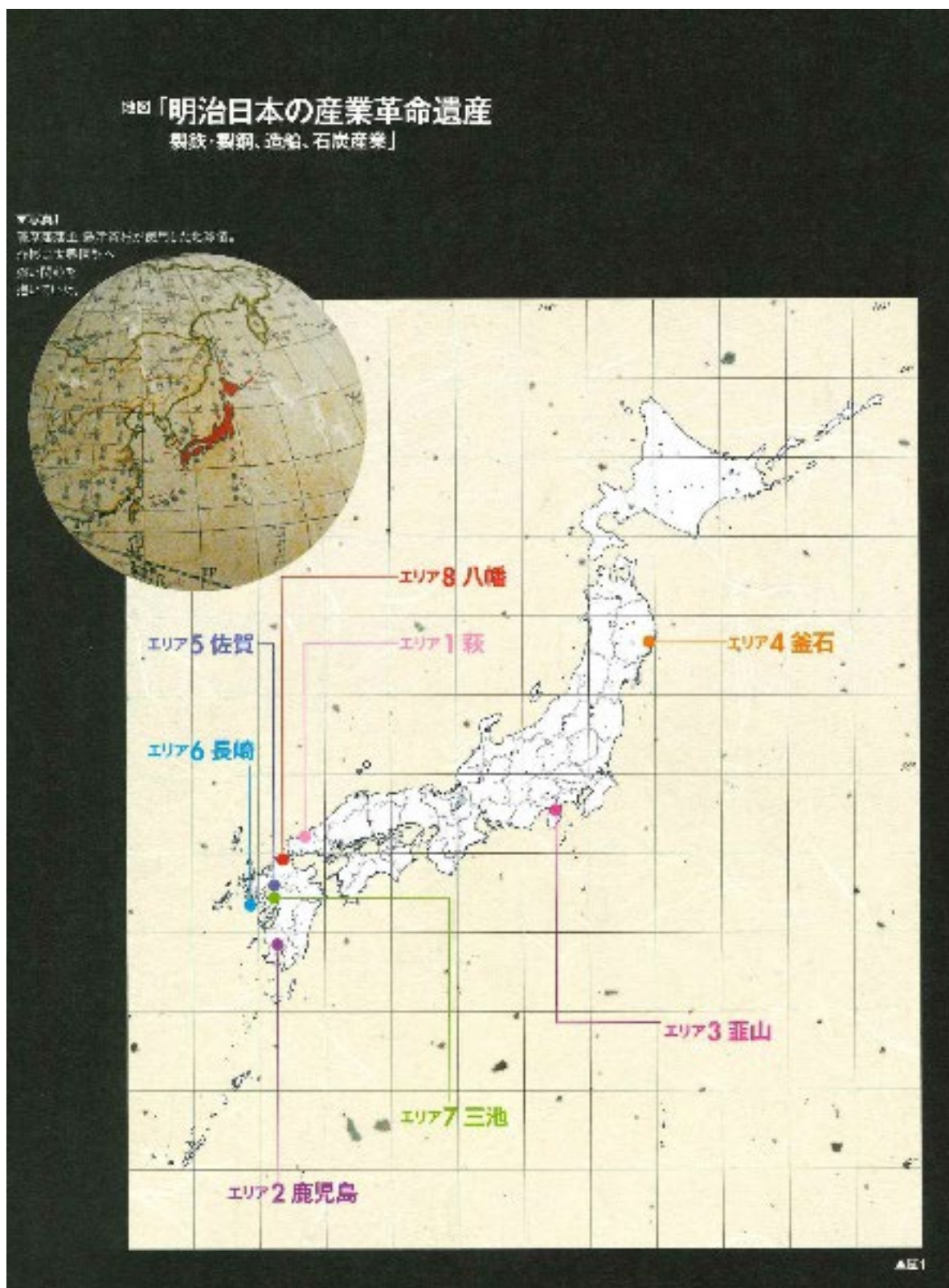


Area2 鹿児島

エリア別インタープリテーション計画

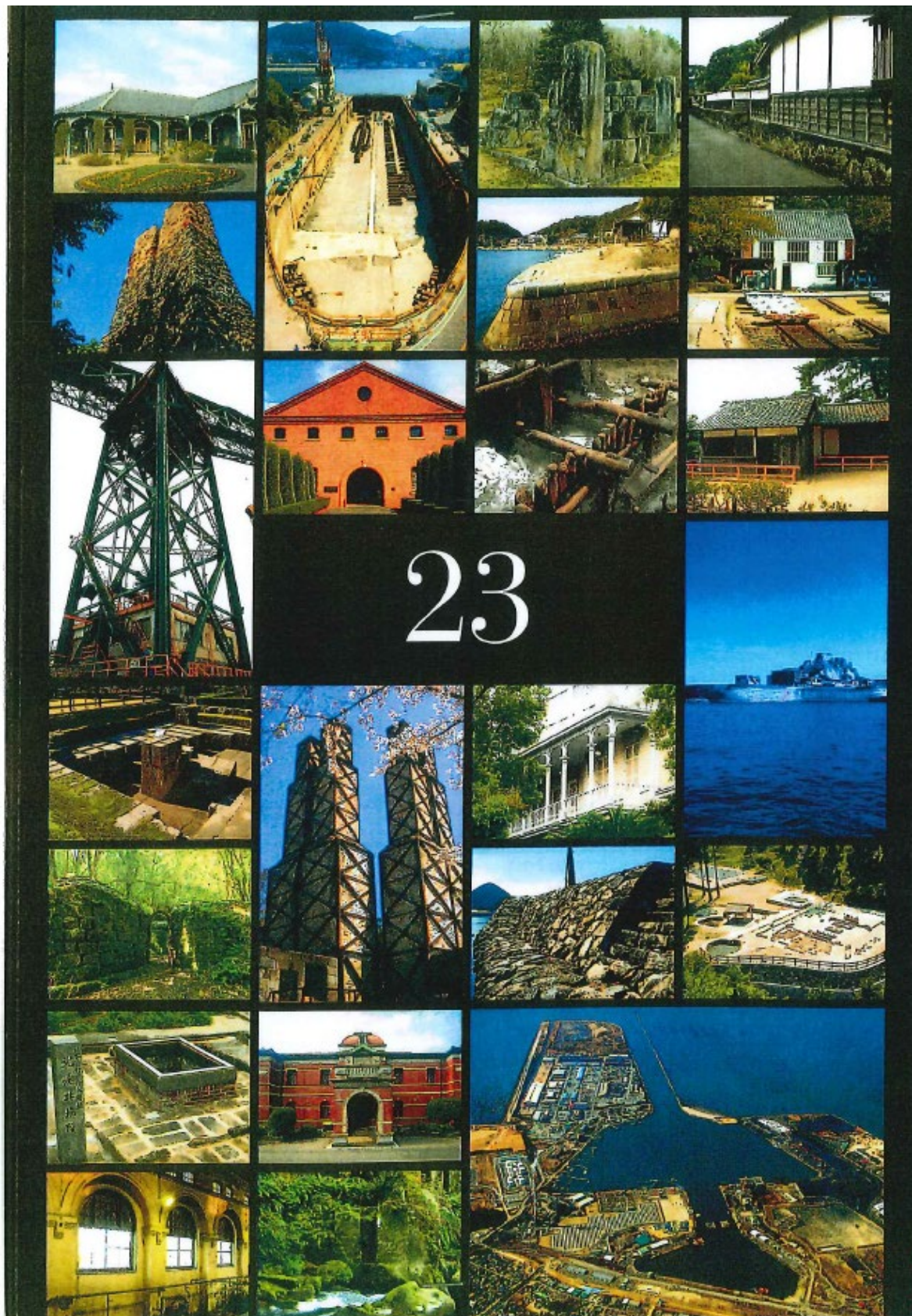


【エリア一覧】



【構成資産名】

エリア	サイト	ID	構成資産
エリア1 萩	1 萩の産業化初期の遺産群	1-1	萩反射炉
		1-2	恵美須ヶ鼻造船所跡
		1-3	大板山たたら製鉄遺跡
		1-4	萩城下町
		1-5	松下村塾
エリア2 鹿児島	2 集成館	2-1	旧集成館
		2-2	寺山炭窯跡
		2-3	関吉の硃水溝
エリア3 葦山	3 葦山反射炉	3-1	葦山反射炉
エリア4 釜石	4 橋野鉄鉱山	4-1	橋野鉄鉱山
エリア5 佐賀	5 三重津海軍所跡	5-1	三重津海軍所跡
エリア6 長崎	6 長崎造船所	6-1	小菅修船場跡
		6-2	三菱長崎造船所 第三船渠
		6-3	三菱長崎造船所 ジャイアント・カンチレバークレーン
		6-4	三菱長崎造船所 旧木型場
		6-5	三菱長崎造船所 占勝閣
	7 高島炭鉱	6-6	高島炭坑
		6-7	端島炭坑
	8 旧グラバー住宅	6-8	旧グラバー住宅
エリア7 三池	9 三池炭鉱・三池港	7-1	三池炭鉱・三池港
	10 三角西港	7-2	三角西港
エリア8 八幡	11 官営八幡製鐵所	8-1	官営八幡製鐵所
		8-2	遠賀川水源地ポンプ室



SITES OF
JAPAN'S
MEIJI INDUSTRIAL
REVOLUTION
IRON & STEEL, SHIPBUILDING
AND COAL MINING

Executive Summary

概要

「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」は、西洋から非西洋への産業化の波及を顕す遺産群により構成されている。19世紀半ばから20世紀の初頭にかけて、日本は工業立国の土台を築き、重工業（製鉄・製鋼、造船、石炭産業）分野において、急速な産業化を成し遂げた。産業化の歩みは、蘭書片手に試行錯誤での鉄製大砲鋳造への挑戦や、羊式船の模倣から始まった。次に、西洋技術を導入し、その運用により専門知識を習得した。明治の後期には、国内に人材が育成され、積極的に導入した西洋技術を、国内需要や社会的伝統に適合するように改善、改良を加え、産業化に応用した。日本は、非西洋諸国で初めて産業革命の波を受容し、植民地になることなく50年余りで、自らの手で産業化を成就した。「明治日本の産業革命遺産」は、世界史におけるたぐい稀な産業化の局面を証言する遺産群である。

評価基準の適用

評価基準 (ii)

「明治日本の産業革命遺産」は、日本が19世紀半ばから20世紀の初頭にかけて、産業化が進む西洋諸国からの技術移転を受け、技術の交流により変貌を遂げた特異なプロセスを証言する一連の遺産群である。極めて短期間に、西洋の産業革命が日本に移植され、また成就されたことは、産業化と技術の歴史において、地域的にも、時代的にも稀有なことである。西洋から伝播した技術が、伝統的な日本文化と融合し、国内の需要や社会的伝統に合わせて改善・改良され、日本の社会と経済を形づくり、やがて日本を世界の経済大国に押し上げる重工業の基盤を築いた。

評価基準 (iv)

「明治日本の産業革命遺産」は、製鉄・製鋼、造船、石炭産業といった重工業の基幹産業において、急激に変化した時代を象徴する技術の集合体の卓越した例であり、19世紀半ばから20世紀初頭にかけて非西洋諸国で初めて産業化を成就した変革の軌跡を示している。同時代の産業史の時間的・地域的枠組みにおいて類似性がなく、普遍的な意義を有する。これら一連の資産は、相互に関連する起源を持つ重工業の3つの産業分野において、代表的資産を統一的に包含しており、集合体として比類なき技術移転の証言である。

完全性の宣言

「明治日本の産業革命遺産」は、製鉄・製鋼、造船、石炭産業といった産業分野において、急速な産業化を成し遂げた道程を証言する遺産群であり、23の構成資産は、現存する唯一かつ希少な遺構として、全体で「顕著な普遍的価値」を有している。いずれの構成資産においても、資産の範囲に、「顕著な普遍的価値」に貢献する要素を、全て包含するように、境界線を設定した。

日本国政府は、内閣官房の下に構築した戦略的枠組みにおいて、構成資産を、劣化や開発の悪影響から守るため、管理の仕組みを用意した。全体としての資産の保全状態は良好であるが、中には継続の利用、もしくは、長期間放置された後、別の用途で活用をされ、その結果、物理的影響が及んだ遺構も含まれている。また完全性が担保されているものから、部分的に保全されているものまで、多種多様である。ただし後者の場合であったとしても、遺産群全体の完全性を顕すために求められている遺構が、手つかずのまま遺されている。考古学的資産の場合、これまでの十分な発掘調査の結果、将来の研究や展示のために必要な遺構の大半が、良好な状態で保存されていることが、確認されている。

また特に産業用の用途で、現在も生産の一翼を担う現役の産業設備においては、民間の管理者が、安全性確保のための定期点検の実施と、適切な維持管理を行うことにより、極めて高い水準の完全性を保持しており、稼働中の産業遺産として、全体の価値に貢献している。

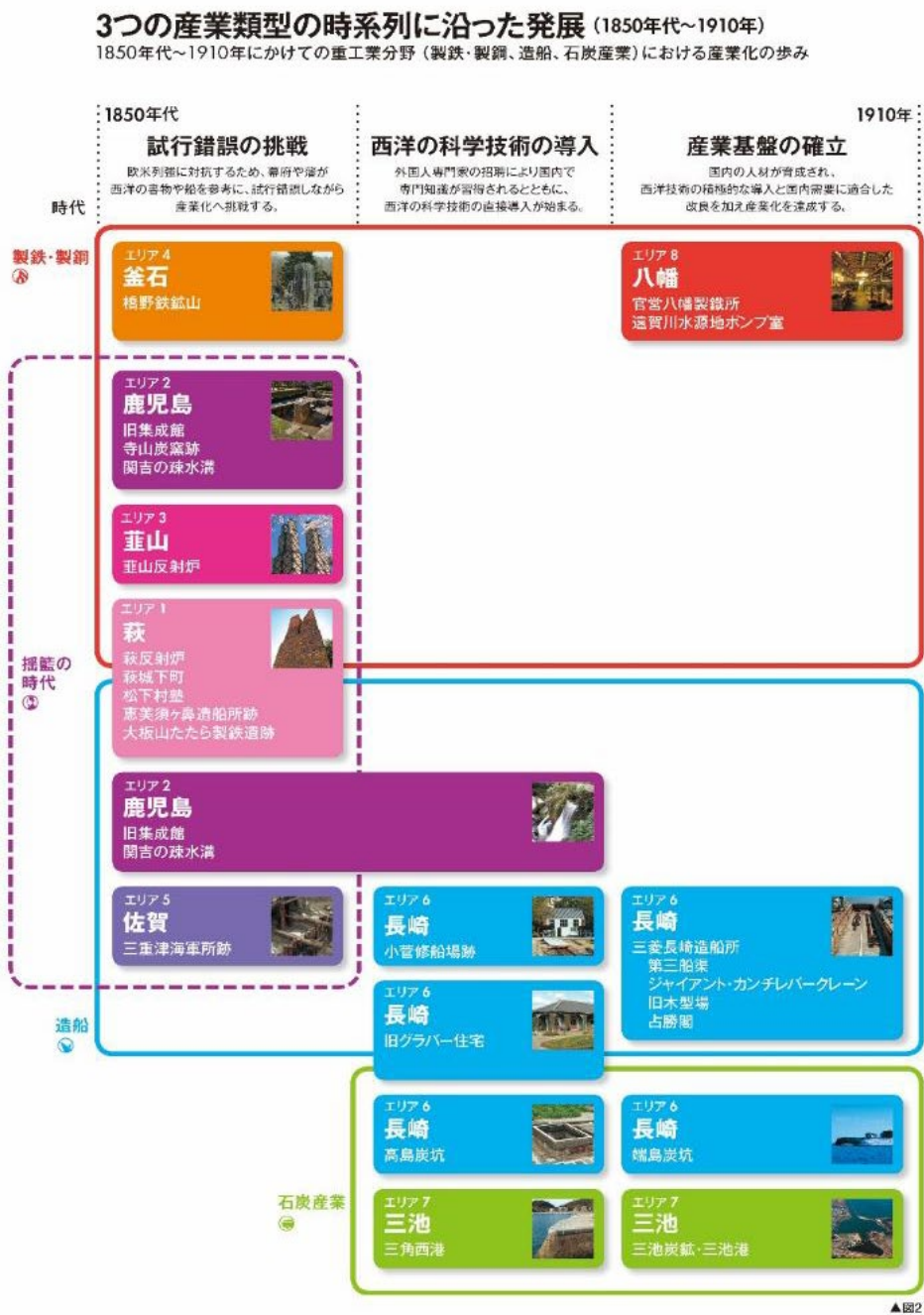
真実性の宣言

顕著な普遍的価値に関する真実性について、西洋から非西洋への初めての、かつ急速な産業化の移転を顕し代表する、現存する産業遺産の集合体として、最も高い真実性を有している。

「形状・意匠」、「材料・材質」について、本資産の構成資産は重工業の産業分野における、西洋からわが国への技術移転のプロセスを説明する上で、必要不可欠な、オリジナルの形状と材質を保持している。構成資産の中には、断片的又は考古学的な遺構も含まれるが、いずれにしても、全体の資産の中で重要な産業要素については真実性が高い。構成資産の中には、長年、産業遺産の特徴を遺す史跡として管理されてきた遺構もあり、それらは実質的に高い真実性を有する重要な遺構である。それ以外の構成資産においては、「形状・意匠」及び「材料・材質」のみならず、オリジナルな用途での継続的使用と機能が維持されていることから極めて高い真実性を有している。

鹿児島エリアに関わる産業の歴史

鹿児島エリアは、世界文化遺産「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」の中で、「製鉄・製鋼」の第一段階「試行錯誤の挑戦」、「造船」の第一段階「試行錯誤の挑戦」及び第二段階「西洋の科学技術の導入」の時代に係る記録を留める構成資産が分布するエリアとなっている。



内閣官房が平成29年11月30日に、保全状況報告書添付資料としてユネスコに提出したインタープリテーション戦略では、次のように記されている。

1.1 インタープリテーション計画（抜粋）

(1) 全ての構成資産で一貫した顕著な普遍的価値（OUV）の共通展示を展開
インタープリテーション戦略に基づき、全ての構成資産に一貫した顕著な普遍的価値の共通展示を実施する。全ての関係者が方針に合意し、ブランド感のある世界遺産スタイルで統一的に展示をコーディネートし、実施する予定である。

(2)・(3) 労働者に関する情報収集を含む各サイトの歴史全体に関する進捗

内閣官房の「稼働資産を含む産業遺産に関する有識者会議」の委員、「明治日本の産業革命遺産」の登録に関わるイコモス査定に関与した国際ヘリテージの専門家、「インタープリテーションとプレゼンテーションに関する国際イコモス学術委員会」委員長他の助言により、以下の4つの方針が示された。

1) 顕著な普遍的価値のインタープリテーションに重点を置く：世界遺産の本来の目的に従い、各サイトにおいて、登録された資産の顕著な普遍的価値を、他の関連する問題と混同せずに明確に説明する。その上で、勧告g)を履行する。

※g) 推薦資産のプレゼンテーションのためのインタープリテーション（展示）戦略を策定し、各構成資産がいかに顕著な普遍的価値に貢献し産業化の1又は2以上の段階を反映しているかを特に強調すること。また、各サイトの歴史全体についても理解できるインタープリテーション（展示）戦略とすること。

2) P. 81に記載された顕著な普遍的価値の対象期間（1850年代から1910年まで）以外の各サイトの「歴史全体」の範囲は、1850年代以前と1910年から現在までの2つに分けられる。いずれにおいても各構成資産の背景の理解を補足する地域的な価値を念頭に「歴史全体」の範囲を絞り込む。さらに、各構成資産が立地するエリアにおける歴史全体のインタープリテーションについては、一次史料の収集や証言収録など質の高い調査を実施し、適宜、適切なメディアを通じていずれかの段階において公表する。

インタープリテーション戦略に則り、各エリアの構成資産及びビジターセンター等におけるインタープリテーションの現状について、世界各国の産業遺産及びそのインタープリテーションに精通した海外専門家による監査を、複数回（平成29年、令和元年）実施した。

その結果、監査者である ICOMOS メンバーのバリー・ギャンプル氏からは、鹿児島エリアに関して次のような評価を受けている。

- 仙巖園への 60 万人の訪問者と尚古集成館（旧集成館機械工場）への 30 万人の訪問者を受け入れて活かし、世界遺産の OUV と、このエリアが OUV にどのように貢献しているかを紹介し、伝えることが重要である。内容は、幅広い助言のもとに承認された推薦書の文章を参照されたい。
- 予定されている旧集成館機械工場の耐震補強工事は（現在の展示物が一時的に撤去されるため）、特にビジター体験の始まりとなる導入部のインタープリテーション展示を刷新する機会となり、上記の課題の解決に貢献する。
- このエリアでビジター体験を発展させるためには、旧鹿児島紡績所技師館（異人館）の制約事項、および保全の脆弱性を理解し、これに対処することが重要である。受入能力に関して言えば、この建物に一度に受け入れられるのは 50 名に過ぎない。しかし、周辺の土地を買い上げ、海への眺望を阻害していた建物を取り除くなど、どんどん魅力を発揮できる場所になっているし、海を眺望できるということは、旧鹿児島紡績所技師館の価値でもある。異人館の近隣に新しいインタープリテーション施設を追加することにより、この資産の訪問者受入能力を拡充し、訪問者管理能力を高めることができる。異人館で継続的に行われている保全および強化作業は称賛に値する。これは、この世界遺産に対する地方自治体の継続的なコミットメント、ならびに自治体の義務および機会を示すものである。
- 現地視察での助言、ならびにその後の鹿児島市および島津興業との協議により、仙巖園の新案内施設は「鹿児島世界文化遺産オリエンテーションセンター」と名づけられ、2019 年 10 月開館される。当センターが、この場所が世界遺産であることや、この場所が重要である理由を 60 万人の訪問者に簡潔に伝える最初の窓口になることが理想である。当センターは同時に、庭園、反射炉、旧集成館機械工場、異人館への「道しるべ」にもなるはずである。
- すべての開発において、バランスのとれた正確な歴史を常に念頭に置くことが重要である。ストーリーボードやプレゼンテーションの中には、当該資産サイトの特定の側面や構成資産の功績を関連づけようと「過度に熱心に」なりすぎているものもあり、これは時に、同じくらい重要で、かつ関連もある貢献をしている他の構成資産に不利益をもたらす可能性がある。

鹿児島エリアにおいては、これまで地区別協議会において本インタープリテーション計画について協議を行ってきた。

上記の評価の中で指摘されている、旧集成館機械工場の耐震補強工事については、計画通り進められており、工事終了後、インタープリテーションの充実を図ることとしている。また、異人館については、新たな管理棟を建築することにより管理能力を高めるとともに、歴史的な価値をわかりやすく解説する建物跡等の遺構表現や解説板を設置している。仙巖園の新案内施設は本エリアの構成資産全体への導入施設として、世界遺産価値等をわかりやすく伝えている。今後は、指摘された課題も踏まえ、産業遺産情報センターと連携しながら、地域の歴史的・文化的価値と調和しつつ世界遺産価値をより反映した展示を着実に実施していくこととする。

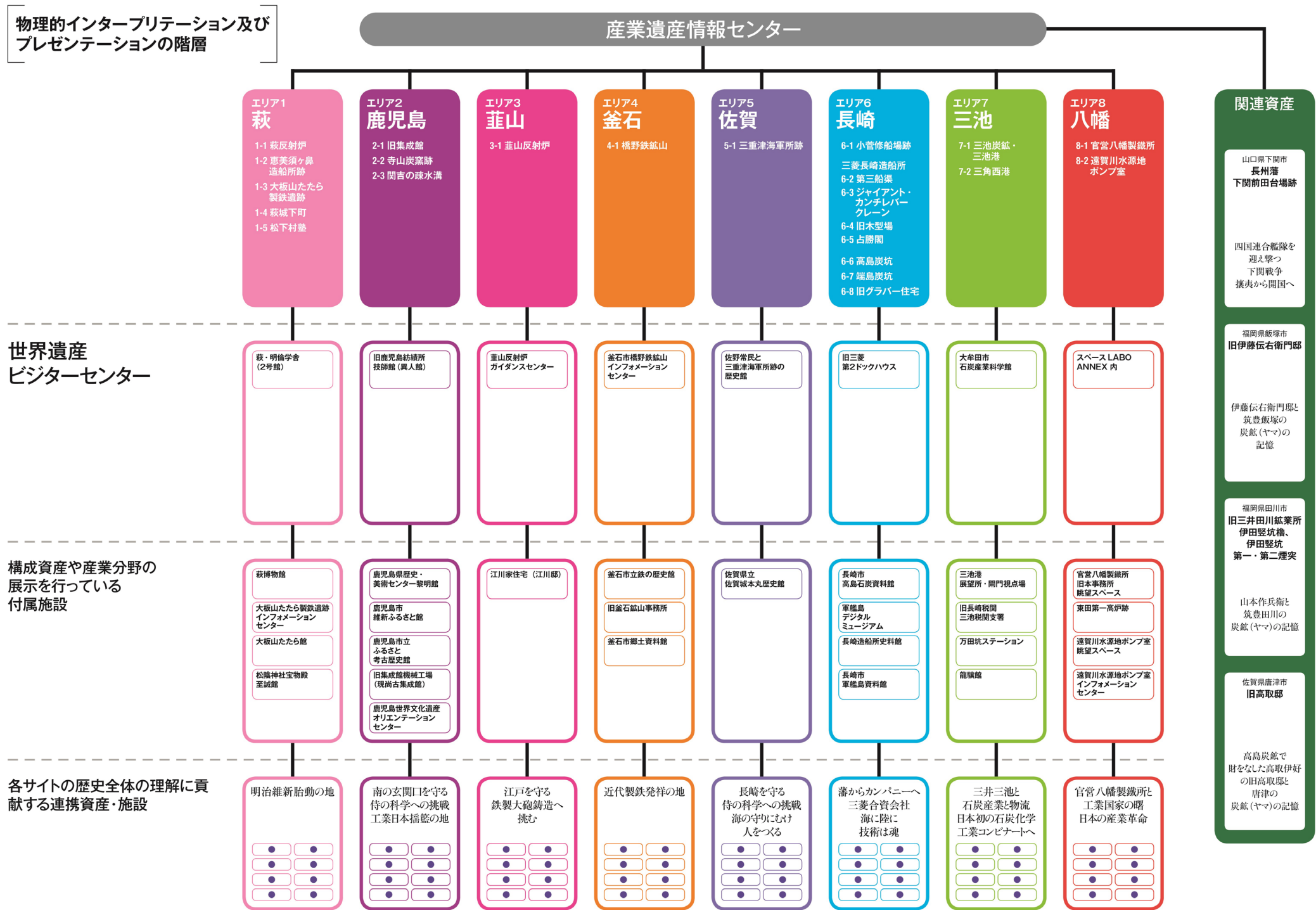
地区別協議会において本計画の実施状況を点検しながら、適宜改善に向けた検討を行う。



地区別協議会の様子

物理的インタープリテーション及びプレゼンテーションの階層

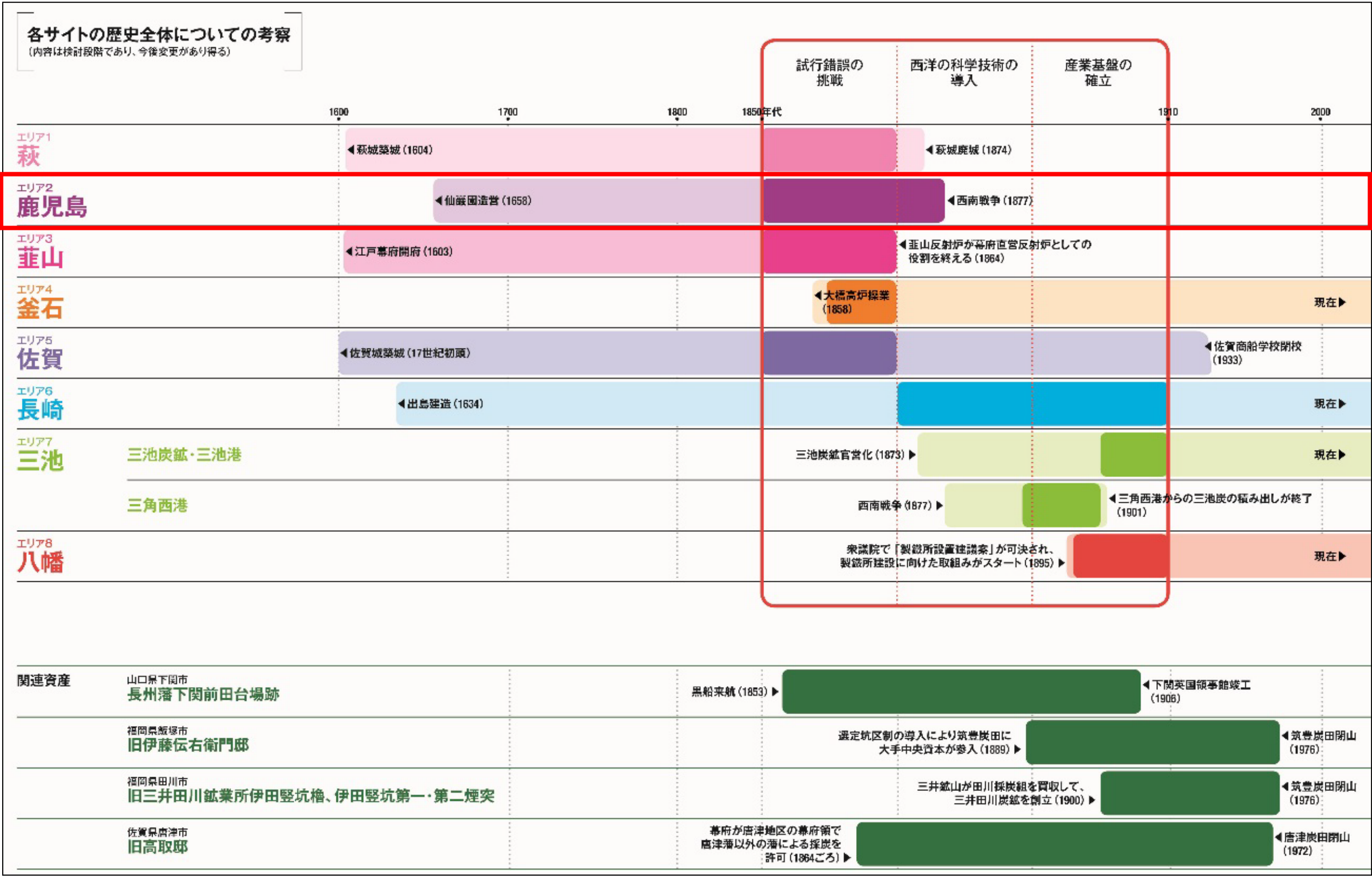
産業遺産情報センターと各地のビジターセンターが連携して、明治日本の産業革命遺産の顕著で普遍的な価値を効果的に発信できるような体制を構築していく



関連資産：平成 21 年 1 月 5 日にユネスコの世界遺産暫定一覧表に記載された段階で構成資産候補であったものであり、世界遺産登録された「明治日本の産業革命遺産」と一体的に活用を図る産業遺産。(その当時の時代背景や社会情勢を知ることができる貴重な資産)

「各サイトの歴史全体」についての考察

内閣官房が平成 2 9 年にユネスコに提出したインタープリテーション戦略では、下図のとおり各サイトの歴史全体の考察について、記されている。



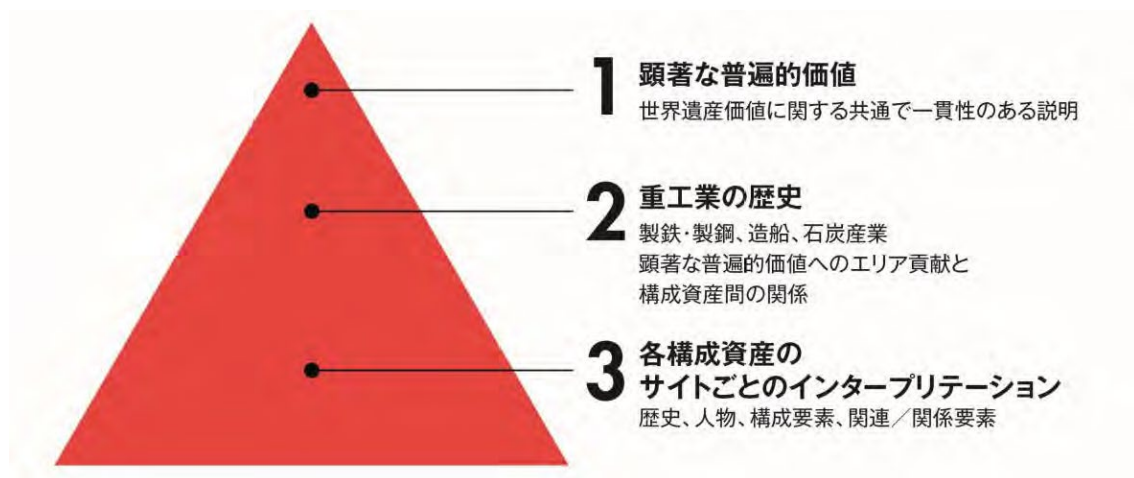
本エリアにおけるインタープリテーション

インタープリテーション戦略の考え方

インタープリテーション戦略では、インタープリテーションとプレゼンテーションの概念について、次のとおり図解されている。

本エリアのインタープリテーションにおいても、インタープリテーション監査において指摘された課題を解決するため、これに則って取組を展開することとする。

「明治日本の産業革命遺産」のインタープリテーション及びプレゼンテーション：価値とテーマの階層



産業遺産情報センター並びに各地のビジターセンターにおいて、顕著な普遍的価値はインタープリテーションの最上位に位置する。これは、エリアや構成資産独自の歴史など地域や産業固有の展示解説に優先する最上位のテーマとなる。これにより、上図に表された1. 顕著な普遍的価値、2. 重工業の歴史、3. 各構成資産のサイトごとのインタープリテーションが、資産全体で一貫してプレゼンテーションされることになる。

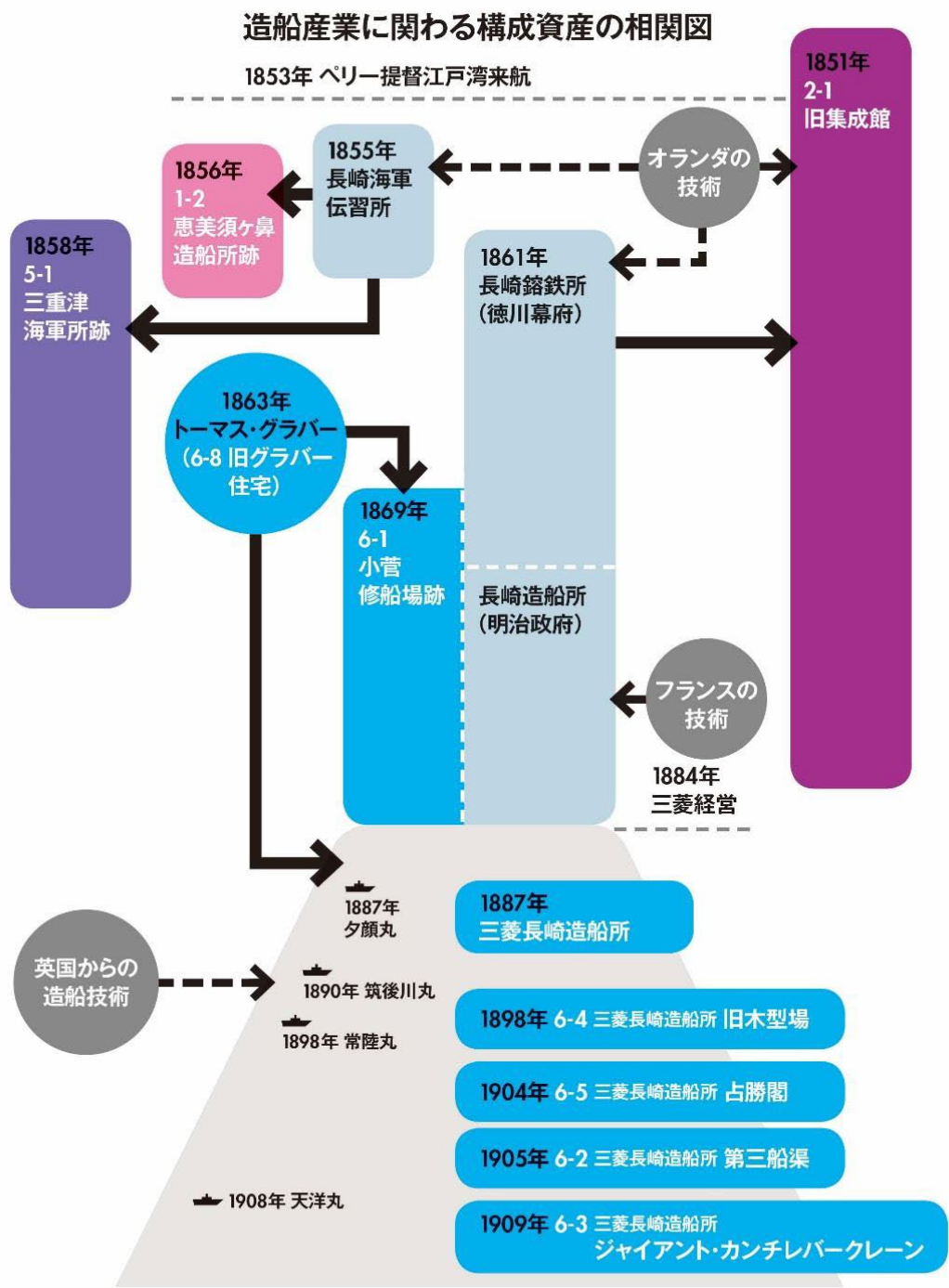
ローカル・ビジターセンターにおけるインタープリテーションの流れ インタープリテーションの階層

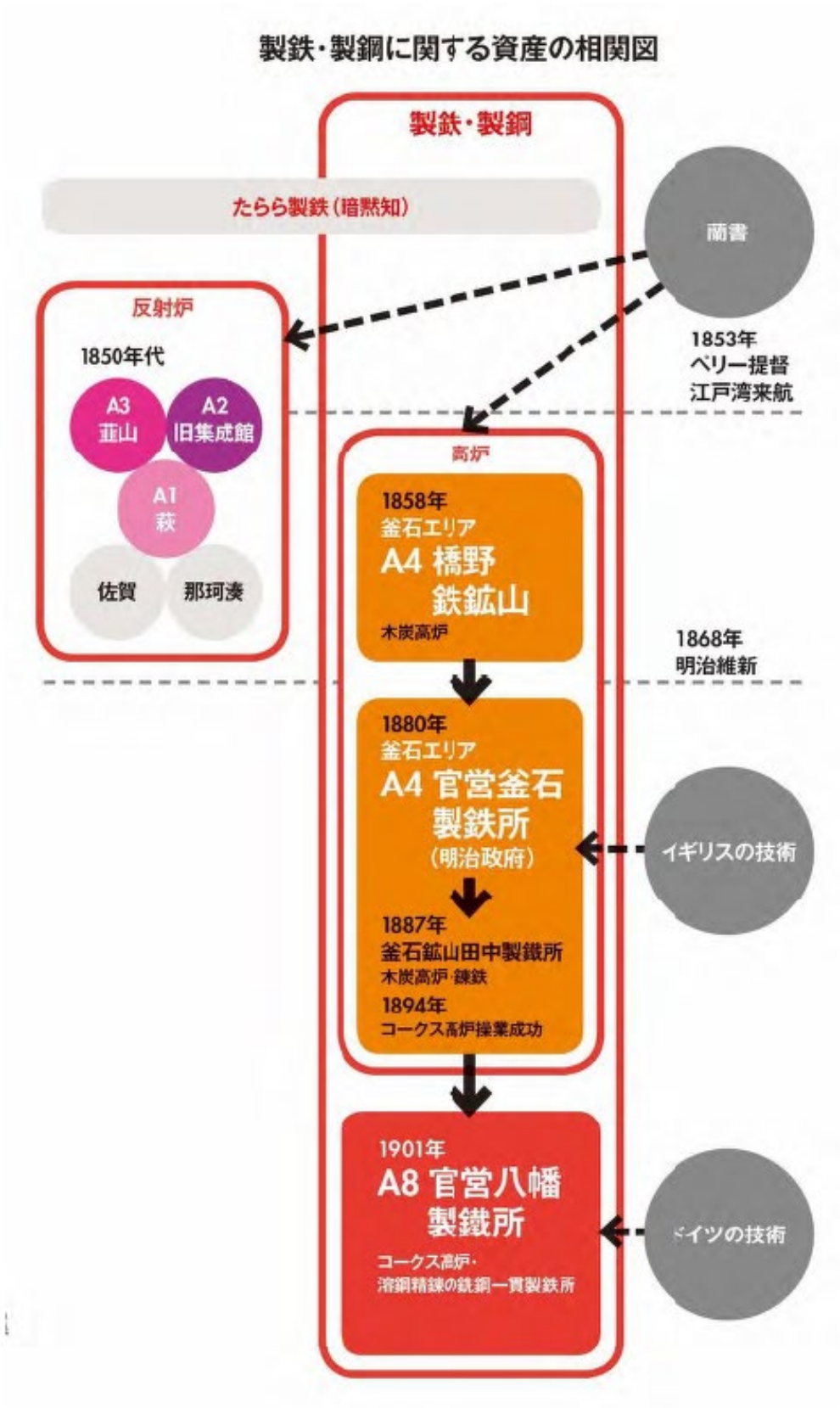


3つの産業類型の時系列に沿った発展 (1850年代～1910年)
1850年代～1910年にかけての重工業分野（製鉄・製鋼、造船、石炭産業）における産業化の歩み



▲図2





リキッドギャラクシー等を使用した展示

インタープリテーション戦略に基づき令和2年3月に設置された産業遺産情報センターでは、世界遺産としての顕著な普遍的価値の対象期間(1850年代から1910年まで)に加え、「各サイトの歴史全体についての考察」として示された図を参考に、体感型マルチディスプレイを活用し、各エリアの構成資産の歴史や変遷、暮らしなどについて映像で解説するなど、資産の変遷や世界遺産価値への貢献、歴史全体を体感的に理解できるような展示を行っている。

本エリアにおいても、産業遺産情報センターと連携しながら、将来的に体感型マルチディスプレイで同様のコンテンツを見られるようにするなど、インタープリテーションの充実を図っていく。あわせて、産業遺産情報センターや本エリアのビジターセンターにおいて収集した資料のデジタルアーカイブを構築した上で、順次インタープリテーションツールに反映していくこととする。



本エリアにおける構成資産

本エリアにおける構成資産は、全部で3つあり、「製鉄・製鋼」及び「造船」に関する遺産となっている。

関連する産業：製鉄・製鋼	
構成資産の名称：旧集成館（反射炉跡） （構成資産の概要） 薩摩藩藩主島津斉彬は、阿片戦争での清の敗北に衝撃を受け海防の重要性をいち早く認識、大砲鑄造や造船を核とした集成館事業を興し、様々な産業育成に挑戦した。日本初の工業コンビナートでは最盛期に 1200 人が働いていた。	
関連する産業：造船	
構成資産の名称：旧集成館（旧集成館機械工場） （構成資産の概要） オランダの設計による長崎製鉄所を模して、薩摩藩が伝統的施工技術で建設をし、1865 年に竣工した洋式船舶用機械修理工場。現存する日本最初期の洋式工場で、オランダより機械を輸入し金属加工、蒸気機関の修理を行った。	
関連する産業：造船	
構成資産の名称：旧集成館（旧鹿児島紡績所技師館） （構成資産の概要） 蒸気機関を用いた日本最初の西洋式紡績工場である鹿児島紡績所は、イギリス人技師を招いて技術導入を行った。技師館はその技師たちの宿舎として建設された。	

関連する産業：製鉄・製鋼	
構成資産の名称：寺山炭窯跡	
(構成資産の概要) 集成館事業の燃料用木炭を製造した炭窯跡。1858 年建設の炭窯跡が残り、炭窯本体は堅牢な石積から成る当時の姿を残す。齊彬は集成館事業による木炭供給不足に備え、吉野町寺山に強火力の白炭を製造する炭焼窯設置を命じた。	
関連する産業：製鉄・製鋼、造船	
構成資産の名称：関吉の疎水溝	
(構成資産の概要) 集成館事業の動力源となる水を供給した疎水溝遺構。事業の主動力は水車で、1852 年、齊彬は新水路を築き集成館の水車に水を供給した。関吉には当時の取水口が残り、疎水溝の一部は現在も灌漑用水に利用されている。	

世界遺産記念銘

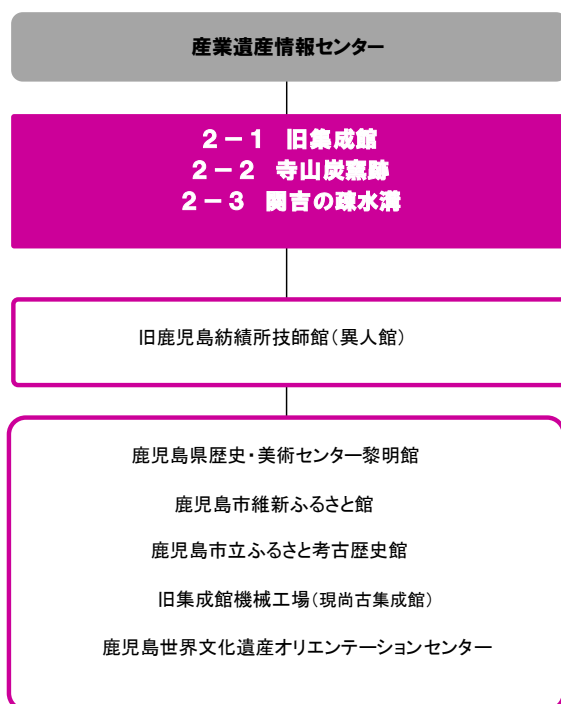
ユネスコのガイドラインに則り、各構成資産には、来訪者に当該遺産の顕著な普遍的価値を適切に周知するため世界遺産登録記念銘を設置している。



鹿児島エリア インタープリテーション施設分布



鹿児島エリア 階層図



アクセスガイドマップ

各エリアの構成資産のアクセスガイドマップは、日本語版の他に英語版も作成されており、来訪者に無料で配布されている。本マップは、各エリアの構成資産についてのオリエンテーションとして、訪問者ができるだけエリア内の構成資産等を数多く訪問できるよう構成されている。

また、スマートフォン向けアプリと連動し、AR 機能を活用して非公開資産の3Dモデルや動画、360度映像を表示するなど、アクセス不可の資産における情報発信においても活用できるものとなっている。

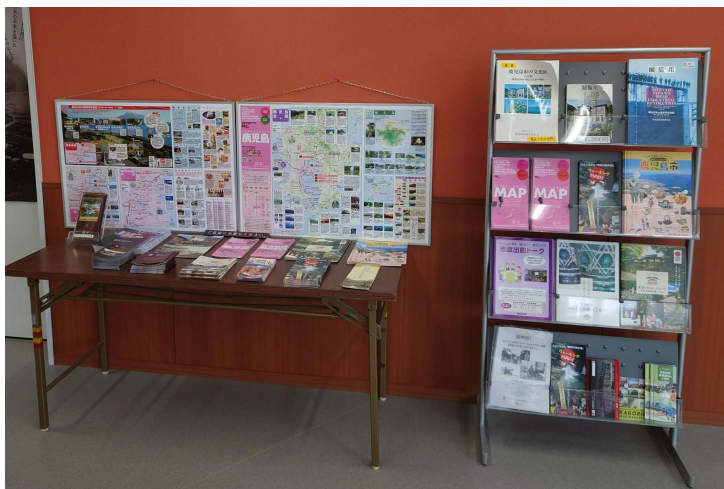


インフォメーションカウンター

行政機関や空港に設置しており、アクセスガイドマップ等の配布を行っている。



鹿児島市役所



旧鹿児島紡績所技師館（異人館）管理棟

ガイドマップ配布箇所及び配布部数

アクセスガイドマップの配布箇所及び配布部数は以下のとおりとなっている。

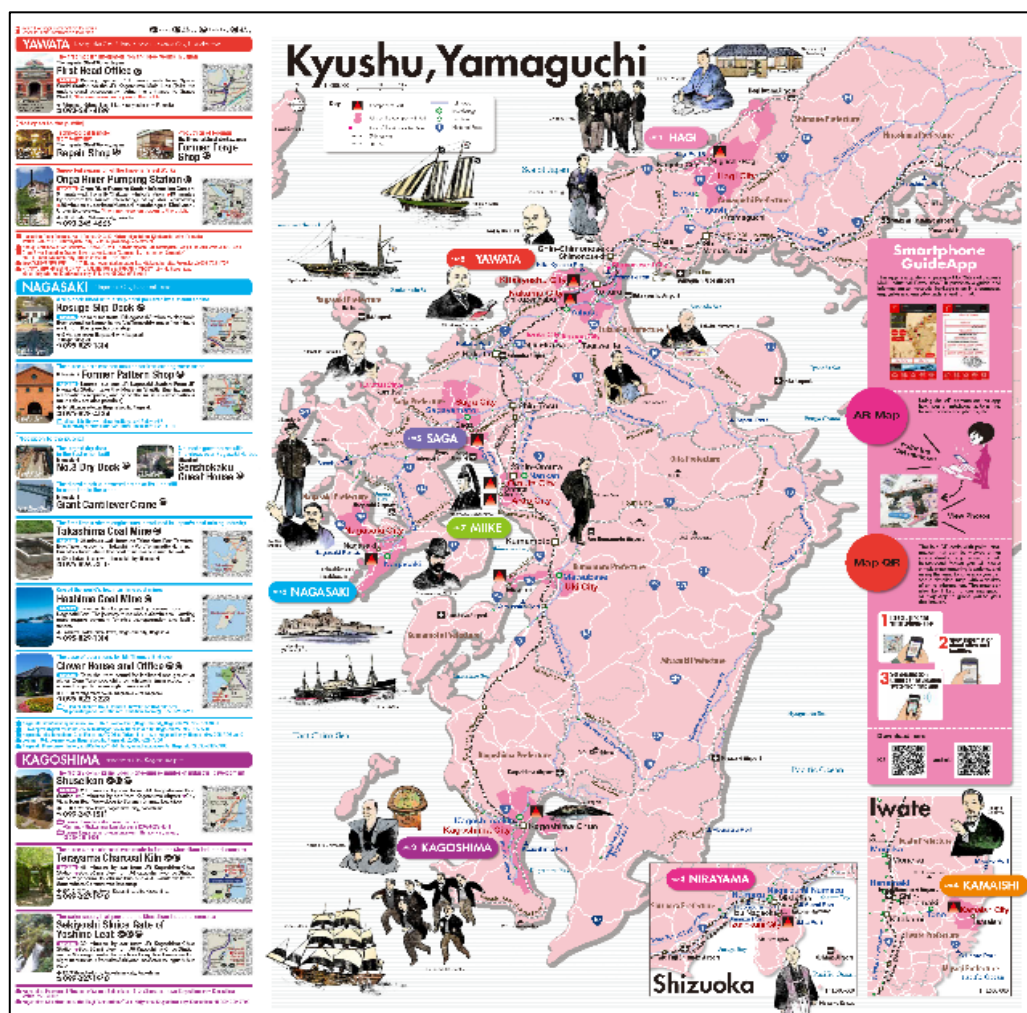
全体MAP		鹿児島MAP	
配布総数	177,762	配布総数	38,958
日本語 & 英語	177,762	日本語	34,178
主な配布先	配布部数	主な配布先	配布部数
行政機関	300	行政機関	980
空港	550	空港・航空会社	1,450
ホテル	50	ホテル	3,000
レンタカー	100	レンタカー	500
JR（鉄道）	600	JR（鉄道）	1,400
観光案内所	700	観光案内所	231
道の駅	4,400	道の駅	3,752
NEXCO	168,500	NEXCO	15,050
公益・財団・社団法人	550	公益・財団・社団法人	1,600
その他	2,012	その他	10,995
JR九州 博多駅総合案内所		仙巖園	
西日本高速道路リテール株式会社		福岡空港	
西日本高速道路サービスホールディングス		屋久島環境文化財団	
風月フーズ株式会社		公益財団法人北九州市観光コンベンション協会	
福岡国際空港株式会社		JR鹿児島中央駅観光案内所	
長崎空港		JR宮崎駅観光案内所	
鹿児島県立図書館		北九州市観光コンベンション協会	
JR鹿児島中央駅観光案内所		鹿児島市商店街連盟	
北九州市観光コンベンション協会		福岡市観光案内所	
大村市役所産業振興部		鹿児島空港	
JR宮崎駅観光案内所		福岡国際空港株式会社	
		鹿児島県立図書館	
		薩摩藩英国留学生記念館	
		特定非営利活動法人 里山を考える会	

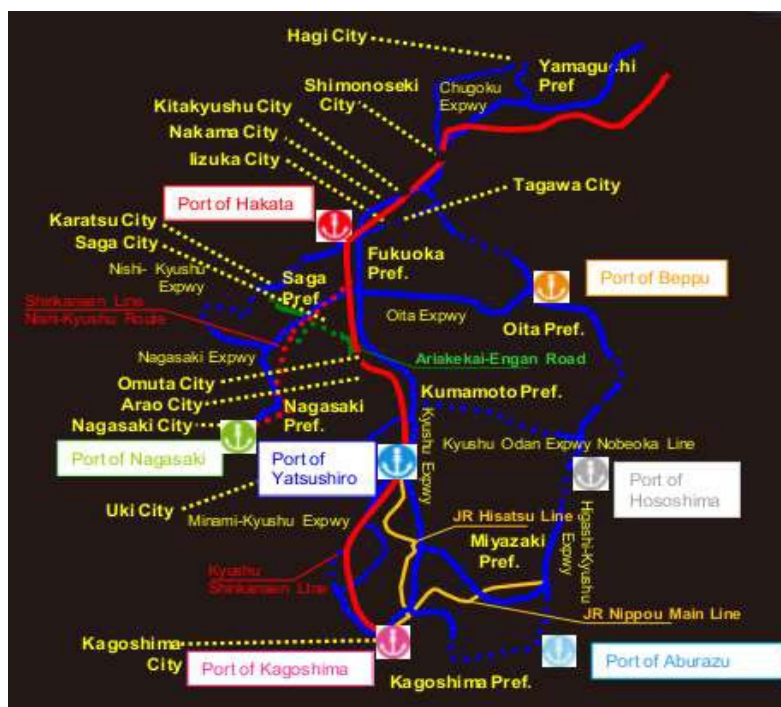
全エリア累計総配布部数
464,025

世界遺産ルート

インタープリテーション戦略に基づき、推薦書の 395～396P にもあるとおり、世界遺産を全体として理解するためのガイダンスと観光インフラを提供する「世界遺産ルート推進協議会」が設立された。同協議会は、23の構成資産から成る世界遺産価値を理解できるよう、地図とアプリ、GPS ナビゲーション、「明治日本の産業革命遺産」の普及を促進するための統一ロゴを使用した道路標識の設置等により、全ての構成資産や関連遺産に来訪者を誘導している。

今後も、推薦書やインタープリテーション計画に基づき、着実に取組みを実施していく。





推薦書 P396 掲載図



世界遺産ルート協議会の様子

統一ロゴを使用した道路標識等の設置について

道路標識の設置状況

設置場所	設置済み数
鹿児島市	37

道路標識写真



統一ロゴ道路標識設置場所一覧

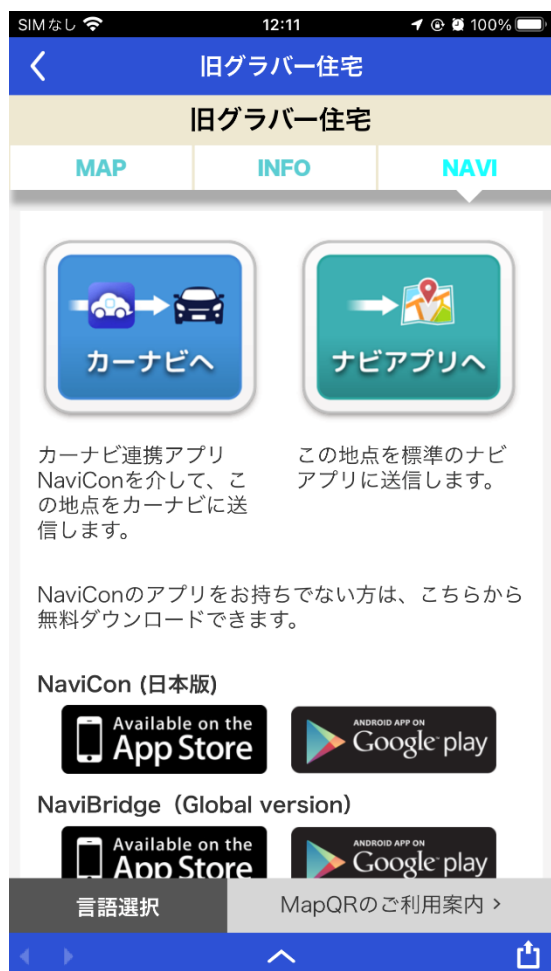


カーナビ（デンソーナビ）との連携

カーナビに目的地を転送できるスマホアプリとの連携の例



スマホから直接カーナビに目的地を送信可能



使用方法についての動画を YouTube に掲載



アプリの活用

詳しいストーリーと説明、歴史的背景、動画、CG 等を使用して「明治日本の産業革命遺産」を紹介している。ゲームや AR カメラを利用することでポイントが貯まり、お土産などのクーポンとして使用できるなど、世界遺産価値への理解を深めるとともに世界遺産ルートのツアーへの還元が可能な仕組みとなっている。スマートフォン向けアプリは、多言語（日本語、英語、韓国語、簡体・繁体中国語、ベトナム語）に対応している。



LINE の活用

アプリで取得したポイントはクーポンに交換可能。



LINE の登録を促す POP を作成し、駅やインフォメーションセンターなどに置いて誘導している。



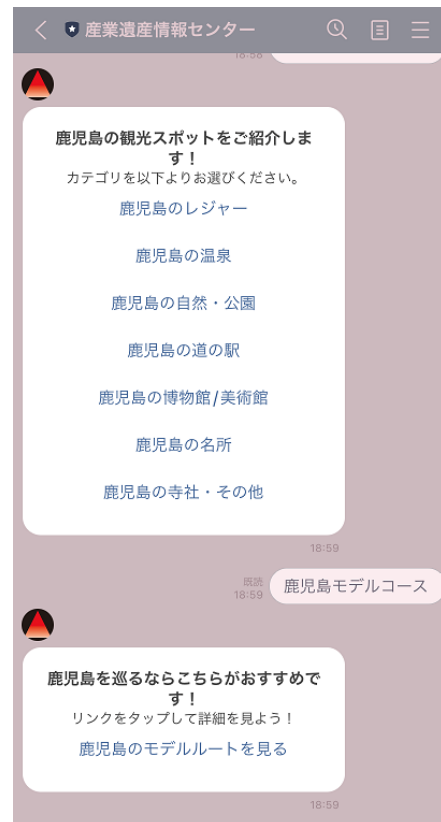
LINE を入り口として、既存ガイドアプリの活用や訪問地域の店舗で利用可能なクーポン情報等、位置情報に基づき利用者の状況に適した双方向のコミュニケーションを実現している。多言語にも対応し、訪日外国人をサポートする。



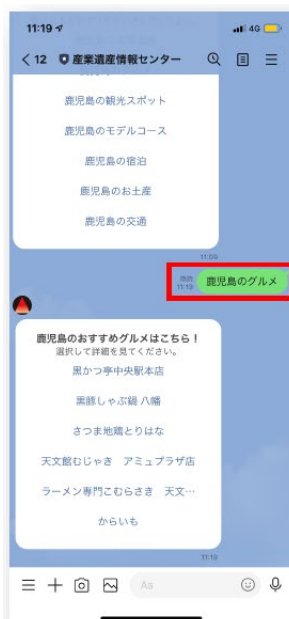
LINE の機能（例）



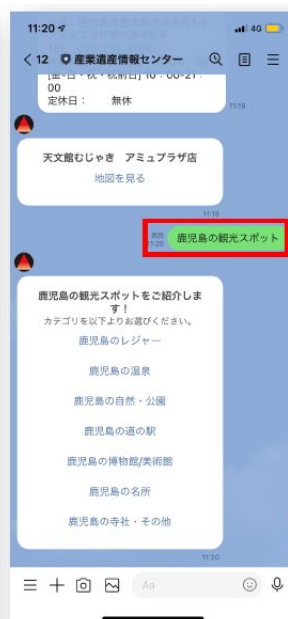
モデルコース紹介



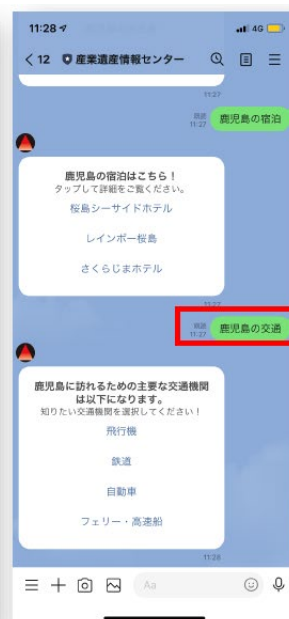
AI チャットボット機能



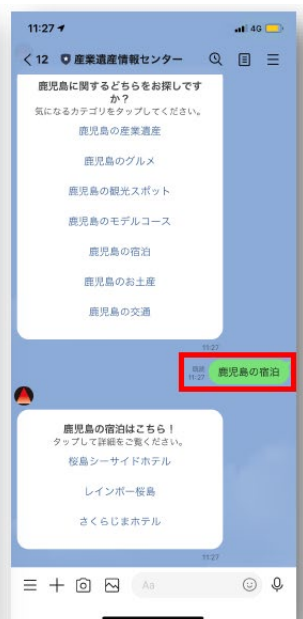
グルメ情報



観光スポット



交通情報



宿・ホテル情報

デジタルコンテンツの充実について

本エリアに関しては、鹿児島県及び鹿児島市、鹿児島市近代化産業遺産パートナーシップ会議のWEBサイトや鹿児島県及び鹿児島市のフェイスブックにより構成資産等に関する情報を発信している。また、鹿児島県においてスマートフォン用のアプリを開発し、稼働している様子を再現するVR・AR、360度のパノラマCG、動画などのコンテンツが制作され、現地で理解増進を図っている。

今後、本エリアにおいては、発掘調査等で新たな価値が確認された場合などには、当該WEBサイト及びアプリケーションのコンテンツのさらなる充実を図る予定としている。

【旧集成館360°パノラマCG】



【寺山炭窯跡CG】



【関吉の疎水溝 C G】



【鹿児島紡績所技師館・鹿児島紡績所等の C G】



デジタルサイネージの機能

産業遺産情報センターにデジタルサイネージを設置し、地域版ガイドマップや産業遺産の周遊ルート情報を掲示し、各サイトへの周遊観光を促す仕組みを構築している。AIチャットボットも搭載し、周遊ルートや観光に関する質問にもリアルタイムで幅広く対応している。



ビジターセンター等について

鹿児島エリアでは、インタープリテーション戦略に則り、ビジターセンターを1か所、構成資産や産業分野の展示を行っている付属施設を5か所整備している。各ビジターセンターでは、地域コミュニティと連携し、地域の歴史的・文化的価値と調和しながら、本来の世界遺産価値の展示が一番際立つプレゼンテーションを行い、来訪者が資産の価値を理解しやすいような展示を目指している。

今後、インタープリテーション監査の指摘を踏まえ、また、産業遺産情報センターと連携しながら、膨大な一次史料のデジタル化やデジタルツールを駆使した展示の充実を図っていく。

【旧鹿児島紡績所技師館（異人館）】

集成館の全容の模型や技師たちの暮らしぶりを再現した展示、技師館の移築の変遷、映像や模型、パネルによる集成館事業の解説、他の8県11市にまたがる構成資産群の紹介等を行っている。

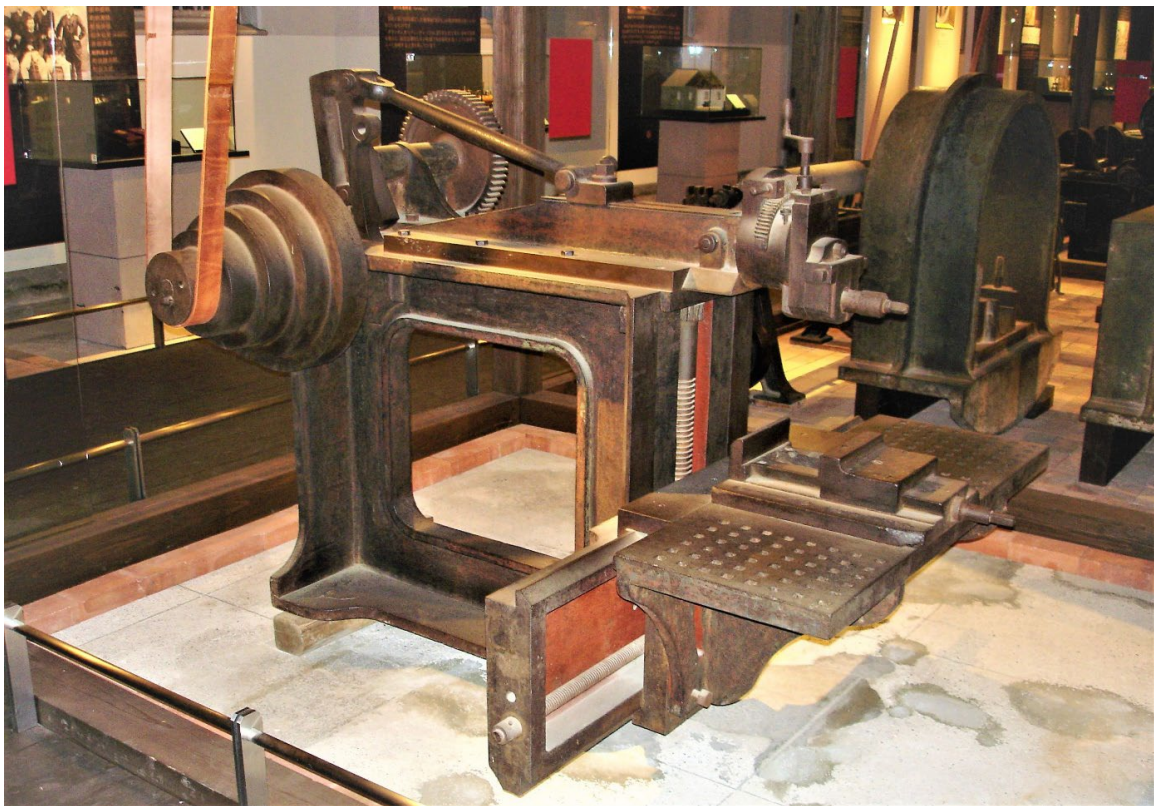


【旧集成館機械工場（現尚古集成館）】

第2期集成館事業を代表する建造物の一つで、現在は集成館事業や島津家の歴史・文化について展示を行っており、博物館「尚古集成館」として親しまれている。

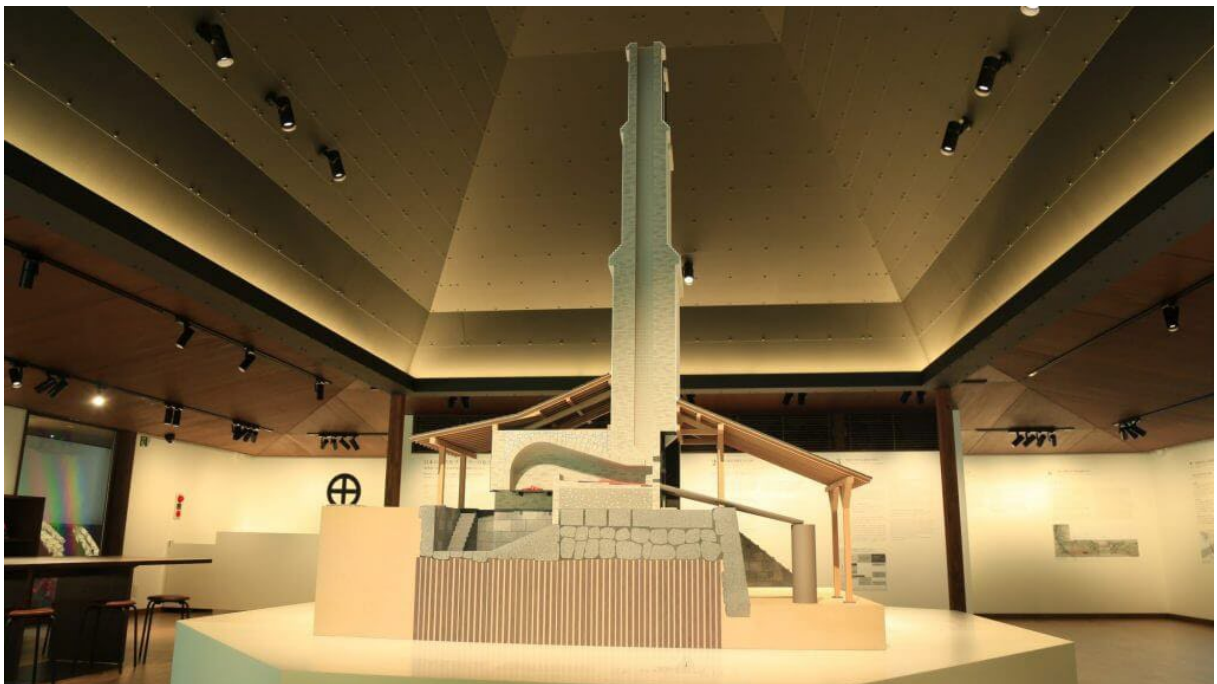


（旧展示状況）



【鹿児島世界文化遺産オリエンテーションセンター】

「明治日本の産業革命遺産」において重要な資産である反射炉跡を中心に、薩摩から生まれたストーリーや価値を深く理解してもらうための施設。「明治日本の産業革命遺産」の概要や世界遺産登録までの沿革、島津斉彬と集成館事業等について展示を行っている。



【鹿児島県歴史・美術センター黎明館】

鹿児島城跡地に建設された資料館で、郷土の歴史・文化遺産等について学術研究及び展示等を行っている。「明治日本の産業革命遺産」についても、石垣の石組み等で培われた技術に見られる在来技術と近代化事業等について展示を行っている。



【鹿児島市維新ふるさと館】

明治維新に貢献した数々の人物を輩出した加治屋町に位置し、幕末の薩摩と明治維新を支えた英雄たちの姿を分かりやすく紹介している。島津斉彬と集成館事業について模型や映像による展示を行っている。





【鹿児島市立ふるさと考古歴史館】

旧石器時代からの近代までの鹿児島市の歴史について埋蔵文化財等を用いて紹介している。明治日本の産業革命遺産についても、発掘調査の成果の紹介やパネル、模型などで解説している。



モニターツアー



子ども向け学習プログラム

小・中学生に対する出前講座

児童、生徒に対し、「明治日本の産業革命遺産」及び県内構成資産への興味関心を喚起するとともに、これらの世界文化遺産としての価値について理解を深め、次世代へ継承していくという県民意識の醸成を図るため、副読本「かごしまタイムトラベル」を活用した出前講座を開催した。



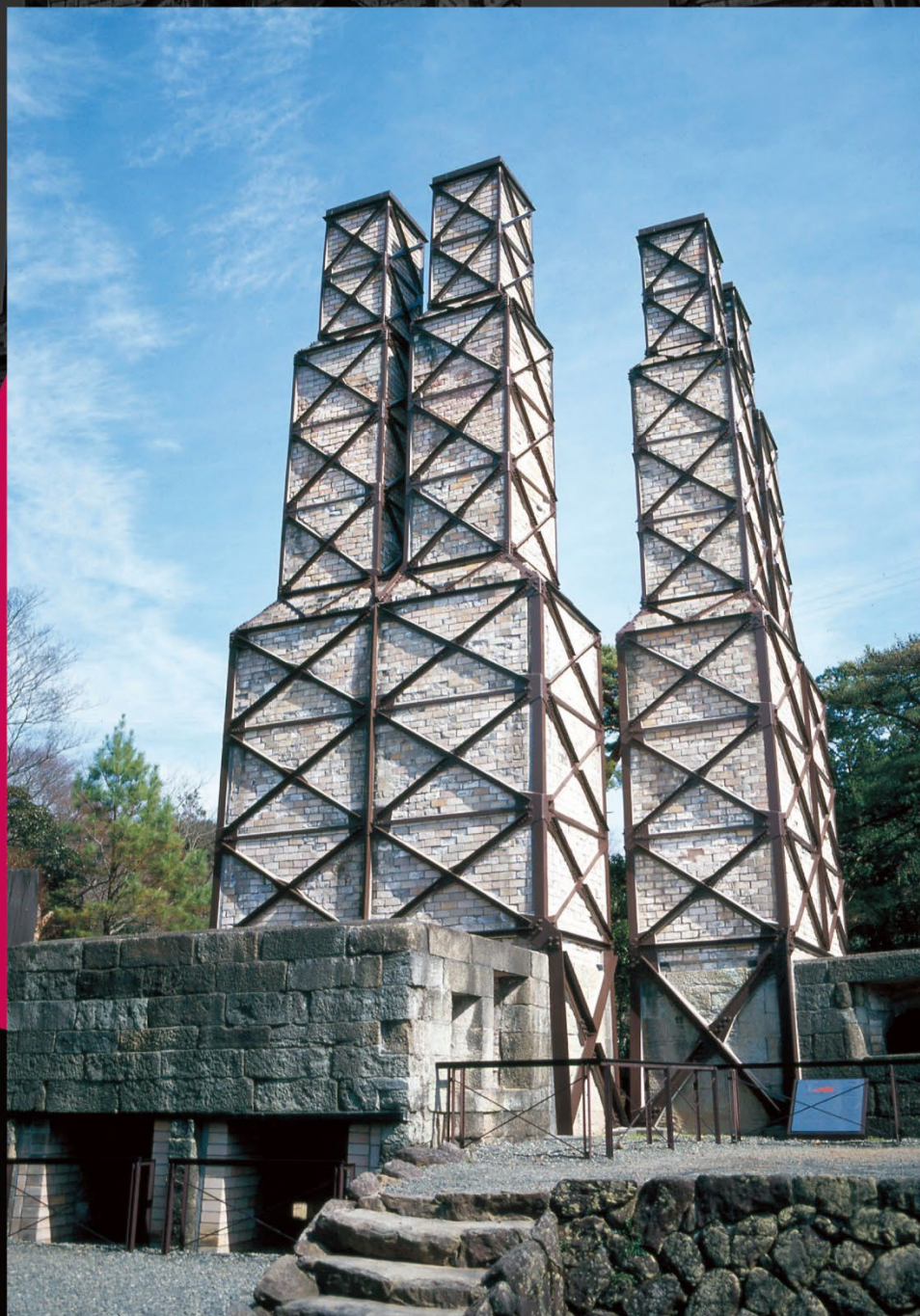
世界文化遺産子ども大学

世界文化遺産登録5周年を迎えた際に「明治日本の産業革命遺産」及び県内構成資産について県民に理解を深めてもらうために実施した。

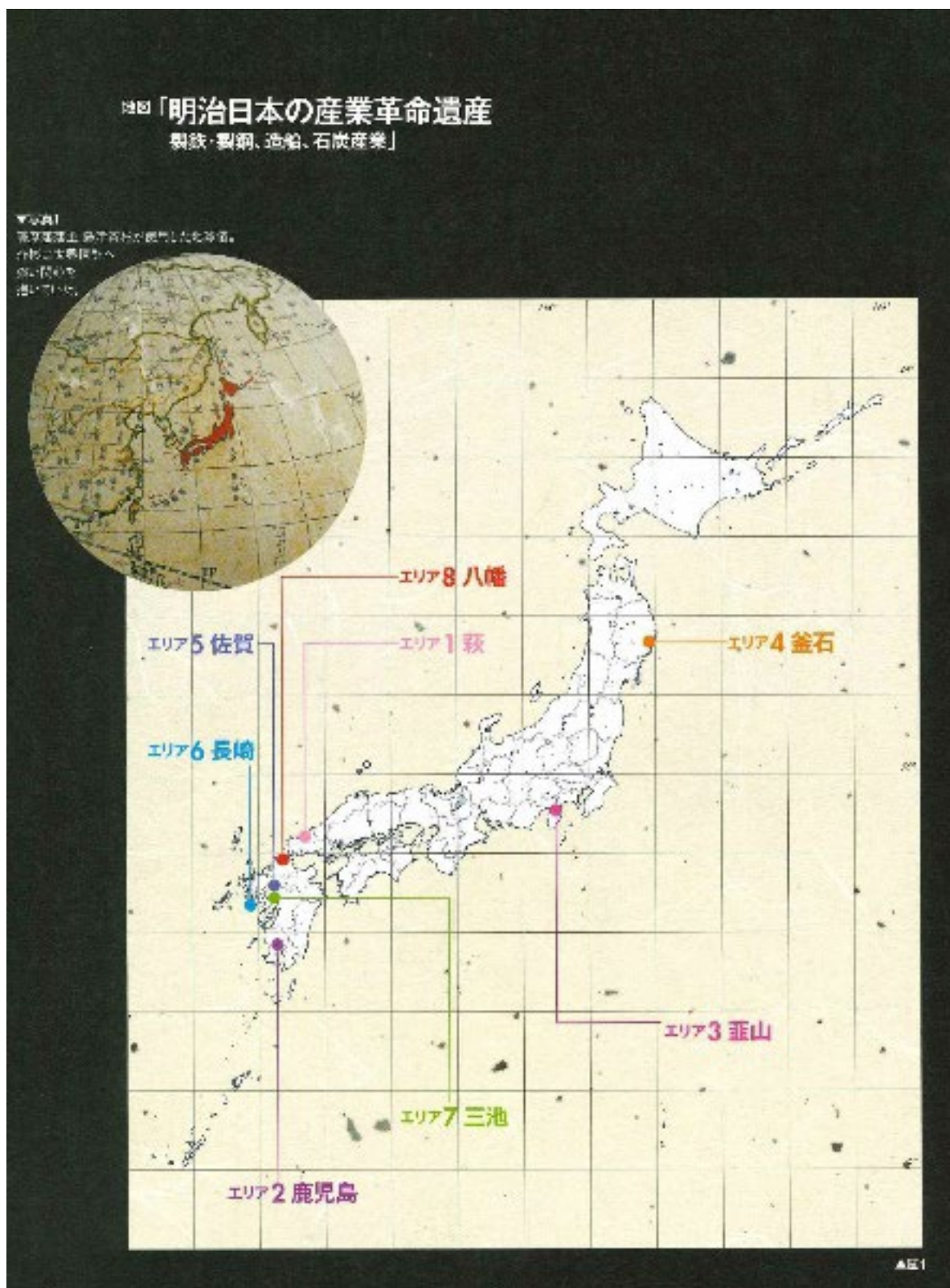


Area3 蕨山

エリア別インタープリテーション計画

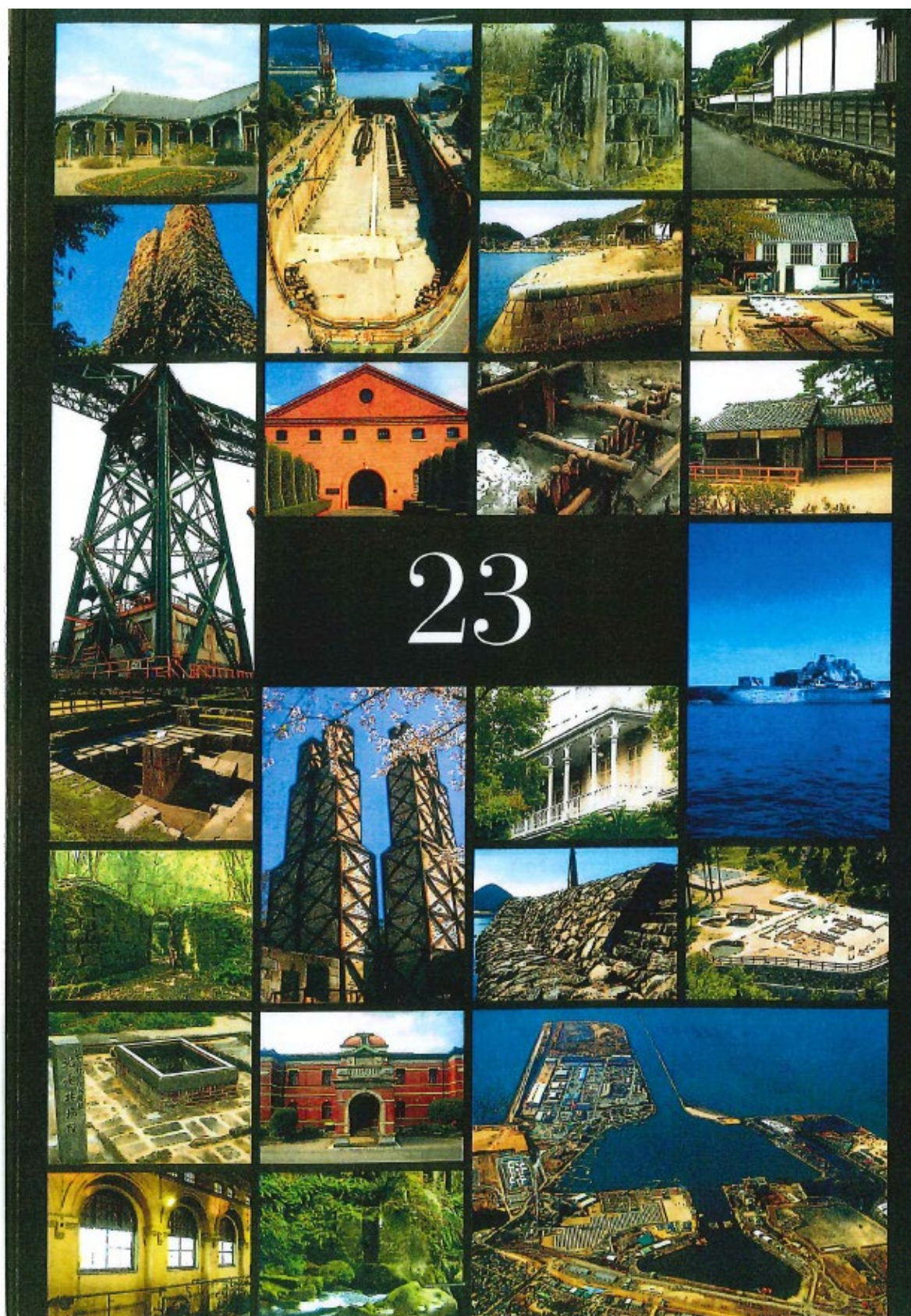


【エリア一覧】



【構成資産名】

エリア	サイト	ID	構成資産
エリア1 萩	1 萩の産業化初期の遺産群	1-1	萩反射炉
		1-2	恵美須ヶ鼻造船所跡
		1-3	大板山たたら製鉄遺跡
		1-4	萩城下町
		1-5	松下村塾
エリア2 鹿児島	2 集成館	2-1	旧集成館
		2-2	寺山炭窯跡
		2-3	関吉の硃水溝
エリア3 葦山	3 葦山反射炉	3-1	葦山反射炉
エリア4 釜石	4 橋野鉄鉱山	4-1	橋野鉄鉱山
エリア5 佐賀	5 三重津海軍所跡	5-1	三重津海軍所跡
エリア6 長崎	6 長崎造船所	6-1	小菅修船場跡
		6-2	三菱長崎造船所 第三船渠
		6-3	三菱長崎造船所 ジャイアント・カンチレバークレーン
		6-4	三菱長崎造船所 旧木型場
		6-5	三菱長崎造船所 占勝閣
	7 高島炭鉱	6-6	高島炭坑
		6-7	端島炭坑
	8 旧グラバー住宅	6-8	旧グラバー住宅
エリア7 三池	9 三池炭鉱・三池港	7-1	三池炭鉱・三池港
	10 三角西港	7-2	三角西港
エリア8 八幡	11 官営八幡製鐵所	8-1	官営八幡製鐵所
		8-2	遠賀川水源地ポンプ室



SITES OF
JAPAN'S
MEIJI INDUSTRIAL
REVOLUTION
IRON & STEEL, SHIPBUILDING
AND COAL MINING

Executive Summary

概要

「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」は、西洋から非西洋への産業化の波及を顕す遺産群により構成されている。19世紀半ばから20世紀の初頭にかけて、日本は工業立国の土台を築き、重工業（製鉄・製鋼、造船、石炭産業）分野において、急速な産業化を成し遂げた。産業化の歩みは、蘭書片手に試行錯誤での鉄製大砲鋳造への挑戦や、羊式船の模倣から始まった。次に、西洋技術を導入し、その運用により専門知識を習得した。明治の後期には、国内に人材が育成され、積極的に導入した西洋技術を、国内需要や社会的伝統に適合するように改善、改良を加え、産業化に応用した。日本は、非西洋諸国で初めて産業革命の波を受容し、植民地になることなく50年余りで、自らの手で産業化を成就した。「明治日本の産業革命遺産」は、世界史におけるたぐい稀な産業化の局面を証言する遺産群である。

評価基準の適用

評価基準 (ii)

「明治日本の産業革命遺産」は、日本が19世紀半ばから20世紀の初頭にかけて、産業化が進む西洋諸国からの技術移転を受け、技術の交流により変貌を遂げた特異なプロセスを証言する一連の遺産群である。極めて短期間に、西洋の産業革命が日本に移植され、また成就されたことは、産業化と技術の歴史において、地域的にも、時代的にも稀有なことである。西洋から伝播した技術が、伝統的な日本文化と融合し、国内の需要や社会的伝統に合わせて改善・改良され、日本の社会と経済を形づくり、やがて日本を世界の経済大国に押し上げる重工業の基盤を築いた。

評価基準 (iv)

「明治日本の産業革命遺産」は、製鉄・製鋼、造船、石炭産業といった重工業の基幹産業において、急激に変化した時代を象徴する技術の集合体の卓越した例であり、19世紀半ばから20世紀初頭にかけて非西洋諸国で初めて産業化を成就した変革の軌跡を示している。同時代の産業史の時間的・地域的枠組みにおいて類似性がなく、普遍的な意義を有する。これら一連の資産は、相互に関連する起源を持つ重工業の3つの産業分野において、代表的資産を統一的に包含しており、集合体として比類なき技術移転の証言である。

完全性の宣言

「明治日本の産業革命遺産」は、製鉄・製鋼、造船、石炭産業といった産業分野において、急速な産業化を成し遂げた道程を証言する遺産群であり、23の構成資産は、現存する唯一かつ希少な遺構として、全体で「顕著な普遍的価値」を有している。いずれの構成資産においても、資産の範囲に、「顕著な普遍的価値」に貢献する要素を、全て包含するように、境界線を設定した。

日本国政府は、内閣官房の下に構築した戦略的枠組みにおいて、構成資産を、劣化や開発の悪影響から守るため、管理の仕組みを用意した。全体としての資産の保全状態は良好であるが、中には継続的利用、もしくは、長期間放置された後、別の用途で活用をされ、その結果、物理的影響が及んだ遺構も含まれている。また完全性が担保されているものから、部分的に保全されているものまで、多種多様である。ただし後者の場合であったとしても、遺産群全体の完全性を顕すために求められている遺構が、手つかずのまま遺されている。考古学的資産の場合、これまでの十分な発掘調査の結果、将来の研究や展示のために必要な遺構の大半が、良好な状態で保存されていることが、確認されている。

また特に産業用の用途で、現在も生産の一翼を担う現役の産業設備においては、民間の管理者が、安全性確保のための定期点検の実施と、適切な維持管理を行うことにより、極めて高い水準の完全性を保持しており、稼働中の産業遺産として、全体の価値に貢献している。

真実性の宣言

顕著な普遍的価値に関する真実性について、西洋から非西洋への初めての、かつ急速な産業化の移転を顕し代表する、現存する産業遺産の集合体として、最も高い真実性を有している。

「形状・意匠」、「材料・材質」について、本資産の構成資産は重工業の産業分野における、西洋からわが国への技術移転のプロセスを説明する上で、必要不可欠な、オリジナルの形状と材質を保持している。構成資産の中には、断片的又は考古学的な遺構も含まれるが、いずれにしても、全体の資産の中で重要な産業要素については真実性が高い。構成資産の中には、長年、産業遺産の特徴を遺す史跡として管理されてきた遺構もあり、それらは実質的に高い真実性を有する重要な遺構である。それ以外の構成資産においては、「形状・意匠」及び「材料・材質」のみならず、オリジナルな用途での継続的使用と機能が維持されていることから極めて高い真実性を有している。

韮山エリアに関わる産業の歴史

韮山エリアは、世界文化遺産「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」の中で、「製鉄・製鋼」の第一段階「試行錯誤の挑戦」の時代に係る記録を留める構成資産が分布するエリアとなっている。



内閣官房が平成29年11月30日に、保全状況報告書添付資料としてユネスコに提出したインタープリテーション戦略では、次のように記されている。

1.1 インタープリテーション計画（抜粋）

(1) 全ての構成資産で一貫した顕著な普遍的価値（OUV）の共通展示を展開

インタープリテーション戦略に基づき、全ての構成資産に一貫した顕著な普遍的価値の共通展示を実施する。全ての関係者が方針に合意し、ブランド感のある世界遺産スタイルで統一的に展示をコーディネートし、実施する予定である。

(2)・(3) 労働者に関する情報収集を含む各サイトの歴史全体に関する進捗

内閣官房の「稼働資産を含む産業遺産に関する有識者会議」の委員、「明治日本の産業革命遺産」の登録に関わるイコモス査定に関与した国際ヘリテージの専門家、「インタープリテーションとプレゼンテーションに関する国際イコモス学術委員会」委員長他の助言により、以下の4つの方針が示された。

- 1) 顕著な普遍的価値のインタープリテーションに重点を置く：世界遺産の本来の目的に従い、各サイトにおいて、登録された資産の顕著な普遍的価値を、他の関連する問題と混同せずに明確に説明する。その上で、勧告g)を履行する。

※g) 推薦資産のプレゼンテーションのためのインタープリテーション（展示）戦略を策定し、各構成資産がいかに顕著な普遍的価値に貢献し産業化の1又は2以上の段階を反映しているかを特に強調すること。また、各サイトの歴史全体についても理解できるインタープリテーション（展示）戦略とすること。

- 2) P. 81に記載された顕著な普遍的価値の対象期間(1850年代から1910年まで)以外の各サイトの「歴史全体」の範囲は、1850年代以前と1910年から現在までの2つに分けられる。いずれにおいても各構成資産の背景の理解を補足する地域的な価値を念頭に「歴史全体」の範囲を絞り込む。さらに、各構成資産が立地するエリアにおける歴史全体のインタープリテーションについては、一次史料の収集や証言収録など質の高い調査を実施し、適宜、適切なメディアを通じていずれかの段階において公表する。

インタープリテーション戦略に則り、各エリアの構成資産及びビジターセンター等におけるインタープリテーションの現状について、世界各国の産業遺産及びそのインタープリテーションに精通した海外専門家による監査を、複数回（平成29年、令和元年）実施した。

その結果、監査者である ICOMOS メンバーのバリー・ギャンブル氏からは、葦山エリアに関して次のような評価を受けている。

- 伊豆の国市が反射炉ビジターセンター（2018 年の来場者数は 20 万人）を開発し、継続的に充実させていることを評価に値する。2017 年の監査後に実施されたさらなる作業（樹木の管理、新標識、土地取得、保全作業）により、資産に関してより総合的な理解と体験が得られるようになった。例えば、川と反射炉の視覚的なつながりが明確になったことにより、2 つの要素の直接的な関係が示されるようになった。これらの作業には、茶畑や展望台など、資産周辺の他の体験も含まれる。
- 市が継続して行っている保全・管理・プレゼンテーションは、他のエリアと共有すべき模範例である。同時に、世界遺産が現地周辺およびより幅広い地域社会に社会的、経済的利益をもたらすという、世界遺産条約の目的の一つが明確に体现されている。
- 伊豆の国市は、ビジターセンターのエントランス部分に「共通展示」の設置を提案している。共通展示が設置されれば、訪問者は構成資産と幅広い歴史についての、興味をそそられる分かりやすいデザインの展示をより深く理解し、体験できるようになる。現時点において、この一連の世界遺産全体の OUV のプレゼンテーションの質と内容は、各サイト（構成資産）の貢献度が（時折）過度に強調されていることと対照的であり、適切とは言えない。
- また、サイトのプレゼンテーションには、葦山に関連して、どのような重要な出来事・影響・貢献が、この世界遺産の他の場所やそれ以外の場所のどこに現れたかも含める必要がある。内容は、幅広い助言のもとに承認された推薦書のテキストを参照されたい。ここでも、バランスのとれた正確な歴史を常に念頭に置くことが重要である。プレゼンテーションの中には、当該資産サイトの特定の側面や構成資産の功績に関連づけようと「過度に熱心に」なっているものがあり、これは時に、同じくらい重要な貢献をしている他の構成資産に不利益をもたらす場合がある。

- 伊豆の国市の江川邸には、江川邸の訪問者数（現在約 3 万人、年間推定受入能力 5 万人）を増やすと同時にインタープリテーションを改善することによって、このエリアの全体的なビジター体験を広げ、世界遺産のストーリーを発展させる機会が存在する。しかしながら、現在のような親しみがありくつろげる体験を維持し、建造物と庭園に悪影響が及ばないようにするために慎重な管理を行う必要がある。管理可能かつ達成可能な目標として、約 5 万人の訪問者が実現可能と思われる。
- 江川邸の新たなアーカイブ施設によって、さらなる教育的体験と、展示等に使用できる資料を提供する機会がもたらされる。
- 伊豆の国市は、インタープリテーション戦略の策定にあたり、戦略の第 3 階層から戸田造船郷土資料博物館を外すことを提案している。この連携サイトは、韮山反射炉の技術的成果が与えた重要な影響の 1 つであり、この世界遺産の 3 つのテーマの 1 つがここに示されているという点について議論が交わされた。この博物館を運営するのは伊豆の国市ではない。第 3 階層からこの施設が外されても、世界遺産の OUV とその属性のインタープリテーションに悪影響が及ぶことはない。

韮山エリアにおいては、これまで地区別協議会において本インタープリテーション計画について協議を行ってきた。

上記の評価において言及されているとおり、本エリアにおいては、共通展示の導入により、地域の歴史的・文化的価値と調和しつつ世界遺産価値をより反映したインタープリテーションを実現することが課題であり、今後、展示替えの計画に共通展示を位置づけ、計画的に進めていくこととする。共通展示の導入にあたっては、産業遺産情報センターとの連携促進を図る。

また、その他の指摘も踏まえ、江川邸の来訪者管理を適切に行いながらインタープリテーションの改善に努めることとする。

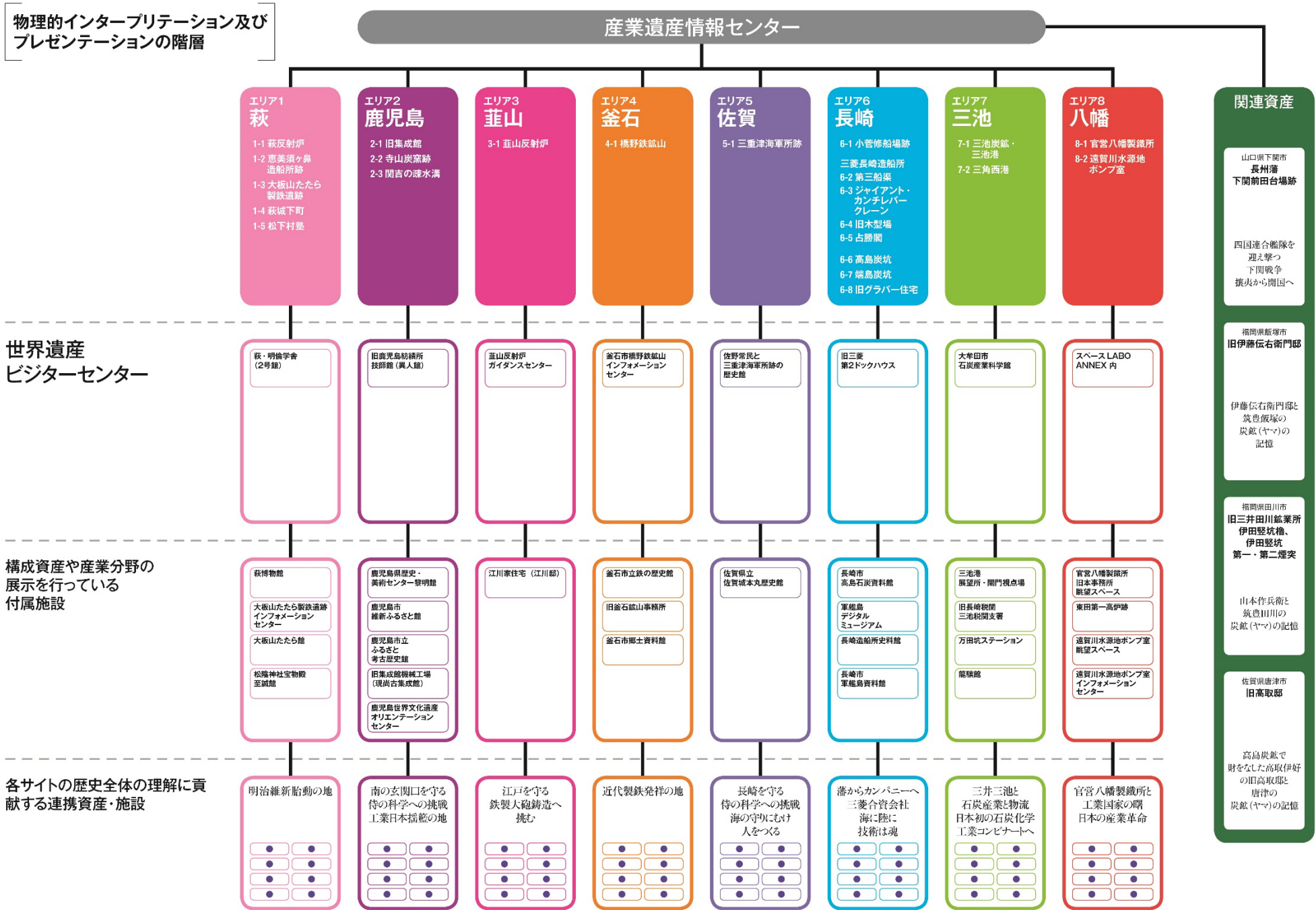
今後は、地区別協議会において本計画の実施状況を点検しながら、適宜改善に向けた検討を行う。



地区別協議会の様子

物理的インタープリテーション及びプレゼンテーションの階層

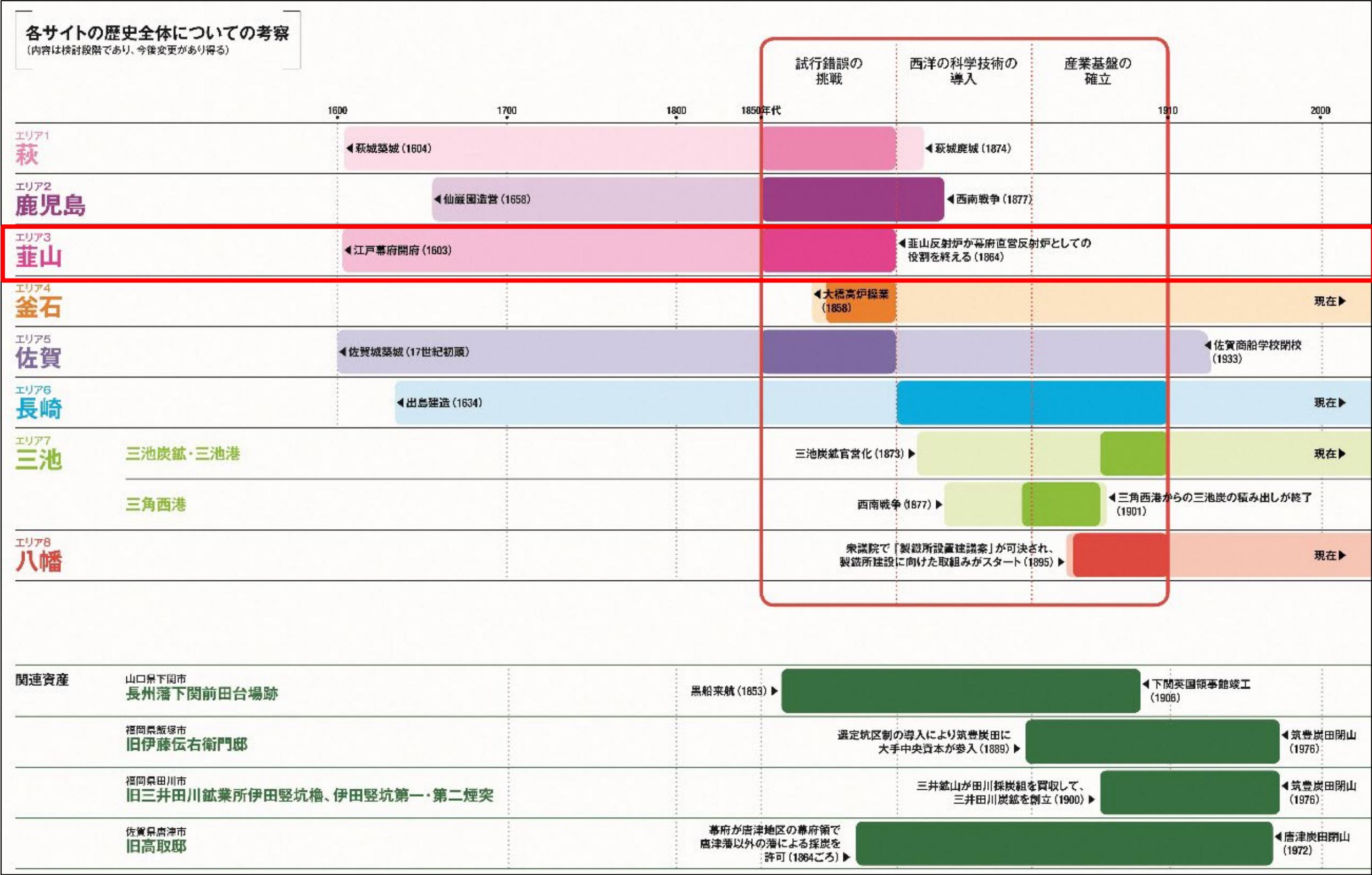
産業遺産情報センターと各地のビジターセンターが連携して、明治日本の産業革命遺産の顕著で普遍的な価値を効果的に発信できるような体制を構築していく



関連資産：平成 21 年 1 月 5 日にユネスコの世界遺産暫定一覧表に記載された段階で構成資産候補であったものであり、世界遺産登録された「明治日本の産業革命遺産」と一体的に活用を図る産業遺産。(その当時の時代背景や社会情勢を知ることができる貴重な資産)

「各サイトの歴史全体」についての考察

内閣官房が平成29年にユネスコに提出したインタープリテーション戦略では、下図のとおり各サイトの歴史全体の考察について、記されている。



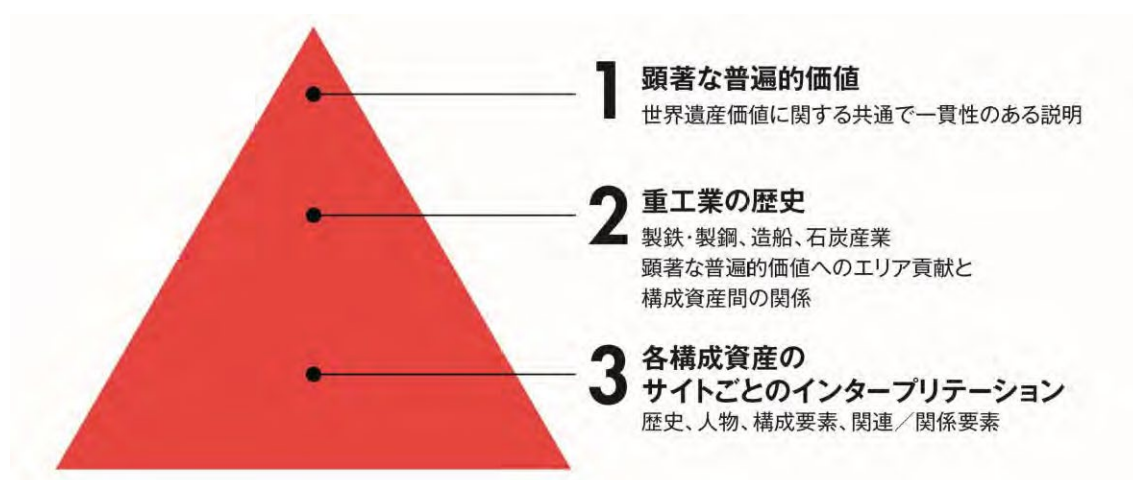
本エリアにおけるインタープリテーション

インタープリテーション戦略の考え方

インタープリテーション戦略では、インタープリテーションとプレゼンテーションの概念について、次のとおり図解されている。

本エリアのインタープリテーションにおいても、インタープリテーション監査において指摘された課題を解決するため、これに則って取組を展開することとする。

「明治日本の産業革命遺産」のインタープリテーション及びプレゼンテーション：価値とテーマの階層



産業遺産情報センター並びに各地のビジターセンターにおいて、顕著な普遍的価値はインタープリテーションの最上位に位置する。これは、エリアや構成資産独自の歴史など地域や産業固有の展示解説に優先する最上位のテーマとなる。これにより、上図に表された1. 顕著な普遍的価値、2. 重工業の歴史、3. 各構成資産のサイトごとのインタープリテーションが、資産全体で一貫してプレゼンテーションされることになる。

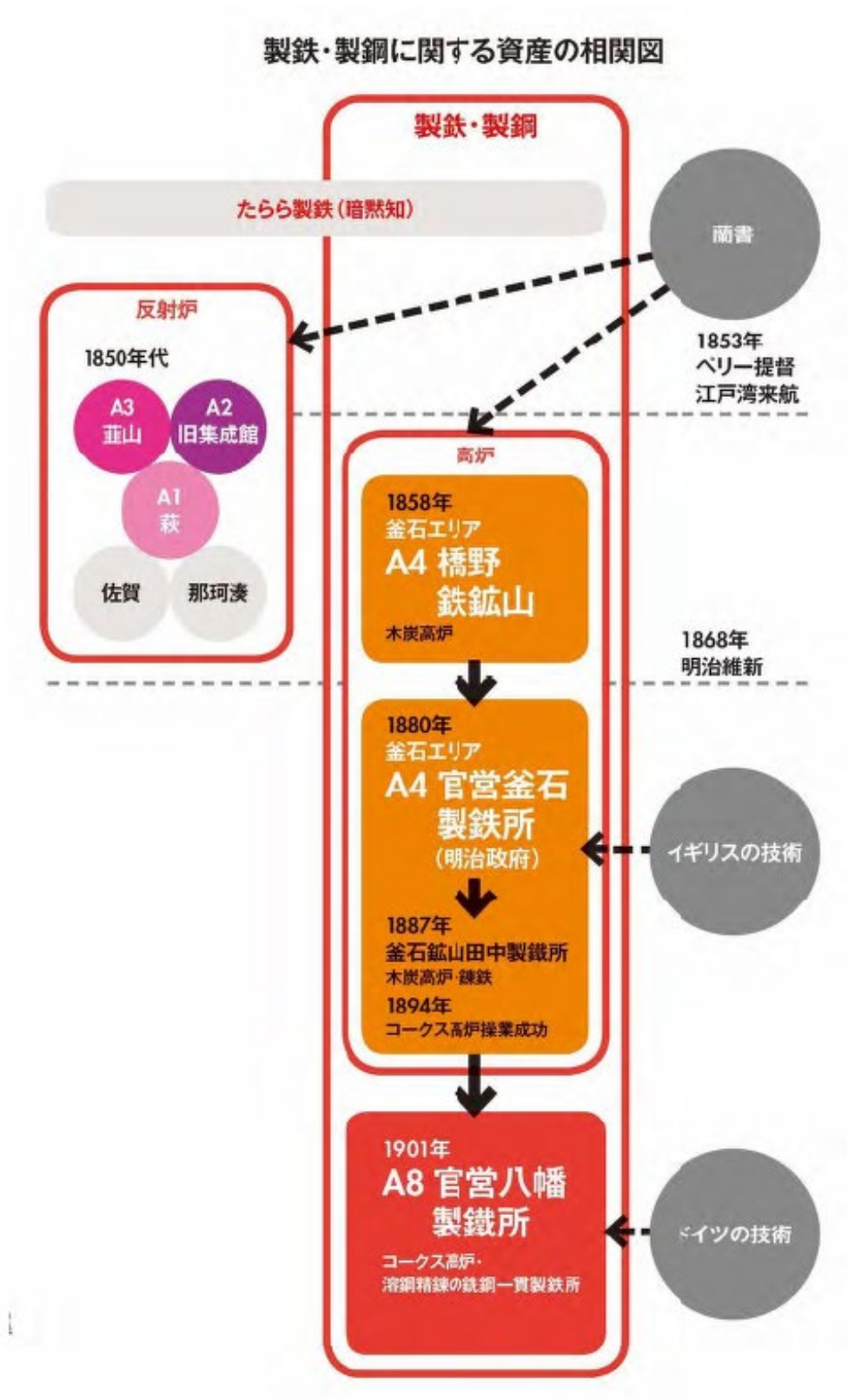
ローカル・ビジターセンターにおけるインタープリテーションの流れ インタープリテーションの階層



3つの産業類型の時系列に沿った発展 (1850年代~1910年)

1850年代~1910年にかけての重工業分野（製鉄・製鋼、造船、石炭産業）における産業化の歩み





リキッドギャラクシー等を使用した展示

インタープリテーション戦略に基づき令和2年3月に設置された産業遺産情報センターでは、世界遺産としての顕著な普遍的価値の対象期間(1850年代から1910年まで)に加え、「各サイトの歴史全体についての考察」として示された図を参考に、体感型マルチディスプレイを活用し、各エリアの構成資産の歴史や変遷、暮らしなどについて映像で解説するなど、資産の変遷や世界遺産価値への貢献、歴史全体を体感的に理解できるような展示を行っている。

本エリアにおいても、産業遺産情報センターと連携しながら、将来的に体感型マルチディスプレイで同様のコンテンツを見られるようにするなど、インタープリテーションの充実を図っていく。あわせて、産業遺産情報センターや本エリアのビジターセンターにおいて収集した資料のデジタルアーカイブを構築した上で、順次インタープリテーションツールに反映していくこととする。



本エリアにおける構成資産

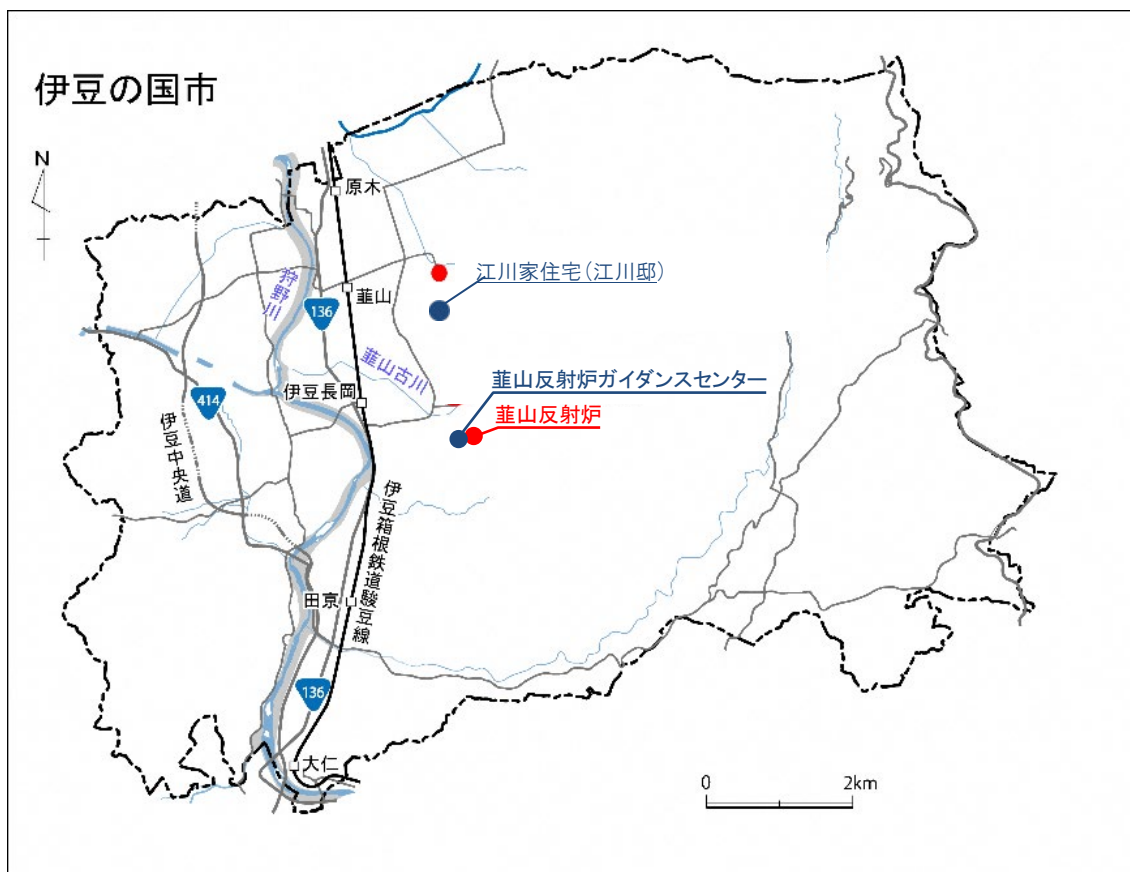
関連する産業：製鉄・製鋼	
構成資産の名称：葦山反射炉	
(構成資産の概要) 海防の危機感から大砲建造用に作られた反射炉 11 基のうち、現存する 3 基の一つ。黒船来航に対し葦山代官江川英龍が建設を具申。息子英敏がオランダ陸軍少将ヒューゲニンの書を基に佐賀藩技師と協力し伝統的技術で完成。	

世界遺産記念銘

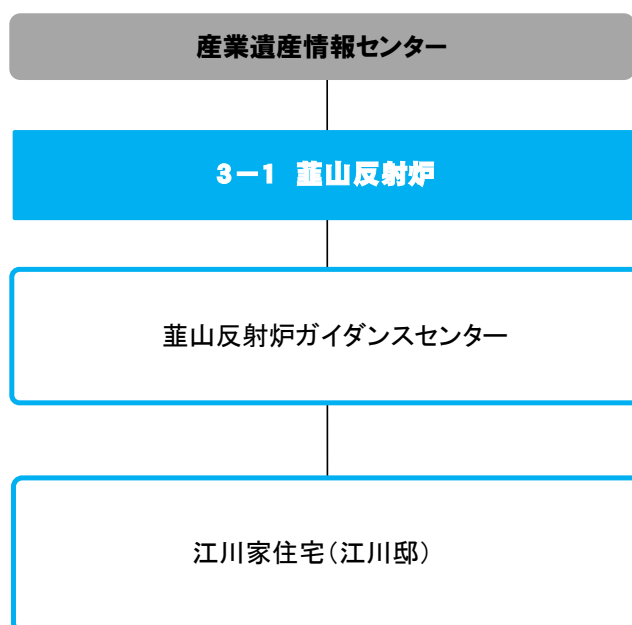
ユネスコのガイドラインに則り、各構成資産には、来訪者に当該遺産の顕著な普遍的価値を適切に周知するため世界遺産登録記念銘を設置している。



韮山エリア インタープリテーション施設分布



葦山エリア 階層図



アクセスガイドマップ

各エリアの構成資産のアクセスガイドマップは、日本語版の他に英語版も作成されており、来訪者に無料で配布されている。本マップは、各エリアの構成資産についてのオリエンテーションとして、訪問者ができるだけエリア内の構成資産等を数多く訪問できるよう構成されている。

また、スマートフォン向けアプリと連動し、AR 機能を活用して非公開資産の3Dモデルや動画、360度映像を表示するなど、アクセス不可の資産における情報発信においても活用できるものとなっている。



インフォメーションカウンター

行政機関や韮山反射炉ガイダンスセンター等に設置しており、アクセスガイドマップ等の配布を行っている。



伊豆の国市役所



韮山反射炉ガイダンスセンター

ガイドマップ配布箇所及び配布部数

アクセスガイドマップの配布箇所及び配布部数は以下のとおりとなっている。

全体MAP		蕪山MAP	
配布総数	177,762	配布総数	1,810
日本語 & 英語	177,762	日本語	1,310
主な配布先	配布部数	主な配布先	配布部数
行政機関	300	行政機関	1,510
空港	550	空港	0
ホテル	50	ホテル	0
レンタカー	100	レンタカー	0
JR（鉄道）	600	JR（鉄道）	0
観光案内所	700	観光案内所	0
道の駅	4,400	道の駅	0
NEXCO	168,500	NEXCO	0
公益・財団・社団法人	550	公益・財団・社団法人	0
その他	2,012	その他	300
JR九州 博多駅総合案内所		中間市地域交流センター なかまガイドの会	
西日本高速道路リテール株式会社		鹿児島県観光・文化スポーツ部文化振興課	
西日本高速道路サービスホールディングス		静岡県伊豆の国市	
風月フーズ株式会社			
福岡国際空港株式会社			
長崎空港			
鹿児島県立図書館			
JR鹿児島中央駅観光案内所			
北九州市観光コンベンション協会			
大村市役所産業振興部			
JR宮崎駅観光案内所			

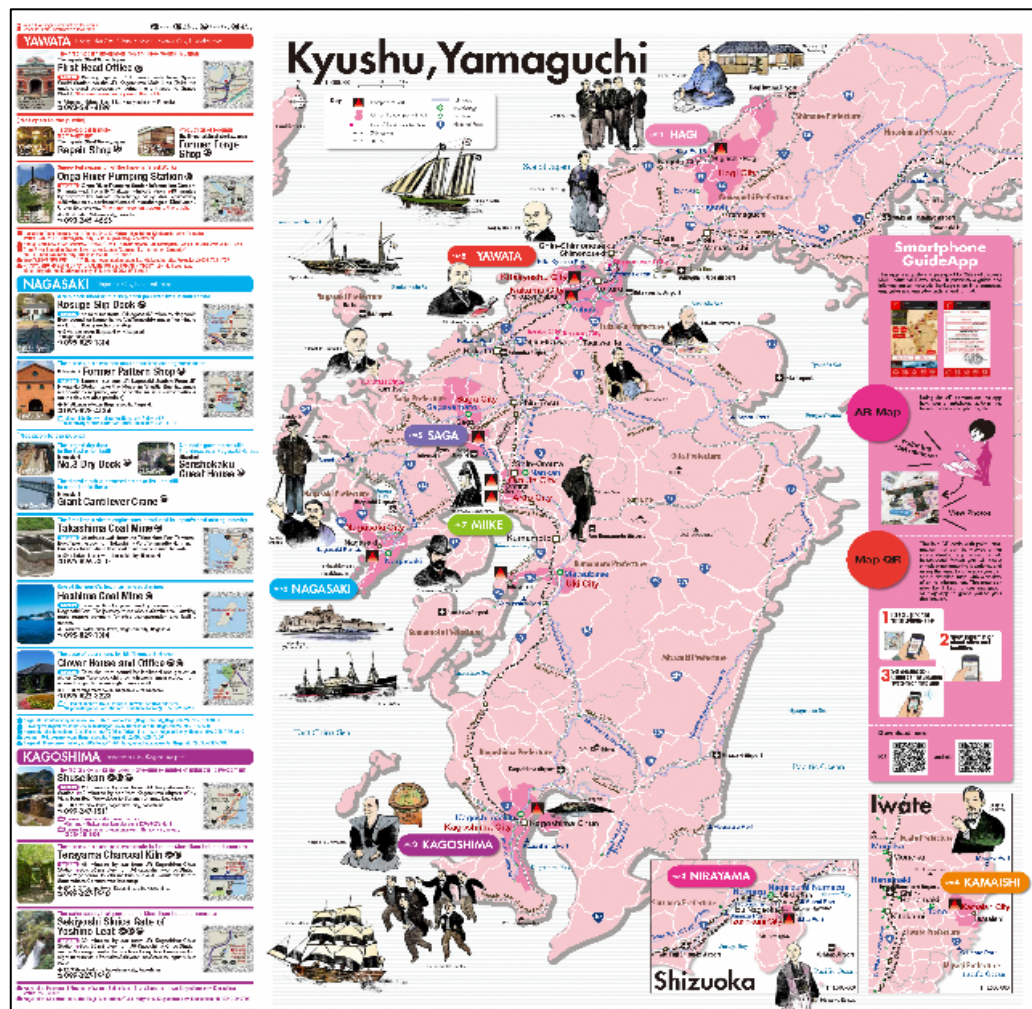
全エリア累計総配布部数

464,025

世界遺産ルート

インタプリテーション戦略に基づき、推薦書の 395～396P にもあるとおり、世界遺産を全体として理解するためのガイダンスと観光インフラを提供する「世界遺産ルート推進協議会」が設立された。同協議会は、23の構成資産から成る世界遺産価値を理解できるよう、地図とアプリ、GPS ナビゲーション、「明治日本の産業革命遺産」の普及を促進するための統一ロゴを使用した道路標識の設置等により、全ての構成資産や関連遺産に来訪者を誘導している。

今後も、推薦書やインプリテーション計画に基づき、着実に取組みを実施していく。





推薦書 P396 掲載図



世界遺産ルート協議会の様子

統一ロゴを使用した道路標識等の設置について

道路標識の設置状況

設置場所	設置済み数
伊豆の国市	3
函南町	1

道路標識写真

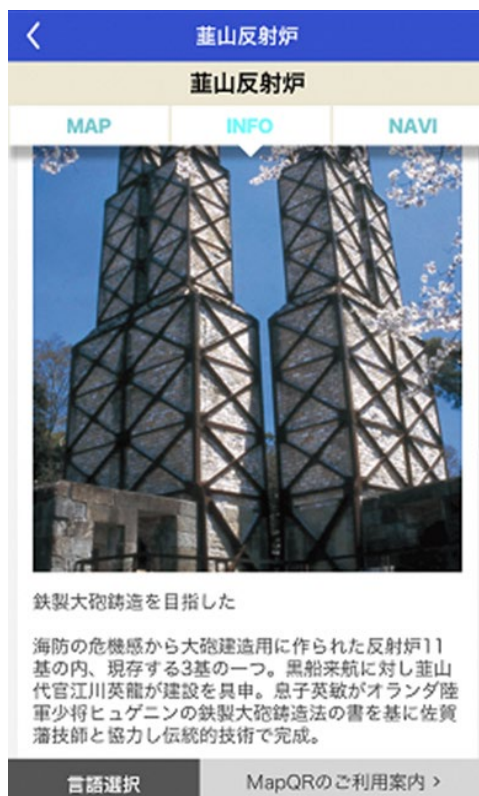


統一〇〇道路標識設置場所一覽



カーナビ（デンソーナビ）との連携

カーナビに目的地を転送できるスマホアプリとの連携の例



スマホから直接カーナビに目的地を送信可能



使用方法についての動画を YouTube に掲載



アプリの活用

詳しいストーリーと説明、歴史的背景、動画、CG 等を使用して「明治日本の産業革命遺産」を紹介している。ゲームや AR カメラを利用することでポイントが貯まり、お土産などのクーポンとして使用できるなど、世界遺産価値への理解を深めるとともに世界遺産ルートのツアーへの還元が可能な仕組みとなっている。スマートフォン向けアプリは、多言語（日本語、英語、韓国語、簡体・繁体中国語、ベトナム語）に対応している。



LINE の活用

アプリで取得したポイントはクーポンに交換可能。



LINE の登録を促す POP を作成し、駅やインフォメーションセンターなどに置いて誘導している。



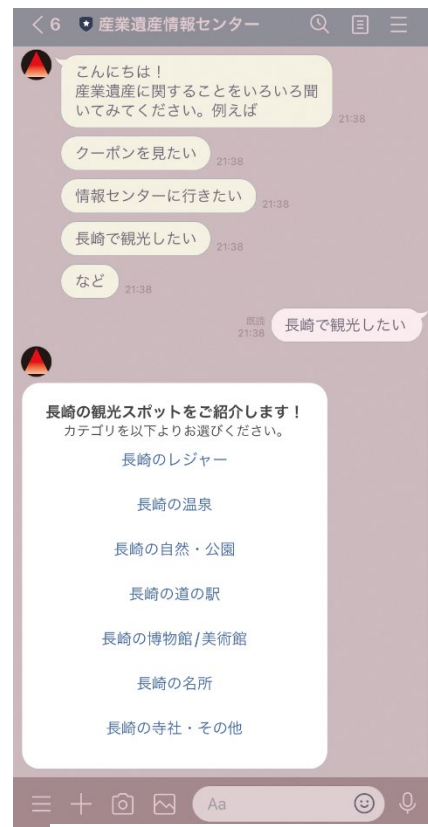
LINE を入り口として、既存ガイドアプリの活用や訪問地域の店舗で利用可能なクーポン情報等、位置情報に基づき利用者の状況に適した双方向のコミュニケーションを実現している。多言語にも対応し、訪日外国人をサポートする。



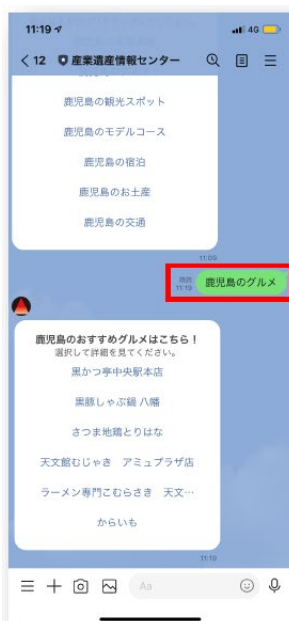
LINE の機能（例）



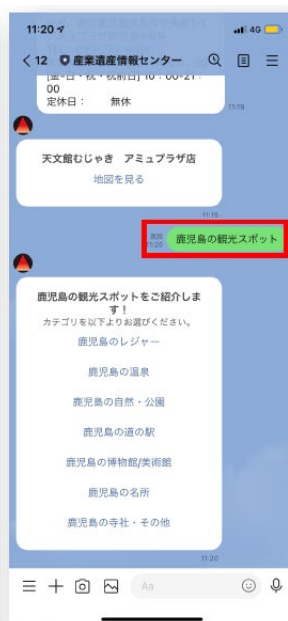
モデルコース紹介



AI チャットボット機能



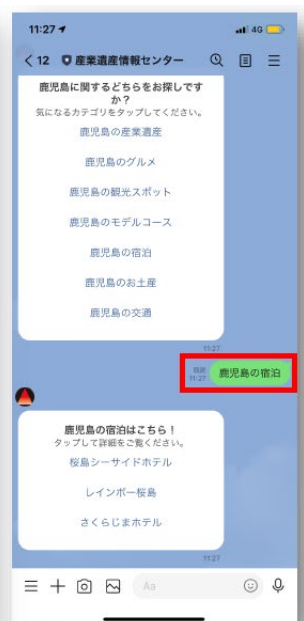
グルメ情報



観光スポット



交通情報



宿・ホテル情報

デジタルサイネージの機能

産業遺産情報センターにデジタルサイネージを設置し、地域版ガイドマップや産業遺産の周遊ルートや観光の情報を掲示し、各サイトへの周遊観光を促す仕組みを構築している。AIチャットボットも搭載し、周遊ルートや観光に関する質問にもリアルタイムで幅広く対応している。



ビジターセンター等について

韮山エリアでは、インタープリテーション戦略に則り、ビジターセンターを1か所、構成資産や産業分野の展示を行っている付属施設を1か所整備している。各施設では、地域コミュニティと連携し、地域の歴史的・文化的価値と調和しながら、本来の世界遺産価値の展示が一番際立つプレゼンテーションを行い、来訪者が資産の価値を理解しやすいような展示を目指している。

今後、インタープリテーション監査の指摘を踏まえ、また、産業遺産情報センターと連携しながら、膨大な一次史料のデジタル化やデジタルツールを駆使した展示の充実を図っていく。

【韮山反射炉ガイダンスセンター】

韮山反射炉ガイダンスセンターでは、「明治日本の産業革命遺産」の価値について情報提供するとともに、大型スクリーンによる解説動画の上映や、実物資料やパネルなどにより、韮山反射炉の歴史と構成資産としての位置づけについて展示している。



【江川家住宅（江川邸）】

重要文化財江川家住宅は、葦山反射炉の建設を指揮した代官江川英龍の屋敷であり、そこに保存されてきた数多くの歴史資料は葦山反射炉の真実性を補強している。また、一般公開され、葦山反射炉に関連する展示も行われている。

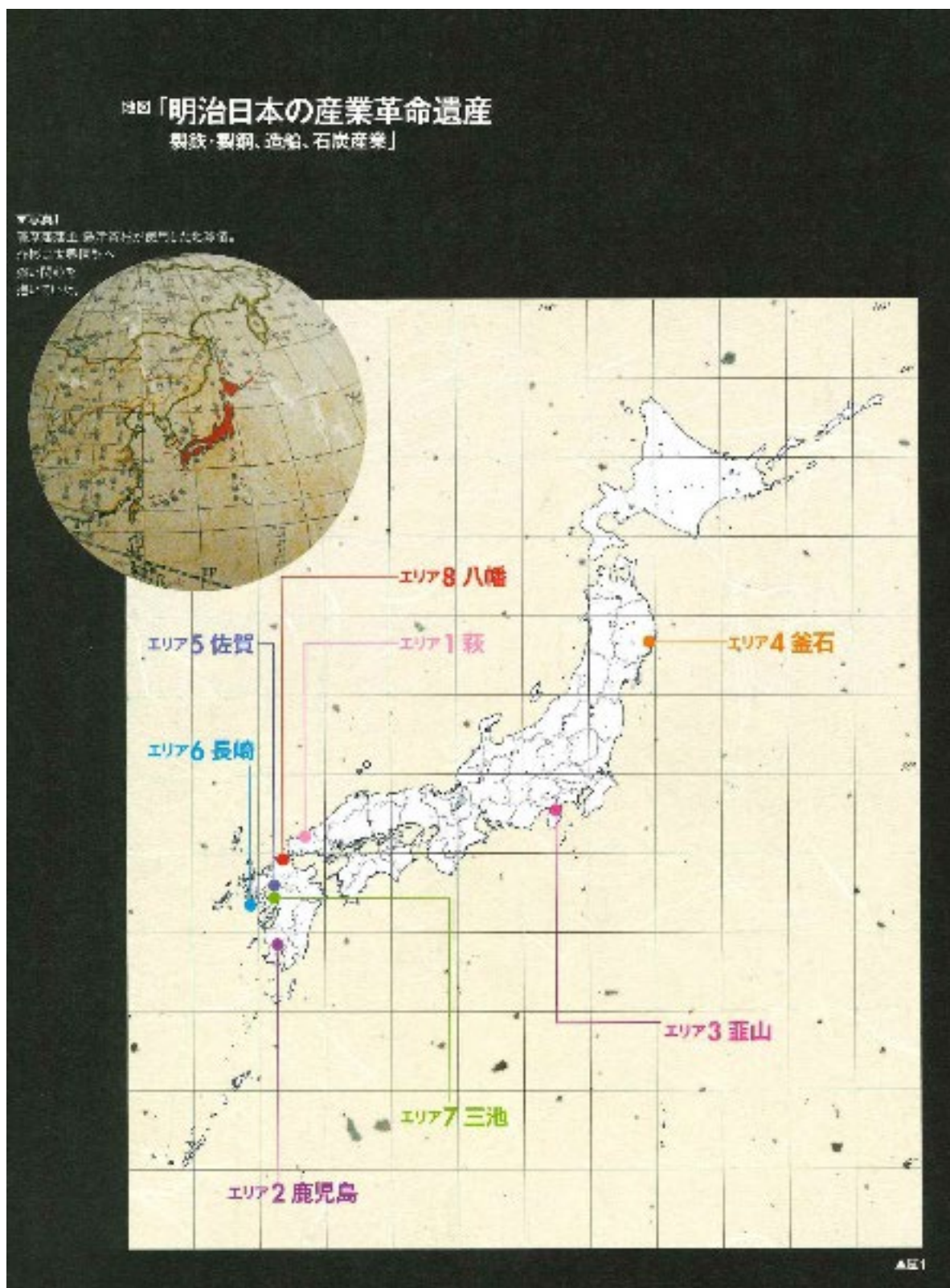


Area4 釜石

エリア別インタープリテーション計画

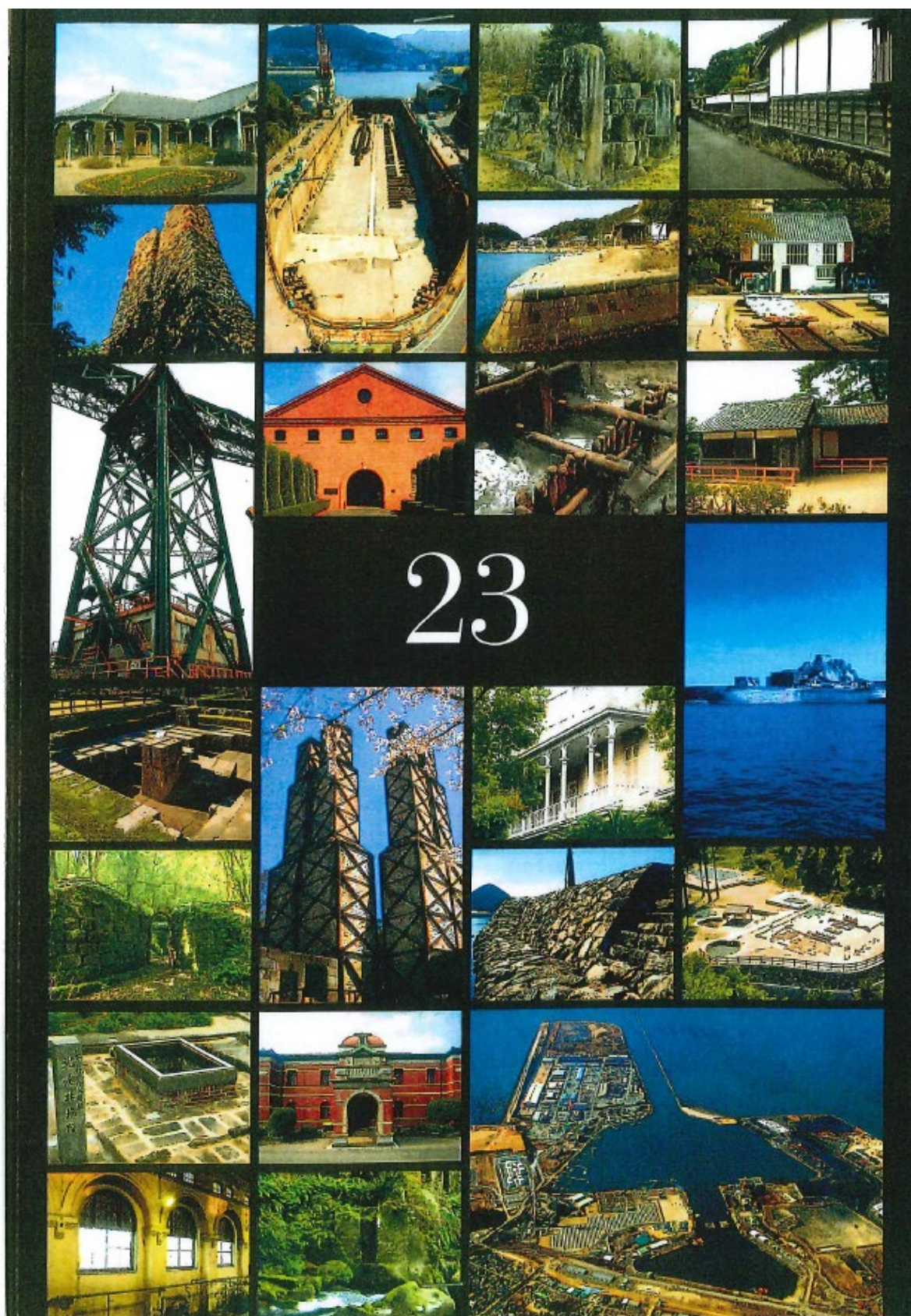


【エリア一覧】



【構成資産名】

エリア	サイト	ID	構成資産
エリア1 萩	1 萩の産業化初期の遺産群	1-1	萩反射炉
		1-2	恵美須ヶ鼻造船所跡
		1-3	大板山たたら製鉄遺跡
		1-4	萩城下町
		1-5	松下村塾
エリア2 鹿児島	2 集成館	2-1	旧集成館
		2-2	寺山炭窯跡
		2-3	関吉の硃水溝
エリア3 葦山	3 葦山反射炉	3-1	葦山反射炉
エリア4 釜石	4 橋野鉄鉱山	4-1	橋野鉄鉱山
エリア5 佐賀	5 三重津海軍所跡	5-1	三重津海軍所跡
エリア6 長崎	6 長崎造船所	6-1	小菅修船場跡
		6-2	三菱長崎造船所 第三船渠
		6-3	三菱長崎造船所 ジャイアント・カンチレバークレーン
		6-4	三菱長崎造船所 旧木型場
		6-5	三菱長崎造船所 占勝閣
	7 高島炭鉱	6-6	高島炭坑
		6-7	端島炭坑
	8 旧グラバー住宅	6-8	旧グラバー住宅
エリア7 三池	9 三池炭鉱・三池港	7-1	三池炭鉱・三池港
	10 三角西港	7-2	三角西港
エリア8 八幡	11 官営八幡製鐵所	8-1	官営八幡製鐵所
		8-2	遠賀川水源地ポンプ室



SITES OF
JAPAN'S
MEIJI INDUSTRIAL
REVOLUTION
IRON & STEEL, SHIPBUILDING
AND COAL MINING

Executive Summary

概要

「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」は、西洋から非西洋への産業化の波及を顕す遺産群により構成されている。19世紀半ばから20世紀の初頭にかけて、日本は工業立国の土台を築き、重工業（製鉄・製鋼、造船、石炭産業）分野において、急速な産業化を成し遂げた。産業化の歩みは、蘭書片手に試行錯誤での鉄製大砲鋳造への挑戦や、羊式船の模倣から始まった。次に、西洋技術を導入し、その運用により専門知識を習得した。明治の後期には、国内に人材が育成され、積極的に導入した西洋技術を、国内需要や社会的伝統に適合するように改善、改良を加え、産業化に応用した。日本は、非西洋諸国で初めて産業革命の波を受容し、植民地になることなく50年余りで、自らの手で産業化を成就した。「明治日本の産業革命遺産」は、世界史におけるたぐい稀な産業化の局面を証言する遺産群である。

評価基準の適用

評価基準 (ii)

「明治日本の産業革命遺産」は、日本が19世紀半ばから20世紀の初頭にかけて、産業化が進む西洋諸国からの技術移転を受け、技術の交流により変貌を遂げた特異なプロセスを証言する一連の遺産群である。極めて短期間に、西洋の産業革命が日本に移植され、また成就されたことは、産業化と技術の歴史において、地域的にも、時代的にも稀有なことである。西洋から伝播した技術が、伝統的な日本文化と融合し、国内の需要や社会的伝統に合わせて改善・改良され、日本の社会と経済を形づくり、やがて日本を世界の経済大国に押し上げる重工業の基盤を築いた。

評価基準 (iv)

「明治日本の産業革命遺産」は、製鉄・製鋼、造船、石炭産業といった重工業の基幹産業において、急激に変化した時代を象徴する技術の集合体の卓越した例であり、19世紀半ばから20世紀初頭にかけて非西洋諸国で初めて産業化を成就した変革の軌跡を示している。同時代の産業史の時間的・地域的枠組みにおいて類似性がなく、普遍的な意義を有する。これら一連の資産は、相互に関連する起源を持つ重工業の3つの産業分野において、代表的資産を統一的に包含しており、集合体として比類なき技術移転の証言である。

完全性の宣言

「明治日本の産業革命遺産」は、製鉄・製鋼、造船、石炭産業といった産業分野において、急速な産業化を成し遂げた道程を証言する遺産群であり、23の構成資産は、現存する唯一かつ希少な遺構として、全体で「顕著な普遍的価値」を有している。いずれの構成資産においても、資産の範囲に、「顕著な普遍的価値」に貢献する要素を、全て包含するように、境界線を設定した。

日本国政府は、内閣官房の下に構築した戦略的枠組みにおいて、構成資産を、劣化や開発の悪影響から守るため、管理の仕組みを用意した。全体としての資産の保全状態は良好であるが、中には継続の利用、もしくは、長期間放置された後、別の用途で活用をされ、その結果、物理的影響が及んだ遺構も含まれている。また完全性が担保されているものから、部分的に保全されているものまで、多種多様である。ただし後者の場合であったとしても、遺産群全体の完全性を顕すために求められている遺構が、手つかずのまま遺されている。考古学的資産の場合、これまでの十分な発掘調査の結果、将来の研究や展示のために必要な遺構の大半が、良好な状態で保存されていることが、確認されている。

また特に産業用の用途で、現在も生産の一翼を担う現役の産業設備においては、民間の管理者が、安全性確保のための定期点検の実施と、適切な維持管理を行うことにより、極めて高い水準の完全性を保持しており、稼働中の産業遺産として、全体の価値に貢献している。

真実性の宣言

顕著な普遍的価値に関する真実性について、西洋から非西洋への初めての、かつ急速な産業化の移転を顕し代表する、現存する産業遺産の集合体として、最も高い真実性を有している。

「形状・意匠」、「材料・材質」について、本資産の構成資産は重工業の産業分野における、西洋からわが国への技術移転のプロセスを説明する上で、必要不可欠な、オリジナルの形状と材質を保持している。構成資産の中には、断片的又は考古学的な遺構も含まれるが、いずれにしても、全体の資産の中で重要な産業要素については真実性が高い。構成資産の中には、長年、産業遺産の特徴を遺す史跡として管理されてきた遺構もあり、それらは実質的に高い真実性を有する重要な遺構である。それ以外の構成資産においては、「形状・意匠」及び「材料・材質」のみならず、オリジナルな用途での継続的使用と機能が維持されていることから極めて高い真実性を有している。

釜石エリアに関わる産業の歴史

釜石エリアは、世界文化遺産「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」の中で、「製鉄・製鋼」の第一段階「試行錯誤の挑戦」の時代に係る記録を留める構成資産が分布するエリアとなっている。



▲図2

内閣官房が平成 29 年 11 月 30 日に、保全状況報告書添付資料としてユネスコに提出したインタープリテーション戦略では、次のように記されている。

1.1 インタープリテーション計画（抜粋）

(1) 全ての構成資産で一貫した顕著な普遍的価値（OUV）の共通展示を展開
インタープリテーション戦略に基づき、全ての構成資産に一貫した顕著な普遍的価値の共通展示を実施する。全ての関係者が方針に合意し、ブランド感のある世界遺産スタイルで統一的に展示をコーディネートし、実施する予定である。

(2)・(3) 労働者に関する情報収集を含む各サイトの歴史全体に関する進捗

内閣官房の「稼働資産を含む産業遺産に関する有識者会議」の委員、「明治日本の産業革命遺産」の登録に関わるイコモス査定に関与した国際ヘリテージの専門家、「インタープリテーションとプレゼンテーションに関する国際イコモス学術委員会」委員長他の助言により、以下の 4 つの方針が示された。

1) 顕著な普遍的価値のインタープリテーションに重点を置く：世界遺産の本来の目的に従い、各サイトにおいて、登録された資産の顕著な普遍的価値を、他の関連する問題と混同せずに明確に説明する。その上で、勧告 g) を履行する。

※ g) 推薦資産のプレゼンテーションのためのインタープリテーション（展示）戦略を策定し、各構成資産がいかに顕著な普遍的価値に貢献し産業化の 1 又は 2 以上の段階を反映しているかを特に強調すること。また、各サイトの歴史全体についても理解できるインタープリテーション（展示）戦略とすること。

2) P. 81 に記載された顕著な普遍的価値の対象期間（1850 年代から 1910 年まで）以外の各サイトの「歴史全体」の範囲は、1850 年代以前と 1910 年から現在までの 2 つに分けられる。いずれにおいても各構成資産の背景の理解を補足する地域的な価値を念頭に「歴史全体」の範囲を絞り込む。さらに、各構成資産が立地するエリアにおける歴史全体のインタープリテーションについては、一次史料の収集や証言収録など質の高い調査を実施し、適宜、適切なメディアを通じていずれかの段階において公表する。

インタープリテーション戦略に則り、各エリアの構成資産及びビジターセンター等におけるインタープリテーションの現状について、世界各国の産業遺産及びそのインタープリテーションに精通した海外専門家による監査を、複数回（平成29年、令和元年）実施した。

その結果、監査者である ICOMOS メンバーのバリー・ギャンブル氏からは、釜石エリアに関して次のような評価を受けている。

- 前回監査以降に橋野高炉跡および情報センターで生じた主な変更点および進展は、新展示パネルの導入による情報揭示、およびモバイル機器で使用するアップデート版アプリケーション（拡張現実ベース）である。いずれも複数言語で情報を提供する。情報センターは、世界遺産の OUV に続いて各構成資産の貢献および他の関連構成資産との関係をバランスよく紹介している。また、歴史全体についても説明している。
- 釜石市立鉄の歴史館（来館者数 13,000 人）では、釜石を介しての釜山と八幡の関係性を明確に示すために展示内容をさらに発展させるなど、インタープリテーションとプレゼンテーションの改善が継続的に図られている。また、鉄鉱の採掘・製錬に関する遺産の影響や、現在に至る継続的な発展の歴史についても紹介している。鉄の歴史館は、橋野鉄鉱山三番高炉の原寸大模型を活用した総合演出シアター、展示パネル、キャプション、ガイドブック等の情報を複数言語で提供している。
- 旧釜石鉱山事務所では総合的な改善を通じて幅広いインタープリテーションとプレゼンテーションが提供され、非常に多様な体験ができる。例えば、このサイトがどのように運営されていたかを示す新しい展示パネルもその一つである。キャプション、案内パンフレットを含め、これらは多言語表示となっている。
- 釜石市郷土資料館は、世界遺産とこの構成資産の関係を示し、このエリアの歴史全体を上手に関連付けて理解させる。英語表記のキャプションがある。
- 溶錬に焦点を絞ったガイド・教員向けトレーニングと教育プログラムが存在する。

釜石エリアにおいては、これまで地区別協議会において本インタープリテーション計画について協議を行ってきた。

上記の評価も踏まえ、今後も、産業遺産情報センターと連携しながら、地域の歴史的・文化的価値と調和しつつ世界遺産価値をより反映した展示や、世界遺産価値についての理解を深めるプログラムを進めていくこととする。

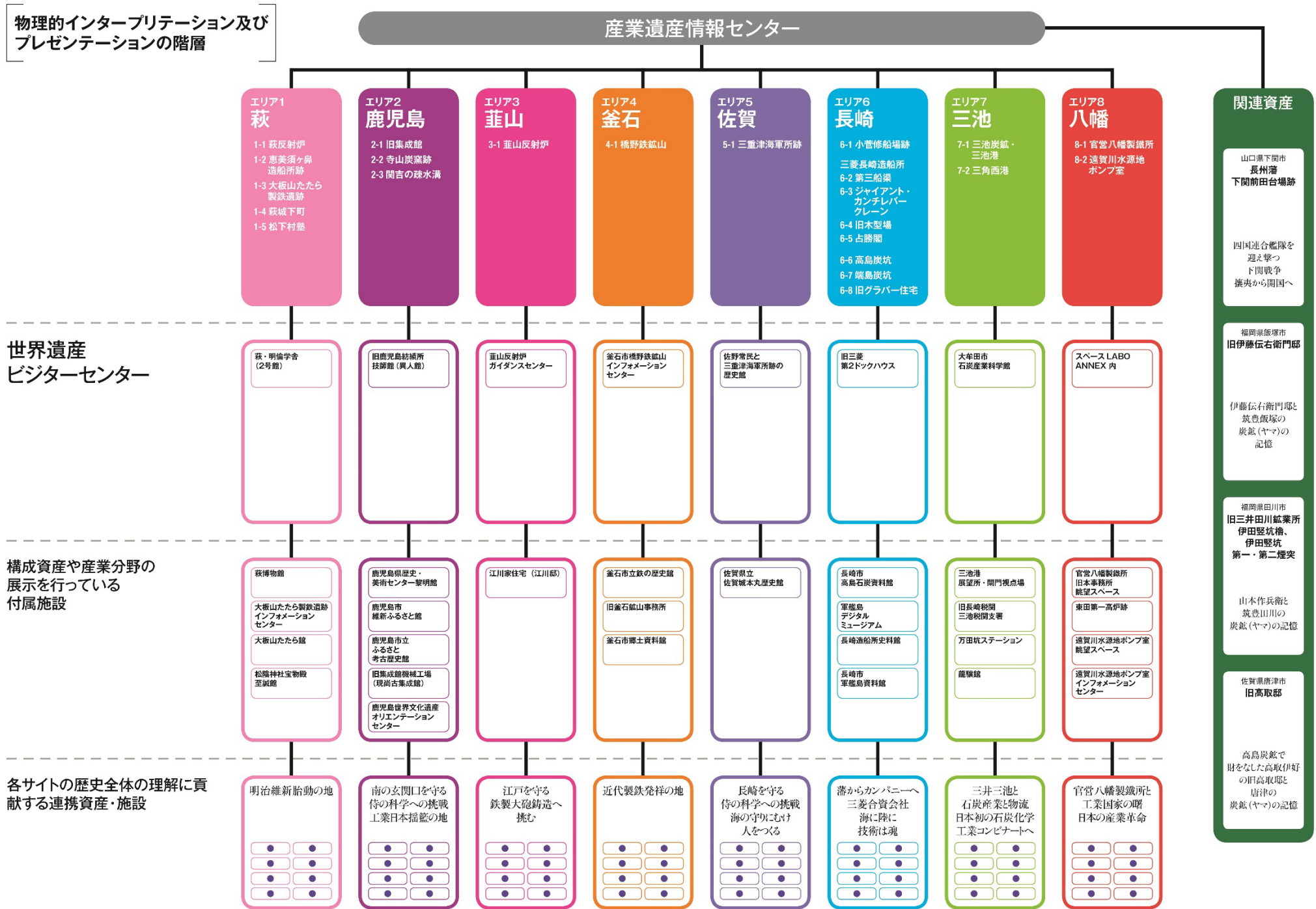
地区別協議会において本計画の実施状況を点検しながら、適宜改善に向けた検討を行う。



地区別協議会の様子

物理的インタープリテーション及びプレゼンテーションの階層

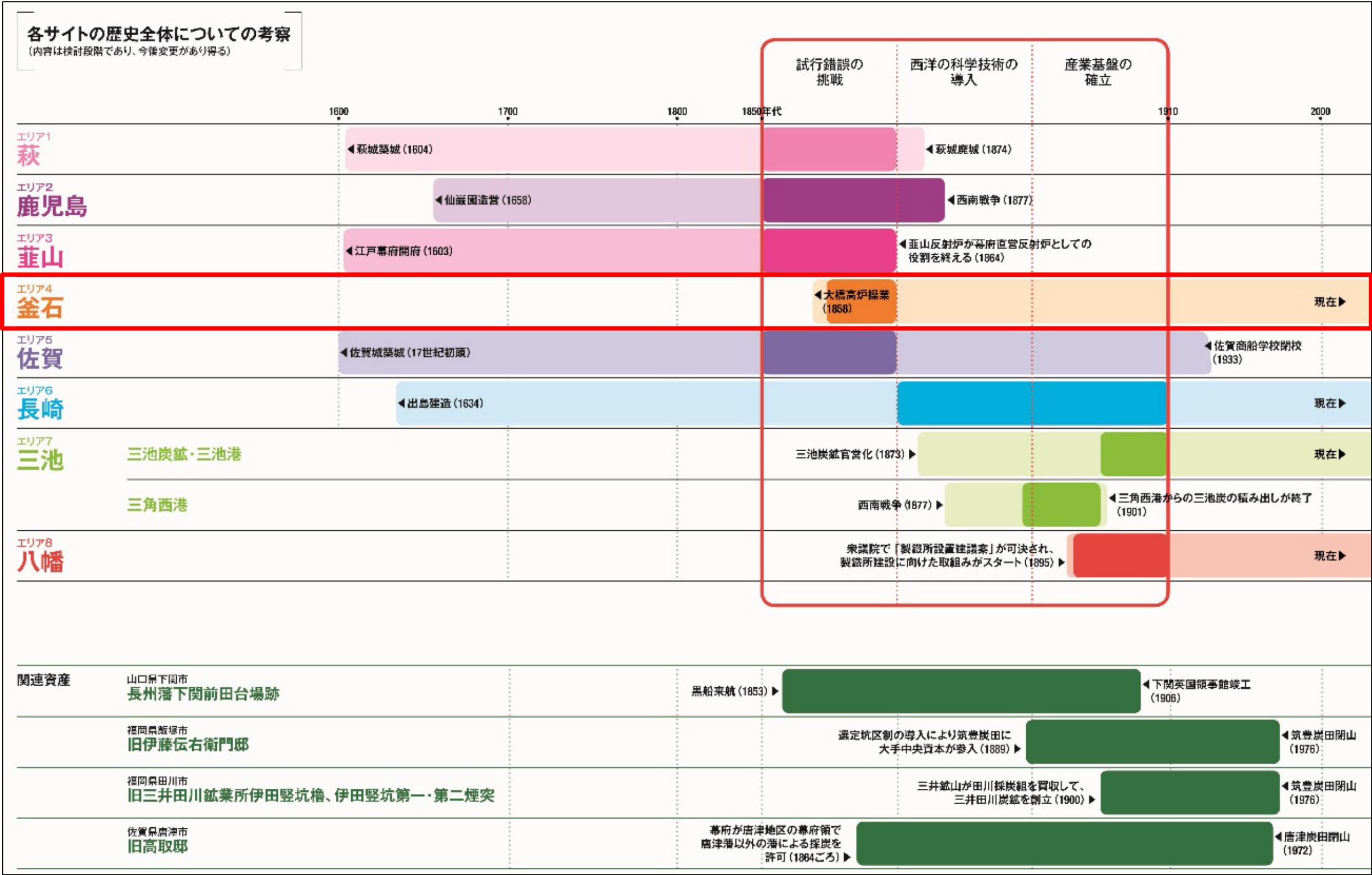
産業遺産情報センターと各地のビジターセンターが連携して、明治日本の産業革命遺産の顕著で普遍的な価値を効果的に発信できるような体制を構築していく



関連資産：平成 21 年 1 月 5 日にユネスコの世界遺産暫定一覧表に記載された段階で構成資産候補であったものであり、世界遺産登録された「明治日本の産業革命遺産」と一体的に活用を図る産業遺産。(その当時の時代背景や社会情勢を知ることができる貴重な資産)

「各サイトの歴史全体」についての考察

内閣官房が平成29年にユネスコに提出したインタープリテーション戦略では、下図のとおり各サイトの歴史全体の考察について、記されている。



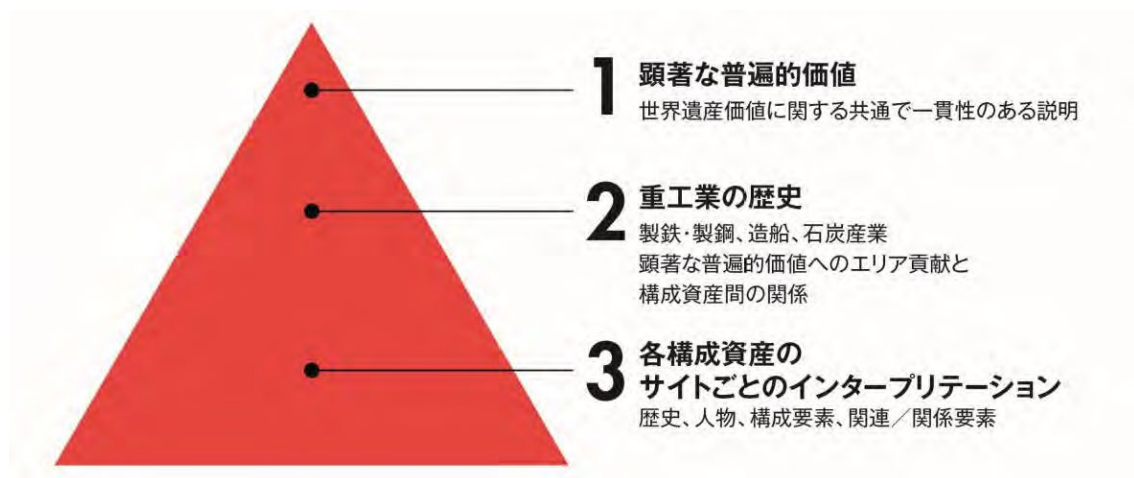
本エリアにおけるインタープリテーション

インタープリテーション戦略の考え方

インタープリテーション戦略では、インタープリテーションとプレゼンテーションの概念について、次のとおり図解されている。

本エリアのインタープリテーションにおいても、インタープリテーション監査において指摘された課題を解決するため、これに則って取組を展開することとする。

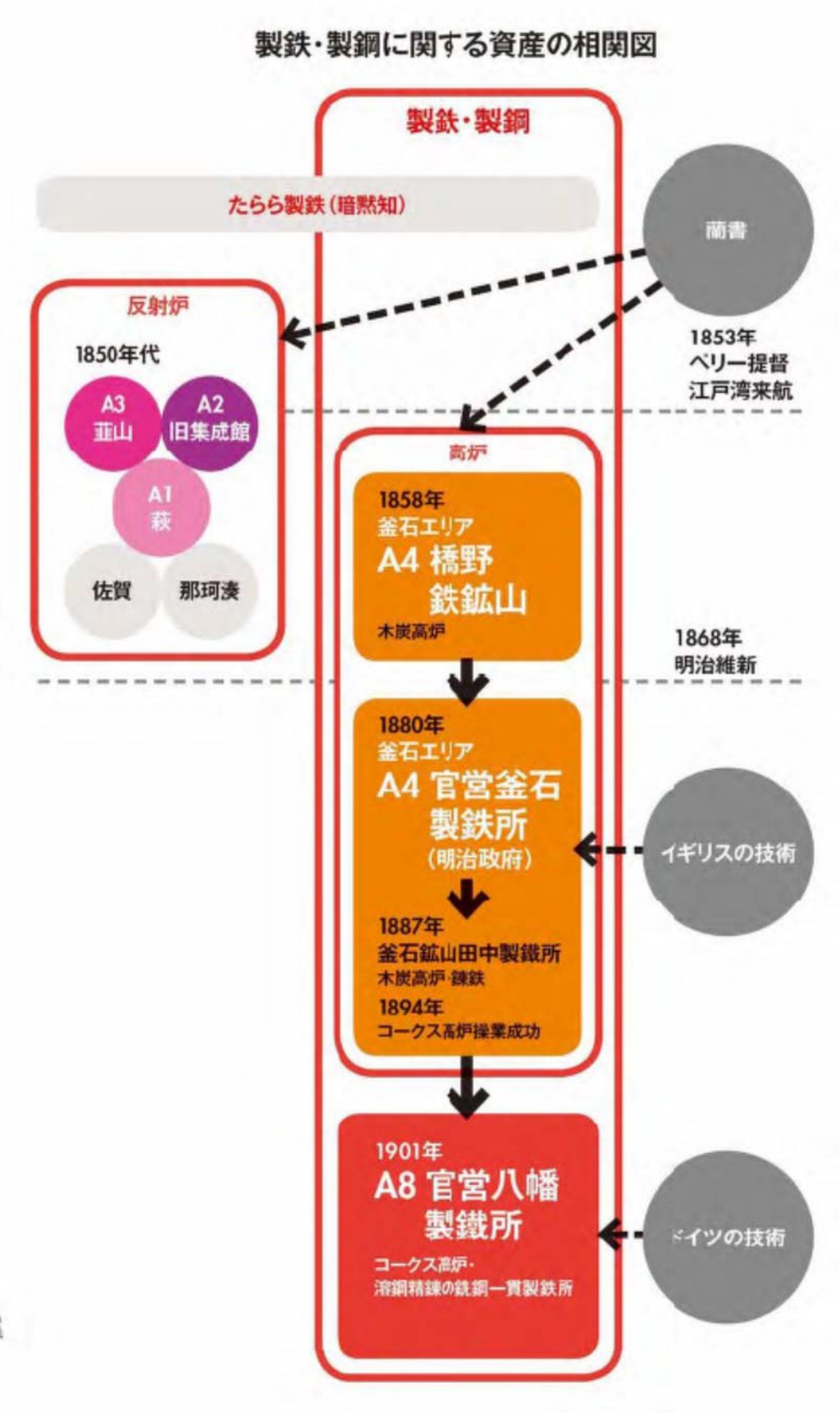
「明治日本の産業革命遺産」のインタープリテーション及びプレゼンテーション：価値とテーマの階層



産業遺産情報センター並びに各地のビジターセンターにおいて、顕著な普遍的価値はインタープリテーションの最上位に位置する。これは、エリアや構成資産独自の歴史など地域や産業固有の展示解説に優先する最上位のテーマとなる。これにより、上図に表された1. 顕著な普遍的価値、2. 重工業の歴史、3. 各構成資産のサイトごとのインタープリテーションが、資産全体で一貫してプレゼンテーションされることになる。

ローカル・ビジターセンターにおけるインタープリテーションの流れ インタープリテーションの階層





リキッドギャラクシー等を使用した展示

インタープリテーション戦略に基づき令和2年3月に設置された産業遺産情報センターでは、世界遺産としての顕著な普遍的価値の対象期間(1850年代から1910年まで)に加え、「各サイトの歴史全体についての考察」として示された図を参考に、体感型マルチディスプレイを活用し、各エリアの構成資産の歴史や変遷、暮らしなどについて映像で解説するなど、資産の変遷や世界遺産価値への貢献、歴史全体を体感的に理解できるような展示を行っている。

本エリアにおいても、産業遺産情報センターと連携しながら、将来的に体感型マルチディスプレイで同様のコンテンツを見られるようにするなど、インタープリテーションの充実を図っていく。あわせて、産業遺産情報センターや本エリアのビジターセンターにおいて収集した資料のデジタルアーカイブを構築した上で、順次インタープリテーションツールに反映していくこととする。



本エリアにおける構成資産

本エリアにおける構成資産は1つであり、「製鉄・製鋼」に関する遺産となっている。

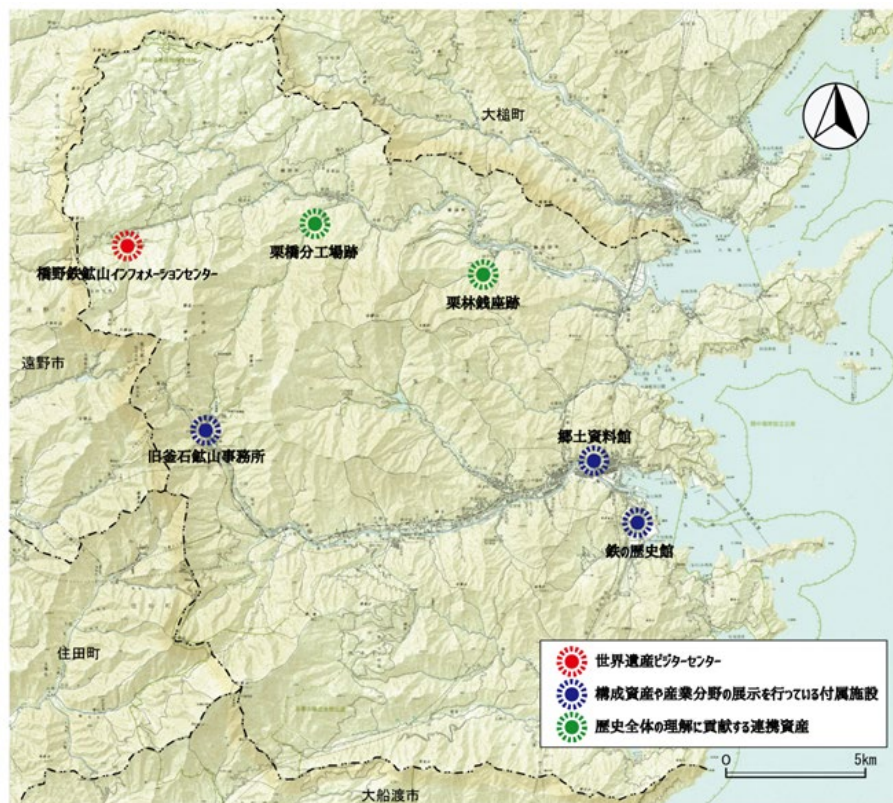
関連する産業：製鉄・製鋼	
構成資産の名称：橋野鉄鉱山	
(構成資産の概要) 日本現存最古の高炉跡。日本最大の鉄鉱山である釜石鉄山の鉄鉱石を原料とし、蘭書のみを参考に盛岡藩出身の大島高任が高炉法を導入した。鉄鉱石を採掘する採掘場跡、その運搬をする運搬路跡、製錬をする高炉場跡からなり、当時の産業景観を残している。 製鉄・製鋼分野の産業革命の先駆けとなる資産。	

世界遺産記念銘

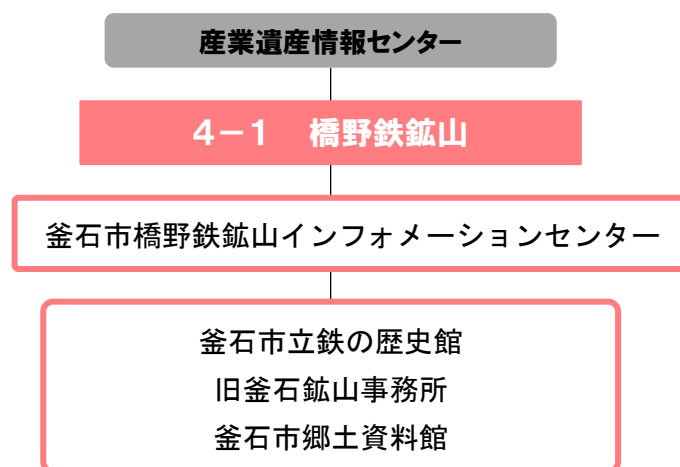
ユネスコのガイドラインに則り、各構成資産には、来訪者に当該遺産の顕著な普遍的価値を適切に周知するため世界遺産登録記念銘を設置している。



釜石エリア インタープリテーション施設分布



釜石エリア 階層図



アクセスガイドマップ

各エリアの構成資産のアクセスガイドマップは、日本語版の他に英語版も作成されており、来訪者に無料で配布されている。本マップは、各エリアの構成資産についてのオリエンテーションとして、訪問者ができるだけエリア内の構成資産等を数多く訪問できるよう構成されている。

また、スマートフォン向けアプリと連動し、AR 機能を活用して非公開資産の 3D モデルや動画、360 度映像を表示するなど、アクセス不可の資産における情報発信においても活用できるものとなっている。



インフォメーションカウンター

市内行政施設や観光案内所に設置しており、アクセスガイドマップ等の配布を行っている。



鉄の歴史館



観光案内所

ガイドマップ配布箇所及び配布部数

アクセスガイドマップの配布箇所及び配布部数は以下のとおりとなっている。

全体MAP		釜石MAP	
配布総数	177,762	配布総数	44,135
日本語 & 英語	177,762	日本語	23,754
主な配布先	配布部数	主な配布先	配布部数
行政機関	300	行政機関	41,650
空港	550	空港	0
ホテル	50	ホテル	980
レンタカー	100	レンタカー	0
JR（鉄道）	600	JR（鉄道）	0
観光案内所	700	観光案内所	0
道の駅	4,400	道の駅	0
NEXCO	168,500	NEXCO	0
公益・財団・社団法人	550	公益・財団・社団法人	0
その他	2,012	その他	1,505
JR九州 博多駅総合案内所		釜石市立鉄の歴史関内	
西日本高速道路リテール株式会社		釜石市文化スポーツ部 世界遺産室	
西日本高速道路サービスホールディングス		ホテルフォルクローロ三陸釜石	
風月フーズ株式会社		二戸シティホテル	
福岡国際空港株式会社		陸中海岸グランドホテル	
長崎空港		ホテルブライティン盛岡	
鹿児島県立図書館		平泉ホテル武蔵坊	
JR鹿児島中央駅観光案内所		盛岡グランドホテル	
北九州市観光コンベンション協会		浄土ヶ浜パークホテル	
大村市役所産業振興部		アバホテル北上駅西	
JR宮崎駅観光案内所		湯の社 ホテル志戸平	

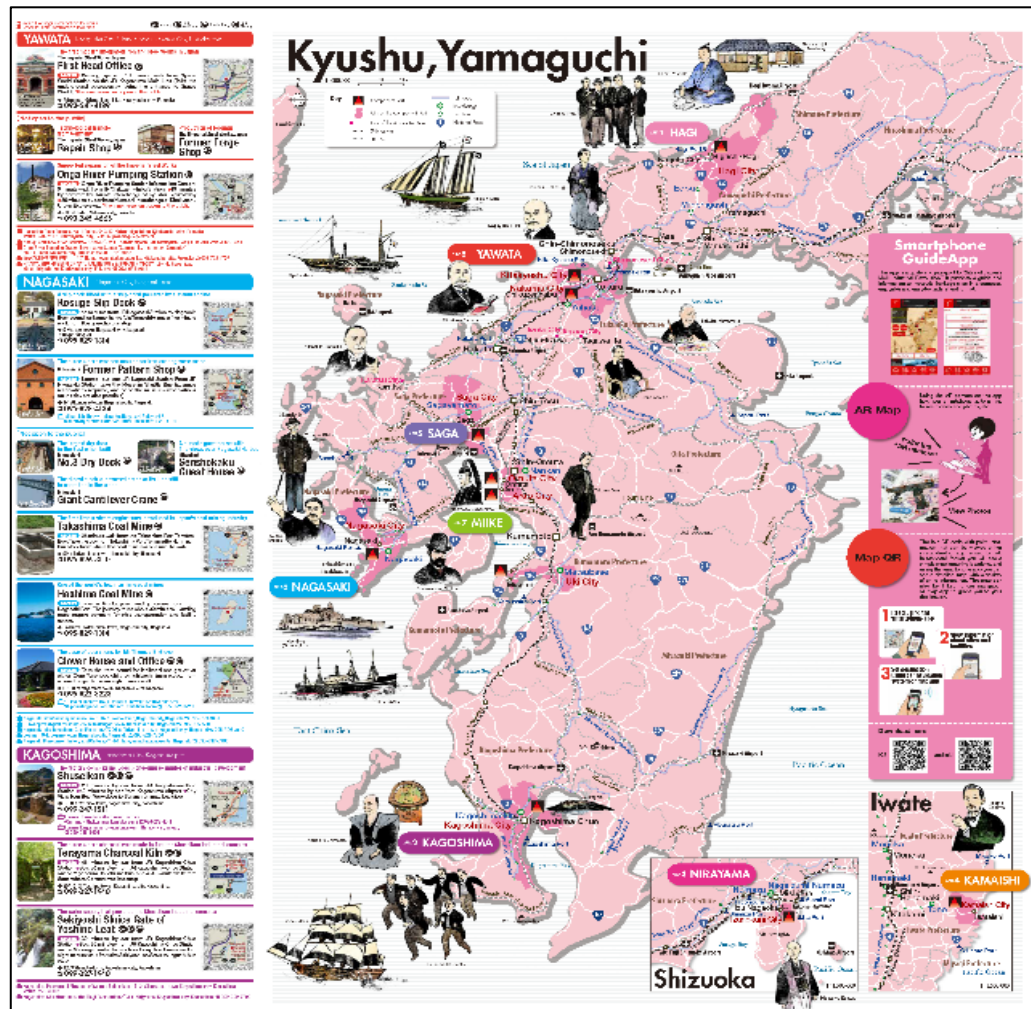
全エリア累計総配布部数

464,025

世界遺産ルート

インタプリテーション戦略に基づき、推薦書の 395～396P にもあるとおり、世界遺産を全体として理解するためのガイダンスと観光インフラを提供する「世界遺産ルート推進協議会」が設立された。同協議会は、23の構成資産から成る世界遺産価値を理解できるよう、地図とアプリ、GPS ナビゲーション、「明治日本の産業革命遺産」の普及を促進するための統一ロゴを使用した道路標識の設置等により、全ての構成資産や関連遺産に来訪者を誘導している。

今後も、推薦書やインプリテーション計画に基づき、着実に取組みを実施していく。





推薦書 P396 掲載図



世界遺産ルート協議会の様子

統一ロゴを使用した道路標識等の設置について

道路標識の設置状況

設置場所	設置済み数
釜石市	20
大槌町	1

道路標識写真



道の駅釜石仙人峠前



寺前交差点

統一ロゴ道路標識設置場所一覧



カーナビ（デンソーナビ）との連携

カーナビに目的地を転送できるスマホアプリとの連携の例



スマホから直接カーナビに目的地を送信可能

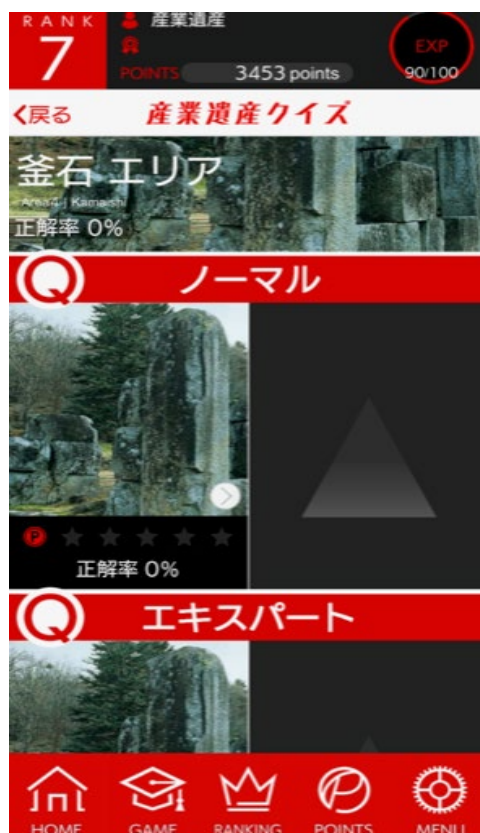


使用方法についての動画を YouTube に掲載



アプリの活用

詳しいストーリーと説明、歴史的背景、動画、CG 等を使用して「明治日本の産業革命遺産」を紹介している。ゲームや AR カメラを利用することでポイントが貯まり、お土産などのクーポンとして使用できるなど、世界遺産価値への理解を深めるとともに世界遺産ルートのツアーへの還元が可能な仕組みとなっている。スマートフォン向けアプリは、多言語（日本語、英語、韓国語、簡体・繁体中国語、ベトナム語）に対応している。



LINE の活用

アプリで取得したポイントはクーポンに交換可能。



LINE の登録を促す POP を作成し、駅やインフォメーションセンターなどに置いて誘導している。



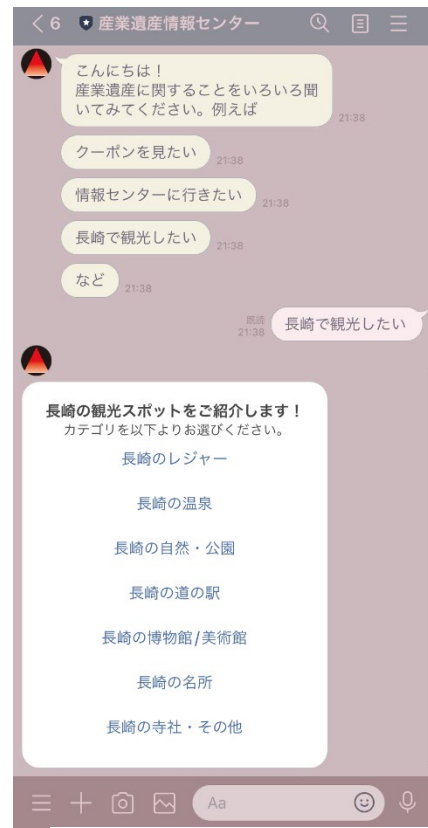
LINE を入り口として、既存ガイドアプリの活用や訪問地域の店舗で利用可能なクーポン情報等、位置情報に基づき利用者の状況に適した双方向のコミュニケーションを実現している。多言語にも対応し、訪日外国人をサポートする。



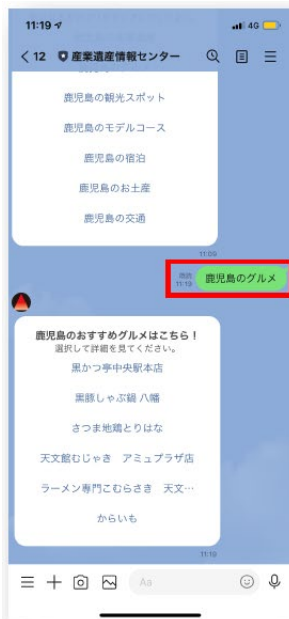
LINE の機能（例）



モデルコース紹介



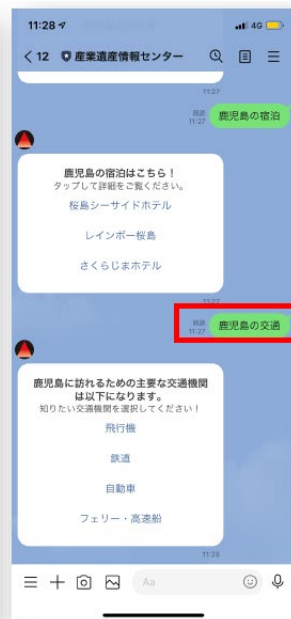
AI チャットボット機能



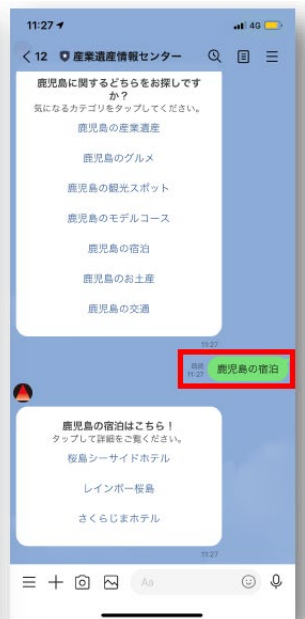
グルメ情報



観光スポット



交通情報



宿・ホテル情報

デジタルコンテンツの充実について

本エリアに関しては、デジタル技術を用いて、往時の製鉄作業の様子や高炉建屋の様子等を再現するコンテンツが制作され、スマートフォン向けアプリケーションにより配信する取組を行っている。

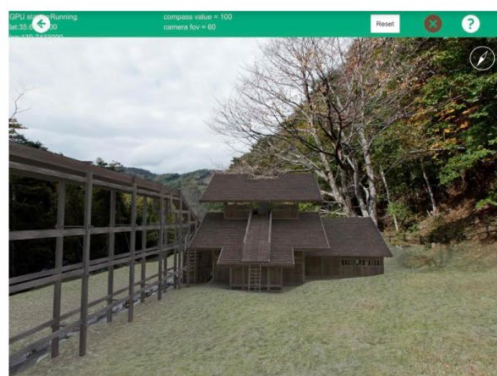
今後、『橋野鉄鉱山修復公開活用計画』に基づく調査及び整備と連動して公開エリアの各ブロックにおいてもデジタルコンテンツを活用したスマートフォン向けアプリケーションの充実を図る。

取組事項

対象資産	取組内容	実施時期	実施主体
橋野鉄鉱山	橋野鉄鉱山観光ガイドアプリ	2018 年	岩手県
橋野鉄鉱山	橋野鉄鉱山二番高炉 A R 映像	2019 年	釜石市
橋野鉄鉱山	岩手・釜石版ガイドマップに AR 機能搭載・MapQR による資産情報の発信	2019 年	産業遺産国民会議

※ 2022 年 9 月末日現在

デジタル技術による高炉解説の一例
(橋野鉄鉱山二番高炉 A R 映像の一部)

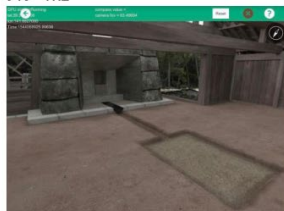


- ・ 別ウィンドウでムービーを表示
- ・ ムービーは1種



・ パノラマアングルは全部で 4 種

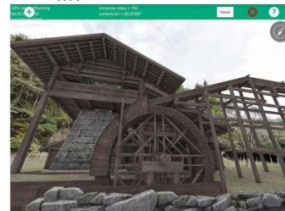
640 VR2



650 VR3



VR4



660

デジタルサイネージの機能

産業遺産情報センターにデジタルサイネージを設置し、地域版ガイドマップや産業遺産の周遊ルート情報を掲示し、各サイトへの周遊観光を促す仕組みを構築している。AIチャットボットも搭載し、周遊ルートや観光に関する質問にもリアルタイムで幅広く対応している。



ビジターセンター等について

釜石エリアでは、インタープリテーション戦略に則り、ビジターセンターを1か所、構成資産や産業分野の展示を行っている付属施設を3か所整備している。各施設では、地域コミュニティと連携し、地域の歴史的・文化的価値と調和しながら、本来の世界遺産価値の展示が一番際立つプレゼンテーションを行い、来訪者が資産の価値を理解しやすいような展示を目指している。

今後、インタープリテーション監査の指摘を踏まえ、また、産業遺産情報センターと連携しながら、膨大な一次史料のデジタル化やデジタルツールを駆使した展示の充実を図っていく。

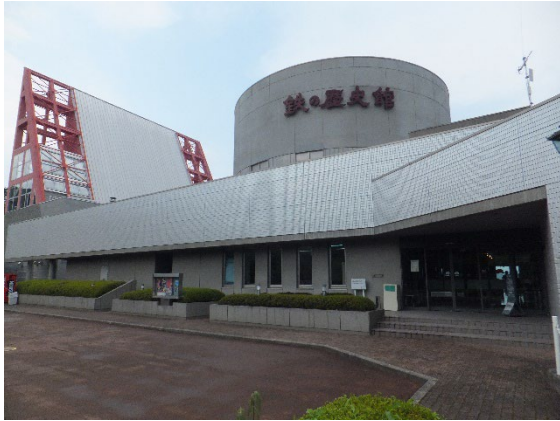
【釜石市橋野鉄鉱山インフォメーションセンター】

世界遺産「明治日本の産業革命遺産」のOUV及び23の構成資産の概要を紹介し、橋野鉄鉱山の沿革や施設(遺構)の概要についても詳しく説明している。毎年発掘調査を実施していることから11月～12月初旬は発掘調査速報展を実施している。

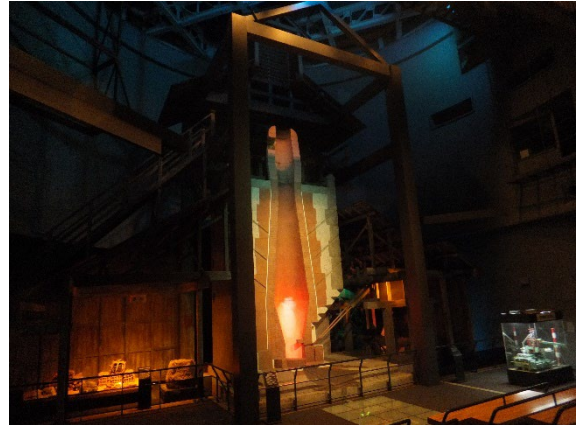


【釜石市立鉄の歴史館】

近代製鉄の父大島高任及び釜石製鉄所の歴史を中心として鉄の歴史について紹介している。世界遺産「明治日本の産業革命遺産」(1850 年～1910 年)前後の製鉄のフルヒストリーを紹介している。



外観



総合演出シアター



1 階



2 階

【旧釜石鉱山事務所】

昭和 26 年に建設された釜石鉱山の総合事務所で、型枠コンクリートブロック造の建物で、国の登録有形文化財となっている。近代製鉄発祥の地である大橋高炉の所在地で、現在、高炉跡や釜石鉱山での採掘（鉱業）を中心とした展示を行っている。





2階（鉱山のギャラリー）



2階（鉱物室）

【釜石市郷土資料館】

釜石の自然、考古、民俗を紹介する。特に昭和20年の連合国軍による艦砲射撃や津波に関する資料を充実させている。製鉄コーナーでは1/100の精巧な橋野高炉跡模型が展示されている。



外観



震災コーナー



戦災コーナー



製鉄コーナー（橋野高炉跡模型）

モニターツアー



子ども向け学習プログラム



製鉄体験



鑄造体験



鉱石採集



鉄の検定



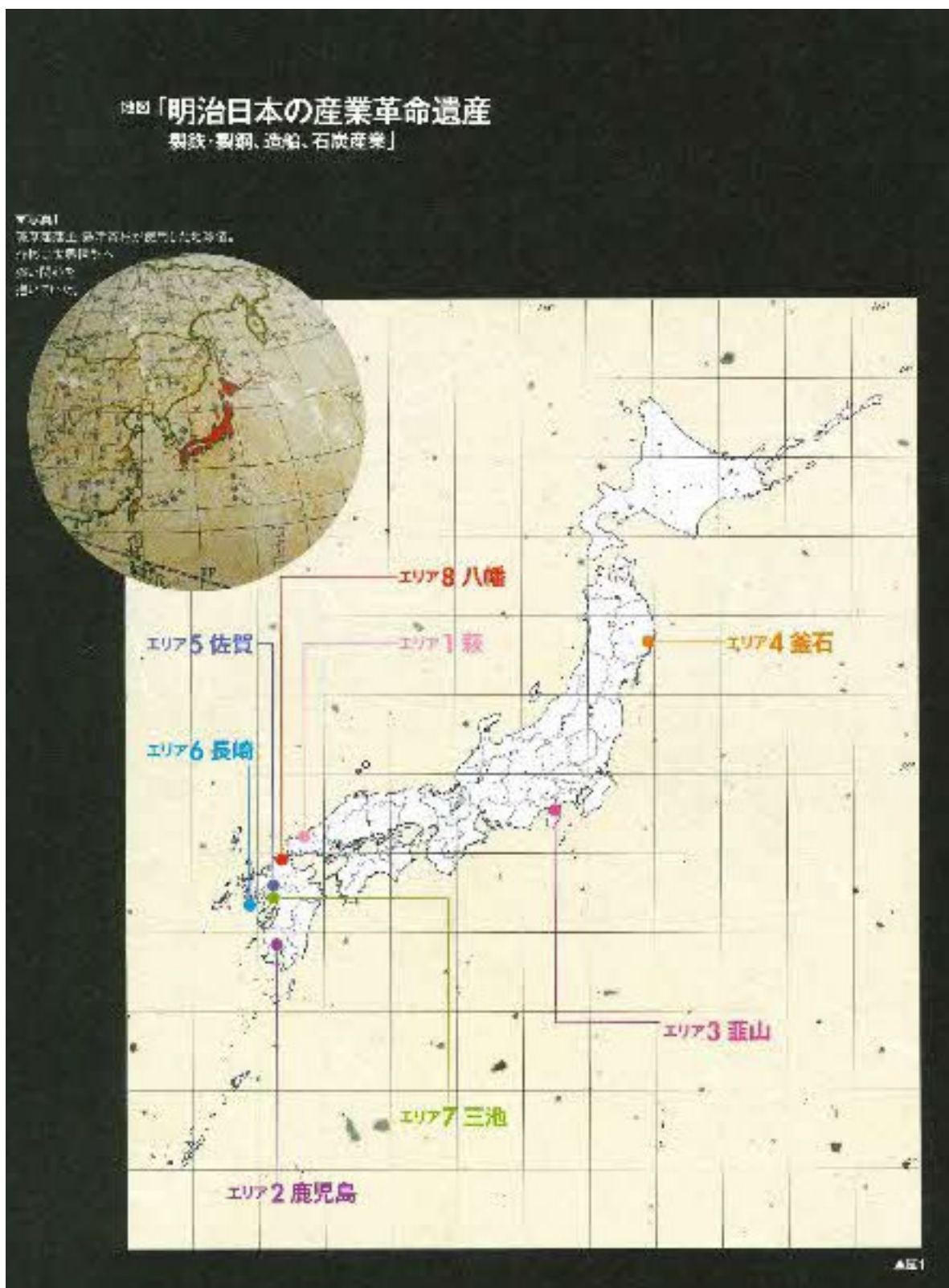
鉄の学習発表会

Area5 佐賀

エリア別インタープリテーション計画

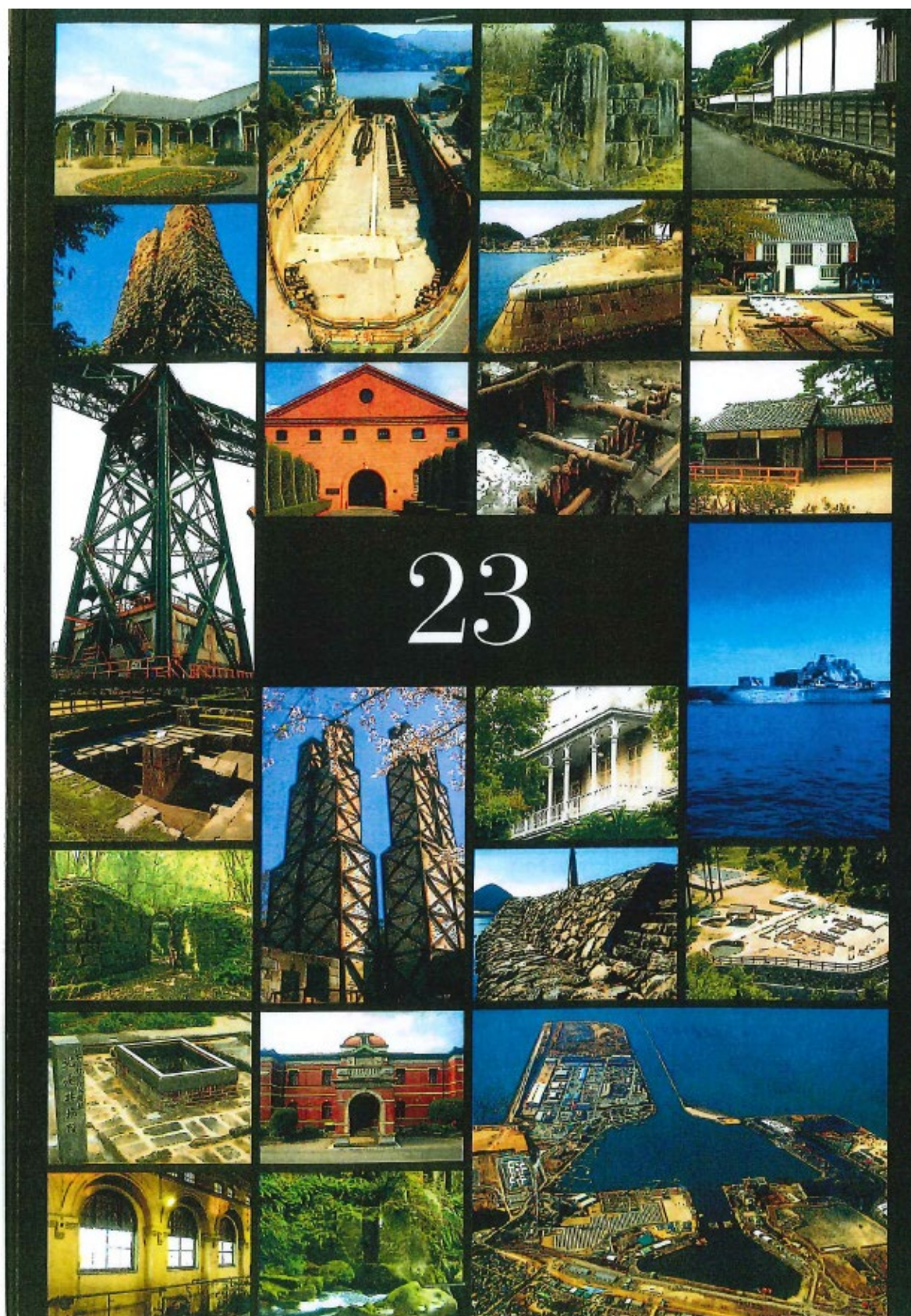


【エリア一覧】



【構成資産名】

エリア	サイト	ID	構成資産
エリア1 萩	1 萩の産業化初期の遺産群	1-1	萩反射炉
		1-2	恵美須ヶ鼻造船所跡
		1-3	大板山たたら製鉄遺跡
		1-4	萩城下町
		1-5	松下村塾
エリア2 鹿児島	2 集成館	2-1	旧集成館
		2-2	寺山炭窯跡
		2-3	関吉の硃水溝
エリア3 葦山	3 葦山反射炉	3-1	葦山反射炉
エリア4 釜石	4 橋野鉄鉱山	4-1	橋野鉄鉱山
エリア5 佐賀	5 三重津海軍所跡	5-1	三重津海軍所跡
エリア6 長崎	6 長崎造船所	6-1	小菅修船場跡
		6-2	三菱長崎造船所 第三船渠
		6-3	三菱長崎造船所 ジャイアント・カンチレバークレーン
		6-4	三菱長崎造船所 旧木型場
		6-5	三菱長崎造船所 占勝閣
	7 高島炭鉱	6-6	高島炭坑
		6-7	端島炭坑
	8 旧グラバー住宅	6-8	旧グラバー住宅
エリア7 三池	9 三池炭鉱・三池港	7-1	三池炭鉱・三池港
	10 三角西港	7-2	三角西港
エリア8 八幡	11 官営八幡製鐵所	8-1	官営八幡製鐵所
		8-2	遠賀川水源地ポンプ室



SITES OF
JAPAN'S
MEIJI INDUSTRIAL
REVOLUTION
IRON & STEEL, SHIPBUILDING
AND COAL MINING

Executive Summary

概要

「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」は、西洋から非西洋への産業化の波及を顕す遺産群により構成されている。19世紀半ばから20世紀の初頭にかけて、日本は工業立国の土台を築き、重工業（製鉄・製鋼、造船、石炭産業）分野において、急速な産業化を成し遂げた。産業化の歩みは、蘭書片手に試行錯誤での鉄製大砲鋳造への挑戦や、羊式船の模倣から始まった。次に、西洋技術を導入し、その運用により専門知識を習得した。明治の後期には、国内に人材が育成され、積極的に導入した西洋技術を、国内需要や社会的伝統に適合するように改善、改良を加え、産業化に応用した。日本は、非西洋諸国で初めて産業革命の波を受容し、植民地になることなく50年余りで、自らの手で産業化を成就した。「明治日本の産業革命遺産」は、世界史におけるたぐい稀な産業化の局面を証言する遺産群である。

評価基準の適用

評価基準 (ii)

「明治日本の産業革命遺産」は、日本が19世紀半ばから20世紀の初頭にかけて、産業化が進む西洋諸国からの技術移転を受け、技術の交流により変貌を遂げた特異なプロセスを証言する一連の遺産群である。極めて短期間に、西洋の産業革命が日本に移植され、また成就されたことは、産業化と技術の歴史において、地域的にも、時代的にも稀有なことである。西洋から伝播した技術が、伝統的な日本文化と融合し、国内の需要や社会的伝統に合わせて改善・改良され、日本の社会と経済を形づくり、やがて日本を世界の経済大国に押し上げる重工業の基盤を築いた。

評価基準 (iv)

「明治日本の産業革命遺産」は、製鉄・製鋼、造船、石炭産業といった重工業の基幹産業において、急激に変化した時代を象徴する技術の集合体の卓越した例であり、19世紀半ばから20世紀初頭にかけて非西洋諸国で初めて産業化を成就した変革の軌跡を示している。同時代の産業史の時間的・地域的枠組みにおいて類似性がなく、普遍的な意義を有する。これら一連の資産は、相互に関連する起源を持つ重工業の3つの産業分野において、代表的資産を統一的に包含しており、集合体として比類なき技術移転の証言である。

完全性の宣言

「明治日本の産業革命遺産」は、製鉄・製鋼、造船、石炭産業といった産業分野において、急速な産業化を成し遂げた道程を証言する遺産群であり、23の構成資産は、現存する唯一かつ希少な遺構として、全体で「顕著な普遍的価値」を有している。いずれの構成資産においても、資産の範囲に、「顕著な普遍的価値」に貢献する要素を、全て包含するように、境界線を設定した。

日本国政府は、内閣官房の下に構築した戦略的枠組みにおいて、構成資産を、劣化や開発の悪影響から守るため、管理の仕組みを用意した。全体としての資産の保全状態は良好であるが、中には継続的利用、もしくは、長期間放置された後、別の用途で活用をされ、その結果、物理的影響が及んだ遺構も含まれている。また完全性が担保されているものから、部分的に保全されているものまで、多種多様である。ただし後者の場合であったとしても、遺産群全体の完全性を顕すために求められている遺構が、手つかずのまま遺されている。考古学的資産の場合、これまでの十分な発掘調査の結果、将来の研究や展示のために必要な遺構の大半が、良好な状態で保存されていることが、確認されている。

また特に産業用の用途で、現在も生産の一翼を担う現役の産業設備においては、民間の管理者が、安全性確保のための定期点検の実施と、適切な維持管理を行うことにより、極めて高い水準の完全性を保持しており、稼働中の産業遺産として、全体の価値に貢献している。

真実性の宣言

顕著な普遍的価値に関する真実性について、西洋から非西洋への初めての、かつ急速な産業化の移転を顕し代表する、現存する産業遺産の集合体として、最も高い真実性を有している。

「形状・意匠」、「材料・材質」について、本資産の構成資産は重工業の産業分野における、西洋からわが国への技術移転のプロセスを説明する上で、必要不可欠な、オリジナルの形状と材質を保持している。構成資産の中には、断片的又は考古学的な遺構も含まれるが、いずれにしても、全体の資産の中で重要な産業要素については真実性が高い。構成資産の中には、長年、産業遺産の特徴を遺す史跡として管理されてきた遺構もあり、それらは実質的に高い真実性を有する重要な遺構である。それ以外の構成資産においては、「形状・意匠」及び「材料・材質」のみならず、オリジナルな用途での継続的使用と機能が維持されていることから極めて高い真実性を有している。

佐賀エリアに関わる産業の歴史

佐賀エリアは、世界文化遺産「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」の中で、「造船」の第一段階「試行錯誤の挑戦」の時代に係る記録を留める構成資産が分布するエリアとなっている。



▲図2

内閣官房が平成29年11月30日に、保全状況報告書添付資料としてユネスコに提出したインタープリテーション戦略では、次のように記されている。

1.1 インタープリテーション計画（抜粋）

(1) 全ての構成資産で一貫した顕著な普遍的価値（OUV）の共通展示を展開
インタープリテーション戦略に基づき、全ての構成資産に一貫した顕著な普遍的価値の共通展示を実施する。全ての関係者が方針に合意し、ブランド感のある世界遺産スタイルで統一的に展示をコーディネートし、実施する予定である。

(2)・(3) 労働者に関する情報収集を含む各サイトの歴史全体に関する進捗

内閣官房の「稼働資産を含む産業遺産に関する有識者会議」の委員、「明治日本の産業革命遺産」の登録に関わるイコモス査定に関与した国際ヘリテージの専門家、「インタープリテーションとプレゼンテーションに関する国際イコモス学術委員会」委員長他の助言により、以下の4つの方針が示された。

1) 顕著な普遍的価値のインタープリテーションに重点を置く：世界遺産の本来の目的に従い、各サイトにおいて、登録された資産の顕著な普遍的価値を、他の関連する問題と混同せずに明確に説明する。その上で、勧告g)を履行する。

※g) 推薦資産のプレゼンテーションのためのインタープリテーション（展示）戦略を策定し、各構成資産がいかに顕著な普遍的価値に貢献し産業化の1又は2以上の段階を反映しているかを特に強調すること。また、各サイトの歴史全体についても理解できるインタープリテーション（展示）戦略とすること。

2) P. 81に記載された顕著な普遍的価値の対象期間(1850年代から1910年まで)以外の各サイトの「歴史全体」の範囲は、1850年代以前と1910年から現在までの2つに分けられる。いずれにおいても各構成資産の背景の理解を補足する地域的な価値を念頭に「歴史全体」の範囲を絞り込む。さらに、各構成資産が立地するエリアにおける歴史全体のインタープリテーションについては、一次史料の収集や証言収録など質の高い調査を実施し、適宜、適切なメディアを通じていずれかの段階において公表する。

インタープリテーション戦略に則り、各エリアの構成資産及びビジターセンター等におけるインタープリテーションの現状について、世界各国の産業遺産及びそのインタープリテーションに精通した海外専門家による監査を、複数回（平成29年、令和元年）実施した。

その結果、監査者である ICOMOS メンバーのンバリー・ギャンブル氏からは、佐賀エリアに関して次のような評価を受けている。

- 三重津海軍所跡および連携博物館での継続的専門作業（考古学的発掘を含む）を通じて、構成資産のインタープリテーションと保全が進行している。これは素晴らしいことである。
- 三重津海軍所跡および博物館の開発に資するために担当者が立案した計画は賞賛に値する。
- これらの策定においては、OUV および他の構成資産（特に、歴史的に非常に関係が深い長崎の構成資産）との関連づけが大変重要となる。また、バランスのとれた正確な（証拠に基づく）歴史を紹介するよう、十分な注意を払わなければならない。ストーリーボードやプレゼンテーションの中には、当該資産サイトの特定の側面や構成資産の功績を関連づけようと「過度に熱心に」なっているものがあり、これは時に、同じくらい重要な貢献をしている他の構成資産に不利益をもたらす可能性がある。内容とストーリーは、幅広い助言のもとに承認された推薦書の文章を参照されたい。

佐賀エリアにおいては、これまで地区別協議会において本インタープリテーション計画について協議を行ってきた。

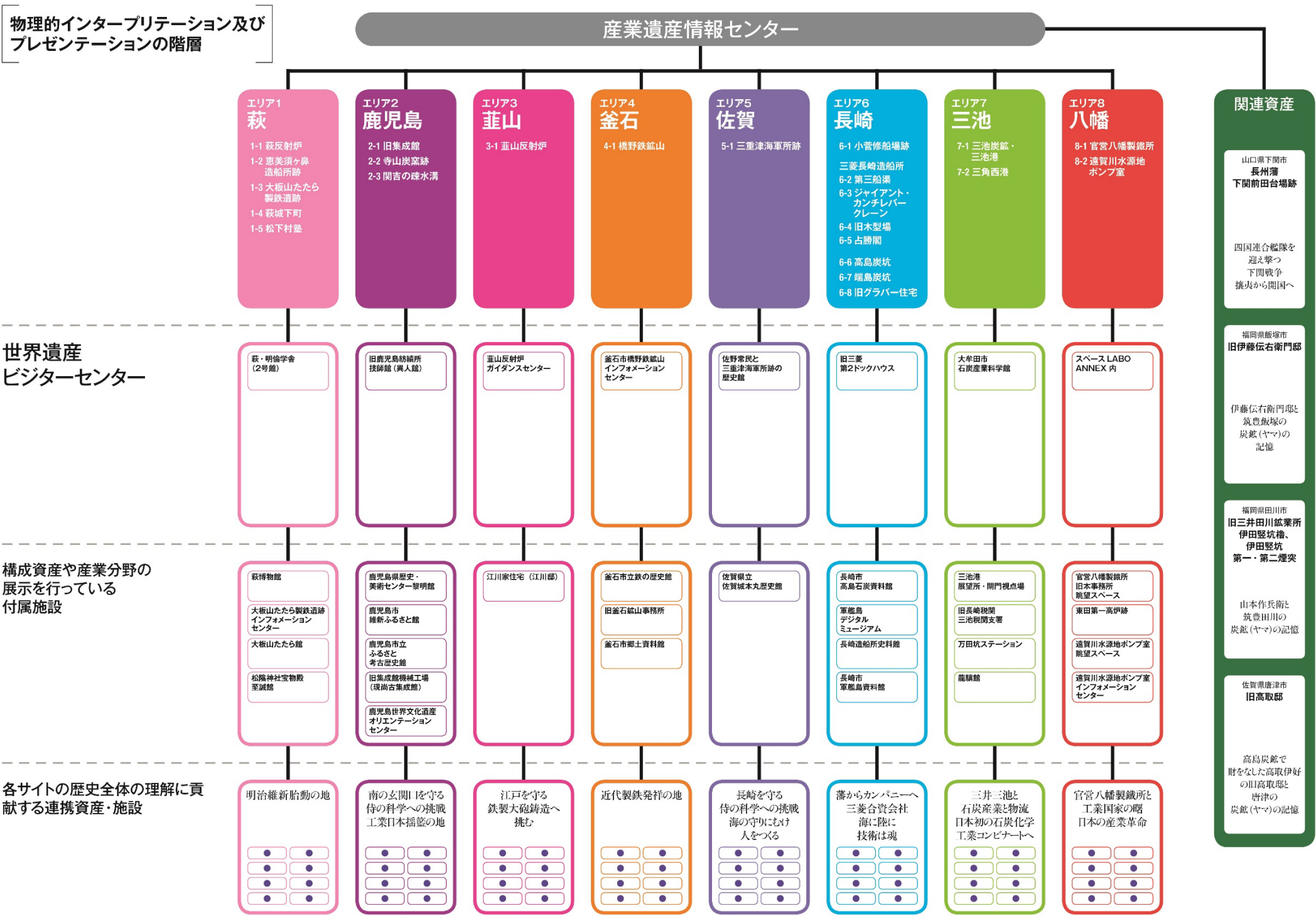
上記のインタープリテーション監査の結果として指摘されている、長崎の構成資産をはじめとする他の構成資産との関連付けや、バランスの取れた正確な歴史の紹介については、産業遺産情報センターや関連エリアとも連携しながら継続的な充実を図り、地域の歴史的・文化的価値と調和しつつ世界遺産価値をより反映した展示を実施した。



地区別協議会の様子

物理的インタープリテーション及びプレゼンテーションの階層

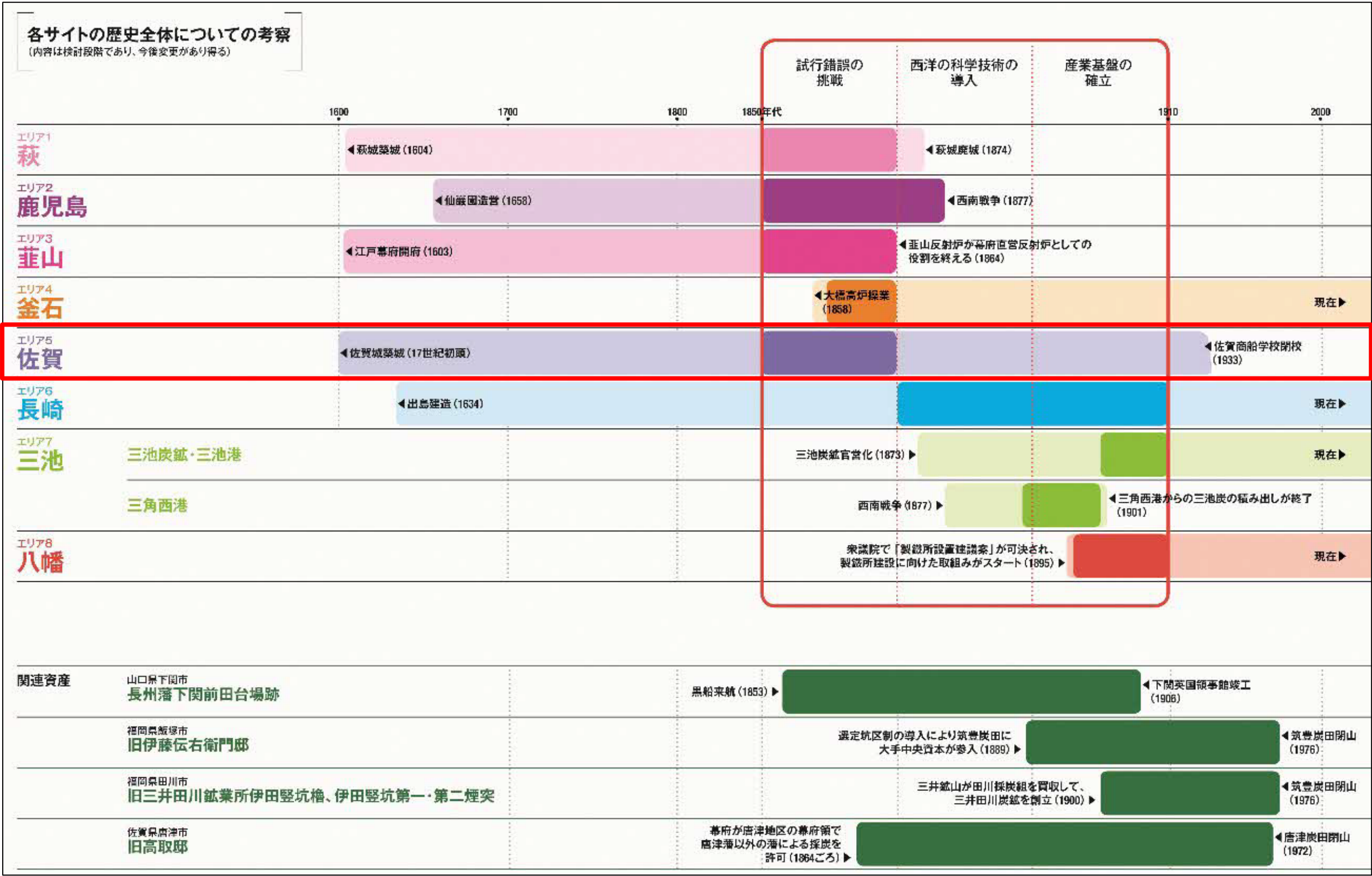
産業遺産情報センターと各地のビジターセンターが連携して、明治日本の産業革命遺産の顕著で普遍的な価値を効果的に発信できるような体制を構築していく



関連資産：平成 21 年 1 月 5 日にユネスコの世界遺産暫定一覧表に記載された段階で構成資産候補であったものであり、世界遺産登録された「明治日本の産業革命遺産」と一体的に活用を図る産業遺産。(その当時の時代背景や社会情勢を知ることができる貴重な資産)

「各サイトの歴史全体」についての考察

内閣官房が平成29年にユネスコに提出したインタープリテーション戦略では、下図のとおり各サイトの歴史全体の考察について、記されている。



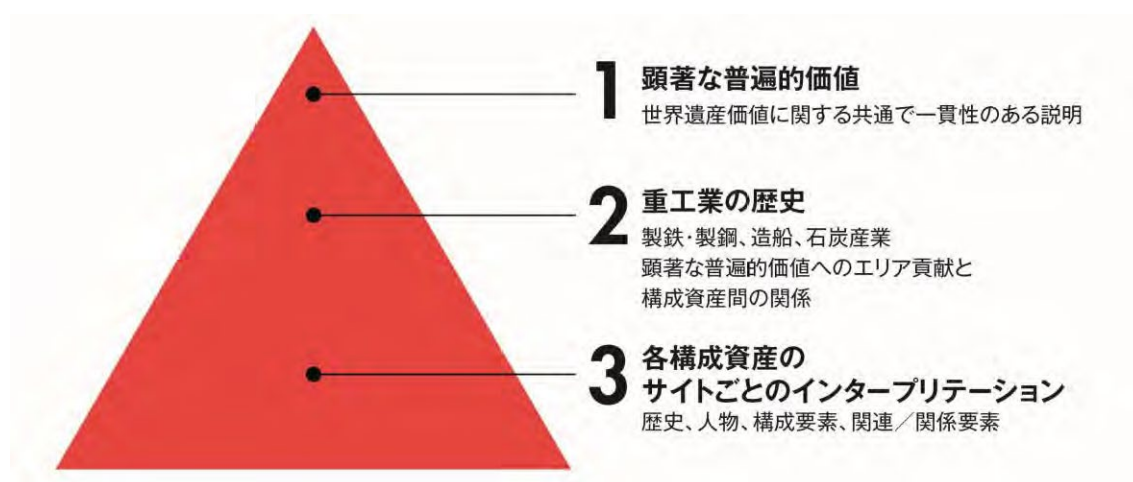
本エリアにおけるインタープリテーション

インタープリテーション戦略の考え方

インタープリテーション戦略では、インタープリテーションとプレゼンテーションの概念について、次のとおり図解されている。

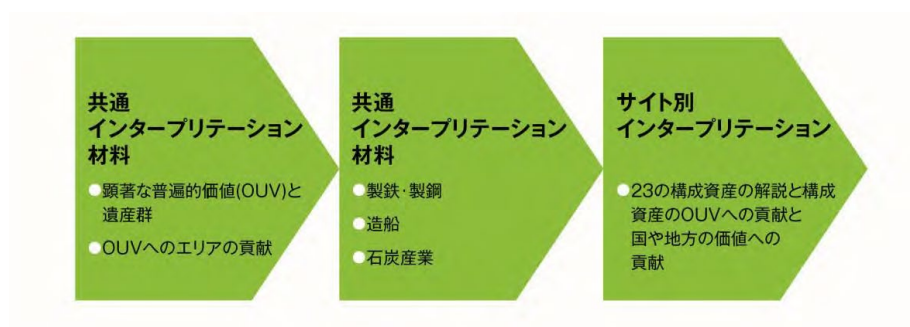
本エリアのインタープリテーションにおいても、インタープリテーション監査において指摘された課題を解決するため、これに則って取組を展開することとする。

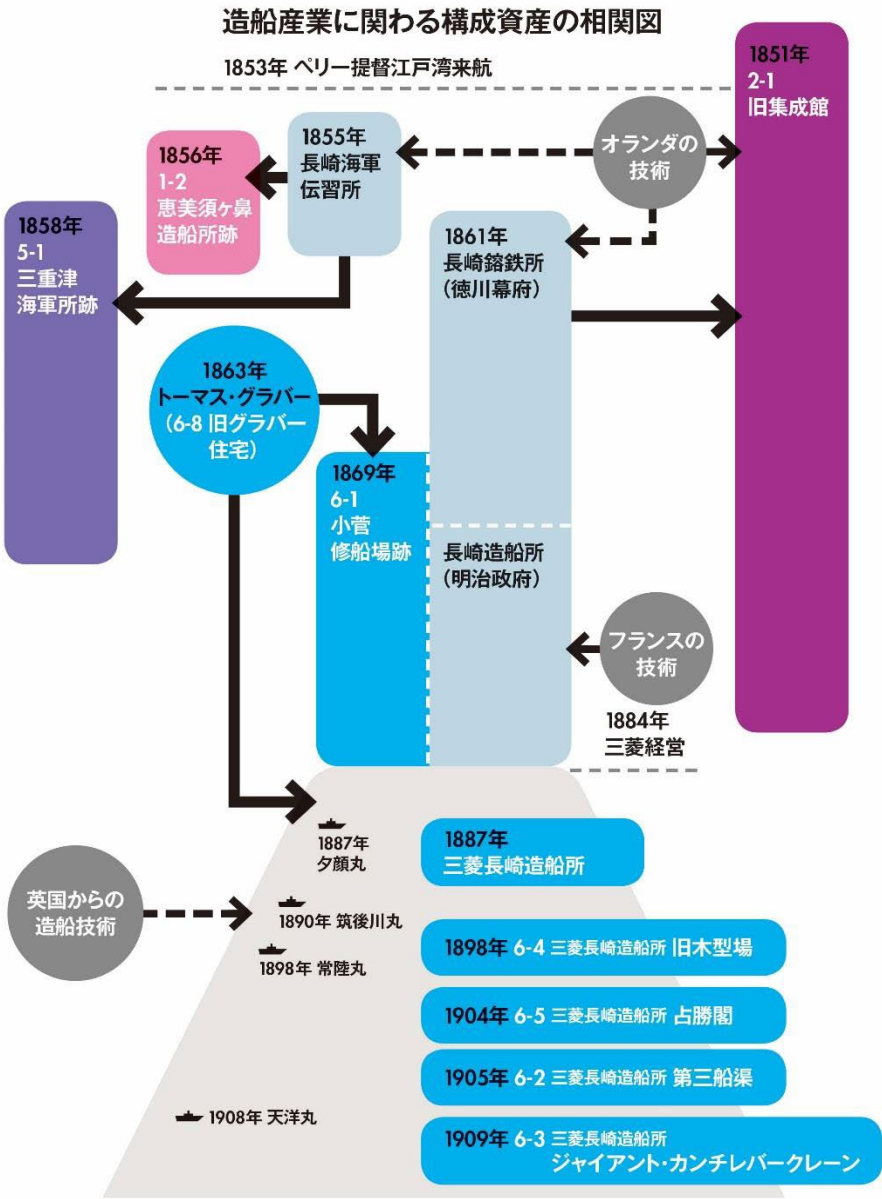
「明治日本の産業革命遺産」のインタープリテーション及びプレゼンテーション：価値とテーマの階層



産業遺産情報センター並びに各地のビジターセンターにおいて、顕著な普遍的価値はインタープリテーションの最上位に位置する。これは、エリアや構成資産独自の歴史など地域や産業固有の展示解説に優先する最上位のテーマとなる。これにより、上図に表された 1. 顕著な普遍的価値、2. 重工業の歴史、3. 各構成資産のサイトごとのインタープリテーションが、資産全体で一貫してプレゼンテーションされることになる。

ローカル・ビジターセンターにおけるインタープリテーションの流れ インタープリテーションの階層





リキッドギャラクシー等を使用した展示

インタープリテーション戦略に基づき令和2年3月に設置された産業遺産情報センターでは、世界遺産としての顕著な普遍的価値の対象期間(1850年代から1910年まで)に加え、「各サイトの歴史全体についての考察」として示された図を参考に、体感型マルチディスプレイを活用し、各エリアの構成資産の歴史や変遷、暮らしなどについて映像で解説するなど、資産の変遷や世界遺産価値への貢献、歴史全体を体感的に理解できるような展示を行っている。

本エリアにおいても、産業遺産情報センターや本エリアのビジターセンターにおいて収集した資料のデジタルアーカイブを構築した上で、順次インタープリテーションツールに反映していくこととする。



本エリアにおける構成資産

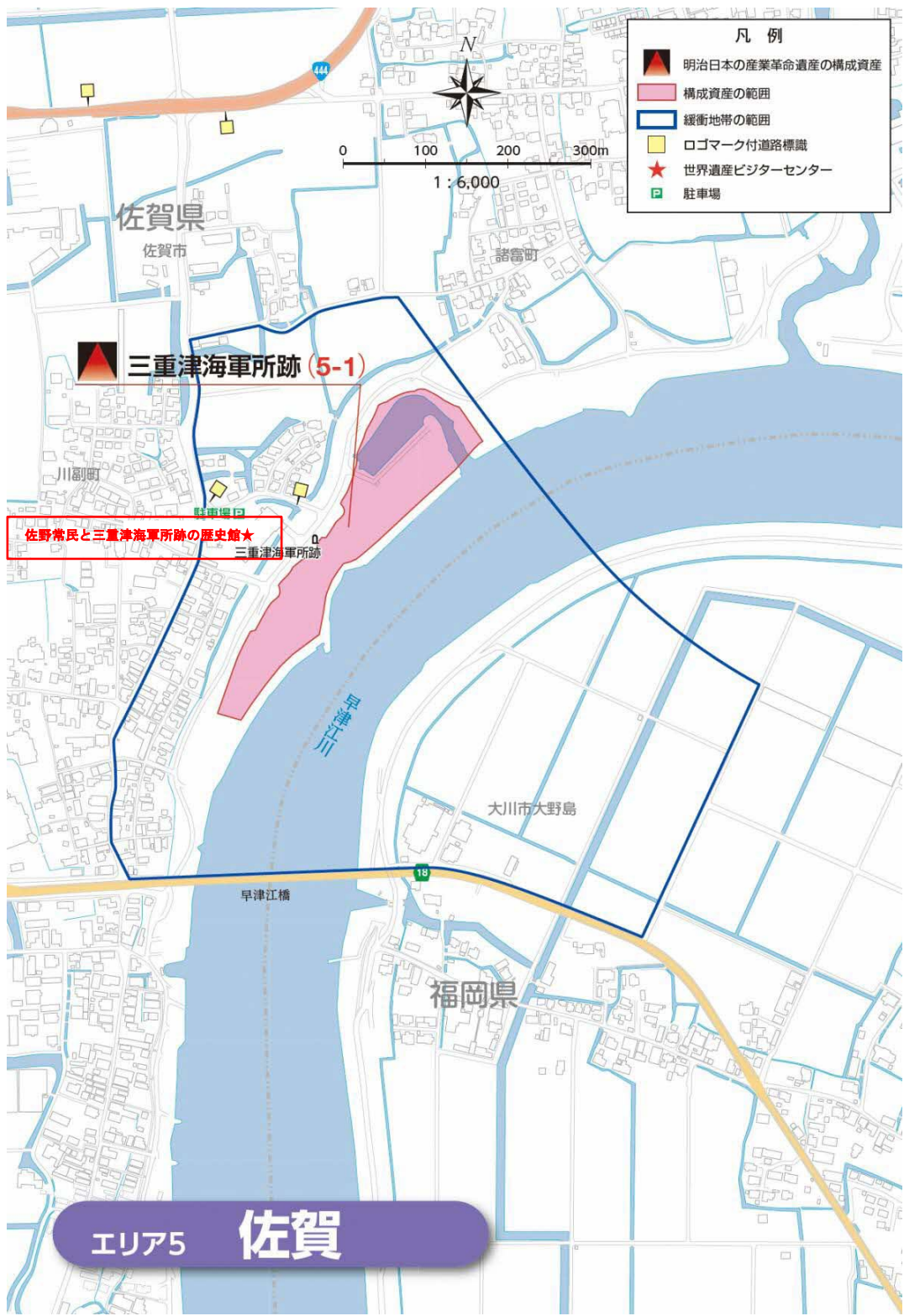
関連する産業：造船	
構成資産の名称：三重津海軍所跡	
（構成資産の概要） 佐賀藩は幕府より長崎防衛を任され、長崎海軍伝習所に藩士を派遣して訓練を行い、得た西洋技術の情報を基に乾船渠を建造した。外国から購入した洋式蒸気船を同地で修理し、船舶に関する洋式技術獲得と実践の拠点とした。	

世界遺産記念銘

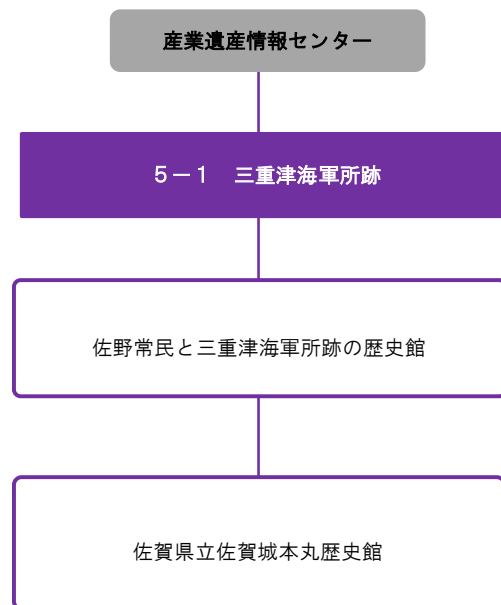
ユネスコのガイドラインに則り、各構成資産には、来訪者に当該遺産の顕著な普遍的価値を適切に周知するため世界遺産登録記念銘を設置している。



佐賀エリア インタープリテーション施設分布



佐賀エリア 階層図



アクセスガイドマップ

各エリアの構成資産のアクセスガイドマップは、日本語版の他に英語版も作成されており、来訪者に無料で配布されている。本マップは、各エリアの構成資産についてのオリエンテーションとして、訪問者ができるだけエリア内の構成資産等を数多く訪問できるよう構成されている。

また、スマートフォン向けアプリと連動し、AR 機能を活用して非公開資産の3Dモデルや動画、360度映像を表示するなど、アクセス不可の資産における情報発信においても活用できるものとなっている。



インフォメーションカウンター

行政機関や空港に設置しており、アクセスガイドマップ等の配布を行っている。



佐賀市役所



九州佐賀国際空港

ガイドマップ配布箇所及び配布部数

アクセスガイドマップの配布箇所及び配布部数は以下のとおりとなっている。

全体MAP		佐賀MAP	
配布総数	177,762	配布総数	34,680
日本語 & 英語	177,762	日本語	22,280
主な配布先	配布部数	主な配布先	配布部数
行政機関	300	行政機関	13,250
空港	550	空港・航空会社	1,200
ホテル	50	ホテル	0
レンタカー	100	レンタカー	100
JR（鉄道）	600	JR（鉄道）	700
観光案内所	700	観光案内所	600
道の駅	4,400	道の駅	1,600
NEXCO	168,500	NEXCO	9,300
公益・財団・社団法人	550	公益・財団・社団法人	3,380
その他	2,012	その他	4,550
JR九州 博多駅総合案内所		いのちの旅博物館	
西日本高速道路リテール株式会社		中間市地域交流センター なかまガイドの会	
西日本高速道路サービスホールディングス		福岡国際空港株式会社	
風月フーズ株式会社		特定非営利活動法人 里山を考える会	
福岡国際空港株式会社		一般社団法人日本自動車連盟（JAF）	
長崎空港		福岡市観光案内所	
鹿児島県立図書館		株式会社香欄社	
JR鹿児島中央駅観光案内所		有田焼卸団地協同組合	
北九州市観光コンベンション協会		福岡空港	
大村市役所産業振興部		一般社団法人佐賀県観光連盟	
JR宮崎駅観光案内所		唐津・玄界観光交流社	

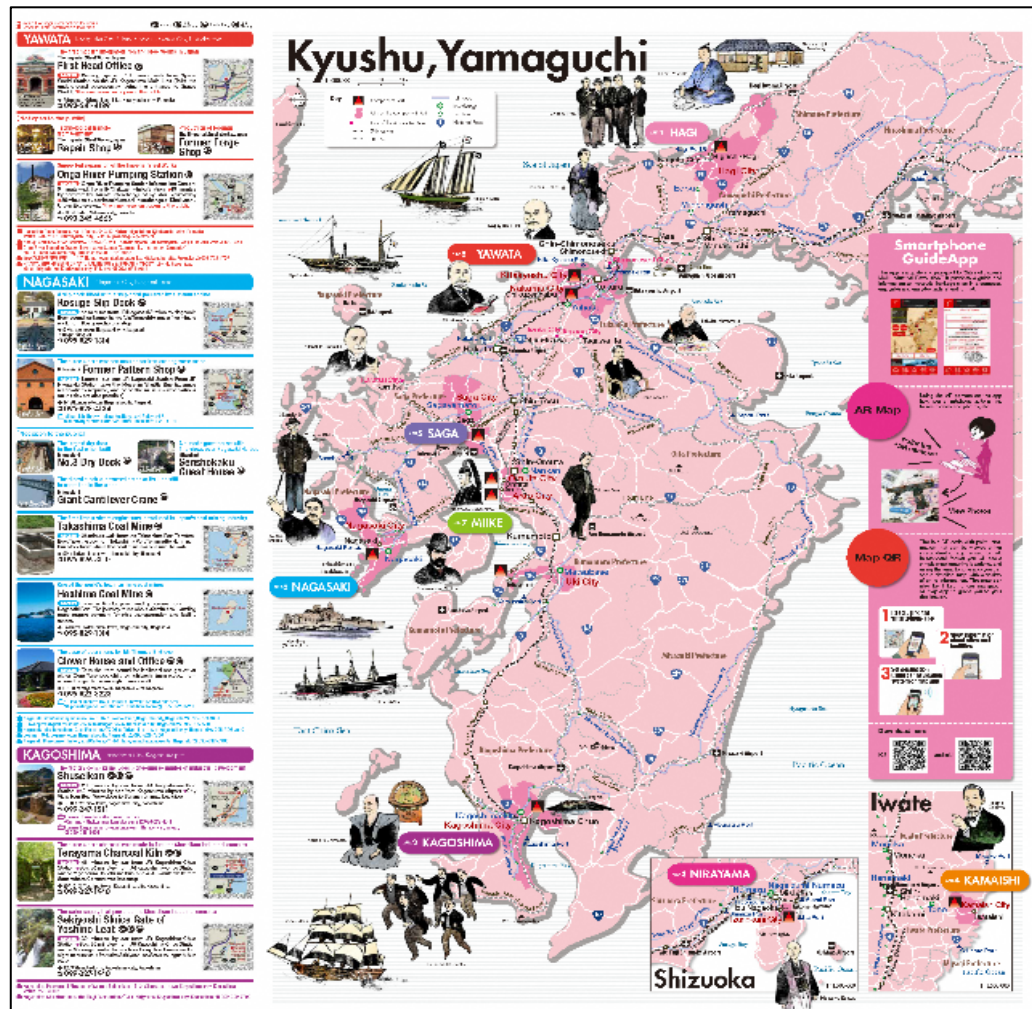
全エリア累計総配布部数

464,025

世界遺産ルート

インタープリテーション戦略に基づき、推薦書の 395～396P にもあるとおり、世界遺産を全体として理解するためのガイダンスと観光インフラを提供する「世界遺産ルート推進協議会」が設立された。同協議会は、23の構成資産から成る世界遺産価値を理解できるよう、地図とアプリ、GPS ナビゲーション、「明治日本の産業革命遺産」の普及を促進するための統一ロゴを使用した道路標識の設置等により、全ての構成資産や関連遺産に来訪者を誘導している。

今後も、推薦書やインタープリテーション計画に基づき、着実に取組みを実施していく。





推薦書 P396 掲載図



世界遺産ルート協議会の様子

統一ロゴを使用した道路標識等の設置について

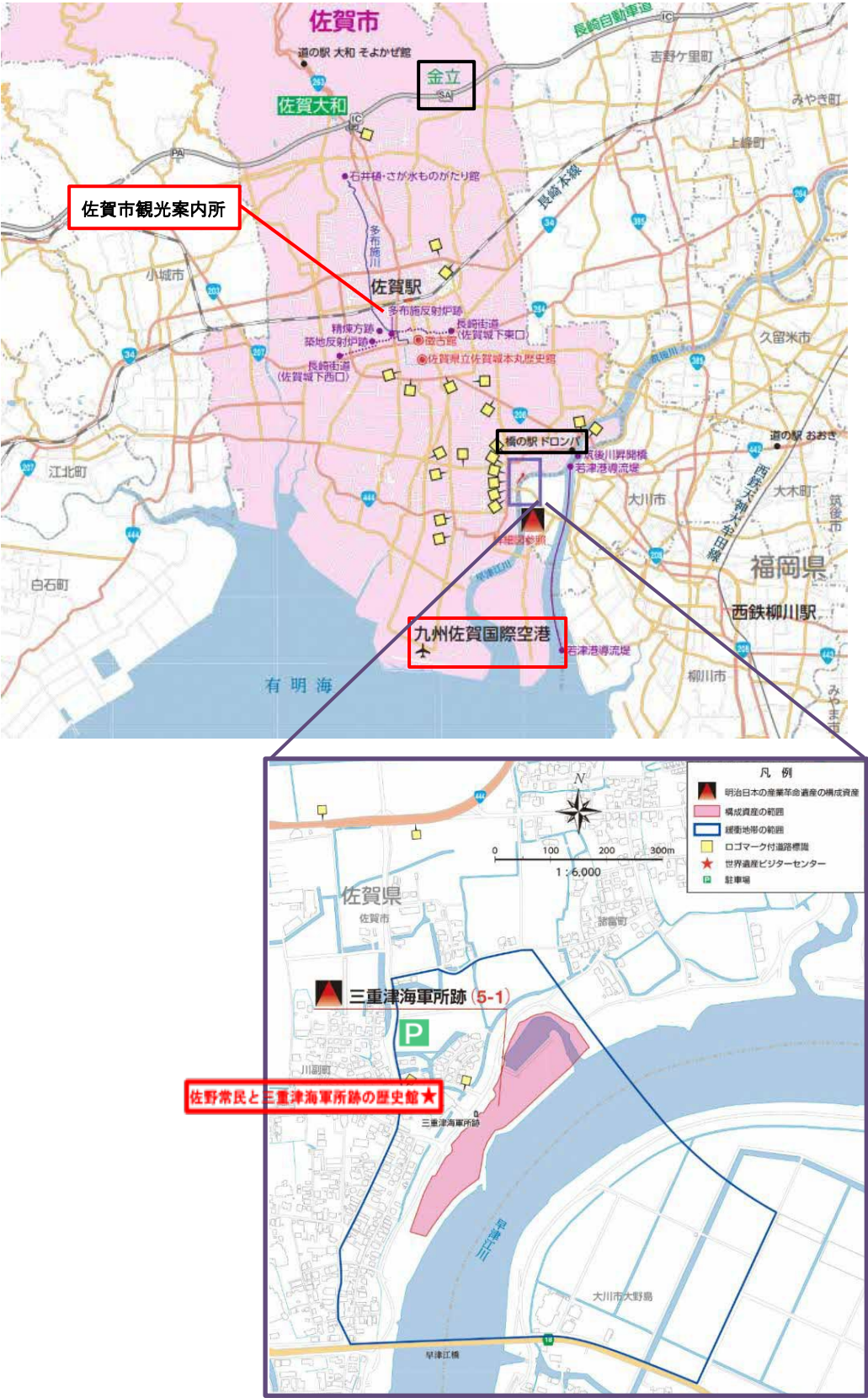
道路標識の設置状況

設置場所	設置済み数
佐賀市	26

道路標識写真



統一ロゴ道路標識設置場所一覧



カーナビ（デンソーナビ）との連携
カーナビに目的地を転送できるスマホアプリとの連携の例



スマホから直接カーナビに目的地を送信可能



使用方法についての動画を YouTube に掲載



アプリの活用

詳しいストーリーと説明、歴史的背景、動画、CG 等を使用して「明治日本の産業革命遺産」を紹介している。ゲームや AR カメラを利用することでポイントが貯まり、お土産などのクーポンとして使用できるなど、世界遺産価値への理解を深めるとともに世界遺産ルートのツアーへの還元が可能な仕組みとなっている。スマートフォン向けアプリは、多言語（日本語、英語、韓国語、簡体・繁体中国語、ベトナム語）に対応している。



LINE の活用

アプリで取得したポイントはクーポンに交換可能。



LINE の登録を促す POP を作成し、駅やインフォメーションセンターなどに置いて誘導している。



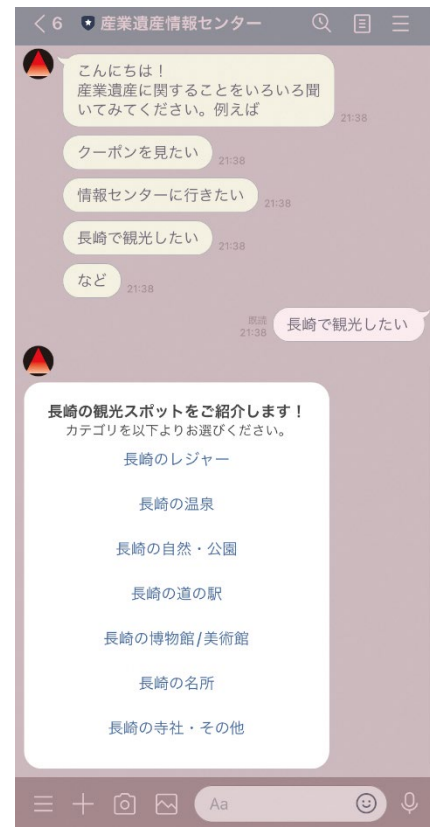
LINE を入り口として、既存ガイドアプリの活用や訪問地域の店舗で利用可能なクーポン情報等、位置情報に基づき利用者の状況に適した双方向のコミュニケーションを実現している。多言語にも対応し、訪日外国人をサポートする。



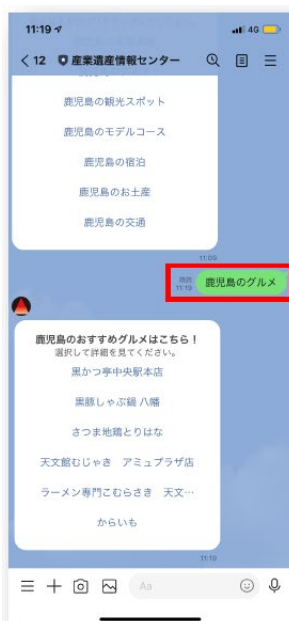
LINE の機能（例）



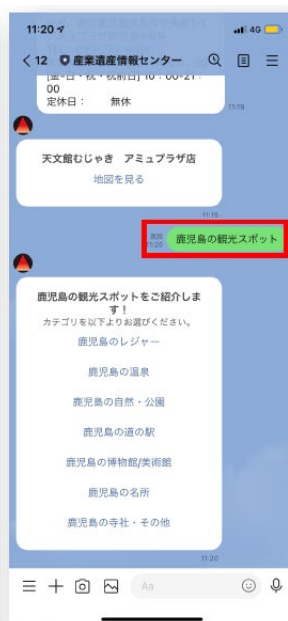
モデルコース紹介



AI チャットボット機能



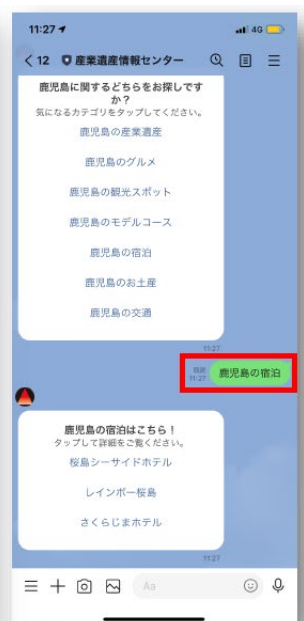
グルメ情報



観光スポット



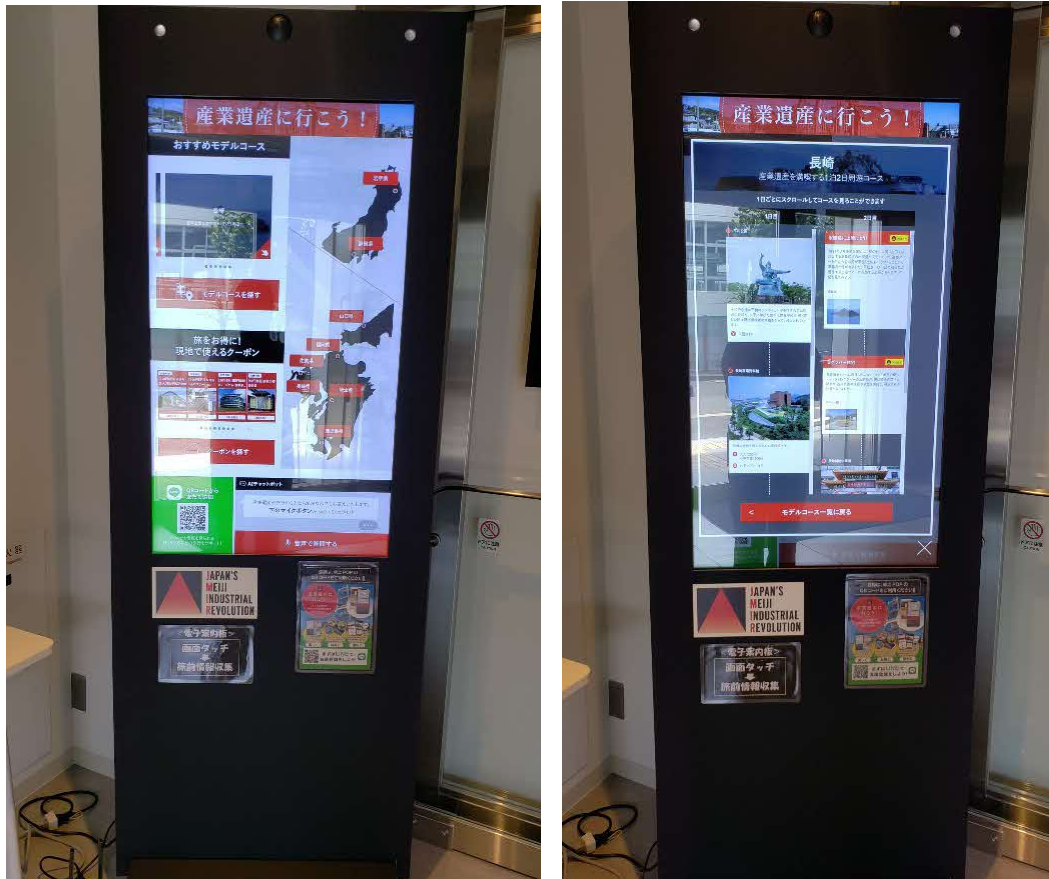
交通情報



宿・ホテル情報

デジタルサイネージの機能

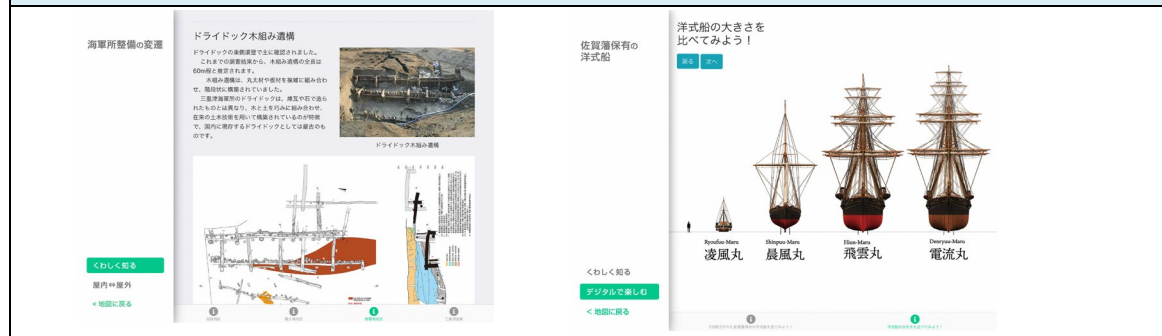
産業遺産情報センターにデジタルサイネージを設置し、地域版ガイドマップや産業遺産の周遊ルート情報を掲示し、各サイトへの周遊観光を促す仕組みを構築している。AIチャットボットも搭載し、周遊ルートや観光に関する質問にもリアルタイムで幅広く対応している。



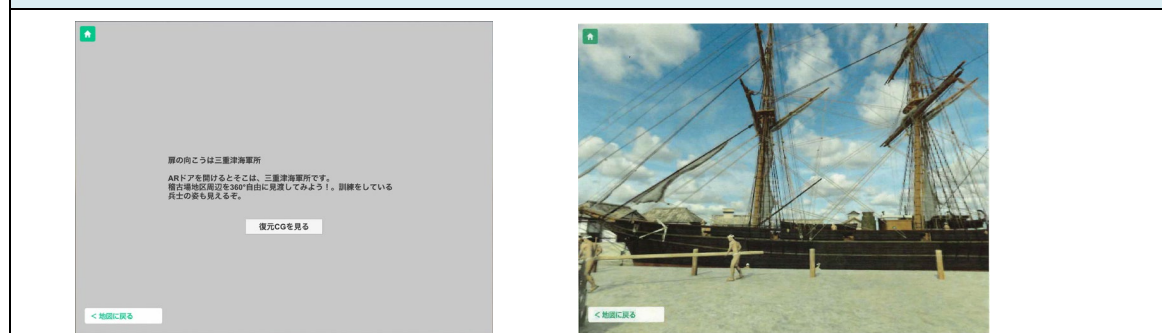
デジタルコンテンツの充実について

ビジターセンター及び現地ではデジタル技術を用いた公式ガイドシステムアプリ「れきナビ」を提供しており、展示内容に関する詳細解説を画像や動画、3DCG、テキストなどで提供するとともに、ビジターセンターと現地の相互補完情報を提供することで展示の連携を図っている。

○詳細解説機能



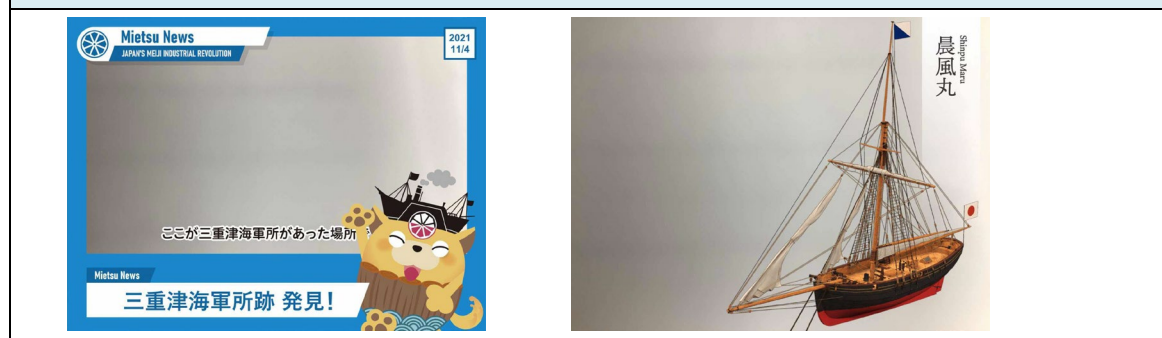
○デジタルコンテンツ



○館内外連携機能



○記念撮影機能



ビジターセンター等について

佐賀エリアでは、インタープリテーション戦略に則り、ビジターセンターを1か所、構成資産や産業分野の展示を行っている付属施設を1か所整備している。各施設では、地域コミュニティと連携し、地域の歴史的・文化的価値と調和しながら、本来の世界遺産価値の展示が一番際立つプレゼンテーションを行い、来訪者が資産の価値を理解しやすいような展示を目指している。

今後、インタープリテーション監査の指摘を踏まえ、また、産業遺産情報センターと連携しながら、膨大な一次史料のデジタル化やデジタルツールを駆使した展示の充実を図っていく。

【佐野常民と三重津海軍所跡の歴史館】

2021年9月25日にリニューアルオープンした三重津海軍所跡ガイダンス施設。館内では世界遺産全体の概要・価値及び構成資産としての三重津海軍所跡について紹介する共通展示を整備。その他、三重津海軍所跡の地下にあるドライドック木組遺構の一部を原寸大模型で再現し、大型スクリーンで当時の様子を解説している。

(公式HP) <https://sano-mietsu-historymuseum.city.saga.lg.jp/>



【佐賀県立佐賀城本丸歴史館】

(公式HP) <https://saga-museum.jp/sagajou/>

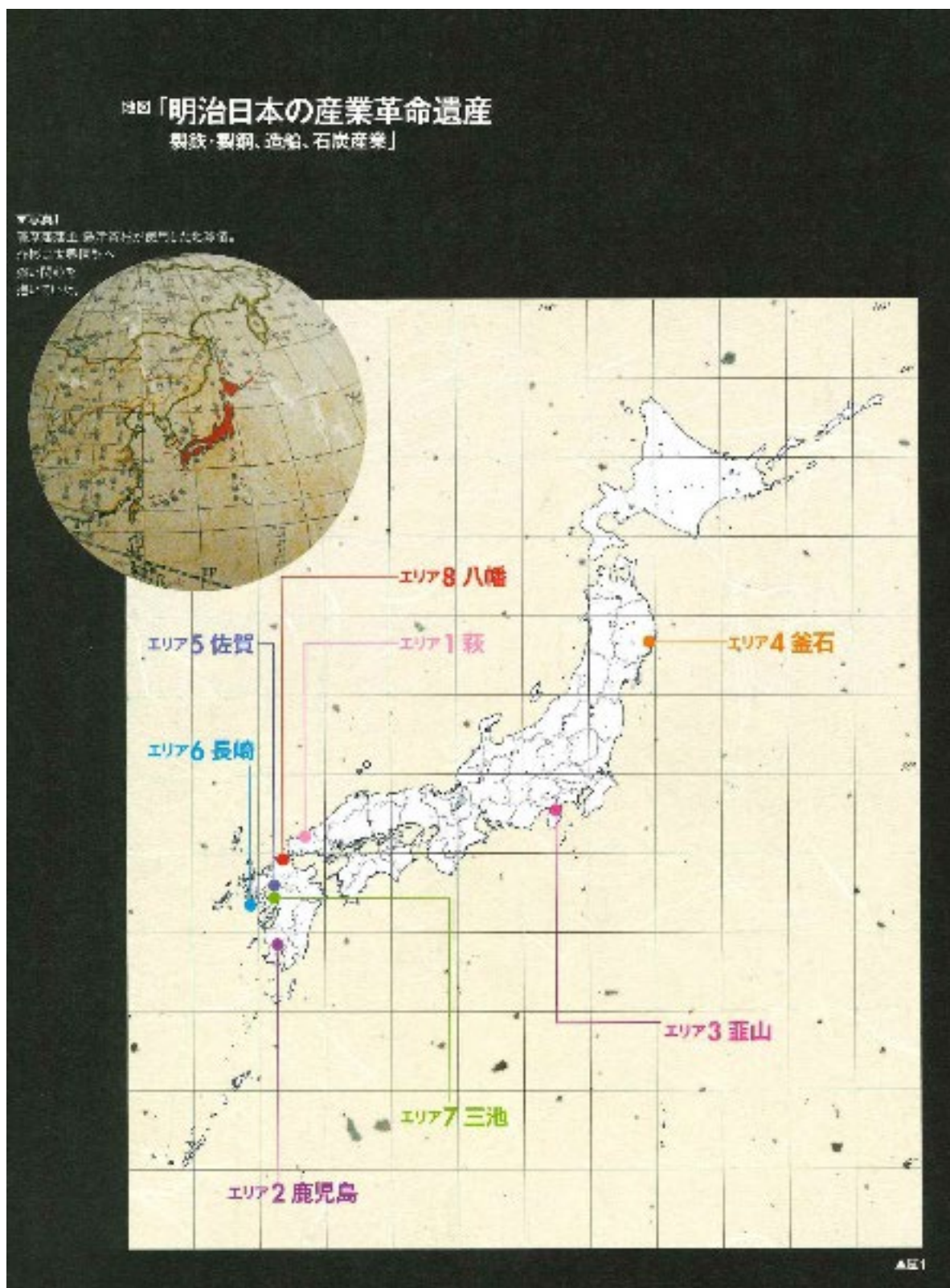


Area6 長崎

エリア別インタープリテーション計画

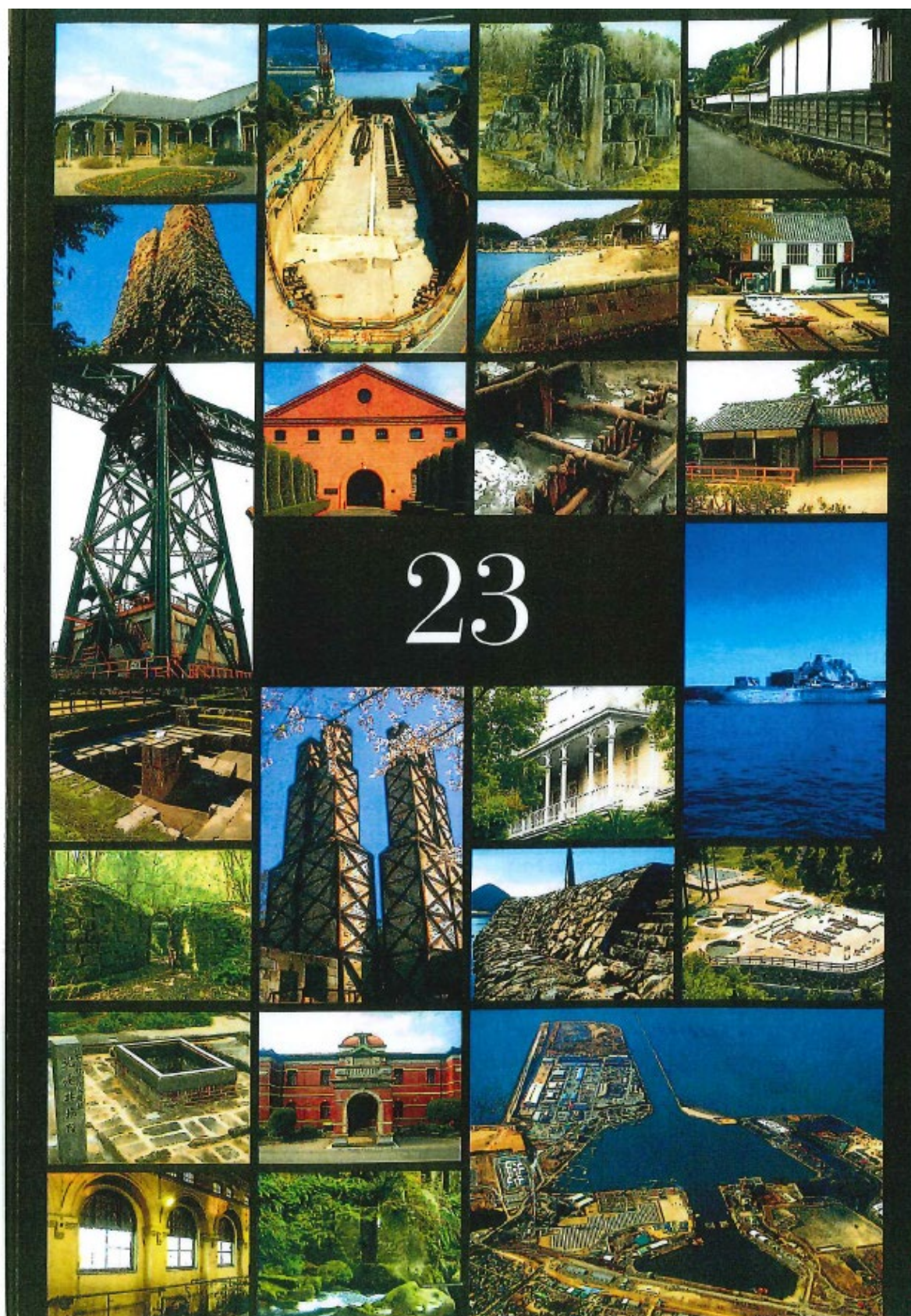


【エリア一覧】



【構成資産名】

エリア	サイト	ID	構成資産
エリア1 萩	1 萩の産業化初期の遺産群	1-1	萩反射炉
		1-2	恵美須ヶ鼻造船所跡
		1-3	大板山たたら製鉄遺跡
		1-4	萩城下町
		1-5	松下村塾
エリア2 鹿児島	2 集成館	2-1	旧集成館
		2-2	寺山炭窯跡
		2-3	関吉の硃水溝
エリア3 葦山	3 葦山反射炉	3-1	葦山反射炉
エリア4 釜石	4 橋野鉄鉱山	4-1	橋野鉄鉱山
エリア5 佐賀	5 三重津海軍所跡	5-1	三重津海軍所跡
エリア6 長崎	6 長崎造船所	6-1	小菅修船場跡
		6-2	三菱長崎造船所 第三船渠
		6-3	三菱長崎造船所 ジャイアント・カンチレバークレーン
		6-4	三菱長崎造船所 旧木型場
		6-5	三菱長崎造船所 占勝閣
	7 高島炭鉱	6-6	高島炭坑
		6-7	端島炭坑
	8 旧グラバー住宅	6-8	旧グラバー住宅
エリア7 三池	9 三池炭鉱・三池港	7-1	三池炭鉱・三池港
	10 三角西港	7-2	三角西港
エリア8 八幡	11 官営八幡製鐵所	8-1	官営八幡製鐵所
		8-2	遠賀川水源地ポンプ室



SITES OF
JAPAN'S
MEIJI INDUSTRIAL
REVOLUTION
IRON & STEEL, SHIPBUILDING
AND COAL MINING

Executive Summary

概要

「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」は、西洋から非西洋への産業化の波及を顕す遺産群により構成されている。19世紀半ばから20世紀の初頭にかけて、日本は工業立国の土台を築き、重工業（製鉄・製鋼、造船、石炭産業）分野において、急速な産業化を成し遂げた。産業化の歩みは、蘭書片手に試行錯誤での鉄製大砲鋳造への挑戦や、羊式船の模倣から始まった。次に、西洋技術を導入し、その運用により専門知識を習得した。明治の後期には、国内に人材が育成され、積極的に導入した西洋技術を、国内需要や社会的伝統に適合するように改善、改良を加え、産業化に応用した。日本は、非西洋諸国で初めて産業革命の波を受容し、植民地になることなく50年余りで、自らの手で産業化を成就した。「明治日本の産業革命遺産」は、世界史におけるたぐい稀な産業化の局面を証言する遺産群である。

評価基準の適用

評価基準 (ii)

「明治日本の産業革命遺産」は、日本が19世紀半ばから20世紀の初頭にかけて、産業化が進む西洋諸国からの技術移転を受け、技術の交流により変貌を遂げた特異なプロセスを証言する一連の遺産群である。極めて短期間に、西洋の産業革命が日本に移植され、また成就されたことは、産業化と技術の歴史において、地域的にも、時代的にも稀有なことである。西洋から伝播した技術が、伝統的な日本文化と融合し、国内の需要や社会的伝統に合わせて改善・改良され、日本の社会と経済を形づくり、やがて日本を世界の経済大国に押し上げる重工業の基盤を築いた。

評価基準 (iv)

「明治日本の産業革命遺産」は、製鉄・製鋼、造船、石炭産業といった重工業の基幹産業において、急激に変化した時代を象徴する技術の集合体の卓越した例であり、19世紀半ばから20世紀初頭にかけて非西洋諸国で初めて産業化を成就した変革の軌跡を示している。同時代の産業史の時間的・地域的枠組みにおいて類似性がなく、普遍的な意義を有する。これら一連の資産は、相互に関連する起源を持つ重工業の3つの産業分野において、代表的資産を統一的に包含しており、集合体として比類なき技術移転の証言である。

完全性の宣言

「明治日本の産業革命遺産」は、製鉄・製鋼、造船、石炭産業といった産業分野において、急速な産業化を成し遂げた道程を証言する遺産群であり、23の構成資産は、現存する唯一かつ希少な遺構として、全体で「顕著な普遍的価値」を有している。いずれの構成資産においても、資産の範囲に、「顕著な普遍的価値」に貢献する要素を、全て包含するように、境界線を設定した。

日本国政府は、内閣官房の下に構築した戦略的枠組みにおいて、構成資産を、劣化や開発の悪影響から守るため、管理の仕組みを用意した。全体としての資産の保全状態は良好であるが、中には継続の利用、もしくは、長期間放置された後、別の用途で活用をされ、その結果、物理的影響が及んだ遺構も含まれている。また完全性が担保されているものから、部分的に保全されているものまで、多種多様である。ただし後者の場合であったとしても、遺産群全体の完全性を顕すために求められている遺構が、手つかずのまま遺されている。考古学的資産の場合、これまでの十分な発掘調査の結果、将来の研究や展示のために必要な遺構の大半が、良好な状態で保存されていることが、確認されている。

また特に産業用の用途で、現在も生産の一翼を担う現役の産業設備においては、民間の管理者が、安全性確保のための定期点検の実施と、適切な維持管理を行うことにより、極めて高い水準の完全性を保持しており、稼働中の産業遺産として、全体の価値に貢献している。

真実性の宣言

顕著な普遍的価値に関する真実性について、西洋から非西洋への初めての、かつ急速な産業化の移転を顕し代表する、現存する産業遺産の集合体として、最も高い真実性を有している。

「形状・意匠」、「材料・材質」について、本資産の構成資産は重工業の産業分野における、西洋からわが国への技術移転のプロセスを説明する上で、必要不可欠な、オリジナルの形状と材質を保持している。構成資産の中には、断片的又は考古学的な遺構も含まれるが、いずれにしても、全体の資産の中で重要な産業要素については真実性が高い。構成資産の中には、長年、産業遺産の特徴を遺す史跡として管理されてきた遺構もあり、それらは実質的に高い真実性を有する重要な遺構である。それ以外の構成資産においては、「形状・意匠」及び「材料・材質」のみならず、オリジナルな用途での継続的使用と機能が維持されていることから極めて高い真実性を有している。

長崎エリアに関わる産業の歴史

長崎エリアは、世界文化遺産「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」の中で、「造船」及び「石炭産業」の第二段階「西洋の科学技術の導入」、第三段階「産業基盤の確立」の時代に係る記録を留める構成資産が分布するエリアとなっている。



内閣官房が平成29年11月30日に、保全状況報告書添付資料としてユネスコに提出したインタープリテーション戦略では、次のように記されている。

1.1 インタープリテーション計画（抜粋）

(1) 全ての構成資産で一貫した顕著な普遍的価値（OUV）の共通展示を展開
インタープリテーション戦略に基づき、全ての構成資産に一貫した顕著な普遍的価値の共通展示を実施する。全ての関係者が方針に合意し、ブランド感のある世界遺産スタイルで統一的に展示をコーディネートし、実施する予定である。

(2)・(3) 労働者に関する情報収集を含む各サイトの歴史全体に関する進捗

内閣官房の「稼働資産を含む産業遺産に関する有識者会議」の委員、「明治日本の産業革命遺産」の登録に関わるイコモス査定に関与した国際ヘリテージの専門家、「インタープリテーションとプレゼンテーションに関する国際イコモス学術委員会」委員長他の助言により、以下の4つの方針が示された。

1) 顕著な普遍的価値のインタープリテーションに重点を置く：世界遺産の本来の目的に従い、各サイトにおいて、登録された資産の顕著な普遍的価値を、他の関連する問題と混同せずに明確に説明する。その上で、勧告g）を履行する。

※g）推薦資産のプレゼンテーションのためのインタープリテーション（展示）戦略を策定し、各構成資産がいかに顕著な普遍的価値に貢献し産業化の1又は2以上の段階を反映しているかを特に強調すること。また、各サイトの歴史全体についても理解できるインタープリテーション（展示）戦略とすること。

2) P. 81 に記載された顕著な普遍的価値の対象期間（1850年代から1910年まで）以外の各サイトの「歴史全体」の範囲は、1850年代以前と1910年から現在までの2つに分けられる。いずれにおいても各構成資産の背景の理解を補足する地域的な価値を念頭に「歴史全体」の範囲を絞り込む。さらに、各構成資産が立地するエリアにおける歴史全体のインタープリテーションについては、一次史料の収集や証言収録など質の高い調査を実施し、適宜、適切なメディアを通じていずれかの段階において公表する。

インタープリテーション戦略に則り、各エリアの構成資産及びビジターセンター等におけるインタープリテーションの現状について、世界各国の産業遺産及びそのインタープリテーションに精通した海外専門家による監査を、複数回（平成29年、令和元年）実施した。

その結果、監査者である ICOMOS メンバーのバリー・ギャンブル氏からは、長崎エリアに関して次のような評価を受けている。

- ・ 提案されている「長崎地域センター」をグラバー園の旧三菱第2ドックハウスに置き、「共通展示」を行うことが妥当である。この施設は、年間100万人を超える現在の来場者の受け入れに適している。グラバー邸に隣接する公園内の他の建物および広大な敷地と合わせれば、多くの人を容易に収容することができる。
- 2年以内に完了予定の現行保全工事と並行して、グラバー邸のインタープリテーション計画を策定することが望ましい。この2つの場所の設計およびインタープリテーション開発に向け、引き続き助言させていただきたい。
- 内容と日程がある程度重なっているため、長崎と佐賀の開発案を並行して計画することにはメリットがある。
- 長崎造船所史料館においては、造船所の歴史と、世界遺産全体の一部としてのその役割についての明確なインタープリテーションとプレゼンテーションが行われている。この施設の来館者数は増やせる可能性があるが、ただし、このサイトは現在も稼働しているため、会社が入場を管理する必要がある。
- 長崎市高島石炭資料館は、ブランドの認知度を高め、関連性のある展示内容をさらに取り入れるとともに、長崎エリアの他の構成資産との連携を通じて注目を集め、来場者数を増やすことにより、世界遺産との関連性をさらに強化されたい。これについては、世界文化遺産部（World Cultural Heritage Division）が助言を行うことができる。

長崎エリアにおいては、これまで地区別協議会において本インタープリテーション計画について協議を行ってきた。

今後は、上記の指摘も踏まえ、まずは産業遺産情報センターと連携し、旧三菱第2ドックハウスにおいて共通展示を導入し、地域の歴史的・文化的価値と調和しつつ世界遺産価値をより反映した展示を展開していくことに注力することとする。

旧グラバー住宅については、保全工事を完了し、より充実したインタープリテーションを実施している。その他、長崎造船所史料館、長崎市高島石炭資料館に関する指摘も踏まえ、他の資産との関連性を意識したインタープリテーションを進めていくこととする。

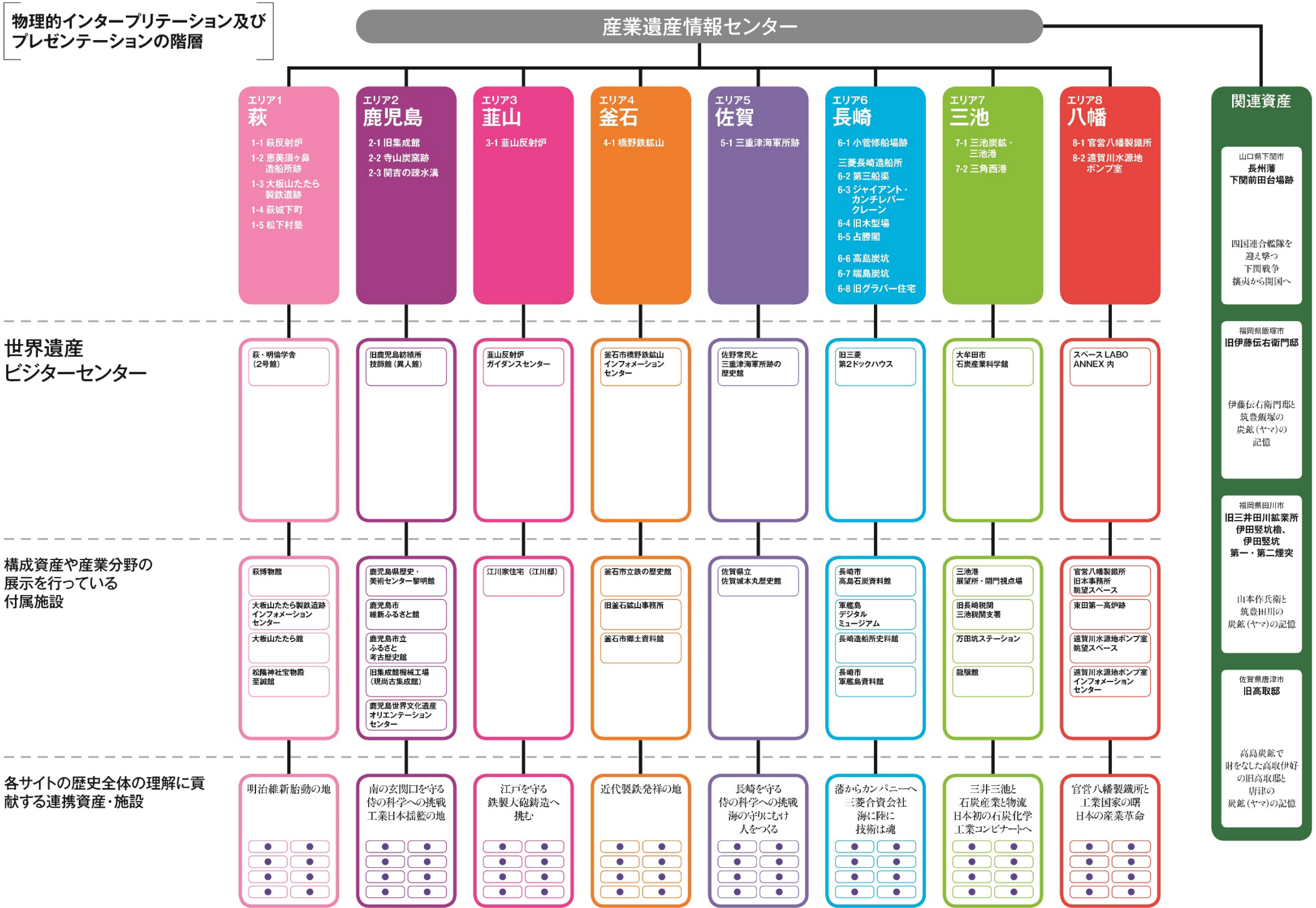
地区別協議会において本計画の実施状況を点検しながら、適宜改善に向けた検討を行う。



地区別協議会の様子

物理的インタープリテーション及びプレゼンテーションの階層

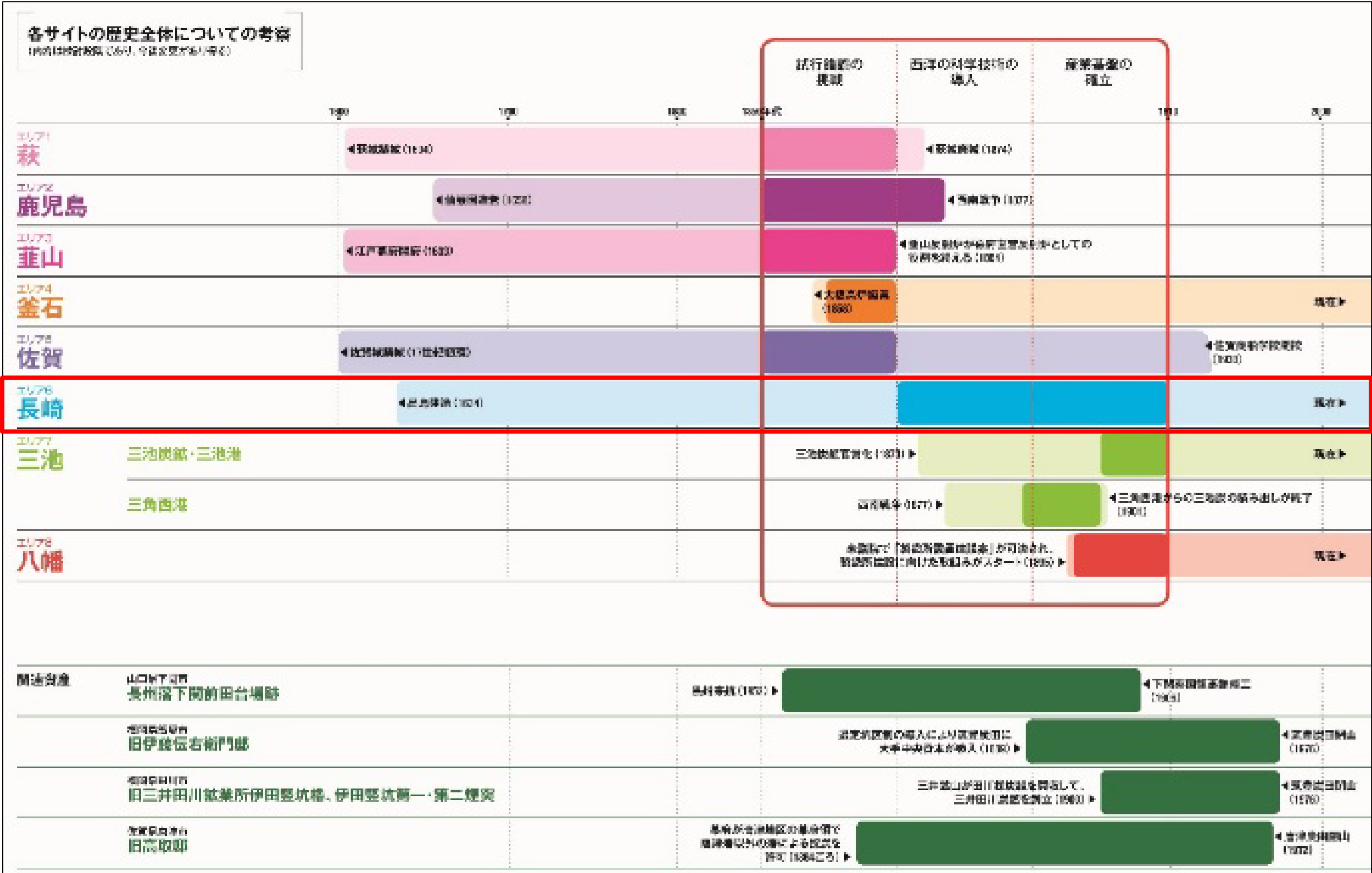
産業遺産情報センターと各地のビジターセンターが連携して、明治日本の産業革命遺産の顕著で普遍的な価値を効果的に発信できるような体制を構築していく



関連資産：平成 21 年 1 月 5 日にユネスコの世界遺産暫定一覧表に記載された段階で構成資産候補であったものであり、世界遺産登録された「明治日本の産業革命遺産」と一体的に活用を図る産業遺産。(その当時の時代背景や社会情勢を知ることができる貴重な資産)

「各サイトの歴史全体」についての考察

内閣官房が平成29年にユネスコに提出したインタープリテーション戦略では、下図のとおり各サイトの歴史全体の考察について、記されている。



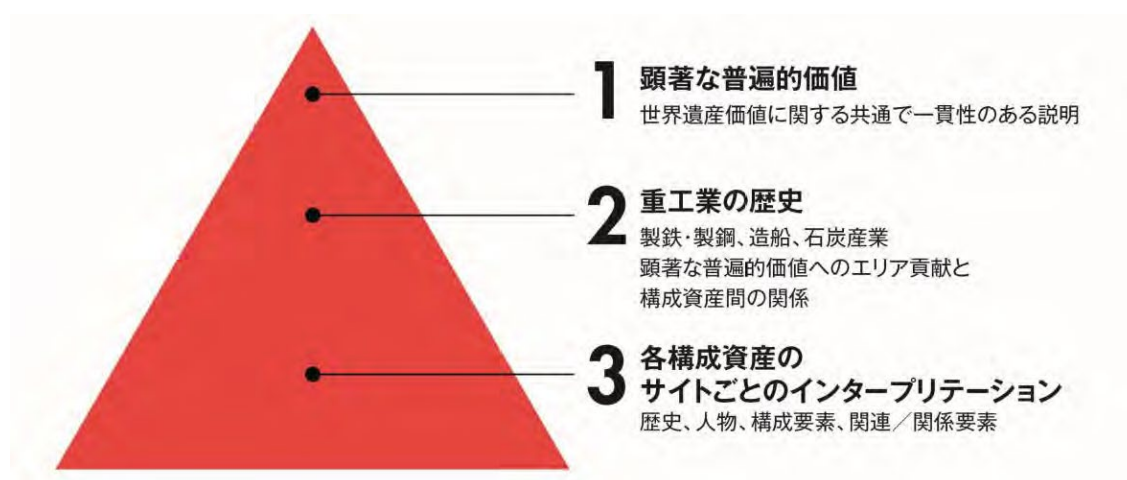
本エリアにおけるインタープリテーション

インタープリテーション戦略の考え方

インタープリテーション戦略では、インタープリテーションとプレゼンテーションの概念について、次のとおり図解されている。

本エリアのインタープリテーションにおいても、インタープリテーション監査において指摘された課題を解決するため、これに則って取組を展開することとする。

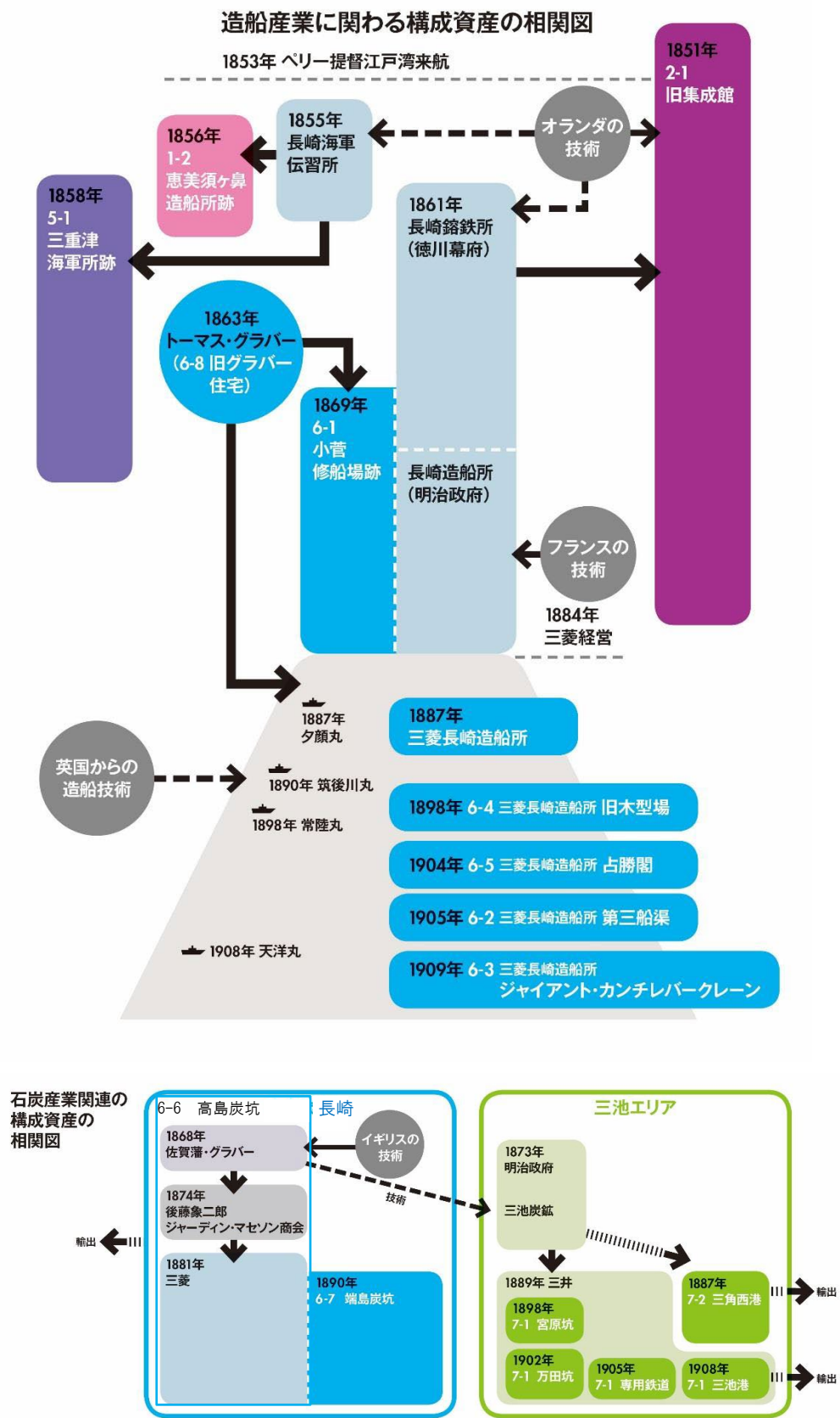
「明治日本の産業革命遺産」のインタープリテーション及びプレゼンテーション：価値とテーマの階層



産業遺産情報センター並びに各地のビジターセンターにおいて、顕著な普遍的価値はインタープリテーションの最上位に位置する。これは、エリアや構成資産独自の歴史など地域や産業固有の展示解説に優先する最上位のテーマとなる。これにより、上図に表された1. 顕著な普遍的価値、2. 重工業の歴史、3. 各構成資産のサイトごとのインタープリテーションが、資産全体で一貫してプレゼンテーションされることになる。

ローカル・ビジターセンターにおけるインタープリテーションの流れ インタープリテーションの階層





リキッドギャラクシー等を使用した展示

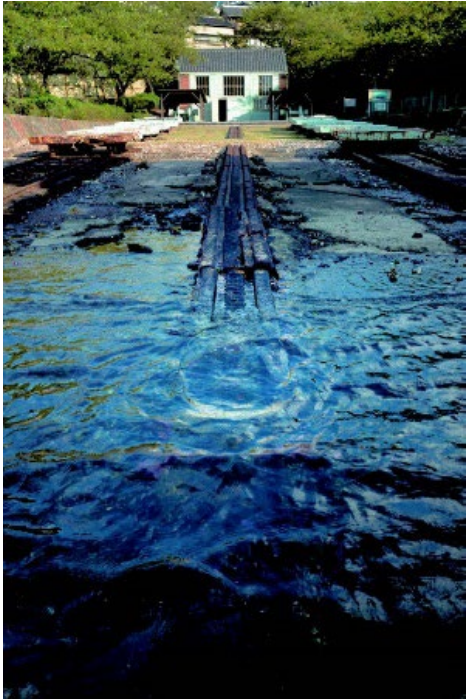
インタープリテーション戦略に基づき令和2年3月に設置された産業遺産情報センターでは、世界遺産としての顕著な普遍的価値の対象期間(1850年代から1910年まで)に加え、「各サイトの歴史全体についての考察」として示された図を参考に、体感型マルチディスプレイを活用し、各エリアの構成資産の歴史や変遷、暮らしなどについて映像で解説するなど、資産の変遷や世界遺産価値への貢献、歴史全体を体感的に理解できるような展示を行っている。

本エリアにおいても、産業遺産情報センターと連携しながら、将来的に体感型マルチディスプレイで様々なコンテンツを見られるようにするなど、インタープリテーションの充実を図っていく。あわせて、産業遺産情報センターや本エリアのビジターセンターにおいて収集した資料のデジタルアーカイブを構築した上で、順次インタープリテーションツールに反映していくことを検討する。



本エリアにおける構成資産

本エリアにおける構成資産は、全部で8つあり、大船建造の禁が解かれた後の「造船」及び「石炭産業」に関する遺産となっている。いずれも、明治維新の中心的雄藩の1つである土佐藩の開成館に勤務した藩士岩崎彌太郎と、グラバーにゆかりを有している。

関連する産業：造船	
構成資産の名称：小菅修船場跡 (構成資産の概要) 長崎港において薩摩藩とグラバーの合弁で建設。日本最古の蒸気機関を動力とする曳揚げ装置を備えた洋式船台。明治政府の買収後は三菱所有。曳揚げ機小屋は現存する日本最古のコンニャク煉瓦が建材に使われる。	
関連する産業：造船	
構成資産の名称：第三船渠 (構成資産の概要) 三菱合資会社時代に建設された大型乾船渠。背後の崖を切り崩し前面の海を埋め立て拡大。開渠時に設置された英国シーメンス社製の電動機で駆動する排水ポンプは現在も稼働。三菱合資会社の当時の姿を留める貴重な資産。	

関連する産業：造船	
構成資産の名称：ジャイアント・カンチレバークレーン	
（構成資産の概要） 三菱合資会社時代、設備電化に伴い同型としてわが国に初めて建設された英国アップルビー社製電動クレーン。大型船舶用装備品の吊上荷重に耐え電動モーターで駆動する等当時最新。現在も製品の船積み等に使用。	
関連する産業：造船	
構成資産の名称：旧木型場	
（構成資産の概要） 三菱合資会社時代の木型場。鋳物製品の需要増に応じ建設。木骨煉瓦造二階建てで鋳型製造の木型を製作。1985 年長崎造船所の歴史を紹介する「史料館」として生まれ変わり、現在は同造船所が一般公開している唯一の施設。	
関連する産業：造船	
構成資産の名称：占勝閣	
（構成資産の概要） 三菱合資会社時代、第三船渠を見下ろす丘に建設された木造二階建て洋館。長崎造船所長荘田平五郎邸として完成したが迎賓館に。完成翌年「風光景勝を占める」との意で占勝閣と命名。現在も造船所の迎賓館として使用されている。	

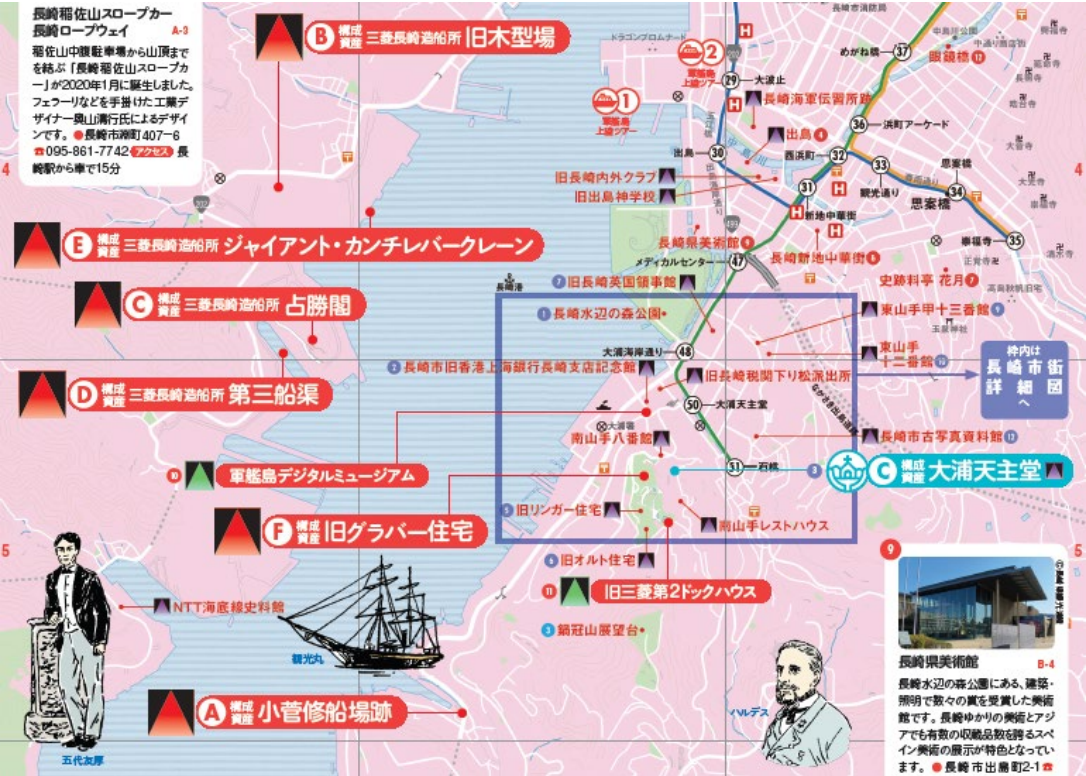
関連する産業：石炭産業	
構成資産の名称：高島炭坑	
(構成資産の概要) グラバーは佐賀藩と合併で西彼杵海洋炭田の高島炭鉱を開発、日本で最初に蒸気機関を導入した。1881 年高島は三菱の経営傘下に入る。三菱はグラバーを再雇用、炭鉱経営を軌道に乗せた。	
関連する産業：石炭産業	
構成資産の名称：端島炭坑	
(構成資産の概要) 三菱合資会社が所有し、高島炭鉱の主力坑として石炭需要を賄った。現在は坑口等の生産施設跡、数次にわたり拡張された海岸線を示す護岸遺構、文化財価値を有するコンクリート高層住宅群などが残存。	
関連する産業：造船、石炭	
構成資産の名称：旧グラバー住宅	
(構成資産の概要) スコットランド出身商人 T・グラバーの活動拠点。彼は維新の志士と関わり明治維新の触媒となり、企業人としても石炭・造船分野で日本の近代化の先駆けとなり、小菅修船場や高島炭坑において事業化を推進し産業発展に貢献した。	

世界遺産記念銘

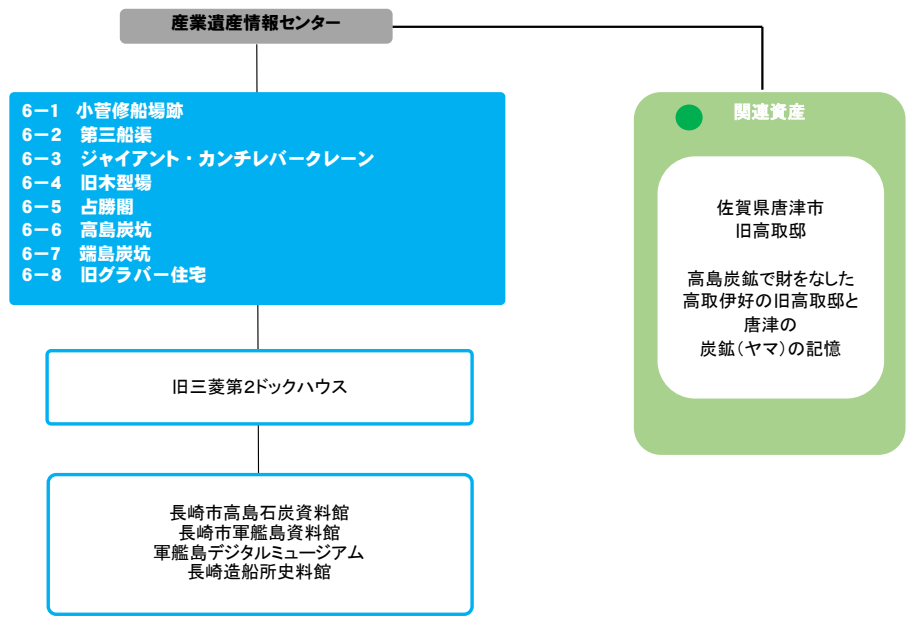
ユネスコのガイドラインに則り、各構成資産には、来訪者に当該遺産の顕著な普遍的価値を適切に周知するため世界遺産登録記念銘を設置している。



長崎エリア インタープリテーション施設分布



長崎エリア 階層図



アクセスガイドマップ

各エリアの構成資産のアクセスガイドマップは、日本語版の他に英語版も作成されており、来訪者に無料で配布されている。長崎エリアのマップについては、中国語版（簡体字）及び韓国語版が12月初旬に発行予定となっている。本マップは、各エリアの構成資産についてのオリエンテーションとして、訪問者ができるだけエリア内の構成資産等を数多く訪問できるよう構成されている。

また、スマートフォン向けアプリと連動し、AR機能を活用して非公開資産の3Dモデルや動画、360度映像を表示するなど、アクセス不可の資産における情報発信においても活用できるものとなっている。



インフォメーションカウンター

行政機関や空港に設置しており、アクセスガイドマップ等の配布を行っている。



長崎市役所



長崎空港

ガイドマップ配布箇所及び配布部数

アクセスガイドマップの配布箇所及び配布部数は以下のとおりとなっている。

全体MAP		長崎MAP	
配布総数	177,762	配布総数	43,820
日本語 & 英語	177,762	日本語	43,820
主な配布先	配布部数	主な配布先	配布部数
行政機関	300	行政機関	14,605
空港	550	空港	1,300
ホテル	50	ホテル	1,600
レンタカー	100	レンタカー	100
JR（鉄道）	600	JR（鉄道）	800
観光案内所	700	観光案内所	731
道の駅	4,400	道の駅	700
NEXCO	168,500	NEXCO	6,800
公益・財団・社団法人	550	公益・財団・社団法人	850
その他	2,012	その他	16,334
JR九州 博多駅総合案内所		グラバー園	
西日本高速道路リテール株式会社		やまさ海運株式会社	
西日本高速道路サービスホールディングス		軍艦島デジタルミュージアム	
風月フーズ株式会社		三菱重工業株式会社	
福岡国際空港株式会社		株式会社JTB	
長崎空港		地域交流センター なかまガイドの会	
鹿児島県立図書館		株式会社シーマン商会	
JR鹿児島中央駅観光案内所		長崎歴史文化博物館	
北九州市観光コンベンション協会		福岡市観光案内所	
大村市役所産業振興部		博多駅観光案内所	
JR宮崎駅観光案内所		福岡空港	
		長崎空港	

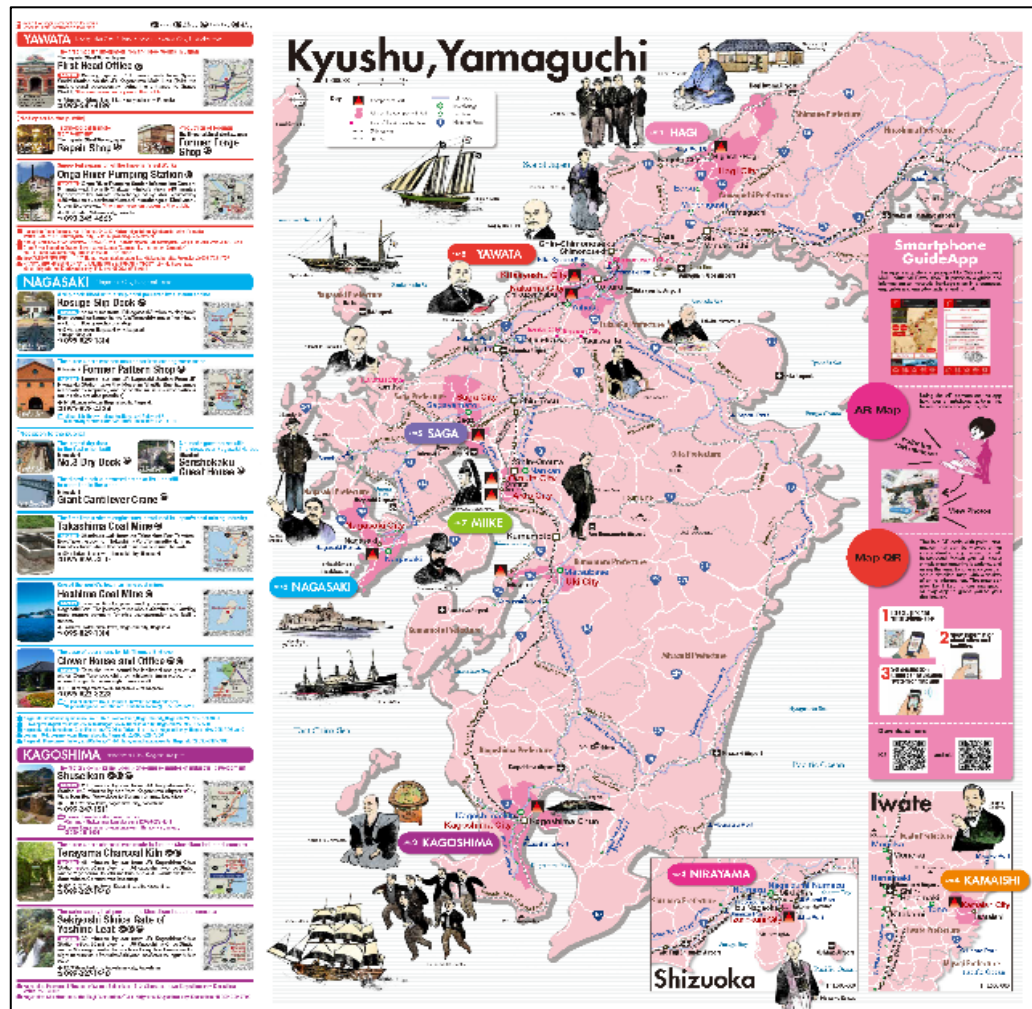
全エリア累計総配布部数

464,025

世界遺産ルート

インタプリテーション戦略に基づき、推薦書の 395～396P にもあるとおり、世界遺産を全体として理解するためのガイダンスと観光インフラを提供する「世界遺産ルート推進協議会」が設立された。同協議会は、23の構成資産から成る世界遺産価値を理解できるよう、地図とアプリ、GPS ナビゲーション、「明治日本の産業革命遺産」の普及を促進するための統一ロゴを使用した道路標識の設置等により、全ての構成資産や関連遺産に来訪者を誘導している。

今後も、推薦書やインプリテーション計画に基づき、着実に取組みを実施していく。





推薦書 P396 掲載図



世界遺産ルート協議会の様子

統一ロゴを使用した道路標識等の設置について

道路標識の設置状況

設置場所	設置済み数
長崎市	20

道路標識写真



統一ロゴ道路標識設置場所一覧



カーナビ（デンソーナビ）との連携

カーナビに目的地を転送できるスマホアプリとの連携の例



スマホから直接カーナビに目的地を送信可能



使用方法についての動画を YouTube に掲載



アプリの活用

詳しいストーリーと説明、歴史的背景、動画、CG 等を使用して「明治日本の産業革命遺産」を紹介している。ゲームや AR カメラを利用することでポイントが貯まり、お土産などのクーポンとして使用できるなど、世界遺産価値への理解を深めるとともに世界遺産ルートのツアーへの還元が可能な仕組みとなっている。スマートフォン向けアプリは、多言語（日本語、英語、韓国語、簡体・繁体中国語、ベトナム語）に対応している。



現地カメラ (CG)



長崎造船所の CMP

In addition to physical inspection of the Former Pattern Shop and via harbour cruises, MHI will, provided that there are no commercial issues, cooperate with a proposal presented by the Scottish Government and Japanese Government in a Joint Venture which will : 1) Digitally document, using laser scanning technology, Giant Cantilever Crane, producing a 3D model of the structure which can be used as an accurate baseline record : 2) Through the production of the 3D model, enable the monitoring and analysis of the fabric of the crane as it continues to operate within the shipyard, thereby supporting its long-term conservation; , 3) Increase public awareness, interest and education through visual presentation, including the provision of virtual public access using the 3D model; and 4). Build capacity through sharing experience and expertise in digital documentation and conservation technologies.

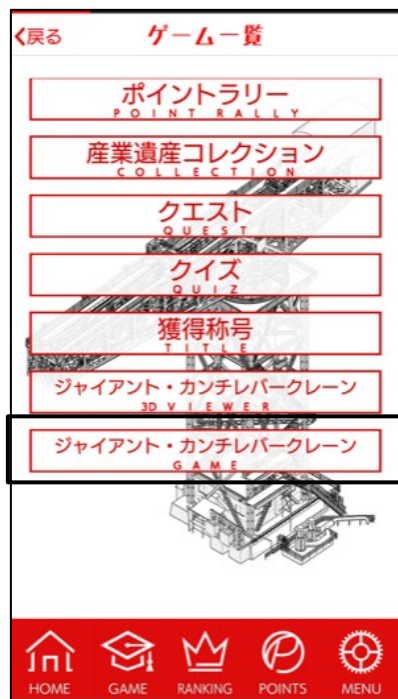
【日本語訳】

MHI は、旧木型場の实地調査や港湾クルーズに加え、商業的な問題がなければ、スコットランド政府と日本政府が提案するジョイントベンチャーに協力し、1) ジャイアント・カンチレバークレーンをレーザースキャン技術でデジタル記録し、正確な基準記録として使用可能な構造物の 3D モデルを作成、2) 3D モデルの作成を通じて、造船所内で稼働しているクレーンの構造を監視・分析し、長期的な保全を支援する。3D モデルの作成を通じて、造船所内で稼働中のクレーンの構造のモニタリングと分析を可能にし、その長期的な保全を支援する、3) 3D モデルを使った仮想訪問の提供を含むビジュアルプレゼンテーションを通じて、一般の認識・関心・教育を高める、4) デジタル・ドキュメンテーションや保存技術に関する経験や専門知識を共有することにより、能力を向上させる。

構成資産の中には、稼働中であるため一般公開していないものがあるが、来訪者はそれらの構成資産をアプリで見ることができる。本エリアにおいても、ジャイアント・カンチレバークレーンや三菱長崎造船所第三船渠は一般公開されていないが、スキャンデータによる映像により、資産を細部までみて理解を深めることができる。これらのアプリを使用した展示戦略はユネスコに提出した管理保全計画に基づいて進めており、同様にアクセス不可の資産における情報発信においても活用できるものである。

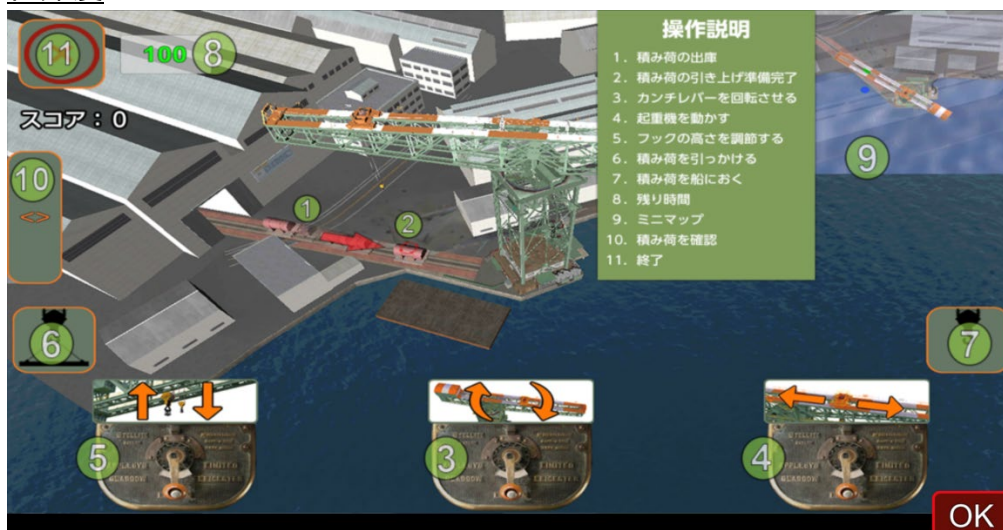
CMP に記載されているデジタルアクセスの増加を目指した取り組み例

○ジャイアント・カンチレバークレーン シミュレーションゲーム



低難度と高難度を選択可能

低難度



高難度



水辺の森公園から、ジャイアント・カンチレバークレーンを見渡すことができる。現地で AR カメラを起動することで、動画が再生される。



○ジャイアント・カンチレバークレーン シミュレーター

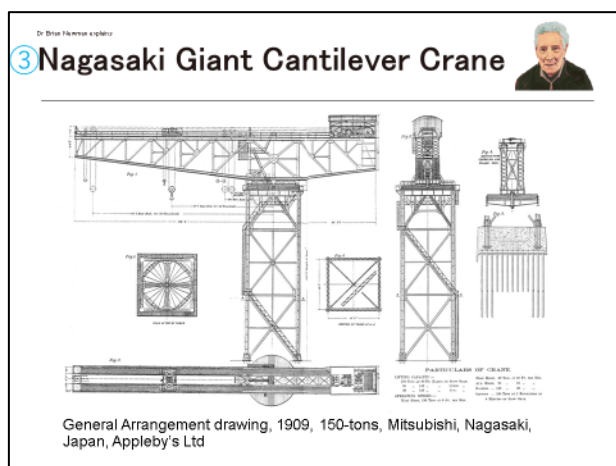
3D 計測データを活用し、アプリ上でクレーンの構造などを詳細に体験できる。
GPS と連動し、構成資産周辺でのみ体験可能な機能として資産への来訪を促進。



非公開資産はビューポイントを設置し、
3D モデルと連動させることで理解促進に繋げる！



産業遺産情報センターでは、ブライアン・ニューマン博士のジャイアント・カンチレバークレーンに関する解説を展示している。本エリアにおけるジャイアント・カンチレバークレーンに関する展示と合わせ、国際的な最良の慣行によるインタープリテーションとなるよう、総合的な取組みを進めている。

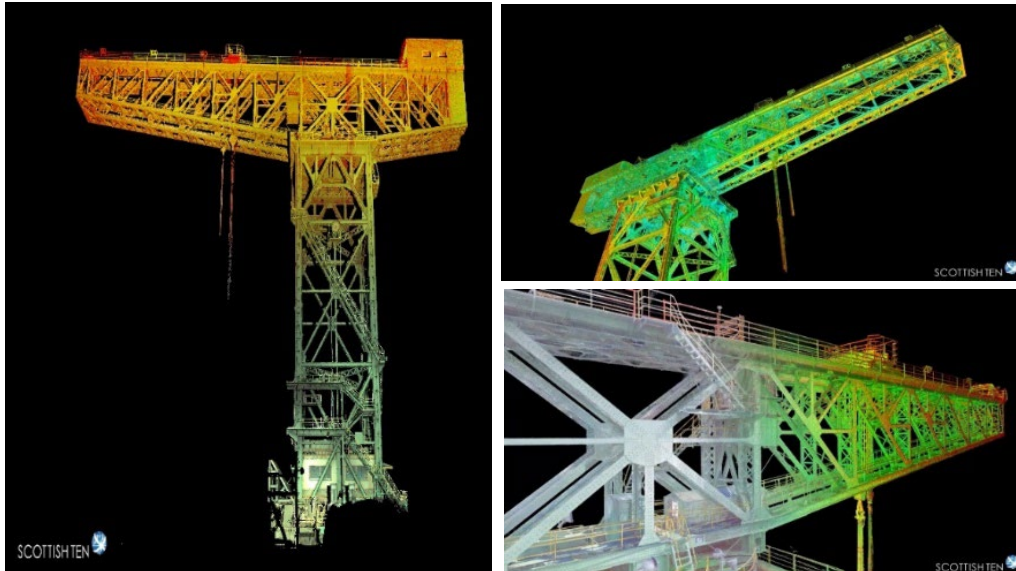


スコティッシュ 10 によるレーザースキャンデータの活用について

このプロジェクトは、2009 年末にスコットランドの当時 5 つの世界遺産とさらに 5 つの国際遺産をデジタルで記録し、その保存と管理、その解釈と仮想アクセスに役立つ正確な 3D データを作成するために着手されたものである。

スコティッシュ 10 の 3D デジタル・ドキュメンテーションで、長崎のジャイアント・カンチレバークレーン、長崎造船所第三船渠、小菅修船場跡及び端島のレーザースキャンが行われ、このデータが世界遺産の公式アプリのコンテンツとして搭載され、サイトへの仮想訪問の提供に活用されている。また、本データは今後の保全管理や補修にも活用していく予定である。

ジャイアント・カンチレバークレーンのレーザースキャン画像



端島のレーザースキャン画像



○三菱長崎造船所第三船渠における 3D モデル活用取組（予定）

アクセス不可な第三船渠において、船舶が入渠する様子をアプリ上で体験し、構成資産の機能に関する情報発信ならびに理解周知を図る。

（小菅修船場においても同様のシステムを構築予定）

3D の全貌確認



LINE の活用

アプリで取得したポイントはクーポンに交換可能。



LINE の登録を促す POP を作成し、駅やインフォメーションセンターなどに置いて誘導している。



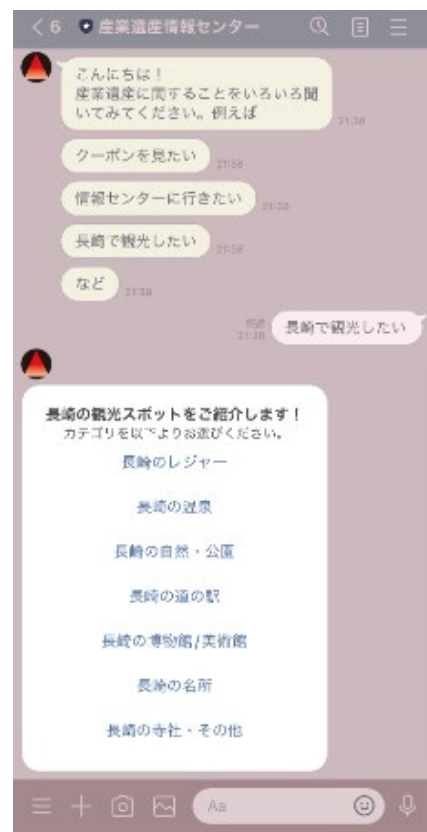
LINE を入り口として、既存ガイドアプリの活用や訪問地域の店舗で利用可能なクーポン情報等、位置情報に基づき利用者の状況に適した双方向のコミュニケーションを実現している。多言語にも対応し、訪日外国人をサポートする。



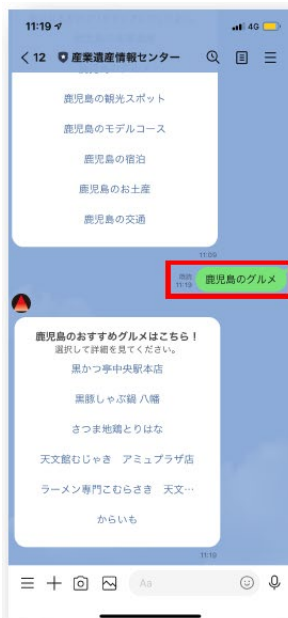
LINE の機能（例）



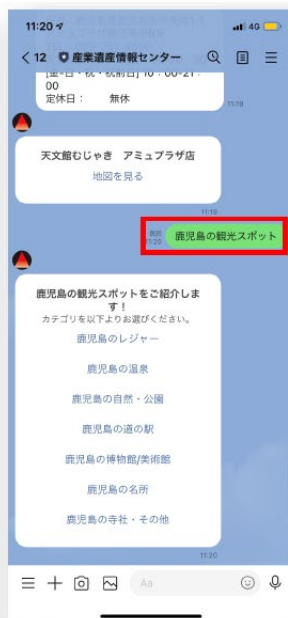
モデルコース紹介



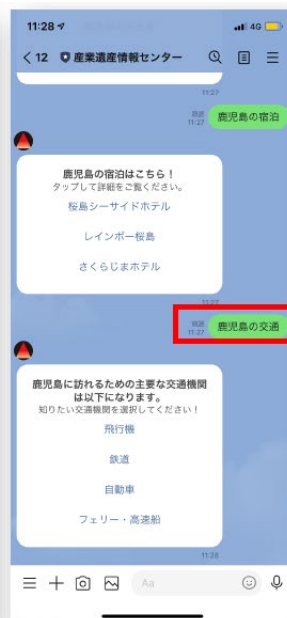
AI チャットボット機能



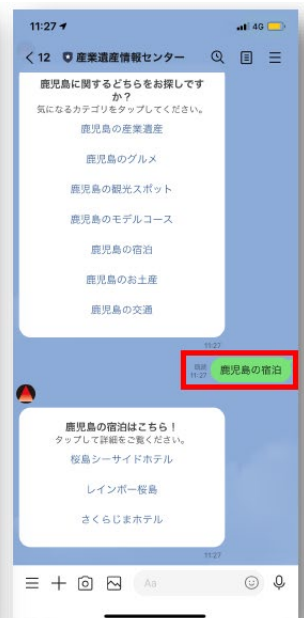
グルメ情報



観光スポット



交通情報



宿・ホテル情報

デジタルサイネージの機能

産業遺産情報センターにデジタルサイネージを設置し、地域版ガイドマップや産業遺産の周遊ルートや観光の情報を掲示し、各サイトへの周遊観光を促す仕組みを構築している。AIチャットボットも搭載し、周遊ルートや観光に関する質問にもリアルタイムで幅広く対応している。



ビジターセンター等について

長崎エリアでは、インタープリテーション戦略に則り、ビジターセンターである旧三菱第二ドックハウス等5つのインタープリテーション施設が整備されている。各ビジターセンター等では、地域コミュニティと連携し、地域の歴史的・文化的価値と調和しながら、本来の世界遺産価値の展示が一番際立つプレゼンテーションを行い、来訪者が資産の価値を理解しやすいような展示を目指している。

今後、インタープリテーション監査の指摘を踏まえ、また、産業遺産情報センターと連携しながら、膨大な一次史料のデジタル化やデジタルツールを駆使した展示の充実を図っていく。

【参考】世界遺産登録時に端島でプロジェクションマッピングを実施



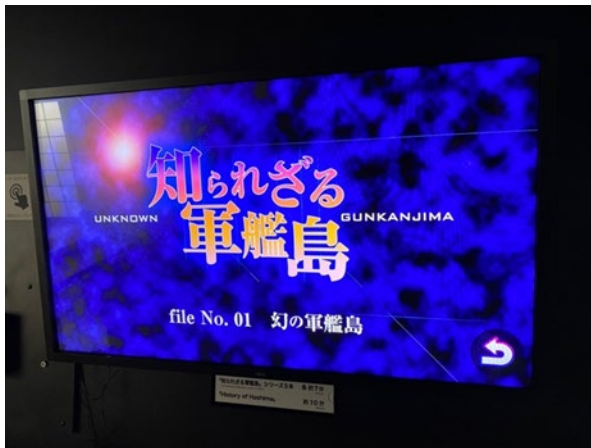
【軍艦島デジタルミュージアム】

かつての島民の生活の様子や上陸ツアーで見ることはできない立入禁止区域などを、最新のデジタル技術を用いたVR、巨大スクリーンによるプロジェクションマッピング等で体感することができる多様な展示を行っている施設。

巨大スクリーンによるプロジェクションマッピング



テーマごとの動画コンテンツ（「知られざる軍艦島」シリーズ）

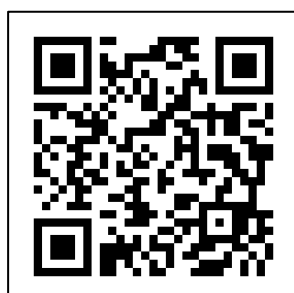


地域コミュニティと連携し、端島の1次資料を撮影したデジタルデータを用い、ここでしか見られないデジタルコンテンツとして展示



VR 映像

デジタルミュージアム HP



住居棟など立入禁止区域にある建物内部までドローンで撮影しており、その映像をVRで体感することができる。



上空からの写真



30 号棟内部写真

【旧三菱第2ドックハウス】

本施設は長崎エリアのビクターセンターであり、観光客がアクセスしやすい構成資産の一つである旧グラバー住宅が所在するグラバー園の中にある。令和4年度に展示内容の検討を行い、令和5年度以降、歴史全体の展示を含めて、順次整備していく予定である。



【長崎市高島石炭資料館】

高島炭鉱がかつて操業していた頃に、坑内・坑外で使用していたトロッコ・炭車・採炭機械などを展示している。



【長崎市軍艦島資料館】

端島炭坑（通称：軍艦島）の歴史や文化、日本の近代化に貢献した役割などについて、パネルや映像などで展示している。



【長崎造船所資料館】

長崎造船所が日本の近代化に果たした役割を永く後世に残そうと、1985年10月に開設した。日本最古の工作機械や海底調査用潜水器具の泳気鐘、日本初の国産蒸気タービンなど技術の進歩を物語る珍しい品々のほか写真等で長崎造船所の歴史的変遷を紹介している。



モニターツアー



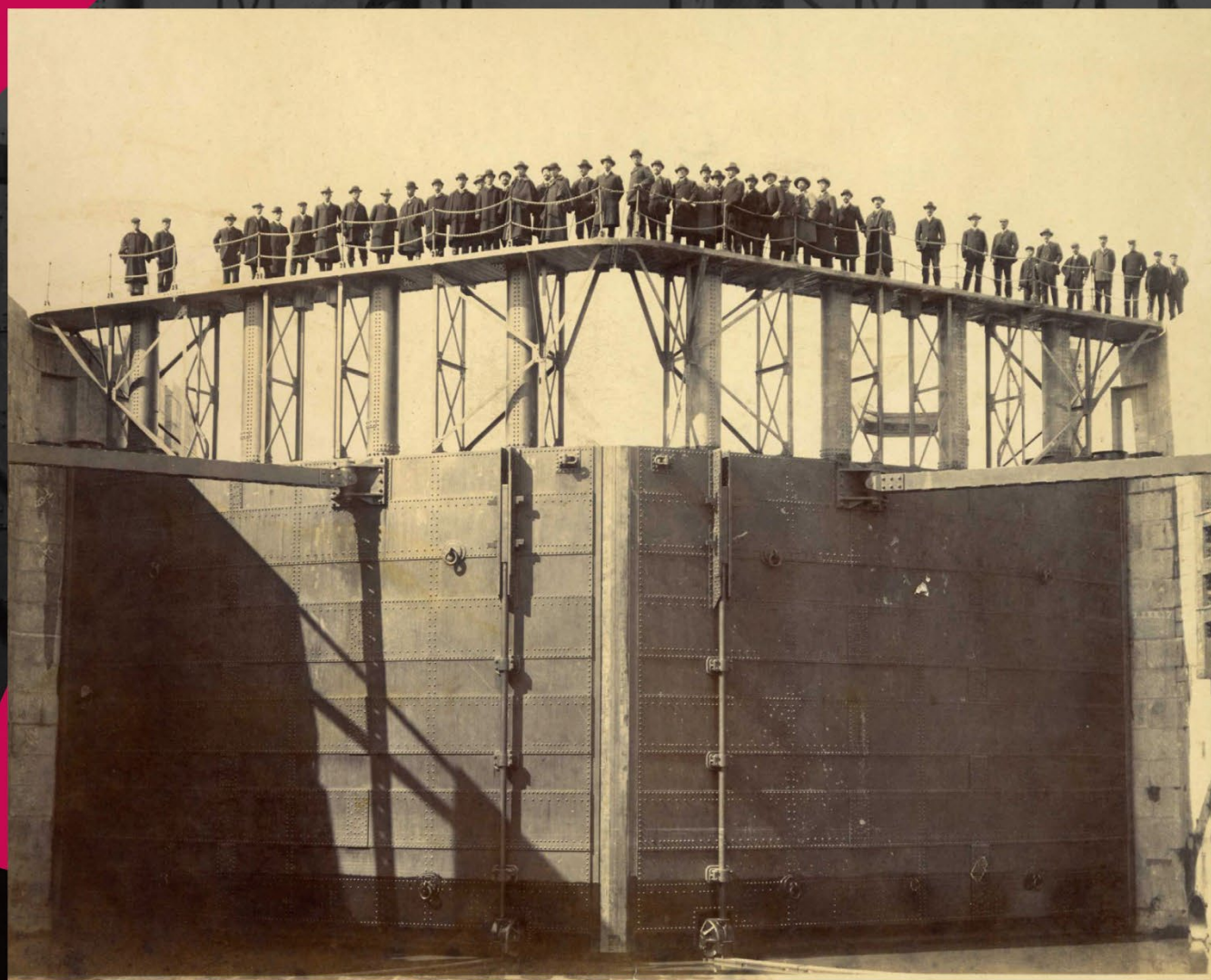
子ども向け学習プログラム

小菅修船場跡

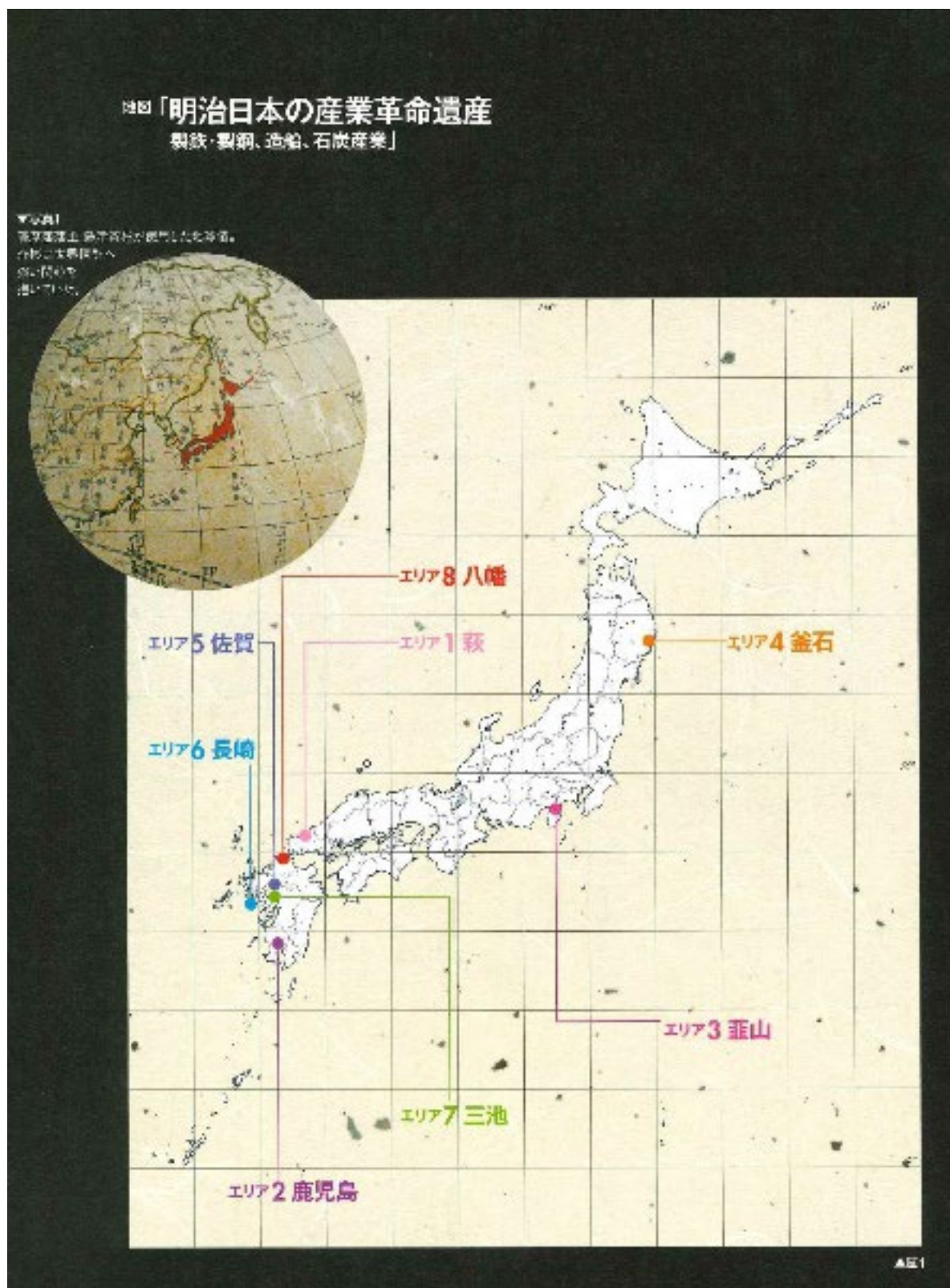


Area7 三池

エリア別インタープリテーション計画

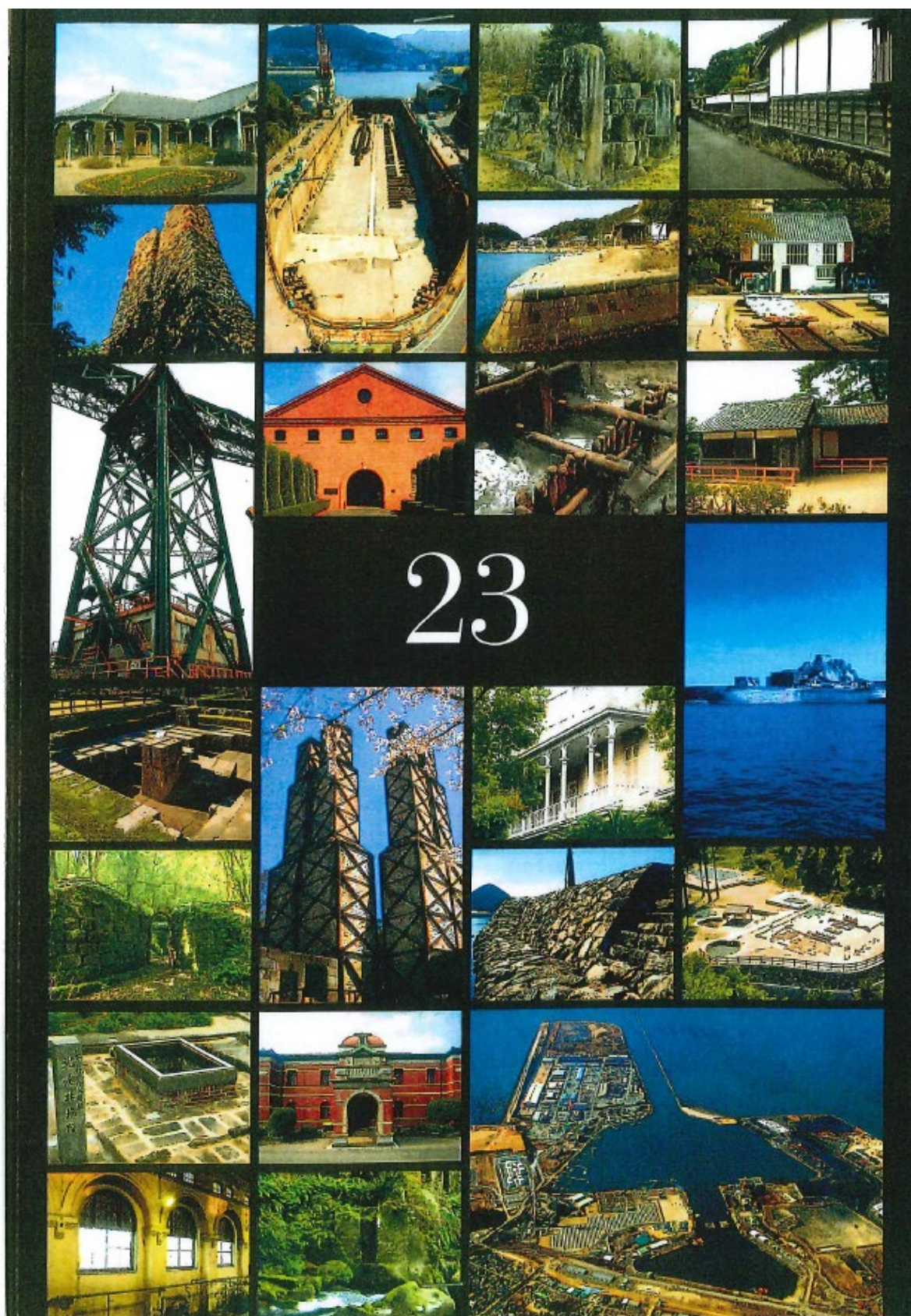


【エリア一覧】



【構成資産名】

エリア	サイト	ID	構成資産
エリア1 萩	1 萩の産業化初期の遺産群	1-1	萩反射炉
		1-2	恵美須ヶ鼻造船所跡
		1-3	大板山たたら製鉄遺跡
		1-4	萩城下町
		1-5	松下村塾
エリア2 鹿児島	2 集成館	2-1	旧集成館
		2-2	寺山炭窯跡
		2-3	関吉の硃水溝
エリア3 葦山	3 葦山反射炉	3-1	葦山反射炉
エリア4 釜石	4 橋野鉄鉱山	4-1	橋野鉄鉱山
エリア5 佐賀	5 三重津海軍所跡	5-1	三重津海軍所跡
エリア6 長崎	6 長崎造船所	6-1	小菅修船場跡
		6-2	三菱長崎造船所 第三船渠
		6-3	三菱長崎造船所 ジャイアント・カンチレバークレーン
		6-4	三菱長崎造船所 旧木型場
		6-5	三菱長崎造船所 占勝閣
	7 高島炭鉱	6-6	高島炭坑
		6-7	端島炭坑
	8 旧グラバー住宅	6-8	旧グラバー住宅
エリア7 三池	9 三池炭鉱・三池港	7-1	三池炭鉱・三池港
	10 三角西港	7-2	三角西港
エリア8 八幡	11 官営八幡製鐵所	8-1	官営八幡製鐵所
		8-2	遠賀川水源地ポンプ室



SITES OF
JAPAN'S
MEIJI INDUSTRIAL
REVOLUTION
IRON & STEEL, SHIPBUILDING
AND COAL MINING

Executive Summary

概要

「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」は、西洋から非西洋への産業化の波及を顕す遺産群により構成されている。19世紀半ばから20世紀の初頭にかけて、日本は工業立国の土台を築き、重工業（製鉄・製鋼、造船、石炭産業）分野において、急速な産業化を成し遂げた。産業化の歩みは、蘭書片手に試行錯誤での鉄製大砲鋳造への挑戦や、羊式船の模倣から始まった。次に、西洋技術を導入し、その運用により専門知識を習得した。明治の後期には、国内に人材が育成され、積極的に導入した西洋技術を、国内需要や社会的伝統に適合するように改善、改良を加え、産業化に応用した。日本は、非西洋諸国で初めて産業革命の波を受容し、植民地になることなく50年余りで、自らの手で産業化を成就した。「明治日本の産業革命遺産」は、世界史におけるたぐい稀な産業化の局面を証言する遺産群である。

評価基準の適用

評価基準 (ii)

「明治日本の産業革命遺産」は、日本が19世紀半ばから20世紀の初頭にかけて、産業化が進む西洋諸国からの技術移転を受け、技術の交流により変貌を遂げた特異なプロセスを証言する一連の遺産群である。極めて短期間に、西洋の産業革命が日本に移植され、また成就されたことは、産業化と技術の歴史において、地域的にも、時代的にも稀有なことである。西洋から伝播した技術が、伝統的な日本文化と融合し、国内の需要や社会的伝統に合わせて改善・改良され、日本の社会と経済を形づくり、やがて日本を世界の経済大国に押し上げる重工業の基盤を築いた。

評価基準 (iv)

「明治日本の産業革命遺産」は、製鉄・製鋼、造船、石炭産業といった重工業の基幹産業において、急激に変化した時代を象徴する技術の集合体の卓越した例であり、19世紀半ばから20世紀初頭にかけて非西洋諸国で初めて産業化を成就した変革の軌跡を示している。同時代の産業史の時間的・地域的枠組みにおいて類似性がなく、普遍的な意義を有する。これら一連の資産は、相互に関連する起源を持つ重工業の3つの産業分野において、代表的資産を統一的に包含しており、集合体として比類なき技術移転の証言である。

完全性の宣言

「明治日本の産業革命遺産」は、製鉄・製鋼、造船、石炭産業といった産業分野において、急速な産業化を成し遂げた道程を証言する遺産群であり、23の構成資産は、現存する唯一かつ希少な遺構として、全体で「顕著な普遍的価値」を有している。いずれの構成資産においても、資産の範囲に、「顕著な普遍的価値」に貢献する要素を、全て包含するように、境界線を設定した。

日本国政府は、内閣官房の下に構築した戦略的枠組みにおいて、構成資産を、劣化や開発の悪影響から守るため、管理の仕組みを用意した。全体としての資産の保全状態は良好であるが、中には継続の利用、もしくは、長期間放置された後、別の用途で活用をされ、その結果、物理的影響が及んだ遺構も含まれている。また完全性が担保されているものから、部分的に保全されているものまで、多種多様である。ただし後者の場合であったとしても、遺産群全体の完全性を顕すために求められている遺構が、手つかずのまま遺されている。考古学的資産の場合、これまでの十分な発掘調査の結果、将来の研究や展示のために必要な遺構の大半が、良好な状態で保存されていることが、確認されている。

また特に産業用の用途で、現在も生産の一翼を担う現役の産業設備においては、民間の管理者が、安全性確保のための定期点検の実施と、適切な維持管理を行うことにより、極めて高い水準の完全性を保持しており、稼働中の産業遺産として、全体の価値に貢献している。

真実性の宣言

顕著な普遍的価値に関する真実性について、西洋から非西洋への初めての、かつ急速な産業化の移転を顕し代表する、現存する産業遺産の集合体として、最も高い真実性を有している。

「形状・意匠」、「材料・材質」について、本資産の構成資産は重工業の産業分野における、西洋からわが国への技術移転のプロセスを説明する上で、必要不可欠な、オリジナルの形状と材質を保持している。構成資産の中には、断片的又は考古学的な遺構も含まれるが、いずれにしても、全体の資産の中で重要な産業要素については真実性が高い。構成資産の中には、長年、産業遺産の特徴を遺す史跡として管理されてきた遺構もあり、それらは実質的に高い真実性を有する重要な遺構である。それ以外の構成資産においては、「形状・意匠」及び「材料・材質」のみならず、オリジナルな用途での継続的使用と機能が維持されていることから極めて高い真実性を有している。

三池エリアに関わる産業の歴史

三池エリアは、世界文化遺産「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」の中で、「石炭産業」の第二段階「西洋の科学技術の導入」、第三段階「産業基盤の確立」の時代に係る記録を留める構成資産が分布するエリアとなっている。



▲図2

内閣官房が平成29年11月30日に、保全状況報告書添付資料としてユネスコに提出したインタープリテーション戦略では、次のように記されている。

1.1 インタープリテーション計画（抜粋）

(1) 全ての構成資産で一貫した顕著な普遍的価値（OUV）の共通展示を展開
インタープリテーション戦略に基づき、全ての構成資産に一貫した顕著な普遍的価値の共通展示を実施する。全ての関係者が方針に合意し、ブランド感のある世界遺産スタイルで統一的に展示をコーディネートし、実施する予定である。

(2)・(3) 労働者に関する情報収集を含む各サイトの歴史全体に関する進捗

内閣官房の「稼働資産を含む産業遺産に関する有識者会議」の委員、「明治日本の産業革命遺産」の登録に関わるイコモス査定に関与した国際ヘリテージの専門家、「インタープリテーションとプレゼンテーションに関する国際イコモス学術委員会」委員長他の助言により、以下の4つの方針が示された。

1) 顕著な普遍的価値のインタープリテーションに重点を置く：世界遺産の本来の目的に従い、各サイトにおいて、登録された資産の顕著な普遍的価値を、他の関連する問題と混同せずに明確に説明する。その上で、勧告g)を履行する。

※g) 推薦資産のプレゼンテーションのためのインタープリテーション（展示）戦略を策定し、各構成資産がいかに顕著な普遍的価値に貢献し産業化の1又は2以上の段階を反映しているかを特に強調すること。また、各サイトの歴史全体についても理解できるインタープリテーション（展示）戦略とすること。

2) P. 81に記載された顕著な普遍的価値の対象期間(1850年代から1910年まで)以外の各サイトの「歴史全体」の範囲は、1850年代以前と1910年から現在までの2つに分けられる。いずれにおいても各構成資産の背景の理解を補足する地域的な価値を念頭に「歴史全体」の範囲を絞り込む。さらに、各構成資産が立地するエリアにおける歴史全体のインタープリテーションについては、一次史料の収集や証言収録など質の高い調査を実施し、適宜、適切なメディアを通じていずれかの段階において公表する。

インタープリテーション戦略に則り、各エリアの構成資産及びビジターセンター等におけるインタープリテーションの現状について、世界各国の産業遺産及びそのインタープリテーションに精通した海外専門家による監査を、複数回（平成29年、令和元年）実施した。

その結果、監査者である ICOMOS メンバーのバリー・ギャンブル氏からは、三池エリアに関して次のような評価を受けている。

- ・主たるインタープリテーションセンターである大牟田市石炭産業科学館は、現在、展示の再開発を行っており、エントランスエリア内の「共通展示」の設置位置案は適切である。三池、ならびに他の構成資産および各種要素の OUV への貢献を紹介するギャラリーの最初の区画を再編成し、展示し直すにあたってすでに優れた展示物があり、それらについてはほとんど変更の必要がない。
- 石炭産業科学館は、世界遺産の重要な炭鉱構成資産に隣接しているだけでなく、斬新な展示形式で（最近の技術ながら）非常に印象的な大規模炭鉱設備の実物展示が行われていることから、世界クラスの炭鉱展示センターになる可能性がある。この目標を達成するために、最近登録されたフランスとベルギーの世界遺産サイト、ウェールズのビッグピット（イギリスのブレナボン世界遺産の一部）、ギャラリーの大がかりな再開発が行われたばかりのボーフム（ドイツ）のドイツ鉱山博物館など、欧州のいくつかの炭鉱の視察を行うことを推奨する。
- 旧長崎税関は、今後のインタープリテーションの進展が待たれる。現地での助言として、建物付近に施設や構造物（新しい来場者用トイレ等）を設置する場合は、位置を慎重に検討する必要があるという指摘があった。
- 三川坑跡は三池炭田（1945 年～）を採掘した最後の生産区画であり、有明海の海底でも採掘が行われていた。この連携サイトのプレゼンテーションは、労働争議、炭鉱事故、探鉱で働く戦争捕虜を含む労働問題等の社会的テーマに焦点を当てることによって、構成資産の「歴史全体」明らかにしている。この場所は、短い通路で結ばれている旧三井港倶楽部（三池港と同時代）とともに、このエリアの観光資源を強化し、社会的・経済的に好影響をもたらす機会となっている。
- 坑跡と港を結ぶ鉄道を開通させることによって、経済的な可能性が広がると同時に、このエリアがどのように機能していたのか、なぜ重要なのかというインタープリテーションの重要な側面にも対応することができる。さらに、三池を訪れる人々を惹きつける大きな魅力が提供されるだけでなく、一回のビジター体験の中でその重要な要素を結びつけることによって、宿泊滞在がさらに促される可能性がある。

・現時点において、三角西港のインタープリテーションは古びていてクオリティが低い。世界遺産に関係するプレゼンテーションと展示にできるだけ早く取り組む必要がある。2017 年の監査以降、このインフラに大きな変化はない。屋外の展示パネルは世界遺産として登録される前のものである。また、龍驤館の展示の一部は状態もクオリティも悪く、受け入れがたい「仮設のような」外観を呈している。現地視察では、地域社会および訪問者に世界遺産の OUV を明示するという世界遺産の責任、ならびに、それに対する三池港と三角西港の貢献が議論された。常設展示の設計・開発が現在進行中であり、建物の耐震補強の後、4 年以内にオープンとの確約が得られた。一方、来年中に屋外パネルを刷新し、(内容とデザインの両面で) より高水準の仮設展示を龍驤館内に設置するための予算拠出も約束された。

三池エリアにおいては、これまで地区別協議会において本インタープリテーション計画について協議を行ってきた。

上記の評価において言及されている大牟田市石炭産業科学館は、展示のリニューアルが完了し、共通展示を導入するとともに、構成資産への理解を深める多様な展示を実施している。

三角西港龍驤館に関しては、監査後の 2018 年に指摘があった解説パネルを更新した。現時点で、龍驤館内の更新分について多言語化はされていないものの、各ビジターセンターで導入されている共通展示を 2024 年以降に導入する予定であり、計画的に展示開発を進めている。

その他、本エリアにおいては、旧長崎税関のインタープリテーションの改善や、三川坑跡、専用鉄道敷跡の活用に関する指摘も踏まえつつ、産業遺産情報センターとも連携しながら、地域の歴史的・文化的価値と調和しつつ世界遺産価値をより反映した展示を着実に実施していくこととする。

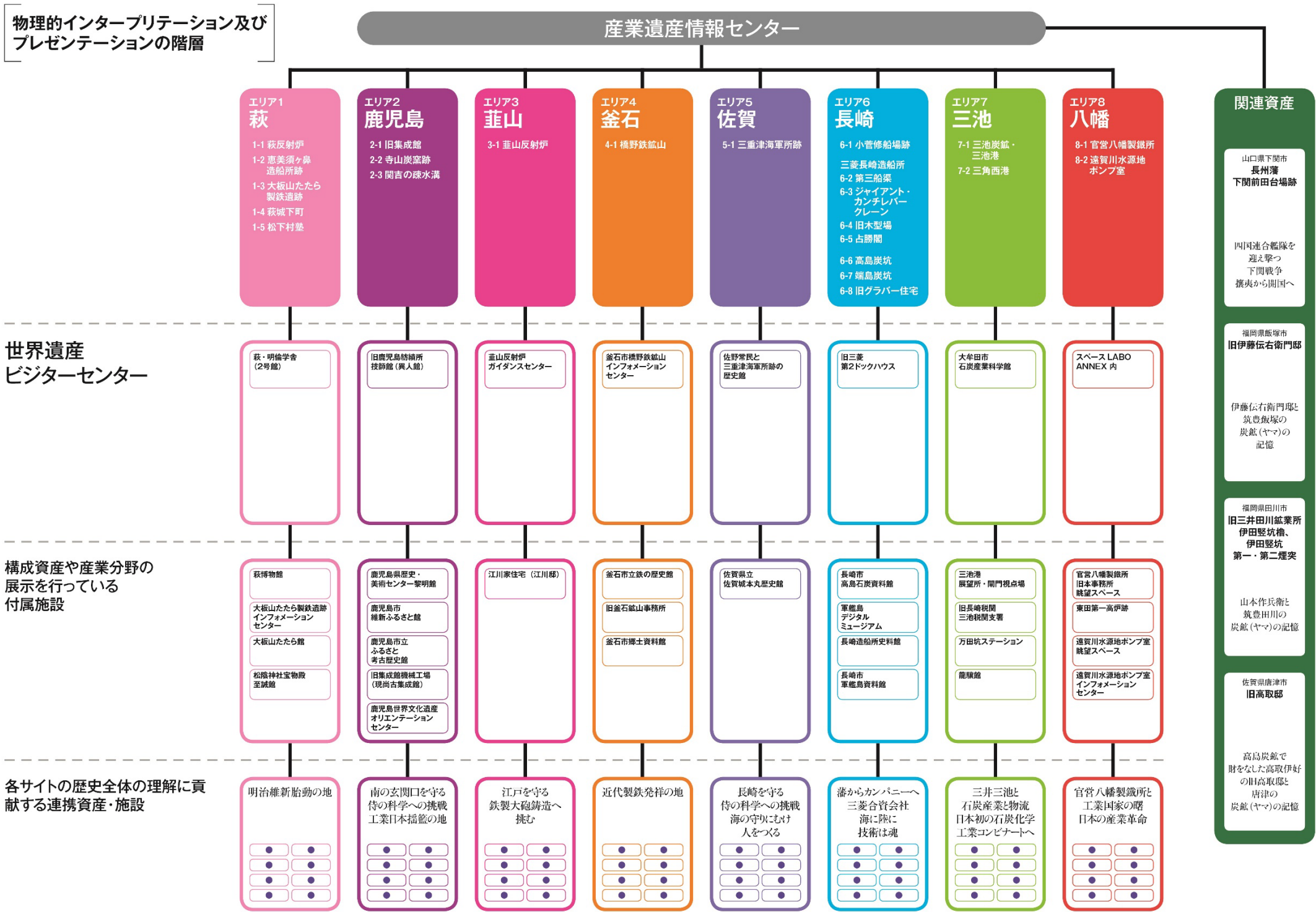
地区別協議会においては、本計画の実施状況を点検しながら、適宜改善に向けた検討を行う。



地区別協議会の様子

物理的インタープリテーション及びプレゼンテーションの階層

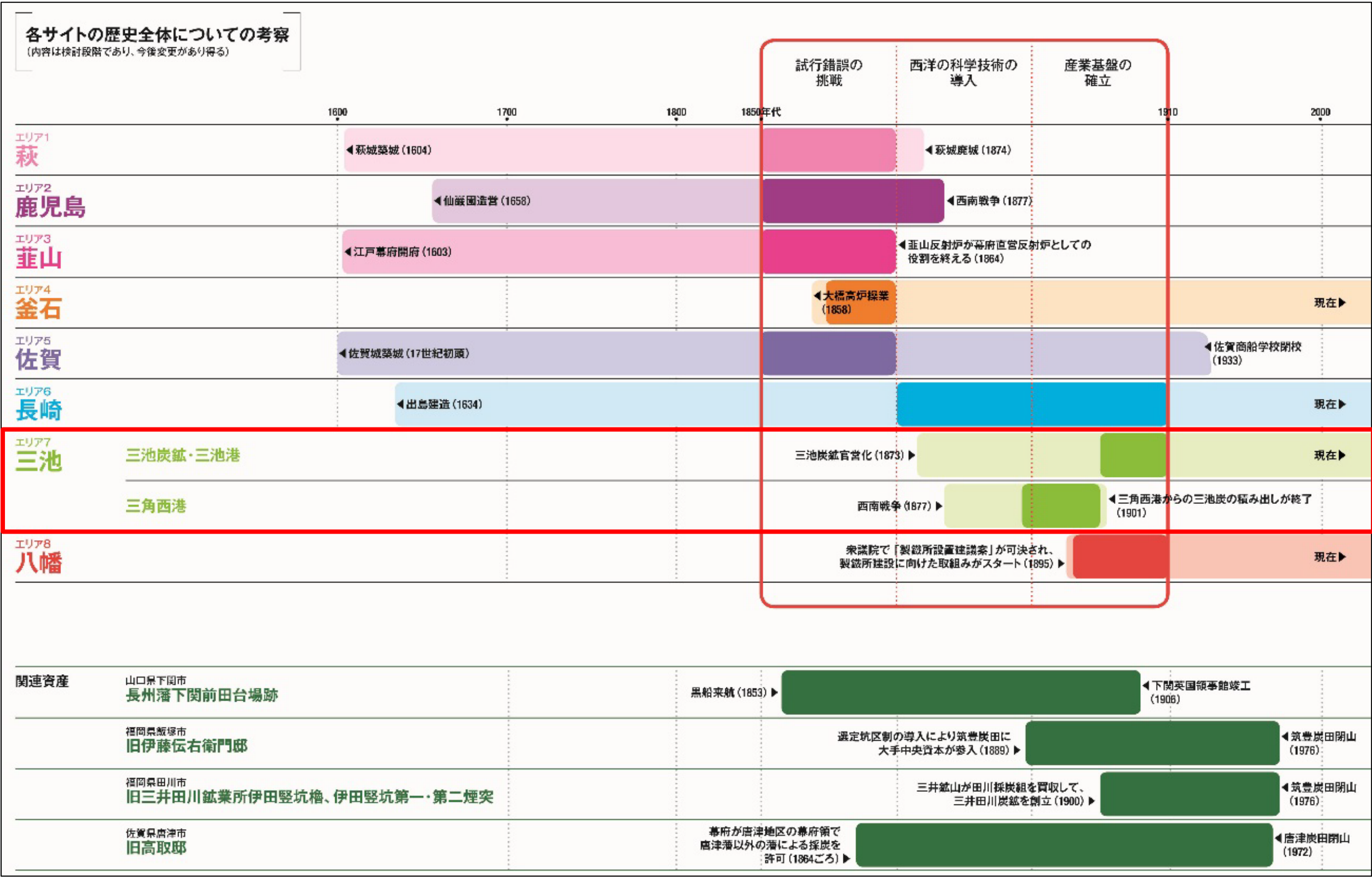
産業遺産情報センターと各地のビジターセンターが連携して、明治日本の産業革命遺産の顕著で普遍的な価値を効果的に発信できるような体制を構築していく



関連資産：平成 21 年 1 月 5 日にユネスコの世界遺産暫定一覧表に記載された段階で構成資産候補であったものであり、世界遺産登録された「明治日本の産業革命遺産」と一体的に活用を図る産業遺産。(その当時の時代背景や社会情勢を知ることができる貴重な資産)

「各サイトの歴史全体」についての考察

内閣官房が平成29年にユネスコに提出したインタープリテーション戦略では、下図のとおり各サイトの歴史全体の考察について、記されている。



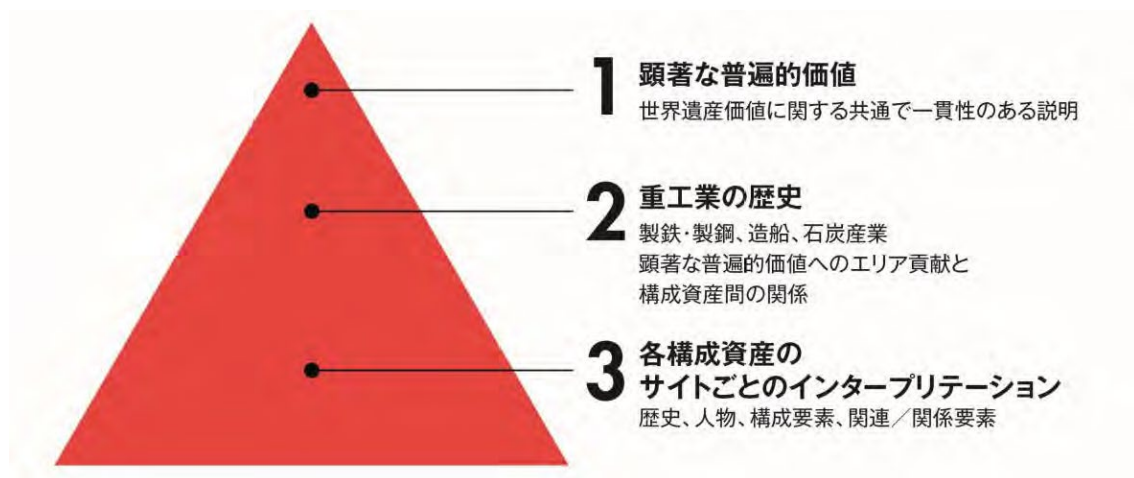
本エリアにおけるインタープリテーション

インタープリテーション戦略の考え方

インタープリテーション戦略では、インタープリテーションとプレゼンテーションの概念について、次のとおり図解されている。

本エリアのインタープリテーションにおいても、インタープリテーション監査において指摘された課題を解決するため、これに則って取組を展開することとする。

「明治日本の産業革命遺産」のインタープリテーション及びプレゼンテーション：価値とテーマの階層



産業遺産情報センター並びに各地のビジターセンターにおいて、顕著な普遍的価値はインタープリテーションの最上位に位置する。これは、エリアや構成資産独自の歴史など地域や産業固有の展示解説に優先する最上位のテーマとなる。これにより、上図に表された1. 顕著な普遍的価値、2. 重工業の歴史、3. 各構成資産のサイトごとのインタープリテーションが、資産全体で一貫してプレゼンテーションされることになる。

ローカル・ビジターセンターにおけるインタープリテーションの流れ インタープリテーションの階層



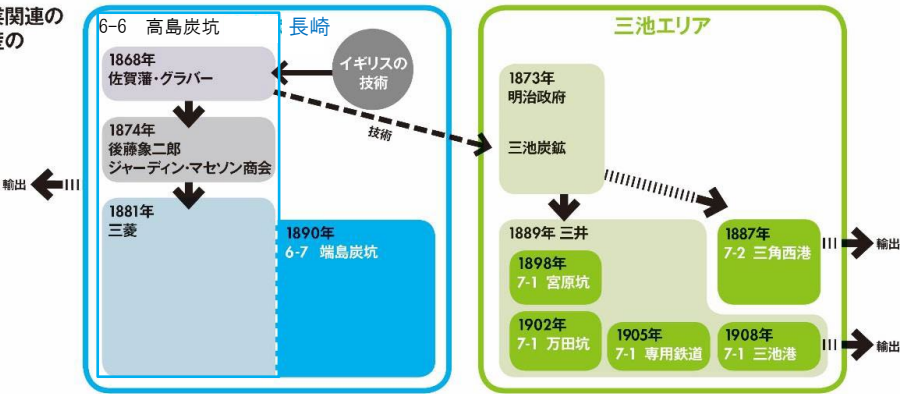
3つの産業類型の時系列に沿った発展（1850年代～1910年）

1850年代～1910年にかけての重工業分野（製鉄・製鋼、造船、石炭産業）における産業化の歩み



▲図2

石炭産業関連の
構成資産の
相関図



リキッドギャラクシー等を使用した展示

インタープリテーション戦略に基づき令和2年3月に設置された産業遺産情報センターでは、世界遺産としての顕著な普遍的価値の対象期間(1850年代から1910年まで)に加え、「各サイトの歴史全体についての考察」として示された図を参考に、体感型マルチディスプレイを活用し、各エリアの構成資産の歴史や変遷、暮らしなどについて映像で解説するなど、資産の変遷や世界遺産価値への貢献、歴史全体を体感的に理解できるような展示を行っている。

本エリアにおいても、産業遺産情報センターや本エリアのビジターセンターにおいて収集した資料のデジタルアーカイブを構築した上で、順次インタープリテーションツールに反映していくこととする。



本エリアにおける構成資産

関連する産業：石炭産業 構成資産の名称：三池炭鉱・三池港 宮原坑（1898） （構成資産の概要） 三井買収後に初めて開削された、明治期から昭和初期にかけての三池炭鉱の主力坑口。炭鉱は閉山し、産業活動は営まれていない。第二豎坑櫓と巻揚機室等の建物が残っている。	
関連する産業：石炭産業 構成資産の名称：三池炭鉱・三池港 万田坑（1902） （構成資産の概要） 宮原坑と共に明治期から昭和中期にかけて三池炭鉱の主力坑口であった。第二豎坑櫓とその巻揚機室や、旧扇風機室などの明治期における石炭産業の施設が良好な形で現存する。	
関連する産業：石炭産業 構成資産の名称：三池炭鉱・三池港 専用鉄道敷跡（1905） （構成資産の概要） 三井財閥が払い下げを受けた後、三池炭鉱坑口と積出港を結ぶ専用鉄道が建設され、三池炭や産業用物資を輸送。既に三池炭鉱は閉山したが、敷跡として鉄道建設による切土や盛土跡が残存。鉄道運行を想起させる歴史的空間が残る。	

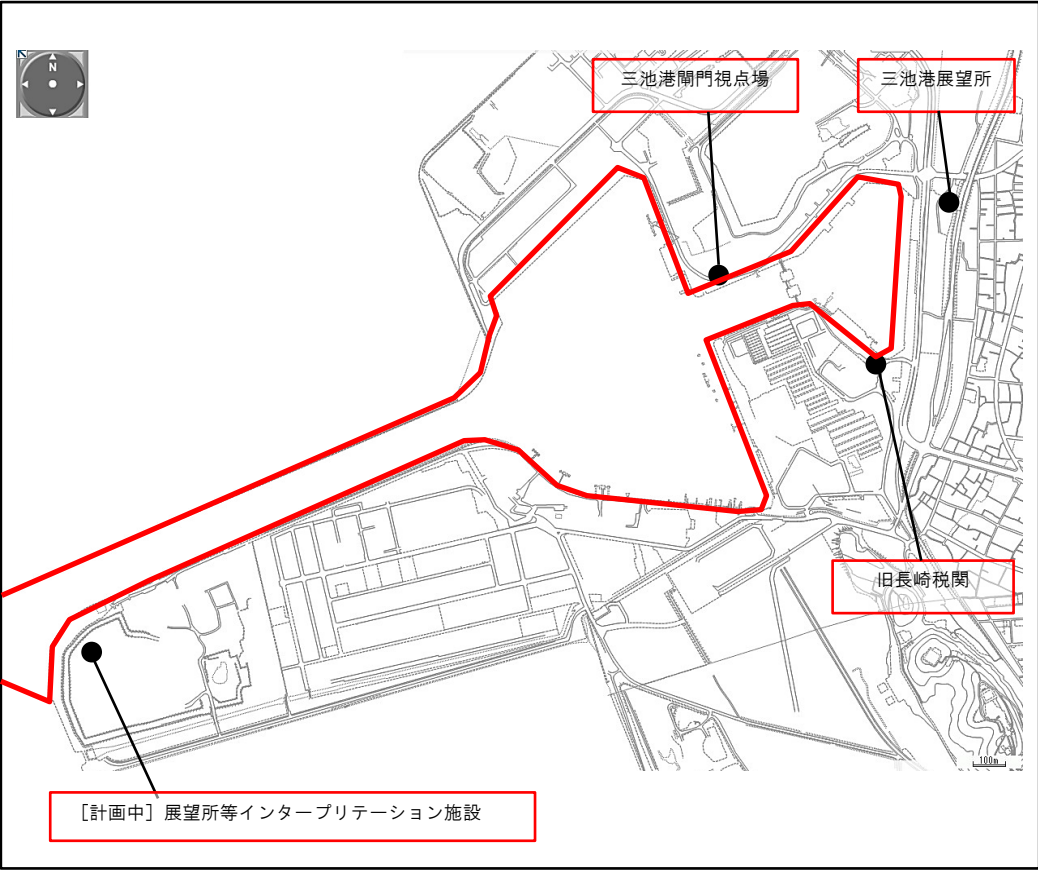
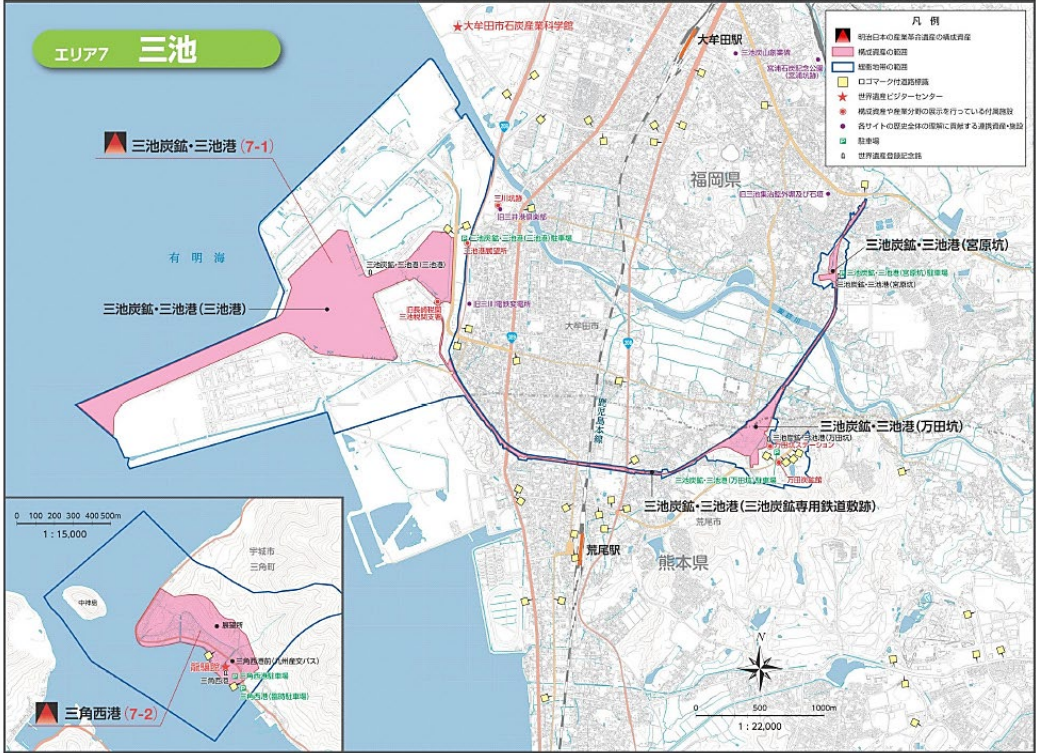
関連する産業：石炭産業	
構成資産の名称：三池炭鉱・三池港 三池港（1908） （構成資産の概要） 遠浅で干満差の激しい有明海に大型船を接岸し効率よく三池炭を輸出する積出港としてハミングバードの形状に設計。砂泥対策の防砂堤、潮待ちの船渠、潮位差調整の閘門等の港湾施設が築港時の物流インフラを証言。現役の産業港。	
関連する産業：石炭産業	
構成資産の名称：三角西港（1887） （構成資産の概要） 殖産興業政策の下、国直轄事業として、建設された明治の三大築港の一つ。オランダ人水理工師ムルドルが設計。三池港開港までの期間、三池炭は口之津港の補助港として稼動した三角西港を通じて海外に輸出された。	

世界遺産記念銘

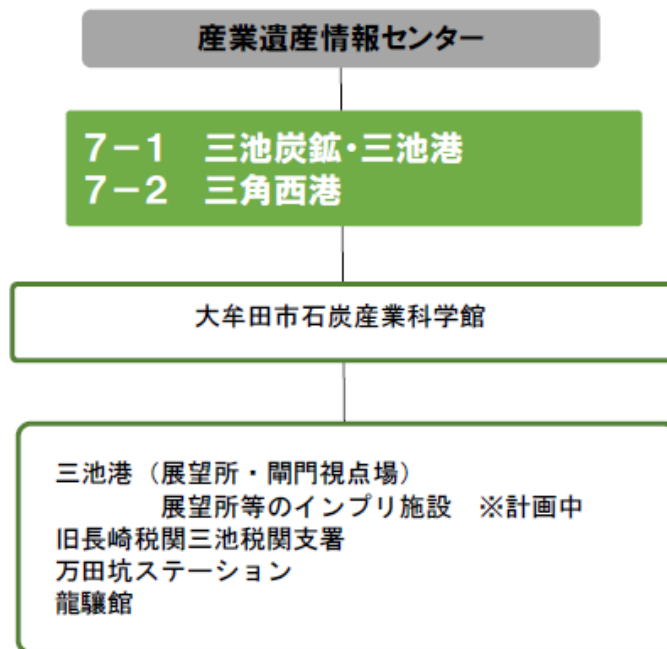
ユネスコのガイドラインに則り、各構成資産には、来訪者に当該遺産の顕著な普遍的価値を適切に周知するため世界遺産登録記念銘を設置している。



三池エリア インタープリテーション施設分布



三池エリア 階層図



アクセスガイドマップ

各エリアの構成資産のアクセスガイドマップは、日本語版の他に英語版も作成されており、来訪者に無料で配布されている。本マップは、各エリアの構成資産についてのオリエンテーションとして、訪問者ができるだけエリア内の構成資産等を数多く訪問できるよう構成されている。

また、スマートフォン向けアプリと連動し、AR 機能を活用して非公開資産の3Dモデルや動画、360度映像を表示するなど、アクセス不可の資産における情報発信においても活用できるものとなっている。



インフォメーションカウンター

行政機関や空港に設置しており、アクセスガイドマップ等の配布を行っている。



大牟田市石炭産業科学館



三角西港 龍驤館

ガイドマップ配布箇所及び配布部数

アクセスガイドマップの配布箇所及び配布部数は以下のとおりとなっている。

全体MAP		三池MAP	
配布総数	177,762	配布総数	57,341
日本語 & 英語	177,762	日本語	55,881
主な配布先	配布部数	主な配布先	配布部数
行政機関	300	行政機関	14,870
空港	550	空港・航空会社	1,250
ホテル	50	ホテル	2,800
レンタカー	100	レンタカー	1,300
JR（鉄道）	600	JR（鉄道）	400
観光案内所	700	観光案内所	3,800
道の駅	4,400	道の駅	5,600
NEXCO	168,500	NEXCO	17,750
公益・財団・社団法人	550	公益・財団・社団法人	1,484
その他	2,012	その他	8,087
JR九州 博多駅総合案内所		NPO法人大牟田・荒尾炭鉱のまちファンクラブ	
西日本高速道路リテール株式会社		直方市石炭記念館	
西日本高速道路サービスホールディングス		福岡国際空港株式会社	
風月フーズ株式会社		田川市石炭・歴史博物館	
福岡国際空港株式会社		いのちの旅博物館	
長崎空港		三角西港 龍驤館	
鹿児島県立図書館		宮原坑	
JR鹿児島中央駅観光案内所		三井港倶楽部	
北九州市観光コンベンション協会		大牟田市石炭産業科学館	
大村市役所産業振興部		万田坑ステーション	
JR宮崎駅観光案内所			

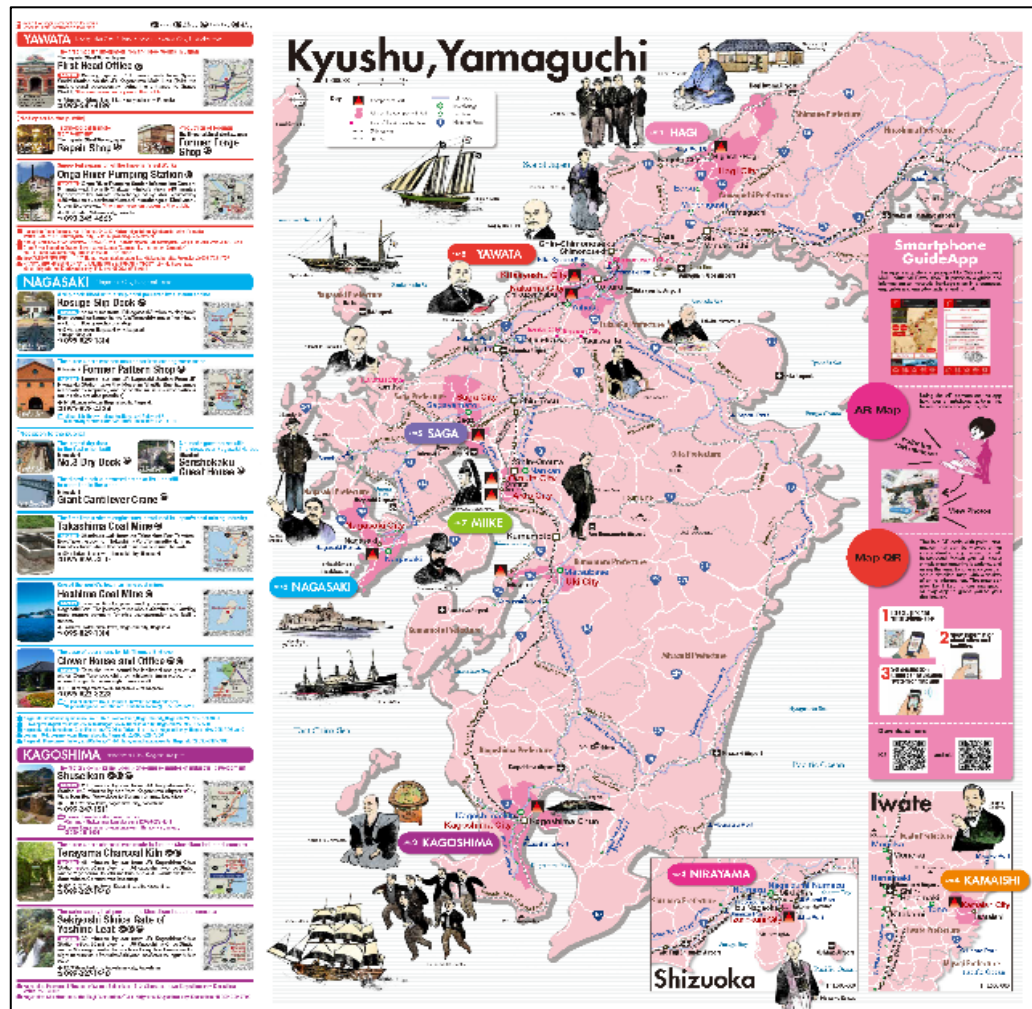
全エリア累計総配布部数

464,025

世界遺産ルート

インタープリテーション戦略に基づき、推薦書の 395～396P にもあるとおり、世界遺産を全体として理解するためのガイダンスと観光インフラを提供する「世界遺産ルート推進協議会」が設立された。同協議会は、23の構成資産から成る世界遺産価値を理解できるよう、地図とアプリ、GPS ナビゲーション、「明治日本の産業革命遺産」の普及を促進するための統一ロゴを使用した道路標識の設置等により、全ての構成資産や関連遺産に来訪者を誘導している。

今後も、推薦書やインタープリテーション計画に基づき、着実に取組みを実施していく。





推薦書 P396 掲載図



世界遺産ルート協議会の様子

統一ロゴを使用した道路標識等の設置について

設 置 場 所	設 置 済 み 数
福 岡 県 大 牟 田 市	20
熊 本 県 荒 尾 市	41
熊 本 県 宇 城 市	18

道路標識写真

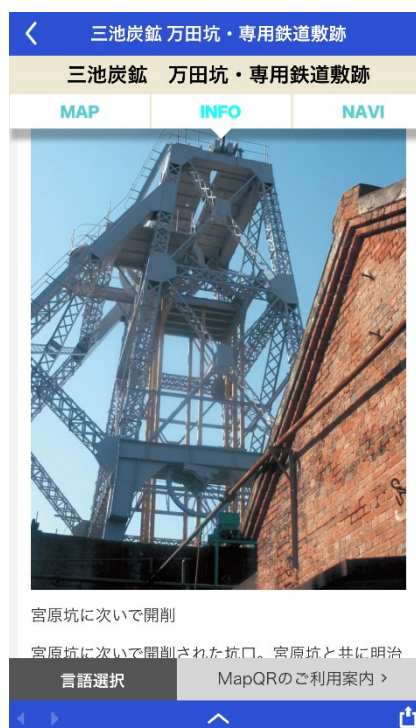


統一ロゴ道路標識設置場所一覧



カーナビ（デンソーナビ）との連携

カーナビに目的地を転送できるスマホアプリとの連携の例



スマホから直接カーナビに目的地を送信可能



使用方法についての動画を YouTube に掲載



アプリの活用

詳しいストーリーと説明、歴史的背景、動画、CG 等を使用して「明治日本の産業革命遺産」を紹介している。ゲームや AR カメラを利用することでポイントが貯まり、お土産などのクーポンとして使用できるなど、世界遺産価値への理解を深めるとともに世界遺産ルートのツアーへの還元が可能な仕組みとなっている。スマートフォン向けアプリは、多言語（日本語、英語、韓国語、簡体・繁体中国語、ベトナム語）に対応している。



LINE の活用

アプリで取得したポイントはクーポンに交換可能。



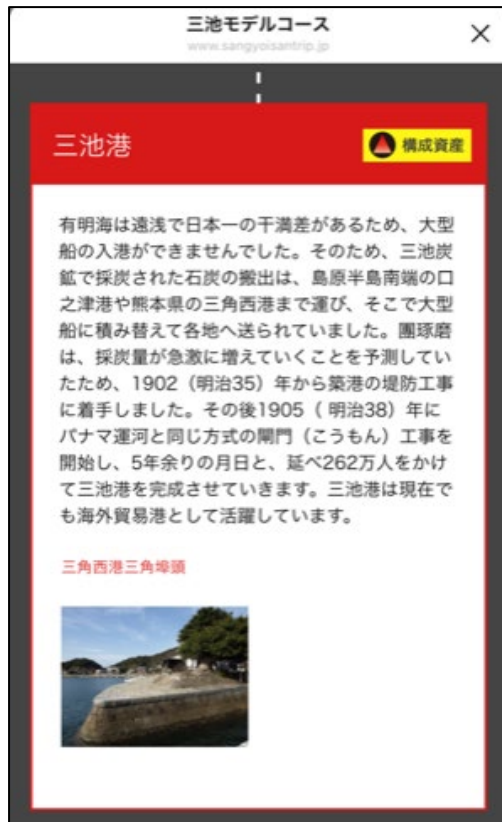
LINE の登録を促す POP を作成し、駅やインフォメーションセンターなどに置いて誘導している。



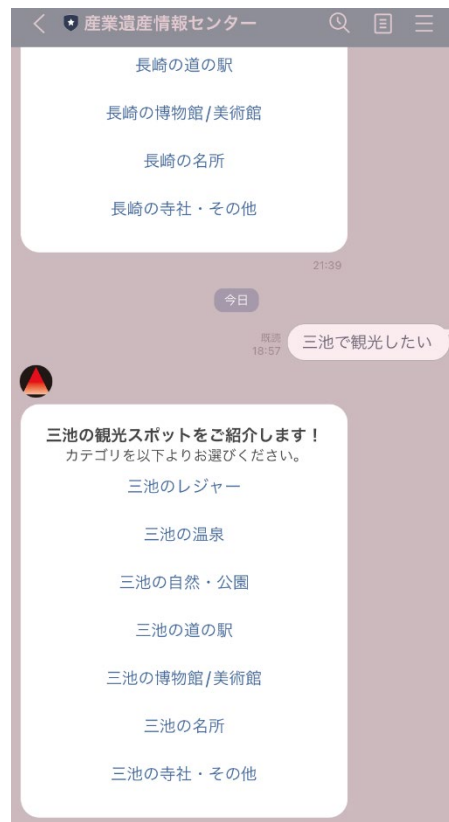
LINE を入り口として、既存ガイドアプリの活用や訪問地域の店舗で利用可能なクーポン情報等、位置情報に基づき利用者の状況に適した双方向のコミュニケーションを実現している。多言語にも対応し、訪日外国人をサポートする。



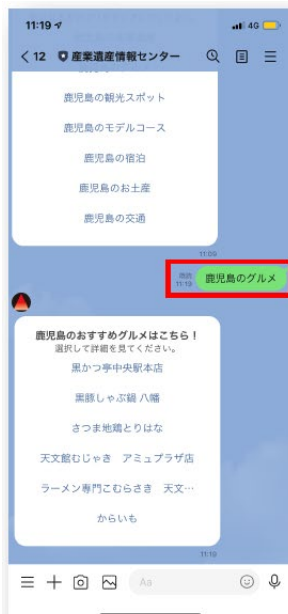
LINE の機能（例）



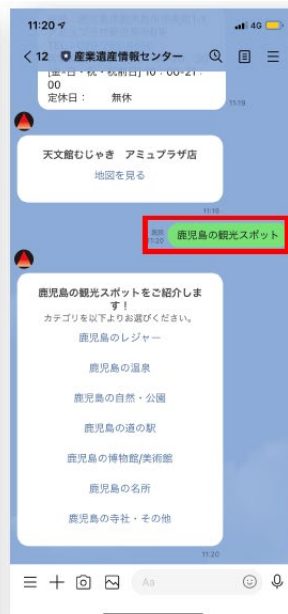
モデルコース紹介



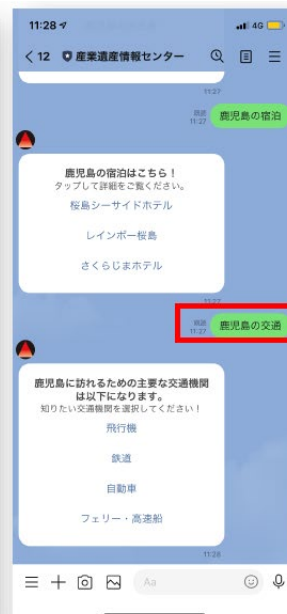
AI チャットボット機能



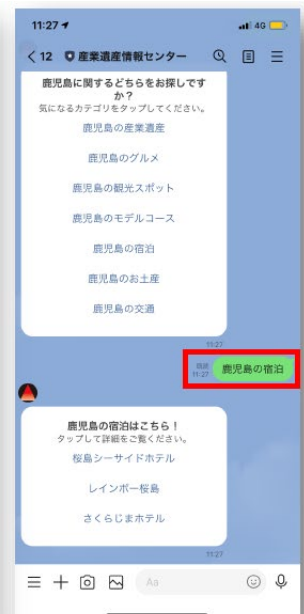
グルメ情報



観光スポット



交通情報



宿・ホテル情報

デジタルサイネージの機能

産業遺産情報センターにデジタルサイネージを設置し、地域版ガイドマップや産業遺産の周遊ルートของ的信息を掲示し、各サイトへの周遊観光を促す仕組みを構築している。AIチャットボットも搭載し、周遊ルートや観光に関する質問にもリアルタイムで幅広く対応している。



デジタルコンテンツの充実について

明治日本の産業革命遺産については、公式の WEB サイト及びスマートフォン向けアプリケーションにより、世界遺産価値等の情報が一元的に発信されているところである。

また、“lin-KK-age（リンケージ）”として、4つの最新テクノロジー（※）を用いて構築された情報ネットワークを活用し、構成資産への周遊促進や、現地での旅行サポートを図っている。

各エリアにて上記を活用した連携した取組を検討しながら、インタープリテーションを行うこととする。

本エリアに関しては、デジタル技術を用いて、当該 WEB サイト及びアプリケーションにおいて下記の取組を中心に公開されている。

（※）デジタルサイネージ（電子看板）、スマートフォンアプリケーション、LINE 及び AR/MapQR を搭載したアクセスマップを指す。

取組事項

対象資産	取組内容	予定時期	実施主体
三池炭鉱・三池港、三角西港	地域版ガイドマップにおける AR 機能搭載・MapQR による資産情報発信	導入済	産業遺産 国民会議
宮原坑	ipad によるアプリ「三池炭訪」 アプリには明治 40 年頃の宮原坑の様子が見れる AR や様々なクイズ・解説を読むことができる	導入済	大牟田市
	エアサイネージによる「三池炭鉱ナビ」 4ヶ国語による資産の解説	導入済	大牟田市
専用鉄道敷跡	ipad によるアプリ「三池炭訪」 アプリには炭鉱専用鉄道に蒸気機関車が走る様子が見れる CG や様々なクイズ・解説を読むことができる	導入済	大牟田市
	エアサイネージによる「三池炭鉱ナビ」 4ヶ国語による資産の解説	導入済	大牟田市

三池港	ipad によるアプリ「三池炭訪」 アプリには三池港閘門が開き船 が進入する様子が見れる C G や 様々なクイズ・解説を読むこと ができる	導入済	大牟田市
	エアサイネージによる「三池炭 鉱ナビ」 4ヶ国語による資産の解説	導入済	大牟田市
万田坑	エアサイネージによる「三池炭 鉱ナビ」 4ヶ国語による資産の解説	導入済	荒尾市
万田坑	万田坑の坑道体験ができる「The 万田坑 VR」 4ヶ国語で体験	導入済	荒尾市
万田坑	デジタルアーカイブ 4ヶ国語で表示	導入済	荒尾市
万田坑	万田坑 VR アプリ	導入済	民間団体
三角西港	旧三角海運倉庫周辺 VR アプリ 3ヶ国語で表示	2022 年 3 月導入済	民間団体
三角西港	三角西港内関連施設解説アニメ ーションアプリ 5ヶ国語で表示	2022 年 3 月導入済	宇城市観 光物産協 会

※ 設置済み数は、2022 年 2 月 1 日現在の数値

エアサイネージ「三池炭鉱ナビ」

Sites of Japan's Meiji Industrial Revolution

三池炭訪

— 宮原坑 近代日本の原点へ —

受付にお申込みください

**超美麗CGアニメーション、
往時の姿を再現した360度ビュー。**

大人気御礼

Mike Coal Mine Guide System

施設ガイドシステム

三池炭鉱ナビ

施設の案内音声ガイドをご準備致しました。
お手持ちのスマートフォンやタブレットから Wi-Fi に接続することで、動画や当時の写真・音声ガイドを通じて三池炭鉱の歴史をお楽しみ頂けます。
どうぞ下記の手順でご利用下さい。

Step.1
Wi-Fi への接続 Connect to Wi-Fi.
SSID : Mike Coal Mine

Step.2
ブラウザの起動 Open your browser.

Step.3
見たい言語を選択して下さい Choose your language.

「三池炭訪」レンタルタブレットとスマホ用無料配布アプリのご案内

★三池炭訪-宮原坑 近代日本の原点へ（レンタルタブレット）多言語対応（日・英・中・韓）
～10月30日（金）より宮原坑でタブレットの貸し出し開始～

三池炭鉱発展の立役者である「炭運君」が案内人となって宮原坑の各スポットをご案内。宮原坑内の各スポットでタブレットをかざすと、炭運君や炭鉱夫による説明や、往時の姿を再現したVR（バーチャルリアリティ）を楽しむことができます。（貸出料金無料・30分）

★スマホ用無料アプリ「三池炭訪」（iOS版）～ App Storeにて無料配信スタート！
順次、iOS英語対応版・android版の配信予定～

スマホ用無料配布アプリ「三池炭訪」は、三池炭鉱宮原坑や三池港を巡りながら、三池炭鉱の歴史やそこで働く人々の生活について、ゲーム感覚で楽しく学ぶことができます。アプリです。「三池炭訪」には、3つのコンテンツがあります。

1 三池ツバキの炭鉱クイズ

対象エリア：宮原坑（現地利用）

三池炭鉱宮原坑の各スポットでスマホをかざすと、「三池ツバキ」が登場！「三池ツバキ」が出現するクイズ（全6問）に答えていながら、三池炭鉱の歴史を楽しく学んでいきます。

2 燃える石をさがせ！

対象エリア：宮原坑・三池港（現地利用）

宮原坑から三池港まで巡りながら、隠れた「燃える石」を探し当てるゲームです。石を見つけると石炭にまつわるストーリーを見ることができ、9つの石を全て集めると、ボーナス映像を楽しむことができます。

3 三川坑ライブラリー

対象エリア：どこでも楽しめる

昭和時代の主力坑であった「三川坑」の画像ギャラリーです。探検の現場や、当時の暮らしがうかがえる写真を集めました！ぜひ三川坑で実際に働いていた炭鉱マンやその妻のインクムービー動画は必見です！

【参考資料①】

(名 称) 『アニメーション BOOK』(文化財解説デジタルコンテンツ)
 QR コード付き案内板・パンフレット・旧三角簡易裁判所本館内解説パネル
 (事業主体) 一般社団法人宇城市観光物産協会
 (設置箇所) 龍驤館、旧宇土郡役所、旧三角簡易裁判所本館・弁護士等控室・記録倉庫



三角西港内施設に設置してある案内板及びパンフレットなどにある QR コードをスマートフォンやタブレットなどから読み込むと多言語(日本語・英語・仏語・韓国語・中国語)での解説画面及びアニメーション Book(約 2 分間のストーリー)がご覧いただけます。



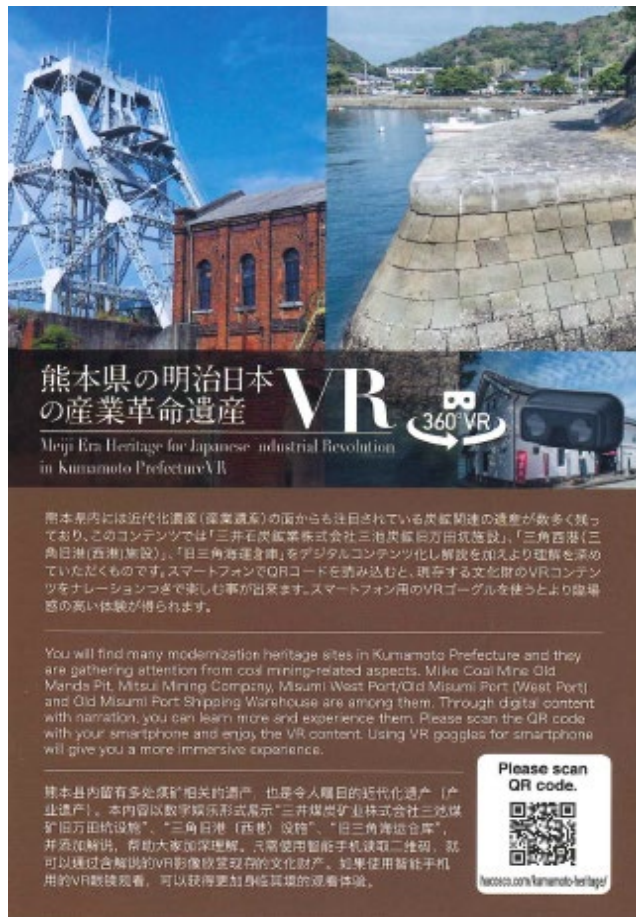
※旧三角簡易裁判本館 解説パネル



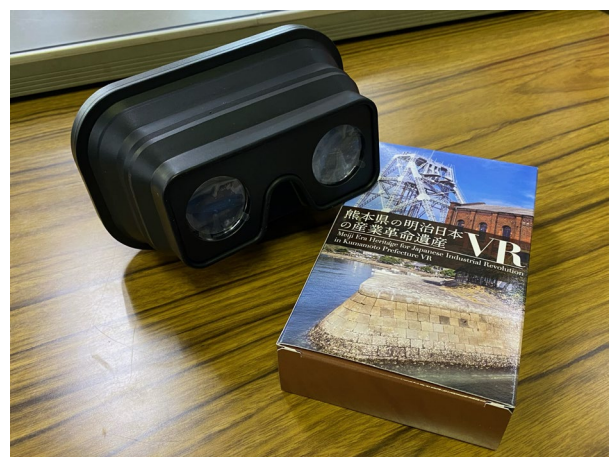
※QR コード付き案内パネル

【参考資料②】

(名 称)『熊本県の明治日本の産業革命遺産 VR』（解説デジタルコンテンツ）
VR ゴーグル・案内看板・チラシ
(事業主体) 太陽企画 (NPO 法人 J-heritage)
(対象施設) 万田坑、三角西港石積埠頭、旧三角海運倉庫、龍驤館



※QR コード付き案内看板



※VR ゴーグルとパッケージ

【参考資料③】（名称）『The 万田坑 VR』

（事業主体）荒尾市

（設置場所）万田坑ステーション



地下264メートルの
万田坑の坑道へ

万田坑
ステーションに
VR視聴機器を
導入!

The 万田坑VR

炭鉱の地下世界へ

万田坑の地下坑道をCGで再現！
まるで地下坑道にいるかのように疑似体験できる！

バーチャル リアリティ
VRとは、Virtual Realityの略で、仮想現実のことです。万田坑VRでは、現在も残っている第二豎坑坑口から、ケージと呼ばれるエレベーターに乗って地下まで降り、坑内電車に乗り換えて採掘現場まで行き、ダイナマイトを使う発破シーンなど採炭の様子を疑似体験できます。VRゴーグルを装着して地下の世界を見てみよう！



🔧 最先端技術を駆使！
人間の動きをCG上に反映させる
モーションキャプチャ技術を採用。

🔧 荒尾出身のナレーターを起用！
ナレーションは、荒尾市生まれで、父親が三池炭鉱で働いていた羽佐間 道夫氏。

マジックキー イチ押し！
炭鉱の地下世界が再現されていてビックリ！
ぜひ、万田坑ステーションで見てみよう！



スマートフォンやパソコンからも視聴できます。
<https://www.city.arao.lg.jp/0/4217.html>

二次元コードからも
視聴できます



📍 万田坑ステーション展示室
🕒 9:30～17:00
🗓 月曜日（祝日の場合は翌平日）
👤 中学生以上 料 無料
📞 文化企画課 ☎63-1274



ビジターセンター等について

三池エリアでは、インタープリテーション戦略に則り、ビジターセンターを1か所、構成資産や産業分野の展示を行っている付属施設を4か所整備している。各施設では、地域コミュニティと連携し、地域の歴史的・文化的価値と調和しながら、本来の世界遺産価値の展示が一番際立つプレゼンテーションを行い、来訪者が資産の価値を理解しやすいような展示を目指している。

今後、インタープリテーション監査の指摘を踏まえ、また、産業遺産情報センターと連携しながら、膨大な一次史料のデジタル化やデジタルツールを駆使した展示の充実を図っていく。

【大牟田市石炭産業科学館】

三池炭鉱の歴史をパネルや映像資料、模型、ダイナミックトンネル（模擬坑道）を使った展示・解説を行っている。

また、三池エリアのビジターセンターとして、共通展示を導入し23資産全体を解説するとともに、エリア7石炭産業について及び今も生きている様々な近代化産業遺産のまちについて学ぶことができる。



【三池港】

展望所からハミングバードの形状を確認することができる。また、展望所から約3km離れた位置に展望所等のインタープリテーション施設の整備を計画中であり、本施設は現在の展望所を補完するものとなる予定である。



【旧長崎税関三池税関支署】

三池港の築港の様子や歴史、今も稼動中の三池港について、パネルや映像資料を使用して展示している。「明治日本の産業革命遺産」について、パネルで開設するコーナーも個別に設置している。



【万田坑ステーション】

URL:<https://www.city.arao.lg.jp/kurashi/shisetsu/mandakou/>

当時の万田坑施設全体を復元した模型や万田坑の古写真のパネルのほか、坑道を仮想体験できる VR などを展示している施設。



【龍驤館】

築約 100 年の三角西港内の施設を活用し、三角西港の築港の様子や歴史について、パネル等を使用して展示している。「明治日本の産業革命遺産」について、パネルや映像で解説するコーナーも個別に設置しており、2024 年以降には各ビジターセンターに導入されている共通展示を導入する予定である。



子ども向け学習プログラム

三池エリアでは、下記の子ども向け学習プログラムを実施している。

【世界遺産キッズアカデミー】

福岡県に構成資産がある北九州市、中間市（八幡エリア）、大牟田市（三池リア）の小学生を対象としたオンライン講座を実施。講師による資産の歴史や価値に関する講義を受けて、各校ごとにまとめ学習を行い、その成果を相互に発表することで交流を図る。

【子どもボランティアガイド】

三池炭鉱万田坑や宮原坑が所在する校区の小学校では、6年生が授業の一環としてガイドを行い、三池炭鉱や石炭産業の歴史や魅力を来訪者に伝えている。この活動は子どもたちの郷土愛を醸成している。



【近代化産業遺産バス見学会】

大牟田市内の小学校6年生は、近代化産業遺産をバスで見学し、三池炭鉱の発展と共に歩んだ大牟田の近代史を学ぶ。巻揚機や煉瓦建物など実物に触れ、大きさや油のにおいなどを体感してもらうことで石炭産業のダイナミックさを学ぶ。



【海洋教育】

有明海と有明海につながる河川流域の小学校では、毎年SDGsの取り組みとして三池港をテーマとした海洋教育を行っている。海の生き物やごみ問題、三池港の歴史・世界遺産価値を学びながら自分達にできること・未来にできることは何かを考える。

【地域学習】

宇城市内の各小学校では、三角西港を中心とした明治日本の産業革命遺産について学習するカリキュラムを取り入れている。学習の成果として、ガイドを行ったり、普及啓発パンフレットやポスターを作成するなど、取り組みは様々である。現地学習では、三角西港の構造や役割について体感するだけでなく、通常は立ち入れない排水路内を散策する体験プログラムなども行っている。



【学校給食事業】

三池エリア内の小中学校において、世界遺産登録日前後に、石炭をイメージした学校給食を提供している。明治日本の産業革命遺産に関する動画を視聴するなど、食事とともに遺産価値を学習する機会を設けている。





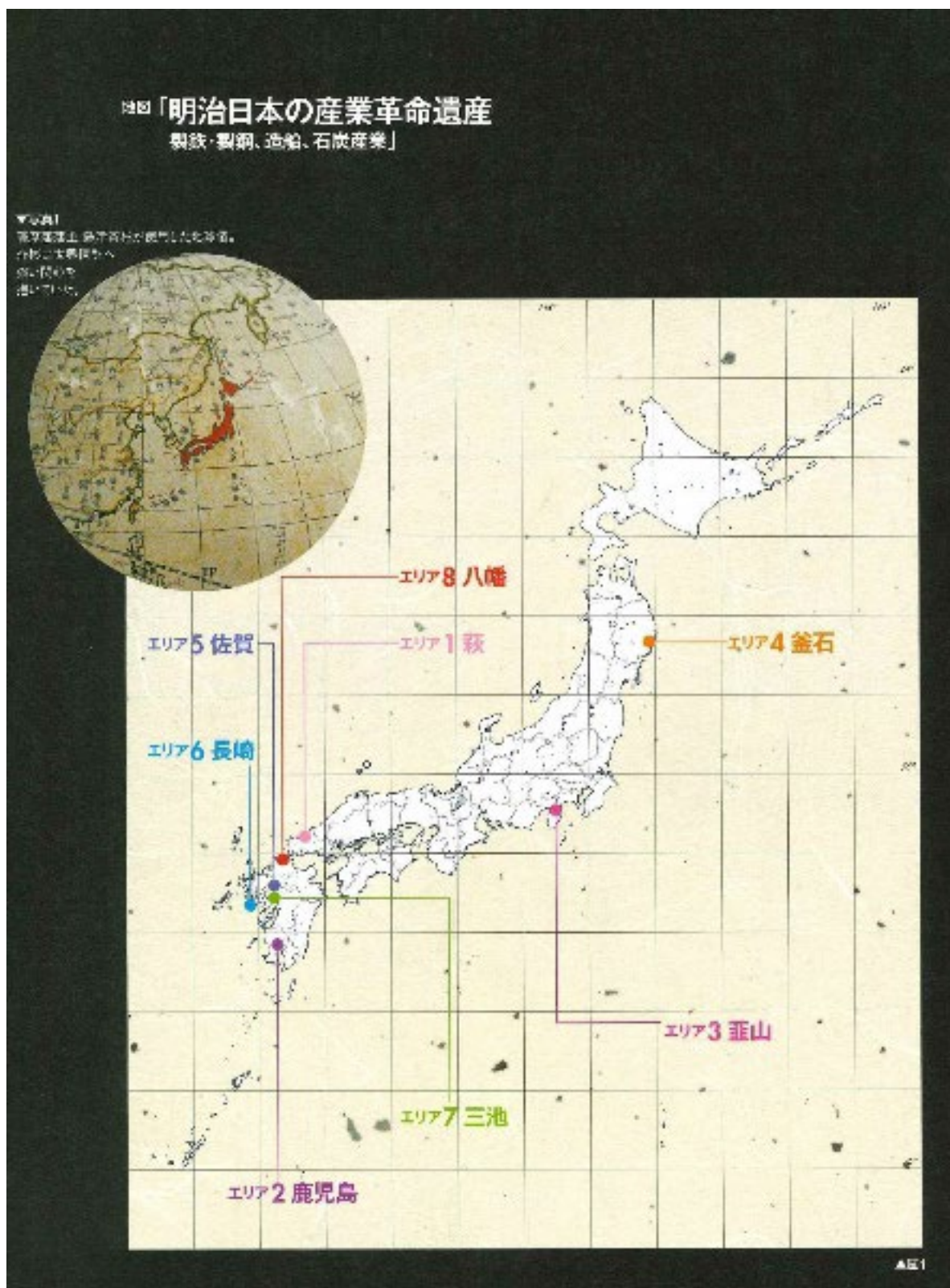
表紙写真：大牟田市石炭産業科学館蔵

Area8 八幡

エリア別インタープリテーション計画

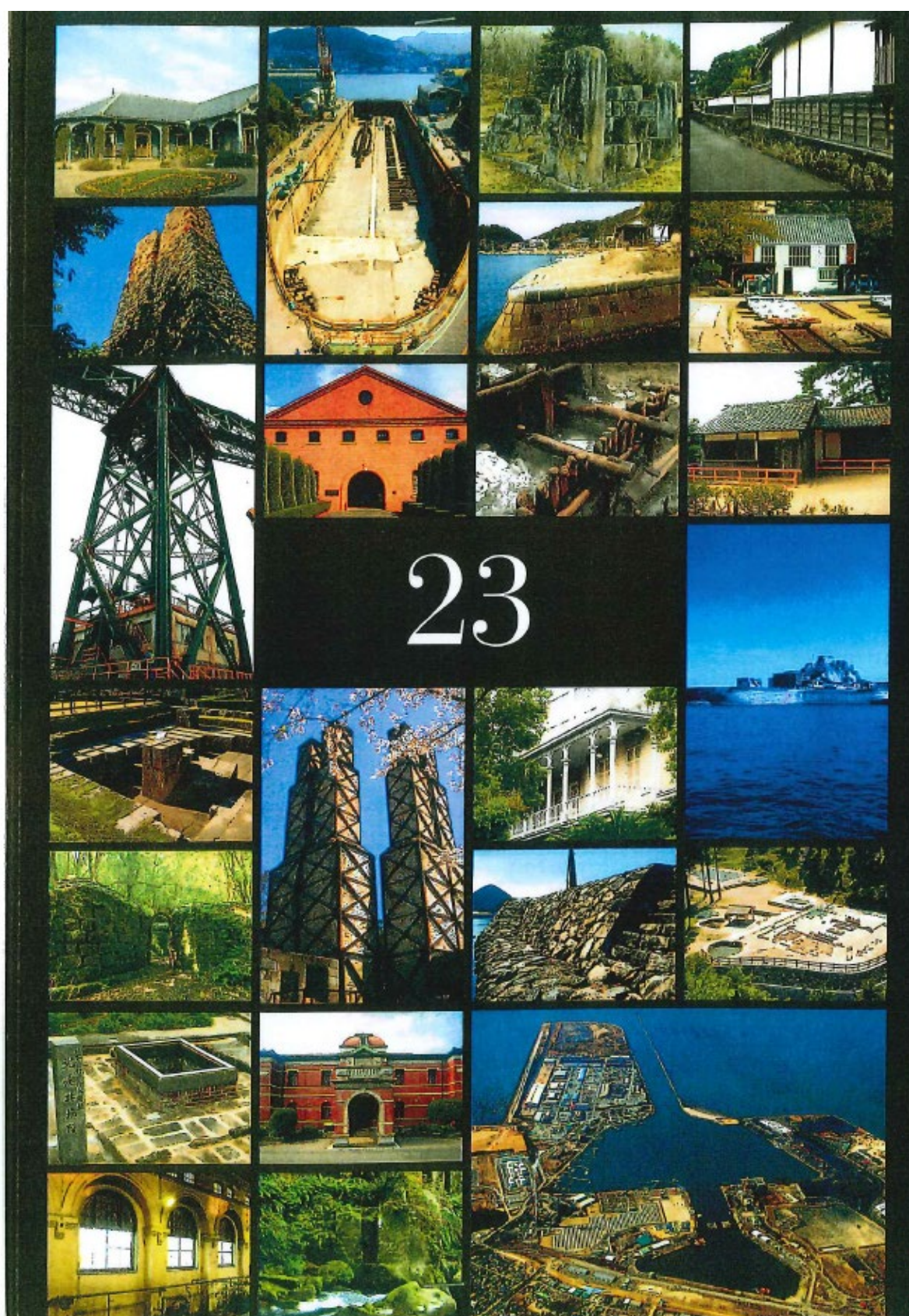


【エリア一覧】



【構成資産名】

エリア	サイト	ID	構成資産
エリア1 萩	1 萩の産業化初期の遺産群	1-1	萩反射炉
		1-2	恵美須ヶ鼻造船所跡
		1-3	大板山たたら製鉄遺跡
		1-4	萩城下町
		1-5	松下村塾
エリア2 鹿児島	2 集成館	2-1	旧集成館
		2-2	寺山炭窯跡
		2-3	関吉の硃水溝
エリア3 葦山	3 葦山反射炉	3-1	葦山反射炉
エリア4 釜石	4 橋野鉄鉱山	4-1	橋野鉄鉱山
エリア5 佐賀	5 三重津海軍所跡	5-1	三重津海軍所跡
エリア6 長崎	6 長崎造船所	6-1	小菅修船場跡
		6-2	三菱長崎造船所 第三船渠
		6-3	三菱長崎造船所 ジャイアント・カンチレバークレーン
		6-4	三菱長崎造船所 旧木型場
		6-5	三菱長崎造船所 占勝閣
	7 高島炭鉱	6-6	高島炭坑
		6-7	端島炭坑
	8 旧グラバー住宅	6-8	旧グラバー住宅
エリア7 三池	9 三池炭鉱・三池港	7-1	三池炭鉱・三池港
	10 三角西港	7-2	三角西港
エリア8 八幡	11 官営八幡製鐵所	8-1	官営八幡製鐵所
		8-2	遠賀川水源ポンプ室



SITES OF
JAPAN'S
MEIJI INDUSTRIAL
REVOLUTION
IRON & STEEL, SHIPBUILDING
AND COAL MINING

Executive Summary

概要

「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」は、西洋から非西洋への産業化の波及を顕す遺産群により構成されている。19世紀半ばから20世紀の初頭にかけて、日本は工業立国の土台を築き、重工業（製鉄・製鋼、造船、石炭産業）分野において、急速な産業化を成し遂げた。産業化の歩みは、蘭書片手に試行錯誤での鉄製大砲鋳造への挑戦や、羊式船の模倣から始まった。次に、西洋技術を導入し、その運用により専門知識を習得した。明治の後期には、国内に人材が育成され、積極的に導入した西洋技術を、国内需要や社会的伝統に適合するように改善、改良を加え、産業化に応用した。日本は、非西洋諸国で初めて産業革命の波を受容し、植民地になることなく50年余りで、自らの手で産業化を成就した。「明治日本の産業革命遺産」は、世界史におけるたぐい稀な産業化の局面を証言する遺産群である。

評価基準の適用

評価基準 (ii)

「明治日本の産業革命遺産」は、日本が19世紀半ばから20世紀の初頭にかけて、産業化が進む西洋諸国からの技術移転を受け、技術の交流により変貌を遂げた特異なプロセスを証言する一連の遺産群である。極めて短期間に、西洋の産業革命が日本に移植され、また成就されたことは、産業化と技術の歴史において、地域的にも、時代的にも稀有なことである。西洋から伝播した技術が、伝統的な日本文化と融合し、国内の需要や社会的伝統に合わせて改善・改良され、日本の社会と経済を形づくり、やがて日本を世界の経済大国に押し上げる重工業の基盤を築いた。

評価基準 (iv)

「明治日本の産業革命遺産」は、製鉄・製鋼、造船、石炭産業といった重工業の基幹産業において、急激に変化した時代を象徴する技術の集合体の卓越した例であり、19世紀半ばから20世紀初頭にかけて非西洋諸国で初めて産業化を成就した変革の軌跡を示している。同時代の産業史の時間的・地域的枠組みにおいて類似性がなく、普遍的な意義を有する。これら一連の資産は、相互に関連する起源を持つ重工業の3つの産業分野において、代表的資産を統一的に包含しており、集合体として比類なき技術移転の証言である。

完全性の宣言

「明治日本の産業革命遺産」は、製鉄・製鋼、造船、石炭産業といった産業分野において、急速な産業化を成し遂げた道程を証言する遺産群であり、23の構成資産は、現存する唯一かつ希少な遺構として、全体で「顕著な普遍的価値」を有している。いずれの構成資産においても、資産の範囲に、「顕著な普遍的価値」に貢献する要素を、全て包含するように、境界線を設定した。

日本国政府は、内閣官房の下に構築した戦略的枠組みにおいて、構成資産を、劣化や開発の悪影響から守るため、管理の仕組みを用意した。全体としての資産の保全状態は良好であるが、中には継続的利用、もしくは、長期間放置された後、別の用途で活用をされ、その結果、物理的影響が及んだ遺構も含まれている。また完全性が担保されているものから、部分的に保全されているものまで、多種多様である。ただし後者の場合であったとしても、遺産群全体の完全性を顕すために求められている遺構が、手つかずのまま遺されている。考古学的資産の場合、これまでの十分な発掘調査の結果、将来の研究や展示のために必要な遺構の大半が、良好な状態で保存されていることが、確認されている。

また特に産業用の用途で、現在も生産の一翼を担う現役の産業設備においては、民間の管理者が、安全性確保のための定期点検の実施と、適切な維持管理を行うことにより、極めて高い水準の完全性を保持しており、稼働中の産業遺産として、全体の価値に貢献している。

真実性の宣言

顕著な普遍的価値に関する真実性について、西洋から非西洋への初めての、かつ急速な産業化の移転を顕し代表する、現存する産業遺産の集合体として、最も高い真実性を有している。

「形状・意匠」、「材料・材質」について、本資産の構成資産は重工業の産業分野における、西洋からわが国への技術移転のプロセスを説明する上で、必要不可欠な、オリジナルの形状と材質を保持している。構成資産の中には、断片的又は考古学的な遺構も含まれるが、いずれにしても、全体の資産の中で重要な産業要素については真実性が高い。構成資産の中には、長年、産業遺産の特徴を遺す史跡として管理されてきた遺構もあり、それらは実質的に高い真実性を有する重要な遺構である。それ以外の構成資産においては、「形状・意匠」及び「材料・材質」のみならず、オリジナルな用途での継続的使用と機能が維持されていることから極めて高い真実性を有している。

八幡エリアに関わる産業の歴史

八幡エリアは、世界文化遺産「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」の中で、「製鉄・製鋼」産業の第三段階「産業基盤の確立」の時代に係る記録を留める構成資産が分布するエリアとなっている。



内閣官房が平成29年11月30日に、保全状況報告書添付資料としてユネスコに提出したインタープリテーション戦略では、次のように記されている。

1.1 インタープリテーション計画（抜粋）

(1) 全ての構成資産で一貫した顕著な普遍的価値（OUV）の共通展示を展開
インタープリテーション戦略に基づき、全ての構成資産に一貫した顕著な普遍的価値の共通展示を実施する。全ての関係者が方針に合意し、ブランド感のある世界遺産スタイルで統一的に展示をコーディネートし、実施する予定である。

(2)・(3) 労働者に関する情報収集を含む各サイトの歴史全体に関する進捗

内閣官房の「稼働資産を含む産業遺産に関する有識者会議」の委員、「明治日本の産業革命遺産」の登録に関わるイコモス査定に関与した国際ヘリテージの専門家、「インタープリテーションとプレゼンテーションに関する国際イコモス学術委員会」委員長他の助言により、以下の4つの方針が示された。

1) 顕著な普遍的価値のインタープリテーションに重点を置く：世界遺産の本来の目的に従い、各サイトにおいて、登録された資産の顕著な普遍的価値を、他の関連する問題と混同せずに明確に説明する。その上で、勧告g)を履行する。

※g) 推薦資産のプレゼンテーションのためのインタープリテーション（展示）戦略を策定し、各構成資産がいかに顕著な普遍的価値に貢献し産業化の1又は2以上の段階を反映しているかを特に強調すること。また、各サイトの歴史全体についても理解できるインタープリテーション（展示）戦略とすること。

2) P. 81に記載された顕著な普遍的価値の対象期間(1850年代から1910年まで)以外の各サイトの「歴史全体」の範囲は、1850年代以前と1910年から現在までの2つに分けられる。いずれにおいても各構成資産の背景の理解を補足する地域的な価値を念頭に「歴史全体」の範囲を絞り込む。さらに、各構成資産が立地するエリアにおける歴史全体のインタープリテーションについては、一次史料の収集や証言収録など質の高い調査を実施し、適宜、適切なメディアを通じていずれかの段階において公表する。

インタープリテーション戦略に則り、各エリアの構成資産及びビジターセンター等におけるインタープリテーションの現状について、世界各国の産業遺産及びそのインタープリテーションに精通した海外専門家による監査を、複数回（平成29年、令和元年）実施した。

その結果、監査者である ICOMOS メンバーのバリー・ギャンブル氏からは、八幡エリアに関して次のような評価を受けている。

- 官営八幡製鐵所旧本事務所の保全工事は賞賛に値する。2020 年の完成時には、世界遺産およびその構成資産への貢献を表すのにふさわしい施設となるが、稼働中のサイト内という立地条件のため、（少なくとも当面は）出入りが制限される。
- 官営八幡製鐵所旧本事務所眺望スペースは、世界遺産のみならずこの構成資産の歴史についてもインタープリテーションを提供するバーチャルリアリティ体験の導入により、ビジター体験を向上させた。眺望スペースと旧本事務所を結ぶトンネルを開発するという初期段階の提案が存在する。このトンネルは、どうしても出入りを制限しなければならないこの稼働中サイト内において、安全が保証されたエリアへの安全かつ管理された物理的アクセスを提供する。
- イノベーションギャラリー（令和4年4月からスペース LABO ANNEX）は、一般市民の訪問に適切な文化施設であり、将来の「共通展示」が置かれるビジターセンターとして機能する。
- 遠賀川水源地ポンプ室のインタープリテーションは称賛に値する。構成資産の重要性、ならびに他の構成資産および世界遺産の全体的な OUV への貢献と関係が明確に記載されている。

八幡エリアにおいては、これまで地区別協議会において本インタープリテーション計画について協議を行ってきた。

上記で言及されているとおり、旧本事務所の保全工事が計画通り完成し、これに直接アクセスする道路の整備について、世界遺産価値を棄損せずにフリーアクセスを確保できるような計画を策定するため、現在、国内外の専門家と協議しているところである。

また、産業遺産情報センターと連携しながら、地域の歴史的・文化的価値と調和しつつ世界遺産価値をより反映した展示を進めていくこととする。

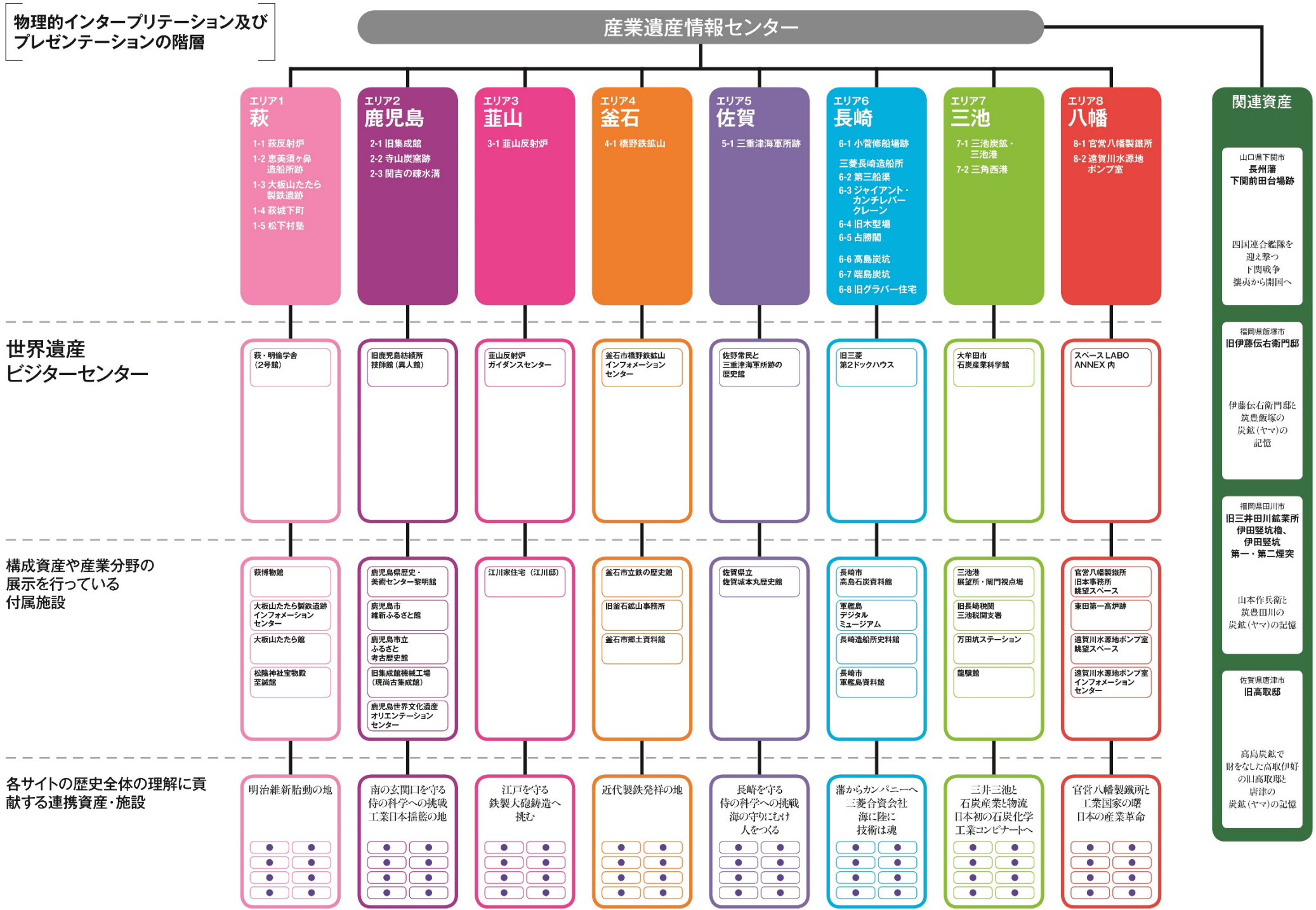
地区別協議会において本計画の実施状況を点検しながら、適宜改善に向けた検討を行う。



地区別協議会の様子

物理的インタープリテーション及びプレゼンテーションの階層

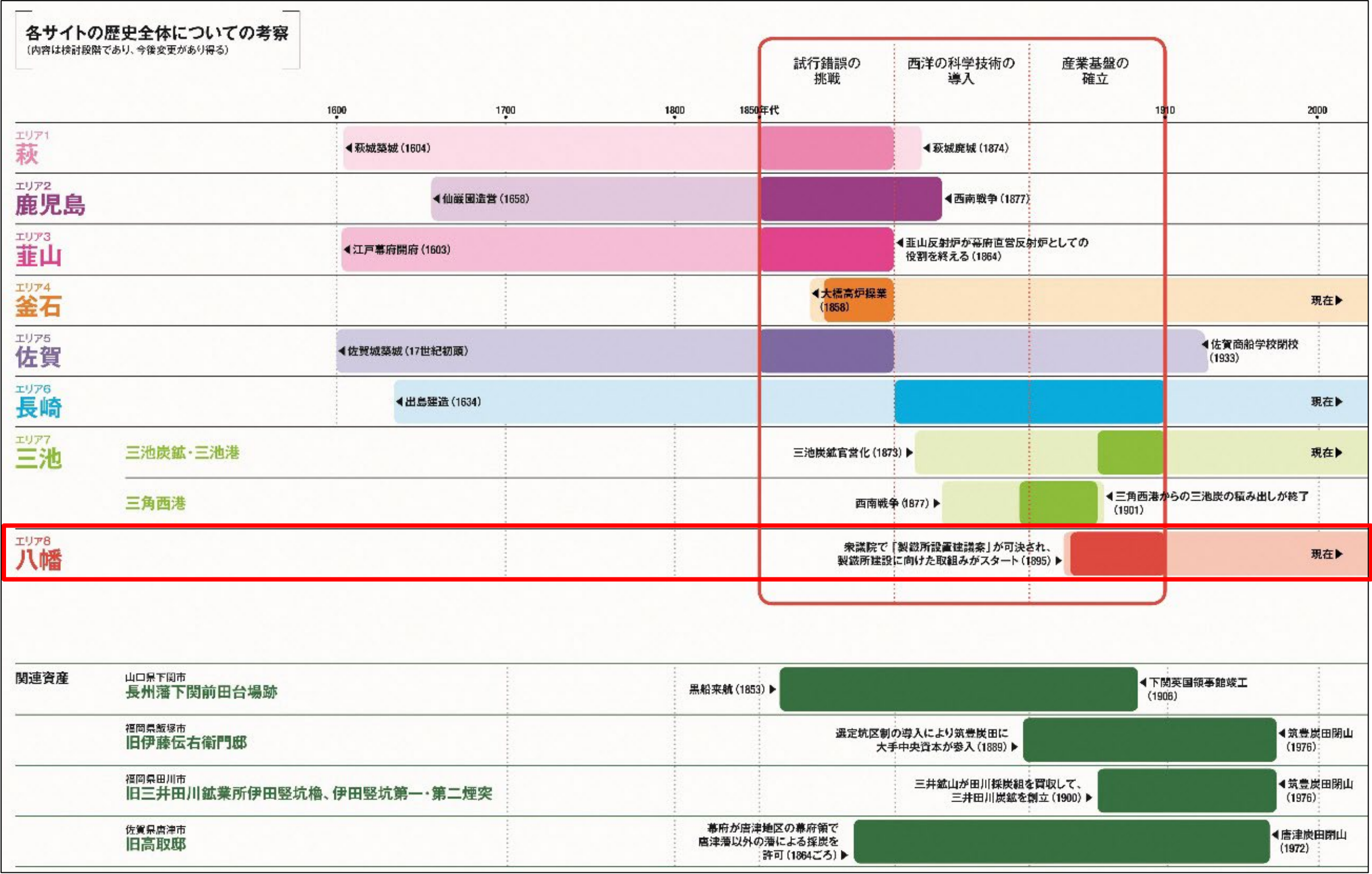
産業遺産情報センターと各地のビジターセンターが連携して、明治日本の産業革命遺産の顕著で普遍的な価値を効果的に発信できるような体制を構築していく



関連資産：平成 21 年 1 月 5 日にユネスコの世界遺産暫定一覧表に記載された段階で構成資産候補であったものであり、世界遺産登録された「明治日本の産業革命遺産」と一体的に活用を図る産業遺産。(その当時の時代背景や社会情勢を知ることができる貴重な資産)

「各サイトの歴史全体」についての考察

内閣官房が平成29年にユネスコに提出したインタープリテーション戦略では、下図のとおり各サイトの歴史全体の考察について、記されている。



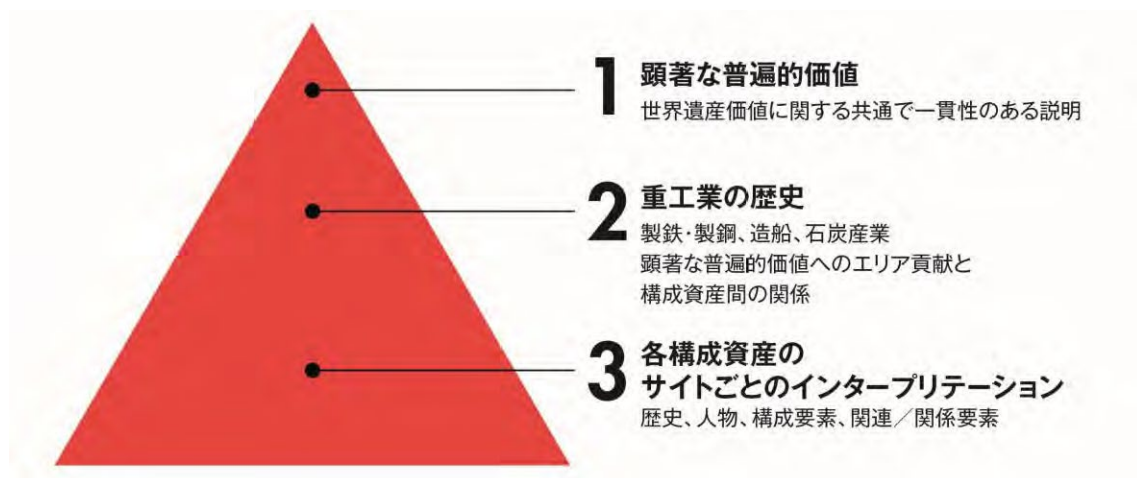
本エリアにおけるインタープリテーション

インタープリテーション戦略の考え方

インタープリテーション戦略では、インタープリテーションとプレゼンテーションの概念について、次のとおり図解されている。

本エリアのインタープリテーションにおいても、インタープリテーション監査において指摘された課題を解決するため、これに則って取組を展開することとする。

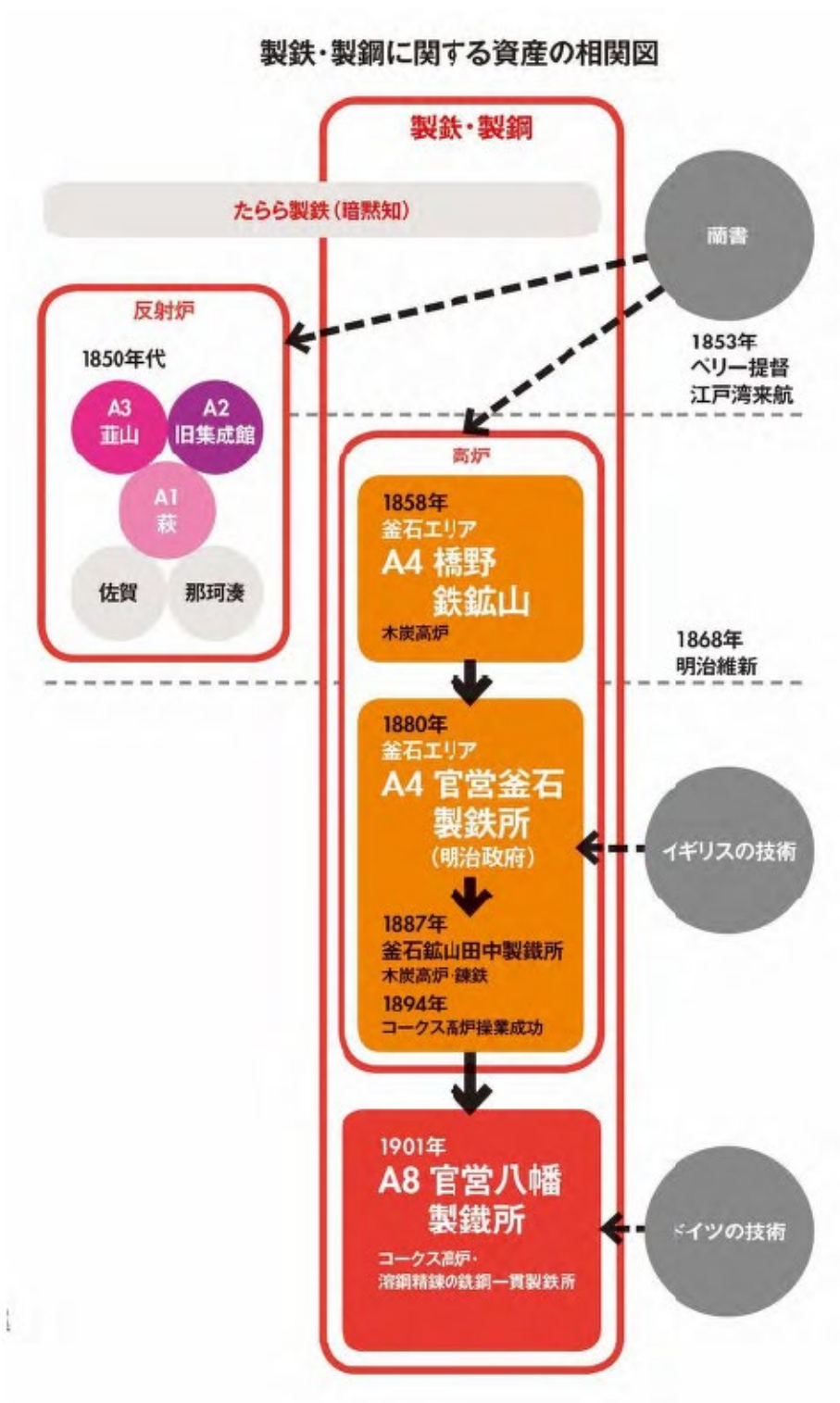
「明治日本の産業革命遺産」のインタープリテーション及びプレゼンテーション：価値とテーマの階層



産業遺産情報センター並びに各地のビジターセンターにおいて、顕著な普遍的価値はインタープリテーションの最上位に位置する。これは、エリアや構成資産独自の歴史など地域や産業固有の展示解説に優先する最上位のテーマとなる。これにより、上図に表された1. 顕著な普遍的価値、2. 重工業の歴史、3. 各構成資産のサイトごとのインタープリテーションが、資産全体で一貫してプレゼンテーションされることになる。

ローカル・ビジターセンターにおけるインタープリテーションの流れ インタープリテーションの階層





リキッドギャラクシー等を使用した展示

インタープリテーション戦略に基づき令和2年3月に設置された産業遺産情報センターでは、世界遺産としての顕著な普遍的価値の対象期間(1850年代から1910年まで)に加え、「各サイトの歴史全体についての考察」として示された図を参考に、体感型マルチディスプレイを活用し、各エリアの構成資産の歴史や変遷、暮らしなどについて映像で解説するなど、資産の変遷や世界遺産価値への貢献、歴史全体を体感的に理解できるような展示を行っている。

本エリアにおいても、産業遺産情報センターや本エリアのビジターセンターにおいて収集した資料のデジタルアーカイブを構築した上で、順次インタープリテーションツールに反映していくこととする。



本エリアにおける構成資産

本エリアにおける構成資産は、全部で4つあり、いずれも官営八幡製鐵所に関連する遺産で、修繕工場と遠賀川水源地ポンプ室は、現在も現役で稼働している資産となっている。

関連する産業：製鉄・製鋼	
構成資産の名称：官営八幡製鐵所 旧日本事務所	
(構成資産の概要) 生産設備に先駆けて 1899 年に建設された。日本と西洋の建築様式が融合した設計で、赤煉瓦造の 2 階建て、屋根は日本瓦葺きで、中央にドームを配した左右対称の造りである。建物内には長官室、技監室、顧問技師室などが配置され、「製鐵所」の中核機能を担っていたことが窺われる。	
関連する産業：製鉄・製鋼	
構成資産の名称：官営八幡製鐵所 修繕工場	
(構成資産の概要) 1900 年ドイツのゲーテホフヌンクスヒュッテ社（以下 GHH 社）の設計と鋼材を使用して建設された現存するものでは国内最古の鉄骨造の建築で、「製鐵所」で使う様々な部材の製作加工や、機械類の修理のために使用された。その後、鋼材生産量の増大に伴って 3 回増築されたが、世紀を超えて現役の産業設備として稼働している。	

(非公開施設)

(非公開施設)

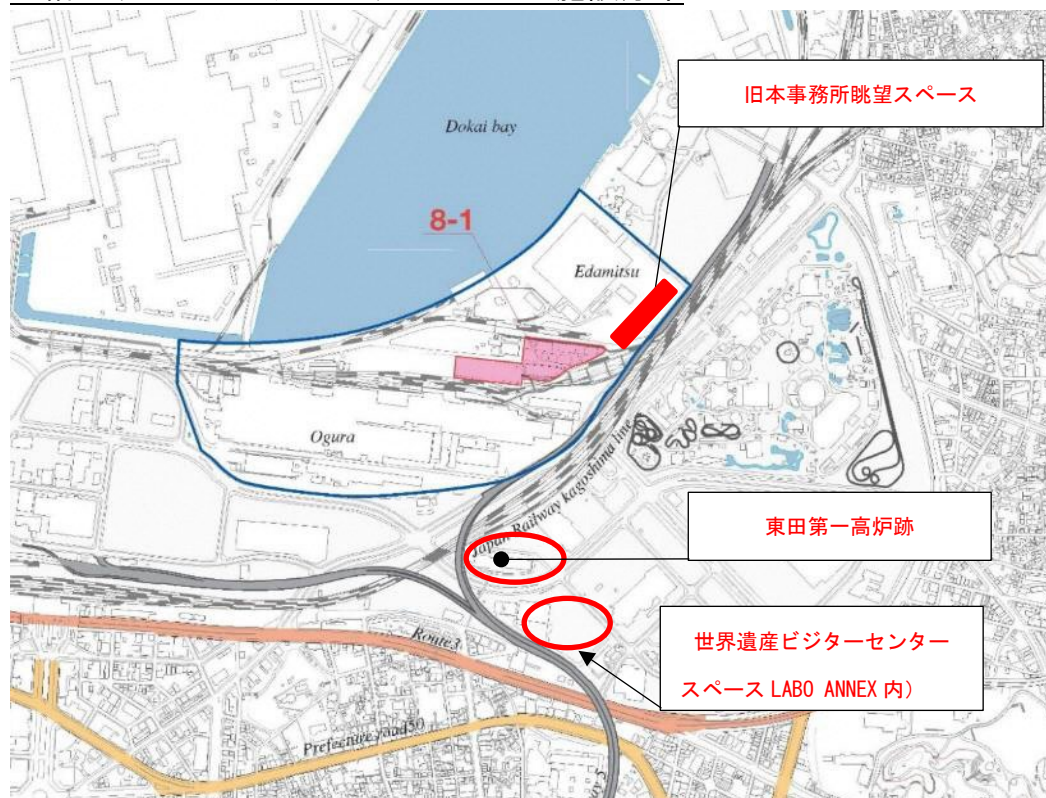
構成資産の名称：官営八幡製鐵所 旧鍛冶工場	 (非公開施設)
(構成資産の概要) 1900 年、「製鐵所」の建設に必要な 鑄造品製造を行う目的で、修繕工場と 同様に、ドイツの GHH 社の設計と鋼材 で建設された鉄骨造の建築物。旧鍛冶 工場では、大型のスパナ、鑿、ハンマ ーや機械の架台など、「製鐵所」の建 設に必要な鑄造品を製作した。	
関連する産業：製鉄・製鋼	 (非公開施設)
構成資産の名称：遠賀川水源地ポンプ 室 (構成資産の概要) 製鐵所の送水施設。製鐵所第一期拡 張計画に伴う工業用水不足を補うた め、1910 年に操業を開始。明治建築の 典型的な煉瓦建造物。動力は蒸気から 電気に代わり、現在も現役で稼働して いる。	

世界遺産記念銘

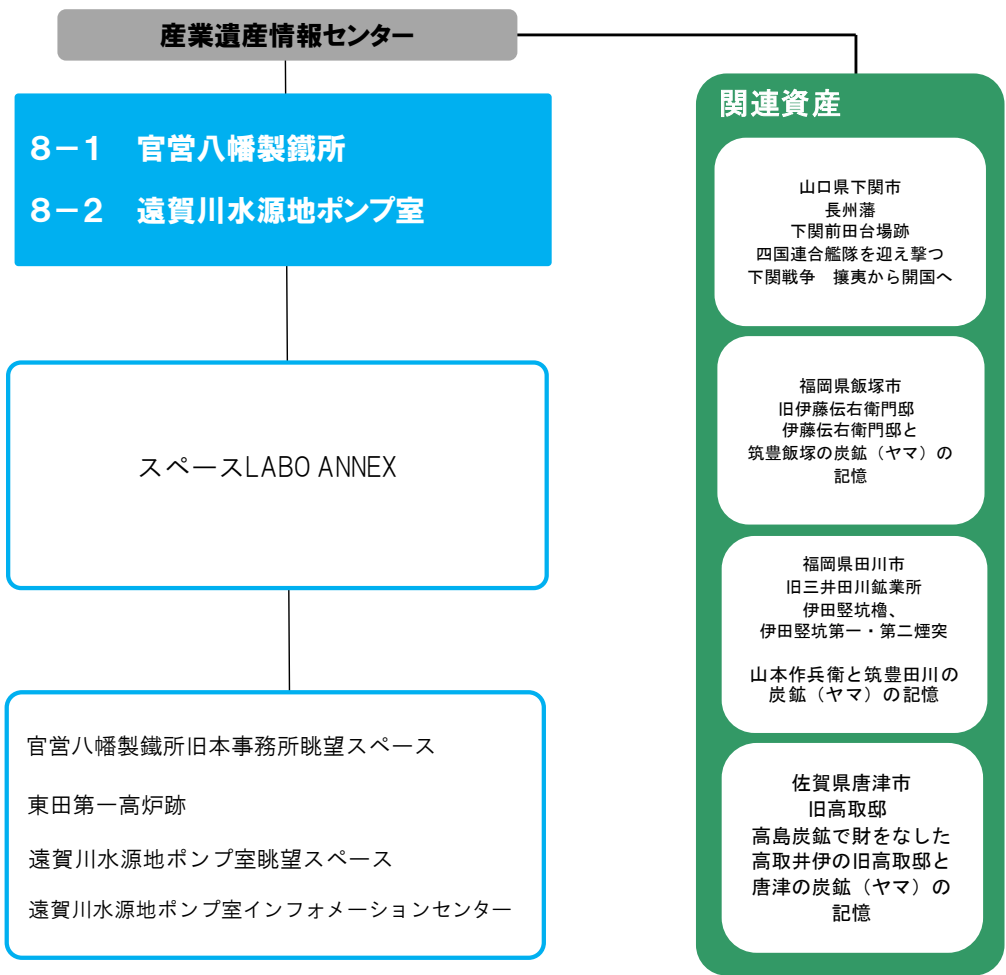
ユネスコのガイドラインに則り、各構成資産には、来訪者に当該遺産の顕著な普遍的価値を適切に周知するため世界遺産登録記念銘を設置している。



八幡エリア インタープリテーション施設分布



八幡エリア 階層図



アクセスガイドマップ

各エリアの構成資産のアクセスガイドマップは、日本語版の他に英語版も作成されており、来訪者に無料で配布されている。本マップは、各エリアの構成資産についてのオリエンテーションとして、訪問者ができるだけエリア内の構成資産等を数多く訪問できるよう構成されている。

また、スマートフォン向けアプリと連動し、AR 機能を活用して非公開資産の3Dモデルや動画、360度映像を表示するなど、アクセス不可の資産における情報発信においても活用できるものとなっている。



インフォメーションカウンター

行政機関や空港に設置しており、アクセスガイドマップ等の配布を行っている。



北九州市役所



阪九フェリー乗り場（大阪府泉大津市）

ガイドマップ配布箇所及び配布部数

アクセスガイドマップの配布箇所及び配布部数は以下のとおりとなっている。

全体MAP		八幡MAP	
配布総数	177,762	配布総数	65,519
日本語 & 英語	177,762	日本語	50,090
主な配布先	配布部数	主な配布先	配布部数
行政機関	300	行政機関	14,104
空港	550	空港・航空会社	1,350
ホテル	50	ホテル	2,700
レンタカー	100	レンタカー	100
JR（鉄道）	600	JR（鉄道）	800
観光案内所	700	観光案内所	81
道の駅	4,400	道の駅	2,000
NEXCO	168,500	NEXCO	15,300
公益・財団・社団法人	550	公益・財団・社団法人	4,250
その他	2,012	その他	40,685
JR九州 博多駅総合案内所		関門海峡日本遺産協議会	
西日本高速道路リテール株式会社		北九州市企画調整局総務課	
西日本高速道路サービスホールディングス		福岡県人づくり・県民生活部文化振興課	
風月 フーズ株式会社		いのちの旅博物館	
福岡国際空港株式会社		日本製鉄株式会社 八幡製鐵所	
長崎空港		飯塚市歴史資料館	
鹿児島県立図書館		田川市石炭・歴史博物館	
JR鹿児島中央駅観光案内所		門司海上保安部	
北九州市観光コンベンション協会		福岡市観光案内所	
大村市役所産業振興部		北九州市エアターミナル株式会社	
JR宮崎駅観光案内所		関門汽船株式会社	

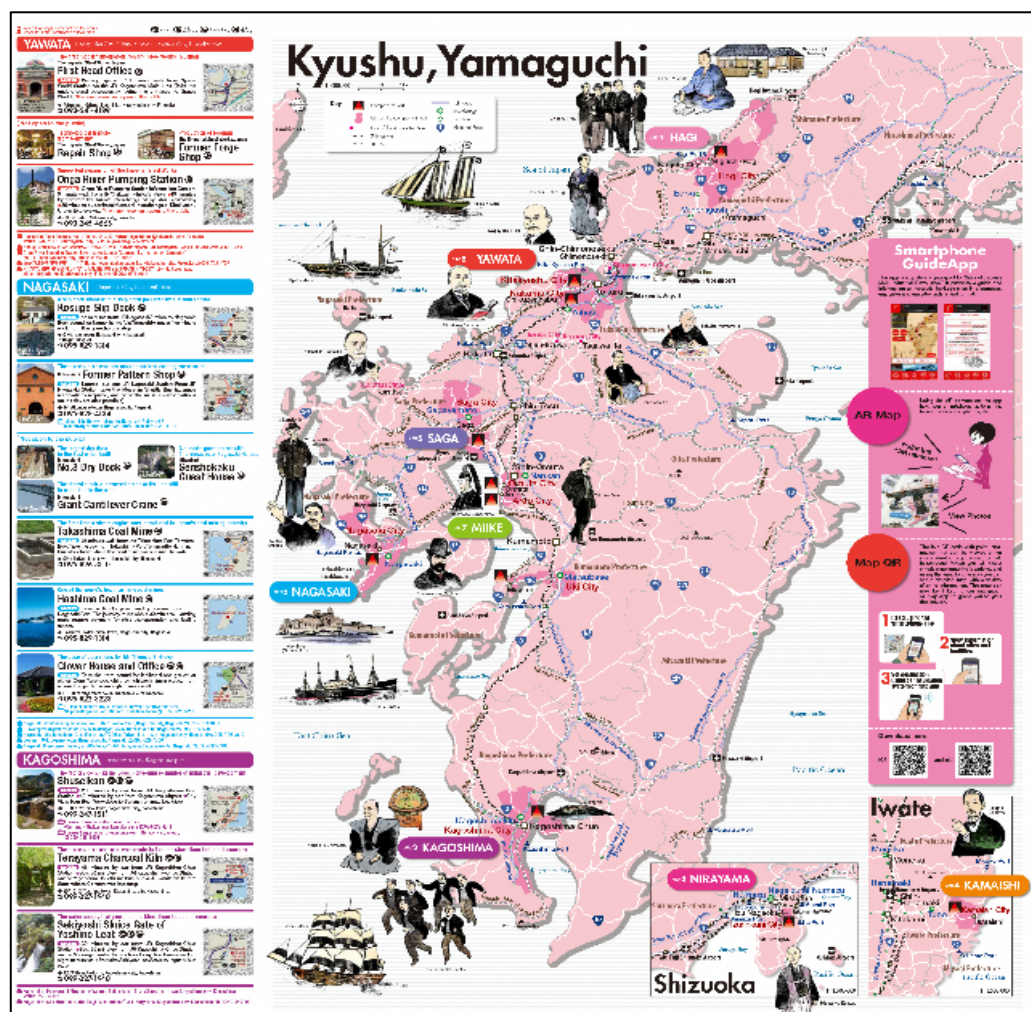
全エリア累計総配布部数

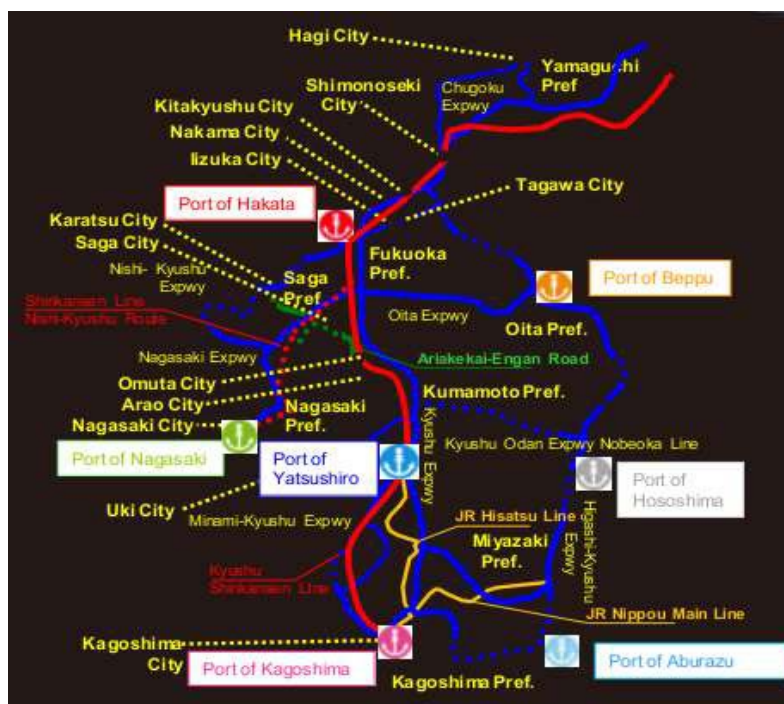
464,025

世界遺産ルート

インタープリテーション戦略に基づき、推薦書の 395～396P にもあるとおり、世界遺産を全体として理解するためのガイダンスと観光インフラを提供する「世界遺産ルート推進協議会」が設立された。同協議会は、23の構成資産から成る世界遺産価値を理解できるよう、地図とアプリ、GPS ナビゲーション、「明治日本の産業革命遺産」の普及を促進するための統一ロゴを使用した道路標識の設置等により、全ての構成資産や関連遺産に来訪者を誘導している。

今後も、推薦書やインタープリテーション計画に基づき、着実に取組みを実施していく。





推薦書 P396 掲載図



世界遺産ルート協議会の様子

統一ロゴを使用した道路標識等の設置について

道路標識の設置状況

設置場所	設置済み数
北九州市	54
中間市	14

道路標識写真



統一ロゴ道路標識設置場所一覧 (北九州市)



(中間市)



カーナビ（デンソーナビ）との連携

カーナビに目的地を転送できるスマホアプリとの連携の例



スマホから直接カーナビに目的地を送信可能



使用方法についての動画を YouTube に掲載



アプリの活用

詳しいストーリーと説明、歴史的背景、動画、CG 等を使用して「明治日本の産業革命遺産」を紹介している。ゲームや AR カメラを利用することでポイントが貯まり、お土産などのクーポンとして使用できるなど、世界遺産価値への理解を深めるとともに世界遺産ルートのツアーへの還元が可能な仕組みとなっている。スマートフォン向けアプリは、多言語（日本語、英語、韓国語、簡体・繁体中国語、ベトナム語）に対応している。



LINE の活用

アプリで取得したポイントはクーポンに交換可能。



LINE の登録を促す POP を作成し、駅やインフォメーションセンターなどに置いて誘導している。



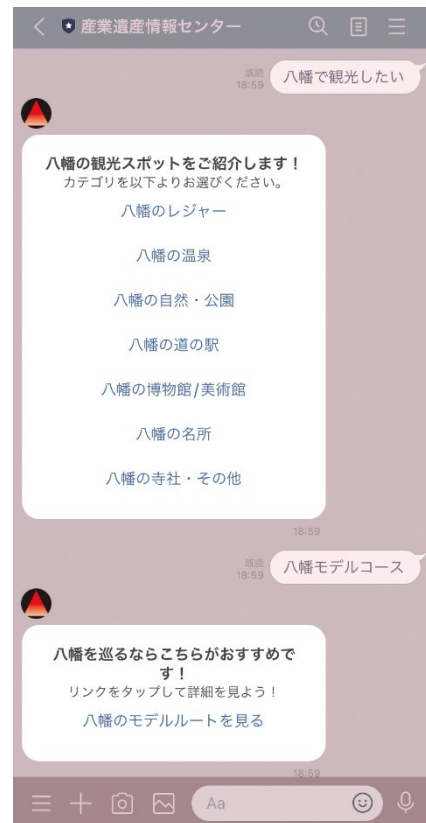
LINE を入り口として、既存ガイドアプリの活用や訪問地域の店舗で利用可能なクーポン情報等、位置情報に基づき利用者の状況に適した双方向のコミュニケーションを実現している。多言語にも対応し、訪日外国人をサポートする。



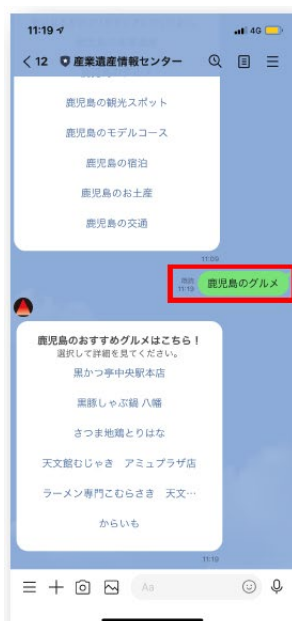
LINE の機能（例）



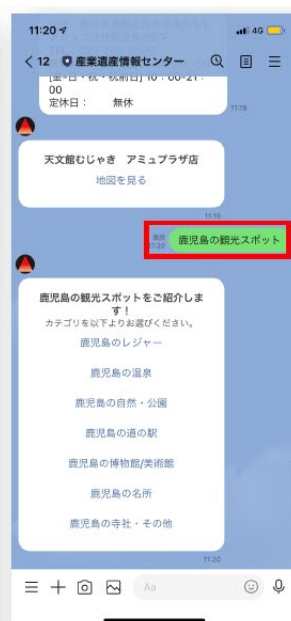
モデルコース紹介



AI チャットボット機能



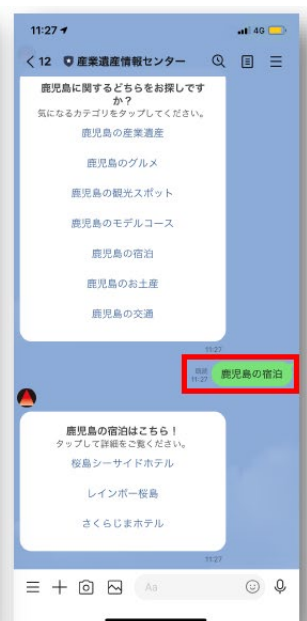
グルメ情報



観光スポット



交通情報



宿・ホテル情報

デジタルサイネージの機能

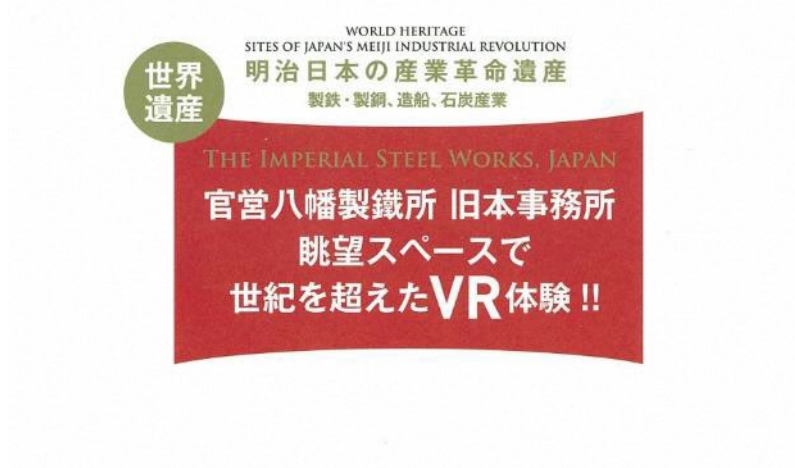
産業遺産情報センターにデジタルサイネージを設置し、地域版ガイドマップや産業遺産の周遊ルート情報を掲示し、各サイトへの周遊観光を促す仕組みを構築している。AIチャットボットも搭載し、周遊ルートや観光に関する質問にもリアルタイムで幅広く対応している。



デジタルコンテンツの充実について

本エリアに関しては、非公開となっている稼働資産等について、デジタル技術を用いて、稼働している様子等を再現するコンテンツを制作し、当該 WEB サイト及びアプリケーションにおいて公開している。

- 1) VRを活用したOUV説明と内部見学の疑似体験
(旧本事務所眺望スペース)



官営八幡製鐵所 VR視聴コンテンツ

HISTORY 世界遺産 官営八幡製鐵所
[プロローグ]

写真提供：日本製鉄九州製鐵所



3分50秒

日本製鉄(株)九州製鐵所には、操業当時の歴史を記憶したガラス乾板写真があります。この貴重な史料を使用し、世界遺産たる官営八幡製鐵所の歴史的な価値を伝えるストーリーです。

※コンテンツ全体のプロローグとしてご覧ください。

TIME TRAVEL
[タイム・トラベル]

構成資産 旧本事務所

写真提供：日本製鉄九州製鐵所



1分

TIME TRAVEL
[タイム・トラベル]

構成資産 修繕工場

写真提供：日本製鉄九州製鐵所



1分

現在の写真から、当時に再現したCGで一世紀前へタイムトラベル。構成資産である「旧本事務所」と「修繕工場」の2つのコンテンツが、お楽しみいただけます。

THE IMPERIAL STEEL WORKS, JAPAN

VIRTUAL TOUR 旧本事務所 見学ツアー
[バーチャル・ツアー]



3分30秒

官営八幡製鐵所「旧本事務所」内部を歩いている感覚で見学できる360°バーチャルツアーです。内装復元工事前の様子を2018年春に360°カメラで撮影した貴重な映像を元としています。

VIEW FROM SKY 空から観る世界遺産関連施設
[ビュー・フロム・スカイ]



視聴時間は任意です

眺望スペース上空から、ドローン&360°カメラで撮影。「旧本事務所」「修繕工場」「旧鍛冶工場」3つの構成資産に加え、東田第一高炉史跡広場や北九州イノベーションギャラリーを空の上からの爽やかな眺めとともにご紹介します。

タブレットでも、 VRデバイスと同じコンテンツ をお楽しみいただけます。

グループやご家族で眺望スペース訪れた方や
VRは苦手という方には、タブレットでの視聴
が可能です。



写真提供：日本製鉄㈱九州製鉄所

！ご利用上の注意

- ※VRの視聴は無料ですが、台数に限りがございます。
- ※眼科に通われている場合や目に疾患をお持ちの方は、専門医に相談の上、ご利用ください。
- ※屋外での視聴のため、雨天の場合など、天候によりVR視聴ができない場合があります。
- ※13歳未満は原則タブレットでの視聴となりますが、保護者の同意を頂く方のみVRゴーグルでの体験を実施させて頂いています。
(但し、7歳未満は保護者の同意があってもVRゴーグルを使用できません。)

官営八幡製鐵所 日本事務所 眺望スペース

(北九州市八幡東区東田5丁目)



- 入場無料
- 開場時間 / 9:30～17:00 (入場は 16:30 まで)
- 閉場日 / 毎週月曜日、年末年始
- JR 利用 / 鹿児島本線 スペースワールド駅から徒歩約 10 分
- 都市高速利用 / 北九州都市高速「枝光 IC」から車で 2 分
- ※専用駐車場 (無料) あり

アクセス

2) A Rアプリを活用した記念撮影（旧日本事務所眺望スペース）



3) デジタルサイネージによる内部映像や資産等の紹介



- 4) 遠賀川水源地ポンプ室建屋内 3 D 計測映像放映（遠賀川水源地
ポンプ室インフォメーションセンター）



- 5) 遠賀川水源地ポンプ室トリプルエキスパンションエンジンポンプ
同型機紹介映像放映（遠賀川水源地ポンプ室インフォメーション
センター）



ビジターセンター等について

八幡エリアでは、インタープリテーション戦略に則り、ビジターセンターを1か所、構成資産や産業分野の展示を行っている付属施設を4か所整備している。各施設では、地域コミュニティと連携し、地域の歴史的・文化的価値と調和しながら、本来の世界遺産価値の展示が一番際立つプレゼンテーションを行い、来訪者が資産の価値を理解しやすいような展示を目指している。

今後、インタープリテーション監査の指摘を踏まえ、また、産業遺産情報センターと連携しながら、貴重な一次史料のデジタル化やデジタルツールを駆使した展示の充実を図っていく。

【スペース LABO ANNEX 内】

150分の1サイズで再現された官営八幡製鐵所関連施設の模型や、パネルの展示、映像コンテンツにより、全体の歴史や世界遺産の価値を学ぶことができる施設。



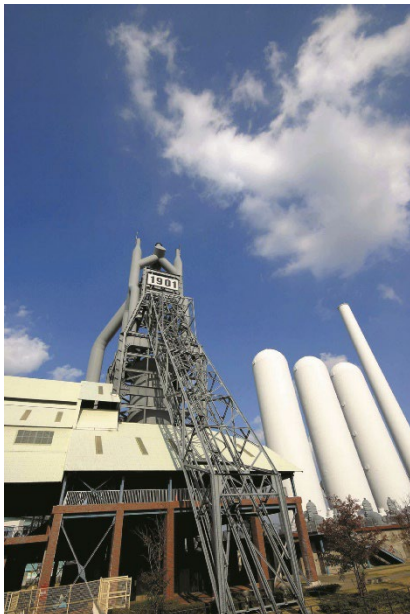
【官営八幡製鐵所旧本事務所眺望スペース】

世界遺産に登録されている官営八幡製鐵所は、現在も操業している製鐵所構内に立地しており、一般には公開されていない。このため、世界遺産である旧本事務所を身近に感じていただくため、眺望スペースを整備している。



【東田第一高炉跡】

日本初の銑鋼一貫製鐵発祥の地・北九州を象徴する第一高炉をモニュメントとして保存している。この高炉は、第 10 次改修されたものであり、1962 年 8 月の火入れから 1972 年 1 月の吹き止めまで操業し、今日の超高压高炉時代の先鞭となった。



【遠賀川水源地ポンプ室インフォメーションセンター】

遠賀川水源地ポンプ室で発掘された煉瓦・送水管や、近年まで使用されていた取水堰の現物展示を行っているほか、古写真や解説パネル、建屋内部の映像コンテンツにより、遠賀川水源地ポンプ室の建設から送水システムの変遷に至る歴史や世界遺産の価値を学ぶことができる施設。



【遠賀川水源地ポンプ室眺望スペース】

遠賀川水源地ポンプ室の外観を見学できる施設であり、設置された解説パネルにより世界遺産の価値を学ぶことができる。近隣地では近年までポンプ室内で使用された電動ポンプの静態展示も行っている。



モニターツアー



子ども向け学習プログラム



